



## **Cisco VXC Manager 4.8.5 アドミニストレーション ガイド**

**【注意】シスコ製品をご使用になる前に、安全上の注意**  
([www.cisco.com/jp/go/safety\\_warning/](http://www.cisco.com/jp/go/safety_warning/))をご確認ください。

本書は、米国シスコ発行ドキュメントの参考和訳です。リンク情報につきましては、日本語版掲載時点で、英語版にアップデートがあり、リンク先のページが移動/変更されている場合がありますことをご了承ください。  
あくまでも参考和訳となりますので、正式な内容については米国サイトのドキュメントを参照ください。

また、契約等の記述については、弊社販売パートナー、または、弊社担当者にご確認ください。

このマニュアルに記載されている仕様および製品に関する情報は、予告なしに変更されることがあります。このマニュアルに記載されている表現、情報、および推奨事項は、すべて正確であると考えていますが、明示的であれ黙示的であれ、一切の保証の責任を負わないものとします。このマニュアルに記載されている製品の使用は、すべてユーザ側の責任になります。

対象製品のソフトウェア ライセンスおよび限定保証は、製品に添付された『Information Packet』に記載されています。添付されていない場合には、代理店にご連絡ください。

The Cisco implementation of TCP header compression is an adaptation of a program developed by the University of California, Berkeley (UCB) as part of UCB's public domain version of the UNIX operating system. All rights reserved. Copyright © 1981, Regents of the University of California.

ここに記載されている他のいかなる保証にもよらず、各社のすべてのマニュアルおよびソフトウェアは、障害も含めて「現状のまま」として提供されます。シスコおよびこれら各社は、商品性の保証、特定目的への準拠の保証、および権利を侵害しないことに関する保証、あるいは取引過程、使用、取引慣行によって発生する保証をはじめとする、明示されたまたは黙示された一切の保証の責任を負わないものとします。

いかなる場合においても、シスコおよびその供給者は、このマニュアルの使用または使用できないことによって発生する利益の損失やデータの損傷をはじめとする、間接的、派生的、偶発的、あるいは特殊な損害について、あらゆる可能性がシスコまたはその供給者に知らされていても、それらに対する責任を一切負わないものとします。

Cisco and the Cisco logo are trademarks or registered trademarks of Cisco and/or its affiliates in the U.S. and other countries. To view a list of Cisco trademarks, go to this URL: [www.cisco.com/go/trademarks](http://www.cisco.com/go/trademarks). Third-party trademarks mentioned are the property of their respective owners. The use of the word partner does not imply a partnership relationship between Cisco and any other company. (1110R)

このマニュアルで使用している IP アドレスおよび電話番号は、実際のアドレスおよび電話番号を示すものではありません。マニュアル内の例、コマンド出力、ネットワーク トポロジ図、およびその他の図は、説明のみを目的として使用されています。説明の中に実際のアドレスおよび電話番号が使用されていたとしても、それは意図的なものではなく、偶然の一致によるものです。

*Cisco VXC Manager 4.8.5 アドミニストレーション ガイド*  
© 2011 Cisco Systems, Inc.  
All rights reserved.

Copyright © 2011–2012, シスコシステムズ合同会社.  
All rights reserved.



## CONTENTS

はじめに	xi
対象読者	xi
マニュアルの構成	xii
関連資料	xii
マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート	xiii
表記法	xiii

---

### CHAPTER 1

はじめに	1-1
Administrator Console の使い方	1-1
ショートカット メニューの使用法	1-2
Cisco VXC Manager のウィザードについて	1-3
Cisco VXC Manager のツールバー アイコンの使用法	1-3
Device Manager のアイコン	1-3
Package Manager のアイコン	1-4
Update Manager のアイコン	1-4
Report Manager のアイコン	1-5
Configuration Manager のアイコン	1-5
Cisco VXC Manager のバージョンの確認	1-5
使用開始にあたっての検討事項	1-6

---

### CHAPTER 2

Device Manager	2-1
デバイスの管理	2-1
デバイスの詳細の表示	2-3
デバイスの追加および自動検出	2-6
Dynamic Discovery を使用したデバイスの追加	2-7
デバイスの手動追加	2-8
デバイス プロパティの変更	2-8
基本デバイス情報の変更	2-9
ネットワーク プロパティの変更	2-10
ThreadX デバイス情報の設定	2-11
デバイスのリモートシャドウイング	2-13
[Quick Find] でのデバイスの検索	2-14
デバイス フィルタの作成	2-16
デバイス フィルタの編集	2-18

デバイス フィルタの削除 2-18

CHAPTER 3

**Package Manager 3-1**

- Cisco VXC Manager パッケージの管理 3-1
  - スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録 3-4
  - ThreadX パッケージのビルドと登録 3-5
  - 登録 Cisco VXC Manager パッケージの詳細の表示 3-6
  - 登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトの表示と変更 3-8
  - 登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトのエクスポート 3-9

CHAPTER 4

**Cisco VXC ファームウェアおよび設定のアップグレード手順 4-1**

- PCoIP クライアントのアップグレード手順 4-1
  - PCoIP ファームウェアのアップデート 4-1
    - 手順 1 : PCoIP イメージの準備 4-1
    - 手順 2 : 準備したイメージからの PCoIP アップグレード用 VXC-M イメージの作成 4-2
    - 手順 3 : デフォルト デバイス構成およびスケジューリング プリファレンスの設定 4-3
    - 手順 4 : PCoIP クライアントの手動検出 4-3
    - 手順 5 : PCoIP クライアントのアップグレード 4-4
  - PCoIP クライアント設定のアップデート (ThreadX パッケージの構築および登録) 4-5
- ICA クライアントのアップグレード手順 4-7
  - ICA ファームウェアのアップデート 4-7
    - 手順 1 : ICA イメージの準備 4-7
    - 手順 2 : 準備したイメージからの ICA アップグレード用 VXC-M イメージの作成 4-8
    - 手順 3 : デフォルト デバイス構成、スケジューリング、および WTOS プリファレンスの設定 4-9
    - 手順 4 : ICA クライアントの手動検出 4-9
    - 手順 5 : デフォルト デバイス構成手法を使用した ICA クライアントのアップグレード 4-10
  - ICA クライアント設定のアップデート (WTOS パッケージの構築および登録) 4-11
- Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要 4-12
  - スクリプト ファイル構造の概要 4-13
  - Version 4-15

CHAPTER 5

**Update Manager 5-1**

- デバイス アップデートのスケジュール管理 5-1
  - Package Distribution ウィザードを使用したデバイス アップデートのスケジュール設定 5-4

ドラッグ アンド ドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定 5-6

自動配信手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定（デフォルト デバイス構成の割り当て） 5-8

Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール済みデバイス アップデートの変更 5-8

リモート リポジトリ同期のスケジュール設定 5-9

自動同期の設定 5-10

同期の手動スケジュール設定（Remote Software Repository Synchronization を使用） 5-10

リモート ソフトウェア リポジトリ同期の変更 5-13

## CHAPTER 6

### Report Manager 6-1

レポートの作成および管理 6-1

ログ レポート 6-3

デバイス リスト 6-4

パッケージ配信レポート 6-5

クライアント パッケージ レポート 6-6

クライアント ダウンタイム レポート 6-7

インストール詳細レポート 6-8

コンポーネント詳細レポート 6-9

パッケージ同期レポート 6-10

パッケージ同期履歴レポート 6-11

非同期パッケージ レポート 6-12

孤立パッケージ レポート 6-13

## CHAPTER 7

### Configuration Manager 7-1

Cisco VXC Manager のコンフィギュレーション設定およびプリファレンスの管理 7-1

グループ タイプの管理 7-2

カスタム グループ タイプの作成 7-2

カスタム グループ タイプの編集 7-3

カスタム グループ タイプの削除 7-3

ビューの管理 7-3

ビューの作成 7-4

ビューの編集 7-5

ビューの削除 7-5

Advanced View Configuration のオプションの使用法 7-5

デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理 7-6

デフォルト デバイス コンフィギュレーションの作成と割り当て 7-7

デフォルト デバイス コンフィギュレーションの編集 7-10

デフォルト デバイス コンフィギュレーションの削除	7-10
デフォルト デバイス コンフィギュレーションの要約の表示	7-11
プリファレンスの設定	7-12
Device Manager Preferences	7-12
Logging Preferences	7-14
Service Preferences	7-17
DHCP/TFTP Preferences	7-22
Scheduling Preferences	7-23
Subnet Preferences	7-25
WTOS Preferences	7-25
Cisco VXC Manager リポジトリについて	7-26
ソフトウェア リポジトリの管理	7-27
リモート リポジトリの登録	7-27
ソフトウェア リポジトリの編集	7-30
ソフトウェア リポジトリの削除	7-30
ネットワークの管理	7-30
サブネットの管理	7-30
Cisco VXC Manager へのサブネットの手動での追加	7-30
サブネットの編集	7-32
サブネットの削除	7-32
IP 範囲の管理	7-32
Cisco VXC Manager への IP 範囲の手動での追加	7-33
IP 範囲の編集	7-33
IP 範囲の削除	7-34
ユーザ権限の管理	7-34
ローカル コンピュータ アカウントからのユーザの追加	7-34
Active Directory からのユーザまたはグループの追加	7-35
ユーザ権限の編集	7-36
ユーザの削除	7-37
Cisco VXC Manager のユーティリティの使用法	7-38
ファイルからの IP 範囲データのインポート	7-38
ファイルから IP 範囲データをインポートするときの必須形式	7-39
ファイルからのサブセット データのインポート	7-39
ファイルからサブネット データをインポートするときの必須形式	7-40
ソフトウェア リポジトリ データのインポート	7-41
ファイルからソフトウェア リポジトリ データをインポートするときの必須形式	7-42
ファイルからのデバイス設定データのインポート	7-43
ファイルからデバイス設定インポートするときの必須形式	7-43

診断レポートの生成	7-44
Certificate Expiration Tracker の使用法	7-45
Certificate Expiration Tracker での証明書情報の表示	7-45
Expiration Tracker への証明書の追加	7-46
Expiration Tracker での証明書の編集	7-46

**APPENDIX A**

<b>グループとビューの操作</b>	<b>A-1</b>
グループ タイプとビューについて	A-1
[Show Empty Custom Group Folders] オプションについて	A-2
グループへのデバイスの割り当て	A-3
カスタム グループ間でのデバイスの移動	A-4
ビューの作成：作業例	A-5

**APPENDIX B**

<b>Cisco VXC Manager のセキュリティについて</b>	<b>B-1</b>
デバイスでの証明書のインポート	B-2
WTOS	B-2
Windows XPe	B-3
Windows CE .NET	B-4
セキュアな通信 (HTTPS) の使用	B-5
HAgent で開始される HTTPS 通信	B-5
Cisco VXC Manager Administrator Console で開始される HTTPS 通信	B-6
ポート番号の判別	B-6
プロトコルの判別	B-6
Cisco VXC Manager デバイス セキュリティのイネーブル化	B-7
Cisco VXC Manager セキュリティ証明書の変更	B-8

**APPENDIX C**

<b>Cisco VXC Manager Agent のアップグレード</b>	<b>C-1</b>
Auto-Agent Upgrade 機能の使用	C-1
Cisco VXC Manager Agent エラー コードについて	C-3
ファイル転送プロトコル (FTP) エラー コード	C-3
Windows ソケット エラー コード	C-5

**APPENDIX D**

<b>Mass Imaging Tool とデバイス イメージング</b>	<b>D-1</b>
Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用	D-1
前提条件	D-1
手順	D-2
Cisco VXC Manager でのデバイス イメージングの使用	D-3
PXE ベース以外のイメージング (WTOS Boot Agent)	D-3

WTOS Boot Agent デスクトップからの VXC Manager URL の設定 D-4

    DHCP サーバの設定 D-5

    DNS サーバでのサービス位置レコードの設定 D-11

    DNS サーバでの Cisco VXC Manager サーバのホスト名の設定 D-13

    PXE ベース以外のイメージングで Merlin を使用したイメージの配布 D-15

PXE ベース以外のイメージング (Merlin Boot Agent) D-15

PXE ベースのイメージング D-16

    PXE 要求のルーティング D-16

    DHCP の導入と設定 D-16

    イメージ パッケージの配布 D-16

    イメージング プロセスについて D-18

APPENDIX E

トラブルシューティング E-1

    Cisco VXC Manager のアップグレード インストールでの問題 E-1

    ライセンス エラー E-2

    ファームウェア アップグレード後に PCoIP クライアントが接続できない E-3

    リモート シャドウイングの問題 E-3

    適切なログ レベルの設定 E-3

        サービス ログの表示 : 例 E-3

    Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスの変更 E-5

    IIS 6.0 でのリポジトリ テスト接続の問題 E-5

    データベース接続の問題 E-6

    デバイス検出の問題 E-6

    PXE デバイス検出の問題 E-7

    パッケージ エラー E-7

    IIS 6.0 での HServer Init 要求の問題 E-7

    Wake on LAN コマンドがリモート デバイスに到達しない E-9

    Wake on LAN がリモート サブネットにあるデバイスに到達しない E-9

    Wake on LAN の応答遅延 E-9

    HTTP モードの IIS 7.0 でのリポジトリ インストールの問題 E-9

    Windows Server 2008 での Merlin イメージングの問題 E-11

    故障したデバイスの復旧 E-11

    WISard イメージの Merlin への変換 E-12

APPENDIX F

ライセンスとセールス キー F-1

    ライセンスと証明書の管理 F-1

    Cisco VXC Manager セールス キーの管理 F-1

- セールス キーの詳細の表示 F-1
- セールス キーの追加 F-1
- セールス キーのアクティブ化 F-2
- Cisco VXC Manager セールス キーの削除 F-4

**APPENDIX G****追加の Package Manager 手順 G-1**

- Cisco VXC Manager パッケージの管理 G-1
- デバイスからのイメージの登録 (PXE が必要) G-6
- デバイスからの設定の登録 G-7
  - Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録 G-8
  - Windows CE が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録 G-8
- CE イメージとアドオン (CE バンドル イメージ) の作成と登録 G-10
- WISard を使用したデバイスからのイメージの登録 G-12
  - WISard を使用したデバイスからのイメージの登録 : 初期設定と使用 G-12
  - WISard を使用したデバイスからのイメージの登録 : 初期設定後 G-15
- Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録 G-15
  - Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録 : 初期設定と使用 G-16
  - Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録 : 初期設定後 G-18

**APPENDIX H****Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool およびスクリプト言語 H-1**

- Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用 H-1
- Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool の使用 H-2
  - 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの作成 H-2
  - 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの編集 H-3
  - 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの確認 H-3
- Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要 H-3
- オプションの引数および HKEY\_CURRENT\_USER H-4
- スクリプト ファイル構造の概要 H-4
- Version H-6
- Script H-8

**APPENDIX I****Autogenic Imaging I-1**

- 概要 I-1
- 手順 I-2
  - 手順 1 : Autogenic Capable にするイメージを準備する I-2
  - 手順 2 : 準備したイメージを Cisco VXC Manager に登録する I-3
  - 手順 3 : 登録したイメージを Autogenic Capable Image に変換する I-3
  - 手順 4 : デバイスを Autogenic Capable Device に変換する I-3

手順 5 : Autogenic Capable Image のスケジュールを Autogenic Capable Device  
に設定する I-5

Autogenic Imaging の技術詳細 I-8

Update Manager (Autogenic Imaging の技術詳細) I-8

Cisco VXC Manager (Autogenic Imaging の技術詳細) I-9



## はじめに

---

Cisco Virtual Experience Client (VXC) Manager ソフトウェアは、ネットワーク インテリジェント デバイスを簡単かつ安全にリモートで管理するための主要なエンタープライズ ソリューションです。この製品を使用すると、ICA や PCoIP プロトコルを実行している何千もの Cisco VXC デバイスの整理、アップグレード、制御、サポートを実行できます。



(注) Cisco VXC PCoIP クライアント (2111/2211) は ThreadX ファームウェアを実行し、Cisco VXC ICA クライアント (2112/2212) は WTOS ファームウェアを実行します。

---

Cisco VXC Manager ソフトウェアでは業界標準の通信プロトコルとコンポーネントベースのアーキテクチャを使用して、ネットワーク デバイスを効率的に管理します。その直感的で簡単、パワフルな ユーザ インターフェイスは、標準で Microsoft 管理コンソール (MMC) と関係するように作られています。Cisco VXC Manager は 1 つの使いやすいコンソールから、すべてのネットワーク デバイスを簡単かつ迅速に管理できます。



(注) Cisco VXC クライアントには、リモート デスクトップ プロトコル (RDP) 設定オプションが用意されています。ただし、シスコでは Cisco VXC ICA クライアント (2112/2212) でのみ RDP ネットワーク 実装のサポートを提供しています。シスコは Cisco VXC PCoIP クライアント (2111/2211) での RDP ネットワーク 実装のサポートは提供していません。

---

## 対象読者

このガイドは、Cisco VXC Manager システムの管理者を対象としています。本書では、Cisco VXC Manager 環境を設計および管理するために役立つ情報とシステム設定の詳細を説明します。

このガイドは、Windows オペレーティング システムとアプリケーションをインストールして設定している、経験の豊富なネットワーク 管理者および情報テクノロジー 技術者を対象としています。

## マニュアルの構成

このマニュアルは次の表に示されるとおりに構成されています。

章	説明
「はじめに」	マニュアルを説明します。
第 1 章「はじめに」	Cisco VXC Manager の基礎を説明します。
第 2 章「Device Manager」	Device Manager のオプションと機能を説明します。
第 3 章「Package Manager」	Package Manager のオプションと機能を説明します。
第 5 章「Update Manager」	Update Manager のオプションと機能を説明します。
第 6 章「Report Manager」	Report Manager のオプションと機能を説明します。
第 7 章「Configuration Manager」	Configuration Manager のオプションと機能を説明します。
付録 A「グループとビューの操作」	Cisco VXC Manager のグループとビューの操作方法を説明します。
付録 B「Cisco VXC Manager のセキュリティについて」	セキュリティ機能を説明します。
付録 C「Cisco VXC Manager Agent のアップグレード」	Cisco VXC Manager Agent のアップグレード手順を説明します。
付録 D「Mass Imaging Tool とデバイス イメージング」	Mass Imaging Tool を説明します。
付録 E「トラブルシューティング」	トラブルシューティング手順を説明します。
付録 F「ライセンスとセールス キー」	サードパーティ クライアントのライセンス手順を説明します。
付録 G「追加の Package Manager 手順」	サードパーティ クライアントの追加の Package Manager の手順を説明します。
付録 H「Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool およびスクリプト言語」	サードパーティ クライアントの ScriptBuilder ツールを説明します。
付録 I「Autogenic Imaging」	サードパーティ クライアントの Autogenic Imaging を説明します。

## 関連資料

詳細については、次の URL にあるドキュメントを参照してください。

### 『Cisco Virtualization Experience Client 2000 Series』

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11499/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11499/tsd_products_support_series_home.html)

### 『Cisco Virtualization Experience Client Manager』

[http://www.cisco.com/en/US/products/ps11582/tsd\\_products\\_support\\_series\\_home.html](http://www.cisco.com/en/US/products/ps11582/tsd_products_support_series_home.html)

## マニュアルの入手方法およびテクニカル サポート

マニュアルの入手方法、テクニカル サポート、その他の有用な情報については、次の URL で、毎月更新される『*What's New in Cisco Product Documentation*』を参照してください。シスコの新規および改訂版の技術マニュアルの一覧も示されています。

<http://www.cisco.com/en/US/docs/general/whatsnew/whatsnew.html>

『*What's New in Cisco Product Documentation*』は RSS フィードとして購読できます。また、リーダーアプリケーションを使用してコンテンツがデスクトップに直接配信されるように設定することもできます。RSS フィードは無料のサービスです。シスコは現在、RSS バージョン 2.0 をサポートしています。

## 表記法

このマニュアルでは、次の表記法を使用しています。

表記法	説明
太字	コマンドおよびキーワードは <b>太字</b> で示しています。
イタリック体フォント	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体</i> で示しています。
[ ]	角カッコの中の要素は、省略可能です。
{ x   y   z }	必ずどれか 1 つを選択しなければならない必須キーワードは、波カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
[ x   y   z ]	どれか 1 つを選択できる省略可能なキーワードは、角カッコで囲み、縦棒で区切って示しています。
string	引用符を付けない一組の文字。string の前後には引用符を使用しません。引用符を使用すると、その引用符も含めて string とみなされます。
screen フォント	システムが表示する端末セッションおよび情報は、screen フォントで示しています。
太字の screen フォント	ユーザが入力しなければならない情報は、 <b>太字の screen</b> フォントで示しています。
イタリック体の screen フォント	ユーザが値を指定する引数は、 <i>イタリック体の screen</i> フォントで示しています。
^	^ 記号は、Ctrl キーを表します。たとえば、画面に表示される ^D というキーの組み合わせは、Ctrl キーを押しながら D キーを押すことを意味します。
< >	パスワードのように出力されない文字は、山カッコ (<>) で囲んで示しています。



(注)

「注釈」です。役立つ情報や、このマニュアル以外の参照資料などを紹介しています。



注意

「要注意」の意味です。機器の損傷またはデータ損失を予防するための注意事項が記述されています。

警告は、次のように表しています。

**警告****安全上の重要事項**

「危険」の意味です。人身事故を予防するための注意事項が記述されています。機器の取り扱い作業を行うときは、電気回路の危険性に注意し、一般的な事故防止対策に留意してください。警告の各国語版については、各警告文の末尾に提示されている番号をもとに、この機器に付属している各国語で記述された安全上の警告を参照してください。警告文 1071

これらの注意事項を保存しておいてください。



# CHAPTER 1

## はじめに

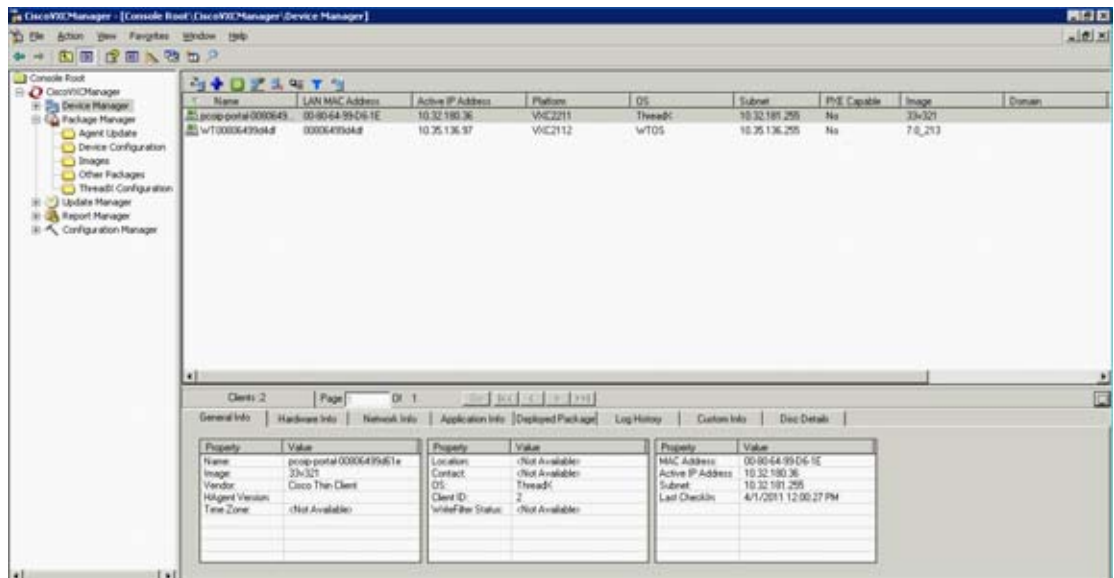
この章では、Cisco VXC Manager Administrator Console の機能エリアについて説明します。また、Cisco VXC Manager 管理者として作業を開始するうえで役立つシステムの一般的な機能に関する重要な情報も記載されています。

## Administrator Console の使い方

このセクションでは、Cisco VXC Manager Administrator Console を構成するエリアとツールの概要について説明します (Administrator Console の各アイテムの詳細については、このガイドの該当する章でそれぞれ説明します)。

Cisco VXC Manager Administrator Console は、Microsoft Management Console (MMC) スナップインです。Cisco VXC Manager システムに関する重要な情報をすぐに確認でき、Cisco VXC Manager 環境を運用、保守するうえで必要なあらゆるデバイス管理作業を容易に実行できます。

図 1-1 Cisco VXC Manager Administrator Console



Administrator Console のツリー ペインには、さまざまな機能マネージャ (ノード) が表示されます。各マネージャには、その機能エリアでの管理者による作業や日常的なアクティビティを支援する一連の自動化ツールが含まれています。

- **Device Manager** : Cisco VXC Manager 環境内のデバイスを表示および管理します（「[Device Manager](#)」(P.2-1) を参照）。
- **Package Manager** : 管理対象デバイスに配布できる Cisco VXC Manager パッケージ（イメージ、設定など）を表示および管理します（「[Package Manager](#)」(P.3-1) を参照）。
- **Update Manager** : 管理対象デバイスへの Cisco VXC Manager パッケージ配布スケジュールおよびリモート リポジトリとマスター リポジトリ間の同期スケジュールを表示および管理します（「[Update Manager](#)」(P.5-1) を参照）。
- **Report Manager** : Cisco VXC Manager レポートを作成および管理します（「[Report Manager](#)」(P.6-1) を参照）。
- **Configuration Manager** : Cisco VXC Manager が特定の要件を満たすように Cisco VXC Manager のシステム設定と環境設計を構成します（「[Configuration Manager](#)」(P.7-1) を参照）。

Administrator Console の詳細ペインの上部には、さまざまなタスク コマンドアイコンと機能、ツリーペインで選択されているノードまたはフォルダ内のアイテムのリストが表示されます。たとえば、財務部門に導入されているすべてのデバイスを表示する目的で作成したビューが含まれている Finance というフォルダを開くことができます。

Administrator Console の詳細ペインの下部には、詳細ペイン上部にリストされているアイテムの詳細とタスク オプションが表示されます。たとえば、財務部門でリストされているデバイスを選択すると、詳細ペインの下部に、そのデバイスの詳細情報を含むタブ（[General Info]、[Hardware Info]、[Network Info]、[Application Info]、[Deployed Package]、[Log History]、[Custom Info]、[Disk Details]）が表示されます。デバイスに関する情報を表示するには、該当するタブをクリックします。



#### ヒント

Administrator Console の各ペインではアイテムをドラッグ アンド ドロップできるため、作業効率が上がります。

## ショートカット メニューの使用法

Cisco VXC Manager のショートカット メニューにより、システム内で作業を容易に行うことができます。アイテムを右クリックするか、または Administrator Console の詳細ペインを右クリックすると、実行できる操作のメニューが表示されます。

各機能エリアの固有の操作（Reports Manager でのレポートの新規作成など）の他に、通常すべての機能エリアで実行できる主要なショートカット メニュー項目として次のものがあります。

- [All Tasks] : 簡単に操作できるウィザードを表示します（「[Cisco VXC Manager のウィザードについて](#)」(P.1-3) を参照）。
- [Refresh] : 機能マネージャに現在表示されているビューを更新します（たとえば、Device Manager の詳細ペイン内を右クリックして [Refresh] を選択すると、詳細ペインのビューが更新されます）。
- [Export List] : 詳細ペインに表示されているリストを .txt または .csv ファイルにエクスポートします（たとえば、スケジュール目的で Cisco VXC Manager パッケージのリストをエクスポートする場合など）。
- [View] : Administrator Console のルック アンド フィールをカスタマイズします。
- [Arrange Icons and Line Up Icons] : 詳細ペインのアイコンを整理します。
- [Help] : 作業しているエリアの状況依存ヘルプを表示します。



## ヒント

これらの主要なショートカットメニュー項目の他に、各機能エリアに固有の操作を実行するためのショートカットメニュー項目があります。たとえば、[Device Manager] の詳細ペインでデバイスを右クリックし、[Refresh Device Information] を選択すると、そのデバイスからの最新情報（IP アドレス、デバイス名、インストールされているアプリケーションなど）の送信が要求されます。

## Cisco VXC Manager のウィザードについて

Cisco VXC Manager には、実行する必要があるあらゆる作業のための使いやすいウィザードがあります。Administrator Console のツリー ペインの任意のマネージャから操作を実行するためのウィザードのリスト（使用するウィザードを選択できるリスト）を簡単に表示できます。たとえば、[Device Manager] を右クリックして [All Tasks] > [Run Wizard] を選択すると、使用可能なウィザードのリストが表示されます。

Cisco VXC Manager で使用できるウィザードを以下に示します。

- View ウィザード
- Package ウィザード
- Package Distribution ウィザード
- Software Repository Synchronization ウィザード
- Report ウィザード
- License Key ウィザード
- ThreadX Device Settings

## Cisco VXC Manager のツールバー アイコンの使用方法

Cisco VXC Manager のショートカットメニューにより、システム全体で作業を容易に実行できますが、各機能マネージャには、その機能エリア内で使用できる Cisco VXC Manager アイコンも表示されます（Administrator Console でアイコンを容易に確認できるように、各アイコンにはポップアップ表示される説明が付いています）。



## ヒント

[Help] アイコン (?) は、すべての機能マネージャの状況依存ヘルプを表示します。

## Device Manager のアイコン

Device Manager の標準ツールバー アイコンを以下に示します（左から右の順）。

図 1-2 Device Manager : 標準ツールバー アイコン



- [Run a Wizard] : システムで使用可能なサポートされているウィザードの 1 つを実行します。
- [Change the View] : 使用可能なビューに切り替えます。
- [Create a New View] : カスタム ビューを作成します。
- [Find Devices] : デバイスを検索します。

- [Manually Add a Device] : デバイスを手動で追加します。

Device Manager では、詳細ペインの上に Device Manager のクイック アクセス ツールバーが表示されます。このツールバーには、よく使用される Device Manager のツールが表示されます。アイコンを以下に示します (左から右の順)。

図 1-3 Device Manager : クイック アクセス ツールバー アイコン



- **Refresh Device Information**
- **Manually Add a Device**
- **Remote Shadow** (ThreadX/PCoIP デバイスではサポートされていません)
- **Change Device Information**
- **Reboot**
- **Shut Down** (ThreadX/PCoIP デバイスではサポートされていません)
- **Wake On LAN** (ThreadX/PCoIP デバイスではサポートされていません)
- **Change Network Information** (WTOS/ICA デバイスではサポートされていません)
- **Get Device Configuration** (Cisco VXC デバイスではサポートされていません)
- **Get Device Images** (Cisco VXC デバイスではサポートされていません。PXE が必要です)
- **Execute Command**
- **Delete Devices**
- **Diagnostic Report**
- **Quick Find**
- **Create Device Filter**

## Package Manager のアイコン

Package Manager の標準ツールバー アイコン

図 1-4 Package Manager : 標準ツールバー アイコン



[Run a Wizard] : システムで使用可能なサポートされているウィザードの 1 つを実行します。

## Update Manager のアイコン

Update Manager の標準ツールバー アイコンを以下に示します (左から右の順)。

図 1-5 Update Manager : 標準ツールバー アイコン



- [Run a Wizard] : システムで使用可能なサポートされているウィザードの 1 つを実行します。
- [Scheduled Packages] : デバイスに対してスケジュールされている Cisco VXC Manager パッケージを管理します。

- [Software Repository Synchronization] : ソフトウェア リポジトリ同期プロセスを開始します。

## Report Manager のアイコン

Report Manager の標準ツールバー アイコンを以下に示します（左から右の順）。

図 1-6 Report Manager : 標準ツールバー アイコン



- [Run a Wizard] : システムで使用可能なサポートされているウィザードの 1 つを実行します。
- [Create New Report] : システムで使用可能なサポートされているレポートの 1 つを作成します。
- [System Log Archive] : アーカイブ レコードを .txt ファイルまたは .csv ファイルにエクスポートします。

## Configuration Manager のアイコン

Report Manager の標準ツールバー アイコンを以下に示します。

図 1-7 Report Manager : 標準ツールバー アイコン

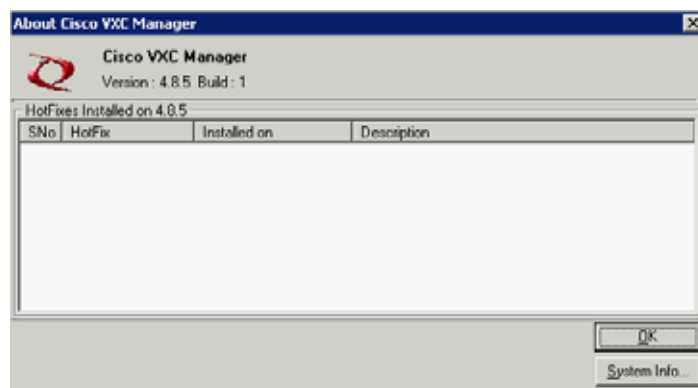


- [Run a Wizard] : システムで使用可能なサポートされているウィザードの 1 つを実行します。

## Cisco VXC Manager のバージョンの確認

Cisco VXC Manager のバージョンとビルド番号（およびインストールされているすべてのホットフィックス）を表示するには、（Administrator Console のツリー ペインの）[CiscoVXCManager] を右クリックし、[About Cisco VXC Manager] を選択します。

図 1-8 About Cisco VXC Manager



## 使用開始にあたっての検討事項

Cisco VXC Manager の使用を開始する前に、以下の点を検討してください。

- **管理者の追加**：必要とする管理者を追加することで、必要な補充要員を確保できます。少なくとも 1 つのバックアップ管理者アカウントを追加しておくことを推奨します（「[ユーザ権限の管理](#)」(P.7-34) を参照）。
- **システム設計**：Cisco VXC Manager をインストールすると、Cisco VXC Manager システムにデバイスを追加するために必要なコンポーネントがインストールされます。ただし、Cisco VXC Manager システムにデバイスを追加開始する前に、ベスト プラクティスとして、必要なサブネットとリポジトリが Cisco VXC Manager システムに導入されていることを確認しておきます。サブネットとリポジトリはいつでも追加できますが、初めて使用する前に Cisco VXC Manager を準備しておくとう便利です。

サブネットの追加については、「[サブネットの管理](#)」(P.7-30) を参照してください。

リポジトリの追加については、「[ソフトウェア リポジトリの管理](#)」(P.7-27) を参照してください。



## CHAPTER 2

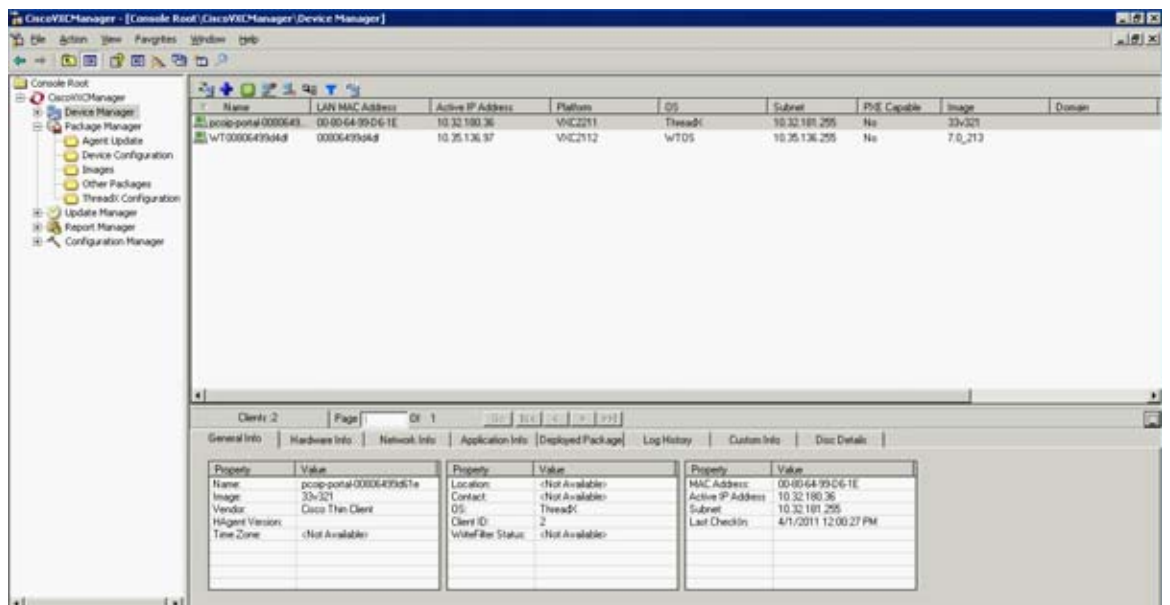
# Device Manager

この章では、Administrator Console で日常的なデバイス管理作業を行う方法を説明します。Cisco VXC Manager 環境でのデバイスの管理についても説明します。

## デバイスの管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] をクリックすると、Device Manager が表示されます。Device Manager では、Cisco VXC Manager 環境内のデバイスを簡単に表示、管理できます (表 2-1 を参照)。また、使用可能なフィルタ機能やカスタマイズ機能を使用して、必要なデバイスを容易に表示できます。

図 2-1 Device Manager



デバイスを選択したら、作業を開始できます。このとき、複数デバイスを選択するには Ctrl キーを押しながらクリックするかまたは Shift を押しながらクリックします。



## ヒント


アイコンを使って Device Manager の作業を実行する方法については、「[Device Manager のアイコン](#)」(P.1-3) を参照してください。Device Manager プリファレンス (デバイスのチェックイン、アップグレード、および検出) の設定方法については、「[Device Manager Preferences](#)」(P.7-12) を参照してください。

表 2-1 に、Device Manager を使って実行できる作業の概要を示します。

表 2-1 Device Manager で行う日常的なタスク

実行できるタスク	手順	詳細
Device Manager で使用するビュー (デフォルトまたはユーザ作成) を選択する。これにより、必要なデバイスを迅速に見つけることができます。	Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を右クリックし、[Switch View] を選択し、[Select Current Manager View] ダイアログボックスを開いて使用します。	デバイスのグループ タイプ、ネットワークなどに応じてビューを作成し、現在のマネージャ ビューを選択することで、目的のデバイスを簡単に表示できるようになります。「 <a href="#">ビューの管理</a> 」(P.7-3) を参照。
必要なデバイスを簡単に見つけることができるように、Device Manager で使用するデバイス フィルタを作成する。	Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を右クリックし、[Create Device Filter] を選択し、[Filter Devices] ダイアログボックスを開いて使用します。	「 <a href="#">デバイス フィルタの作成</a> 」(P.2-16)
選択されているデバイスのデバイス詳細を表示する。	使用するデバイス詳細タブをクリックします。	「 <a href="#">デバイスの詳細の表示</a> 」(P.2-3) <b>ヒント</b> デバイスのチェックイン、アップグレード、検出に関するプリファレンスを設定するには、「 <a href="#">Device Manager Preferences</a> 」(P.7-12) を参照してください。
詳細ペインにリストされているデバイスの中から、Device Manager で使用するデバイスを検索する。	[Quick Find] ツールバー ボタンを使用するか、または詳細ペインでデバイス名を右クリックして [Quick Find] を選択し、[Quick Find] ダイアログボックスを開いて使用します。	「 <a href="#">[Quick Find] でのデバイスの検索</a> 」(P.2-14)
Dynamic Discovery を使用してシステムにデバイスを追加する。	Configuration Manager の [Preferences] ダイアログボックスのプリファレンスを使用して Cisco VXC Manager がデバイスを自動検出するように設定します。	「 <a href="#">デバイスの追加および自動検出</a> 」(P.2-6)、「 <a href="#">Dynamic Discovery を使用したデバイスの追加</a> 」(P.2-7)
デバイスをシステムに自動的に追加する	[New] > [Device] をクリックし、[Add a Device] ダイアログボックスを開いて使用します。	「 <a href="#">デバイスの追加および自動検出</a> 」(P.2-6)、「 <a href="#">デバイスの手動追加</a> 」(P.2-8)
基本デバイス情報 (デバイスの名前、ロケーションなど) を変更する。	デバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Change Device Information] を選択し、[Change Client Information] ダイアログボックスを開いて使用します。	「 <a href="#">基本デバイス情報の変更</a> 」(P.2-9)
デバイス ネットワーク情報 (IP アドレス、DNS サーバなど) を変更する。	デバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Change Network Information] を選択し、[Change Client Network Settings] ダイアログボックスを開いて使用します。	「 <a href="#">ネットワーク プロパティの変更</a> 」(P.2-10)

表 2-1 Device Manager で行う日常的なタスク (続き)

実行できるタスク	手順	詳細
デバイスをリモート操作でシャドウイングする (デバイスをリモート操作で表示および制御するため)。	デバイスを右クリックして [Remote Shadow] を選択し、[VNC Authentication] ダイアログボックスを開いて使用します。	「デバイスのリモートシャドウイング」(P.2-13)
デバイスに対して DOS コマンドを実行する。	デバイスを右クリックして [Execute Command] を選択し、[Execute] ダイアログボックスを開いて使用します。	特定のデバイスに対する実行コマンドを入力できます (実行可能ファイルがデバイスのパスにない場合は、完全修飾パスを入力する必要があります)。
ハードウェアとソフトウェアの要約情報と実行中のプロセスのリストが含まれている Diagnostic Report を作成する。	デバイスを右クリックして [Diagnostic Report] を選択し、Diagnostic Report を表示します。	「診断レポートの生成」(P.7-44)
デバイスをシャットダウンする。	デバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Shut Down] を選択します。	
デバイスをリブートする。	デバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Reboot] を選択します。	
デバイスを起動する。	デバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Wake On LAN] をクリックします。	
システムからデバイスを削除します。	デバイスを選択し (複数デバイスを選択するには、Ctrl キーを押しながらクリックまたは Shift キーを押しながらクリック)、選択したデバイスを右クリックして [Delete Device] を選択し、削除操作を確定します。	 <b>注意</b> スケジュールされているデバイスの更新を削除する前にデバイスがネットワークから削除されている場合、スケジュールされている更新のステータスが永久に進行中になることがあります。デバイスを削除する前に、そのデバイスでスケジュールされている更新がないことを確認してください (Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] をクリックして、スケジュールされているデバイス更新または進行中のデバイス更新を詳細ペインで確認します)。

## デバイスの詳細の表示

デフォルトでは、詳細ペインの下部に [General Info] タブが表示されます (図 2-1 を参照)。



ヒント

[General Info] タブと関連タブを表示するには、詳細ペイン下部にある正符号のアイコン (+) をクリックしてこれらのタブのビューを展開する必要があります。

[Hardware Info] タブには、ハードウェアの詳細情報（OS ブート元のディスクパーティションの詳細、デバイスのブートエージェント情報など）が表示されます。

図 2-2 [Hardware Info] タブ

Hardware Details	Value	Bios and Drivers	Value
CPU:	AuthenticAMD AMD Sempro...	AssetTag:	<Not Available>
CPU Speed:	989 Mhz	BIOS:	Ver 1.00PARTT8L
Media Size:	1024 MB	Platform:	R90L
RAM:	916 MB	Video Adapter:	ATI2DVAG
Serial No.:	<Not Available>	Sound Adapter:	Realtek High Definition Audio
Manufactured On:	10/1/2008		

[Network Info] タブには、選択されているデバイスのネットワークに関する詳細情報（Cisco VXC Manager のコンポーネント間通信の詳細など）が表示されます。

図 2-3 [Network Info] タブ

Property	Value	Property	Value	NIC #	MAC	Client IP	Description
Certificate Validation:	Disabled	Preferred WINS ...	<Not Available>	0	001577E385A6	10.100.7.22	Ethernet Allied Teles A...
Boot Agent Version:	<Not Available>	Alternate WINS ...	<Not Available>				
Boot Agent Type:	<Not Available>	Path:	<Not Available>				
BackupPartitionPre:	<Not Available>	Secure Communi...	Supported				
BackupImagePres:	<Not Available>	Communication:	80				
BackupImageVers...	<Not Available>	Secure Communi...	No				
BackupPartitionSize:	<Not Available>	Domain User:	<Not Available>				

[Application Info] タブには、デバイスにインストールされているアプリケーションのリストが表示されます。

図 2-4 [Application Info] タブ

Application	Path	Version	Vendor	Build
Adobe Flash Player Helper 9.0 r1	C:\WINDOWS\system32\Macr...	9.0.124.0		
Citrix ICA Client Engine (Win32)	C:\Program Files\Citrix\ICA Clie...	10.250.0.8292		
File-based write filter manager	C:\Windows\System32\fbwfmgr...	2.0.1200.0		
Internet Explorer	C:\Program Files\Internet Explor...	7.0.6000.20900		
PowerTerm Interconnect/32	C:\Program Files\PowerTerm\ipl...	9.1.0.320		
Remote Desktop Connection	C:\Windows\System32\rmstsc.E...	6.0.6000.16306		
TightVNC Win32 Server	C:\Program Files\TightVNC\Wl...	1.3.9.0		
VMware VDM Client	C:\Program Files\VMware\VMW...	2.1.0.596		
WinRM Helper	c:\program files\windows\helper.exe	5.1.1.4		

[Deployed Package] タブには、デバイスに配布されているすべての Cisco VXC Manager パッケージのリストが表示されます。

図 2-5 [Deployed Package] タブ

Package	Description	Updated
push_ARA0_5637_2040	ARA0 Build G37 EFGS ...	03/17/2009

[Log History] タブには、選択されているデバイスの Cisco VXC Manager パッケージ配布に対応するすべてのログのリストが表示されます。

図 2-6 [Log History] タブ

Date	User	Software Pkg	Description
03/11/2009	spopl	WESHAgentUp...	Script Success To:008064730728
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Try 1:Merlin-Process-FAILURE_Http_download_file_failed...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...
03/12/2009	spopl	push_9R90_56...	Script Success To:008064730728 Merlin-Process-SUCCE...

[Custom Info] タブには、選択されているデバイスのカスタム情報（場所、連絡先など）がすべて表示されます。

図 2-7 [Custom Info] タブ

Custom Field	Custom Value
Custom1	Test1
Custom2	Test2
Custom3	Test3

[Disk Details] タブには、選択されているデバイスに存在するすべてのディスクとそのパーティションの詳細のリストが表示されます。



ヒント

[Disk Details] は、HAgent バージョン 5.1.1.10 以降が実行されているデバイスでのみ表示されます。

図 2-8 [Disk Details] タブ

Clients: 16								Page 1 of 1		
General Info								Hardware Info		
Network Info								Application Info		
Deployed Package								Log History		
Custom Info								Disk Details		
Disc #	Boot Disc	Disc Size	Par. #	Par. Boot	Par. Size	Par. Offset	Par. Type	Drive	Total Size (MB)	Free Space (MB)
0	Yes	4095737856	1	No	1516032	32256	Microport Sys/VIA...	C:	3665	2920
			2	No	16515072	1548288	VM95 OSR2 FA...	D:	3885	2920
			3	Yes	4073545728	18063360	NTFS Partition	Z:	30	29
			4	No	0	0	Unknown Partition			

## デバイスの追加および自動検出

デバイスを Cisco VXC Manager システムに追加することで、Cisco VXC Manager がネットワーク上のそのデバイスを認識し、デバイスに関する情報を Cisco VXC Manager Database に格納します。デバイス情報がデータベースに格納されたら、Cisco VXC Manager を使用してデバイスを管理できます。

Cisco VXC Manager Agent がインストールされているデバイスが定期的にチェックインできるように、このデバイスを Web サービスにリンクする必要があります。チェックイン時には、Cisco VXC Manager Agent から Web サービスに対してデバイス情報が提供されます。デバイス情報には、デバイス名、ハードウェア情報（プラットフォーム、フラッシュ サイズ、メモリ、CPU、アセット番号、シリアル番号）、ネットワーク情報（WINS、DNS、IP アドレス、ドメイン名、サブネット）、イメージ番号などがあります。Web サービスがインストールされているサーバにデバイスをリンクするには、次の 5 つの方法があります。

- DHCP サーバのセットアップ：(WTOS クライアントで推奨) DHCP オプション タグ 186 と 192 によってリンクが確立されます。これらのタグにより、DHCP サーバから Cisco VXC Manager Agent に適切な Cisco VXC Manager Web サーバの IP アドレスとポートを提供できます。
- DHCP オプション タグと DNS SRV レコード：(ThreadX クライアントで必須) 詳しくは、「[DHCP サーバの設定](#)」(P.D-5)、「[DNS サーバでのサービス位置レコードの設定](#)」(P.D-11)、および「[DNS サーバでの Cisco VXC Manager サーバのホスト名の設定](#)」(P.D-13) を参照してください。
- HTTP 検出の DHCP オプションを有効にする：Cisco VXC Manager サービスには、Cisco VXC Manager Agent からの DHCP Inform 要求に対して Web サーバの IP アドレスとポートで応答する DHCP プロキシがあります。
- 手動検出：サブネットブロードキャストまたは IP 範囲のいずれかによってデバイスを検出する操作をサーバから開始します。Cisco VXC Manager Agent はサーバからの検出操作に対応して検出実行 Web サーバの IP アドレスとポートを格納し、定期チェックインを開始します。
- デバイスの手動セットアップ：各デバイスで Web サーバの IP アドレスとポートを手動で入力します。この操作は、デバイスの Cisco VXC Manager Control Panel アプレットで行います（このアプレットがデバイスでサポートされている場合）。

Cisco VXC Manager にデバイスを追加するには、Cisco VXC Manager で Dynamic Discovery を使用してデバイスを検出するように設定するか、またはデバイスを手動で追加します。

Dynamic Discovery を使用する場合、Cisco VXC Manager Agent は Cisco VXC Manager Web サービスを使用して定期的にチェックインします。Cisco VXC Manager Agent が通信を開始するため、このチェックイン形式はプル通信に基づいています。Cisco VXC Manager でのデバイス検出の詳細については、「[Dynamic Discovery を使用したデバイスの追加](#)」(P.2-7) を参照してください。

デバイスを手動で追加する場合は、Cisco VXC Manager に対し、デバイスを検出するようにコマンドで指示します。この方法では Cisco VXC Manager サーバが操作を開始するため、プッシュ通信が使用されます。このデバイス追加方法を使用する場合、UDP ブロードキャスト、またはサブネット/IP 範

囲の設定範囲内のすべてのデバイスへの TCP 接続のいずれれを使用してデバイスを追加するかを指定できます。Cisco VXC Manager へのデバイスの手動追加の詳細については、「[デバイスの手動追加 \(P.2-8\)](#)」を参照してください。

## Dynamic Discovery を使用したデバイスの追加

[Auto-Agent Upgrade] プリファレンスを有効にしている場合（「[Device Manager Preferences \(P.7-12\)](#)」を参照）、新たに検出されたデバイスで古い Cisco VXC Manager Agent が検出されると、Cisco VXC Manager はこの古いエージェントの更新を開始します。ネットワークのサイズとデバイスの数によっては、この処理には時間がかかることがあります。Cisco VXC Manager によってデバイスの Cisco VXC Manager Agent が更新されると、このデバイスは Cisco VXC Manager Web サービスを認識し、Dynamic Discovery を使用した定期的なチェックインを開始できます。

[Preferences] ダイアログボックスの使用法については、「[プリファレンスの設定 \(P.7-12\)](#)」を参照してください。

Cisco VXC Manager Agent がプリインストールされた新しいデバイスを追加した場合は、このデバイスの Cisco VXC Manager Agent を Cisco VXC Manager Web サービスにリンクする必要があります。リンク確立後に、デバイスが Dynamic Discovery を使用して定期的にチェックインします。

Device Manager でデバイスを検出する場合には、以下のガイドラインに従います。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Preferences] をクリックして [Preferences] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 2** [Preferences] ダイアログボックスで、デバイスの検出にサブネットまたは IP 範囲のいずれれを使用するかを選択します。
- ステップ 3** (任意) IP 範囲を使用してデバイスを検出するには、次の手順に従います。
  - a. [IP Range] オプションをクリックします。
  - b. [Network List] ペインから個々の IP 範囲を選択するか（複数のサブネットを選択する場合は Shift キーまたは Ctrl キーを使用）、[Select All] をクリックしてすべての IP 範囲を選択します（検出で使用するために選択できる範囲の最大数は 100 です）。
- ステップ 4** (任意) サブネットを使用してデバイスを検出するには、次の手順に従います。
  - a. [Subnets] オプションをクリックします。
  - b. [Show Subnet Hierarchy] プリファレンス（「[Subnet Preferences \(P.7-25\)](#)」を参照）を有効にしている場合、デバイスを検索するサブネット階層レベルを選択するには、[Network Hierarchy] ペインからサブネット階層レベルを選択します。階層のサブネットに対応するブロードキャストアドレスが [Network List] ペインに表示されます。

[Show Subnet Hierarchy] プリファレンスを有効にしていない場合は、次のステップに進みます。
  - c. [Network List] ペインから個々のブロードキャストアドレスを選択するか（複数のサブネットを選択する場合は Shift キーまたは Ctrl キーを使用）、[Select All] をクリックしてすべてブロードキャストアドレスを選択します（検出で使用するために選択できるサブネットの最大数は 50 です）。



(注) 検出で使用するために一度に選択できるサブネットの最大数は 100 です。Cisco VXC Manager は最初に最大約 50 のサブネットを検出します（常に最初のサブネットから検出されます）。残りのサブネットをすべて検出するには、検出を再実行する必要があります。

- ステップ 5** [OK] をクリックします。Cisco VXC Manager は、選択内容に基づいてデバイスの検出を開始します。詳細ペインに、新たに検出されたデバイスと、以前に検出されているデバイスの両方が表示されます。

## デバイスの手動追加

Cisco VXC Manager では、Cisco VXC Manager Database にデバイスを手動で追加することもできます (たとえば、技術的な問題が発生したために、通常は実行可能なデバイスの検出を実行できない場合や、デバイスのオペレーティング システムが破損し、デバイスが正常に動作しない場合など)。

デバイスを手動で追加するには、以下のガイドラインに従います。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] を右クリックして [New] > [Device] を選択し、[Add a Device] ダイアログボックスを開きます。

- ステップ 2** 次のガイドラインに従います。

- [Name] : Device Manager に表示するとき使用するデバイスのマシン名。
- [MAC Address] : デバイスの MAC (Media Access Control) アドレス。MAC アドレスは、ネットワーク上のデバイスを一意に識別します。MAC アドレスは正確に入力してください。正確に入力しないと、Cisco VXC Manager がデバイスと通信できません。
- [IP Address] : デバイスの Internet Protocol アドレス。これは、TCP/IP ネットワーク上のデバイスを識別します。ネットワーク メッセージは、この IP アドレスに基づいてデバイスにルーティングされます。
- [Media Size] : デバイスのフラッシュ メモリのサイズを MB 単位で入力します (例 : 32、48、96 など)。
- [Operating System] : デバイスにインストールされているオペレーティング システム。
- [Platform] : デバイスのハードウェア プラットフォーム。
- [Callisto-2] : デバイスが Callisto-2 デバイスの場合はこのオプションを選択します。
- [Subnet] : デバイスのサブネット。
- [PXE Capable] : Cisco VXC Manager によってイメージングできるデバイスの場合 (デバイスで Preboot EXecute Environment がサポートされている場合) は、このオプションを選択します。

- ステップ 3** 設定が完了したら、[OK] をクリックします。新たに追加されたデバイスが詳細ペインに表示されます。デバイス グループ タイプの特性に対応するビューを作成している場合、デバイスは該当するビューに自動的に追加されます。

## デバイス プロパティの変更

デバイス プロパティには、基本プロパティとネットワーク プロパティがあります。基本プロパティを変更するには、「[基本デバイス情報の変更](#)」(P.2-9) で説明する手順に従います。ネットワーク プロパティを変更するには、「[ネットワーク プロパティの変更](#)」(P.2-10) で説明する手順に従います。

## 基本デバイス情報の変更



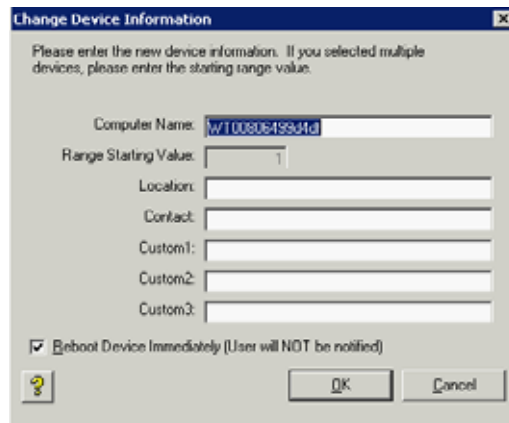
**注意**

このセクションの内容は、ICA 向け WTOS ファームウェアが実行されている Cisco VXC 2112/2212 クライアントにのみ適用されます。

### 手順

- ステップ 1** 変更するデバイスが含まれているビューに切り替えます。
- ステップ 2** 変更するデバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Change Device Information] を選択し、[Change Device Information] ダイアログボックスを開きます。

**図 2-9** Change Device Information



- ステップ 3** 次のガイドラインに従います。
- [Computer Name] : コンピュータのわかりやすい名前（複数デバイスを選択している場合はコンピュータの範囲）を入力します。
  - [Range Starting Value] : 複数のデバイスを選択している場合、各デバイスの名前に増分番号が付加されます。デバイスの範囲の開始番号を入力します。
  - [Location] : デバイスが導入されているロケーションを明確に入力します。たとえば、「San Jose headquarters, 2nd floor」などです。
  - [Contact] : 範囲内のデバイスの連絡先担当者の名前を入力します。
  - [Custom1]、[Custom2]、[Custom3] : デバイスまたはデバイス グループとともに維持する追加情報（アセット追跡データ、保守実施日、購入日、その他有用な情報）を入力します。
- ステップ 4** 情報変更後にデバイスをリブートするかどうかに応じて（デバイスの更新はリブート後に実行されます）、[Reboot Device Immediately] を選択または選択解除します（今すぐリブートすることを選択した場合、デバイスがリブートされることがユーザに通知されない点に注意してください）。Write Filter デバイスではこのオプションは無視され、デバイスがただちにリブートされる点に注意してください。
- ステップ 5** デバイスのリブートとチェックインが完了したら、[OK] をクリックします。新たに更新されたデバイス情報を示す詳細ペインが表示されます。

## ネットワーク プロパティの変更



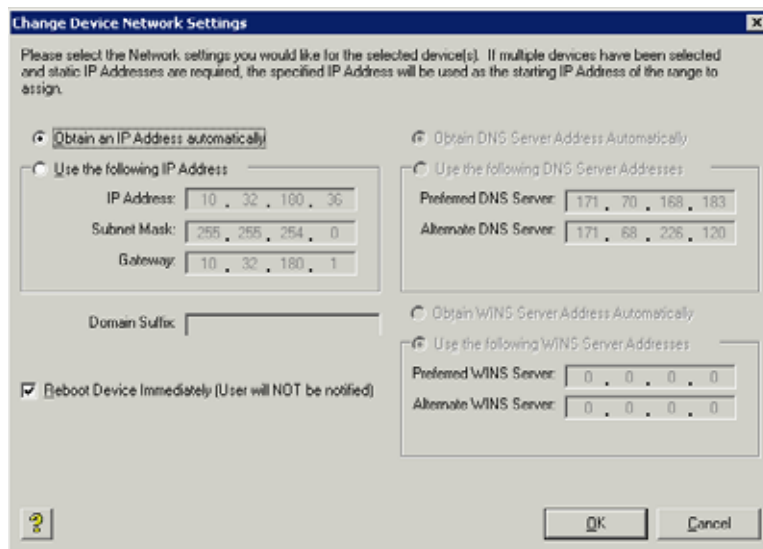
### 注意

この項の内容は、WTOS ファームウェアを実行する Cisco VXC 2112/2212 クライアントには適用されません。

### 手順

- ステップ 1** 変更するデバイスが含まれているビューに切り替えます。
- ステップ 2** 変更するデバイスを選択し、選択したデバイスを右クリックして [Change Network Information] を選択し、[Change Network Information] ダイアログボックスを開きます。

図 2-10 Change Device Network Settings



- ステップ 3** 選択されているデバイスに固定 IP アドレスを割り当てるかどうかに応じて、以下のいずれかを実行します。
- 割り当てない場合は、[Obtain an IP Address automatically] を選択して次のステップに進みます。
  - 割り当てる場合は、[Use the following IP Address] を選択し、[IP Address] セクションのボックスに情報を入力します。



**ヒント** [IP Address] セクション：ステップ 2 で複数のデバイスを選択した場合、入力する IP アドレスはアドレス範囲の開始アドレスとなります。選択したすべてのデバイスがこのアドレス範囲に含まれます。すべての範囲はクラス C サブネットに属します。デバイス グループに割り当てる IP アドレス範囲がクラス C 外部を越える場合、Cisco VXC Manager からエラー メッセージが出され、操作が阻止されます。

- ステップ 4** 選択されているデバイスに固定 DNS サーバ アドレスを割り当てるかどうかに応じて、以下のいずれかを実行します。
- 割り当てない場合は、[Obtain DNS Server Address Automatically] を選択して次のステップに進みます。

- 割り当てる場合は、[Use the following DNS Server Addresses] を選択し、[DNS Server Address] セクションのボックスに情報を入力します。
- ステップ 5** 選択されているデバイスのデバイス名サフィクスとしてドメイン名を追加するには、[Domain Suffix] ボックスにドメイン名を入力します（たとえば、Device1 という名前のデバイスにドメイン名 **DFW1.cisco.com** をサフィクスとして追加すると、Device1.DFW1.cisco.com となります）。
- ステップ 6** 選択されているデバイスに固定 WINS サーバアドレスを割り当てるかどうかに応じて、以下のいずれかを実行します。
- 割り当てない場合は、[Obtain WINS Server Address Automatically] を選択して次のステップに進みます。
  - 割り当てる場合は、[Use the following WINS Server Addresses] を選択し、[WINS Server Address] セクションのボックスに情報を入力します。
- ステップ 7** 情報更新後にデバイスを自動的にリブートするかどうかに応じて（デバイスの更新はリブート後に実行されます）、[Reboot Device Immediately] を選択または選択解除します（今すぐリブートすることを選択した場合、デバイスがリブートされることがユーザに通知されない点に注意してください）。Write Filter デバイスでは [Reboot Device Immediately] は無視され、このデバイスがリブートする点に注意してください。
- ステップ 8** [OK] をクリックします。デバイスのリブートとチェックインが完了すると、新たに更新されたネットワーク情報が詳細ペインに表示されます。
- 

## ThreadX デバイス情報の設定



### 注意

このセクションの内容は、PCoIP 向け ThreadX ファームウェアを実行する Cisco VXC 2111/2211 クライアントにのみ適用されます。

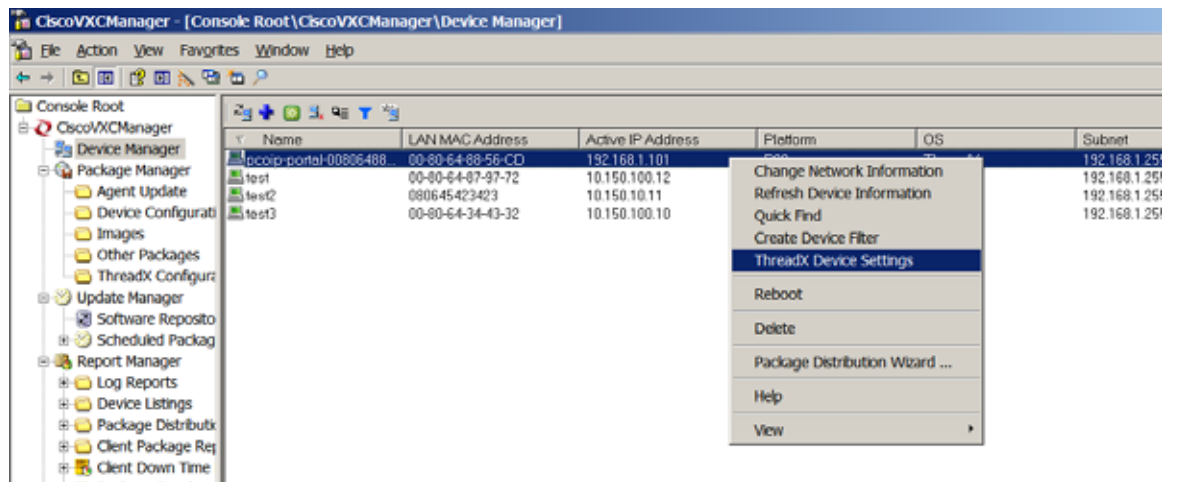
---

ThreadX デバイス情報を設定するには、次のガイドラインに従います。

**設定 :** Cisco VXC Manager では、デバイス サイドの以下の設定がサポートされています。

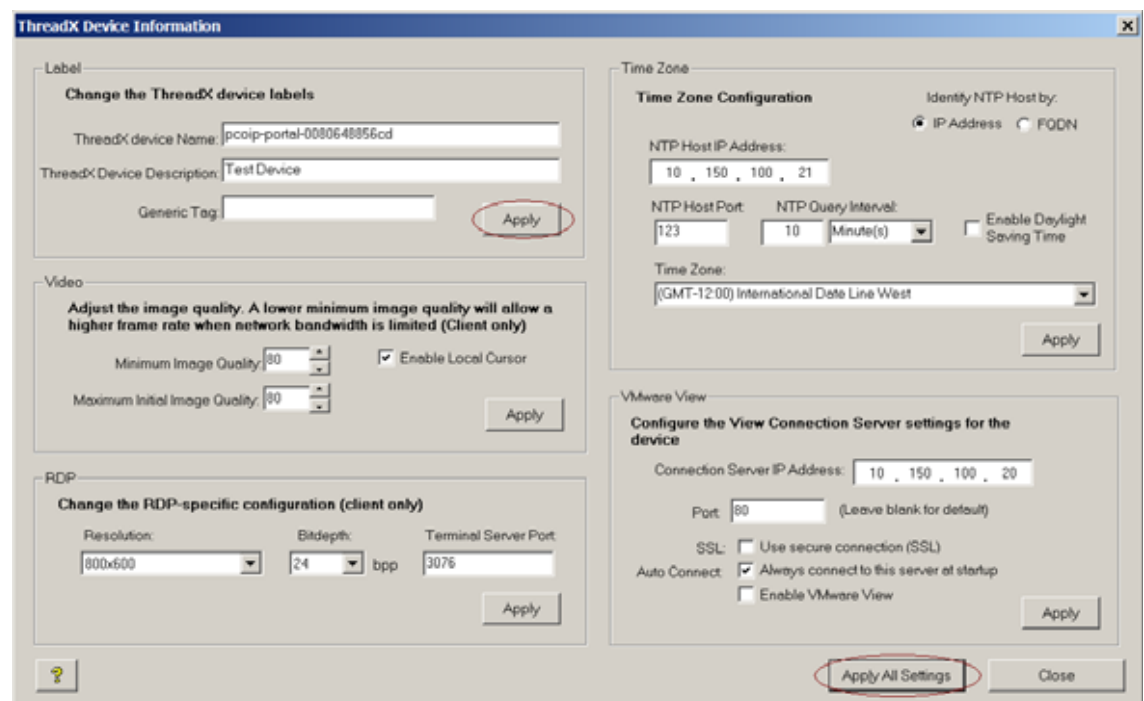
- ラベル設定
- 時間帯設定
- ビデオ設定
- RDP 向けグローバル設定
- VMware ビュー設定

図 2-11 [ThreadX Device Settings] メニューオプション



デバイスの使用可能なデバイス設定を行うには、デバイスを右クリックして [ThreadX Device Settings] メニューオプションを選択し、[ThreadX Device Information] ウィンドウを開いて使用します。

図 2-12 ThreadX Device Information



1 つの設定を適用する場合は [Apply] をクリックし、すべての設定を同時に適用する場合は [Apply All Settings] をクリックします。

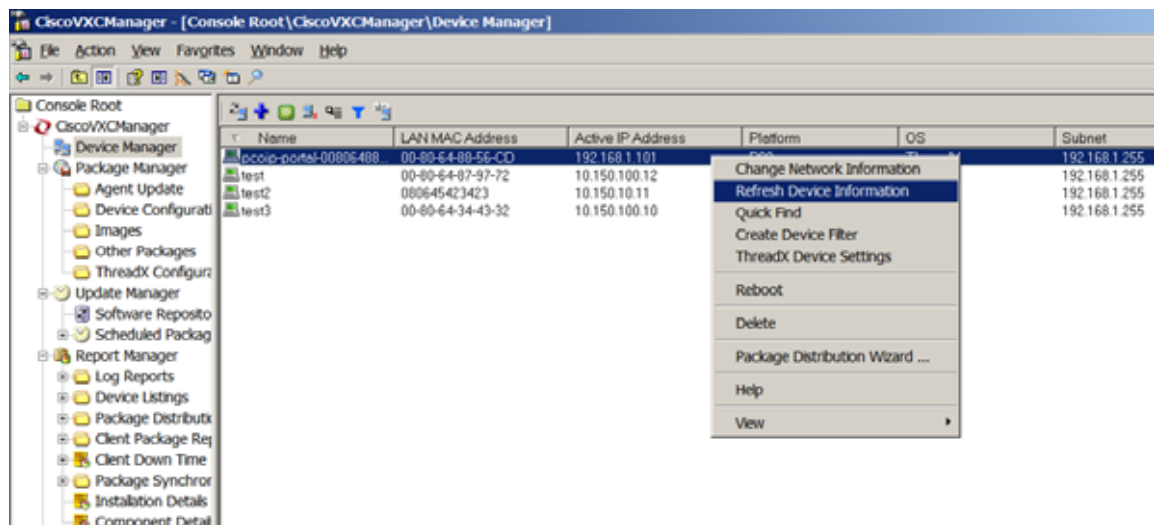


## ヒント

複数のデバイスに対して使用可能なデバイス設定を設定するには、デバイス リストから該当するデバイスを右クリックして [ThreadX Device Settings] メニュー オプションを選択し、[ThreadX Device Information] ウィンドウを開いて使用します。ただしこの場合、使用できるのは [Apply All Settings] コマンド ボタンだけです (各設定の [Apply] コマンド ボタンは使用不可/ぼかし表示になっています)。

[Refresh Device Information] : デバイス情報を手動で更新するには、デバイスを右クリックして [Refresh Device Information] メニュー オプションを選択します。

図 2-13 [Refresh Device Information] メニュー オプション



[Reboot] : デバイスを手動でリブートするには、デバイスを右クリックして [Reboot] メニュー オプションを選択します。

## デバイスのリモートシャドウイング

リモート操作でのデバイスの表示および制御 (デバイスのシャドウイング) は、特定のアプリケーションを使用するユーザにとって有用であり、またデバイスの問題のトラブルシューティングに役立ちます。



## 注意

このセクションの内容は、ICA 向け WTOS ファームウェアが実行されている Cisco VXC 2112/2212 クライアントにのみ適用されます。



## ヒント

シャドウイングを有効にするには、デバイスに VNC バージョン 3.3.3.7 以降がインストールされており、VNC サービスが実行されている必要があります。デバイスがこの条件を満たしていない場合は、必要なファイルを含む Cisco VXC Manager パッケージを作成し、リモート操作で表示および制御するデバイスに配布します (「Cisco VXC Manager パッケージの管理」(P.3-1) を参照)。

## 手順

- ステップ 1 シャドウイングするデバイスが含まれているビューに切り替えます。
- ステップ 2 Device Manager の詳細ペインで、シャドウイングするデバイスを右クリックして [Remote Shadow] を選択します。
- ステップ 3 [Standard VNC Authentication] ダイアログボックスで、VNC ホスト、ユーザ名、およびパスワードを入力するよう求められます。

図 2-14 VNC Authentication

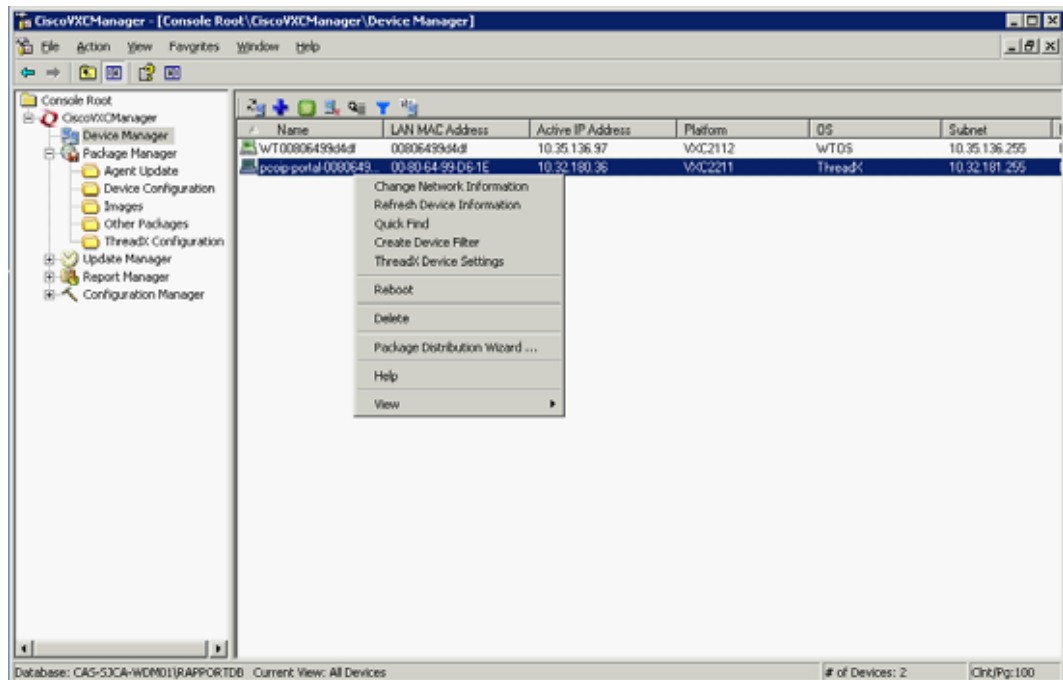


- ステップ 4 以前に VNC 認証用に設定した VNC ホスト、ユーザ名、パスワードを入力して [OK] をクリックします (デバイスによっては、製造元によりパスワードがハードコーディングされていることがある点に注意してください。この場合製造元に連絡してデバイスのパスワードをお問い合わせください)。デバイス画面がウィンドウに表示され、Administrator Console からアプリケーションを実行し、デバイスを制御できます。
- ステップ 5 シャドウイングを終了するには、ビューアを閉じます。

## [Quick Find] でのデバイスの検索

[Quick Find] ダイアログボックスを開いて使用するには、[Quick Find] ツールバー ボタンをクリックするか、または Device Manager のビューでデバイス名を右クリックし、[Quick Find] を選択します。

図 2-15 検索の開始



## ヒント

検索できるのは現在表示されているビューのデバイスだけです。

検索を実行するには、次のガイドラインに従います。

- **[Search for] のオプション** : [Search for] ボックスには 2 つのオプションがあります。
  - 検索語 (例 : **ABC**) を入力する。
  - ドロップダウンメニューから、以前に使用した検索語を選択する。最近使用した 20 の検索がリストに表示されます。
- **ワイルドカード** : [Search for] ボックスではワイルドカードを使用できます。検索語の先頭、末尾、または先頭と末尾に、任意の文字を表すアスタリスク (\*) を入力します。
- **[Select Column to Search] のオプション** : 表示されているすべての列または特定の列のみで検索語を検索できます。
- **[Single Page Search] オプションと [Match Case] オプション** : これらのチェックボックスでは、検索範囲を単一ページに限定し、[Search for] ボックスでの大文字と小文字の区別を設定することができます。
- **[Direction of Your Search]** : 検索方向を決定するには、[Previous] または [Next] を使用します。各ページの上部から下部、当該ページから次のページへの順で前方検索を行うには、[Next] をクリックします。各ページの下部から上部、当該ページから前のページの順で後方検索を行うには、[Previous] をクリックします。
- **検索の停止** : 検索実行中に [Stop Searching] をクリックします。
- **[Results]** : デバイスが検出されると、[Device Manager] ウィンドウで検出デバイスを示す行が強調表示されます (その後 [Previous] または [Next] を使用してさらに検索できます)。一致するデバイスが見つからない場合は、[Device not found] メッセージが表示されます。

図 2-16 検索結果

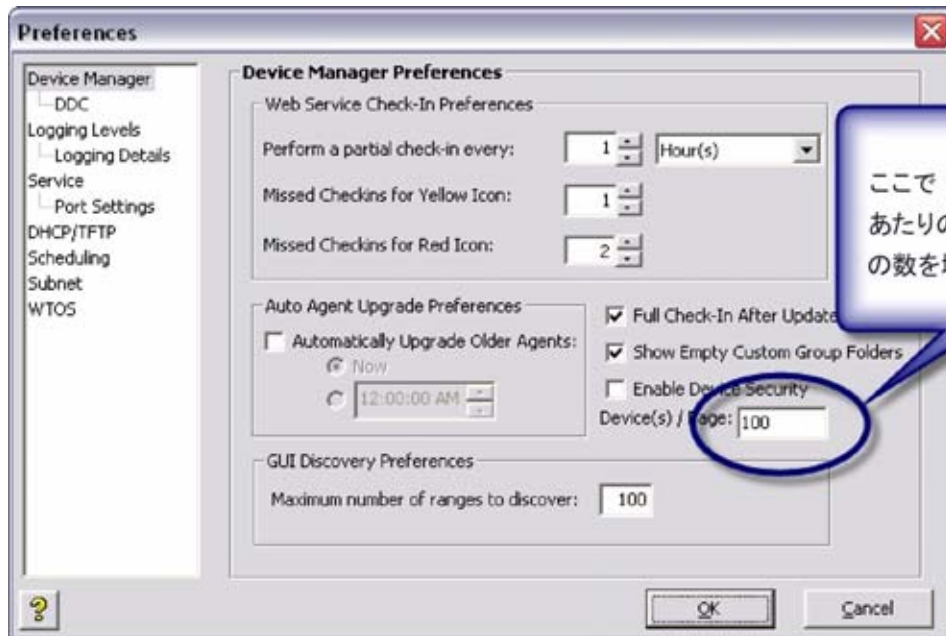
Name	MAC Address	IP Address	Platform	OS	Subnet	Image
VTC00223	23B9C1BF7E9A	2.2.2.225	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00224	23B9C1BF7F7A	2.2.2.226	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00225	23B9C1BF805B	2.2.2.227	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00226	23B9C1BF813D	2.2.2.228	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00227	23B9C1BF8220	2.2.2.229	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00228	23B9C1BF8304	2.2.2.230	XL	WTOS	10.10.55.255	No
VTC00229	23B9C1BF83E9	2.2.2.231			55.255	No
VTC00425	23B9C1BF7EA7	2.2.3.171			55.255	No
VTC00426	23B9C1BF8051	2.2.3.172			55.255	No
VTC00427	23B9C1BF81FC	2.2.3.173			55.255	No
VTC00428	23B9C1BF83A8	2.2.3.174			55.255	No
VTC00558	23B9C1BF7E43	2.2.4.48			55.255	No
VTC00559	23B9C1BF8072	2.2.4.49			55.255	No
VTC00560	23B9C1BF82A2	2.2.4.50			55.255	No
VTC00666	23B9C1BF80A9	2.2.4.156			55.255	No
VTC00667	23B9C1BF8344	2.2.4.157			55.255	No
VTC00758	23B9C1BF80B7	2.2.4.248			55.255	No
VTC00759	23B9C1BF83AE	2.2.4.249			55.255	No



ヒント

複数ページでの検索には、同じ数のデバイスが単一ページに表示されている場合の検索よりも時間がかかります。検索のパフォーマンスを改善するには、1 ページに表示されるデバイスの数を増やし、[Quick Find] ダイアログボックスで [Single Page Search] 機能を有効にします。1 ページに表示されるデバイスの数を増やすには、[Device Manager Preferences] ウィンドウを使用します (図 2-17 を参照)。

図 2-17 1 ページに表示されるデバイス



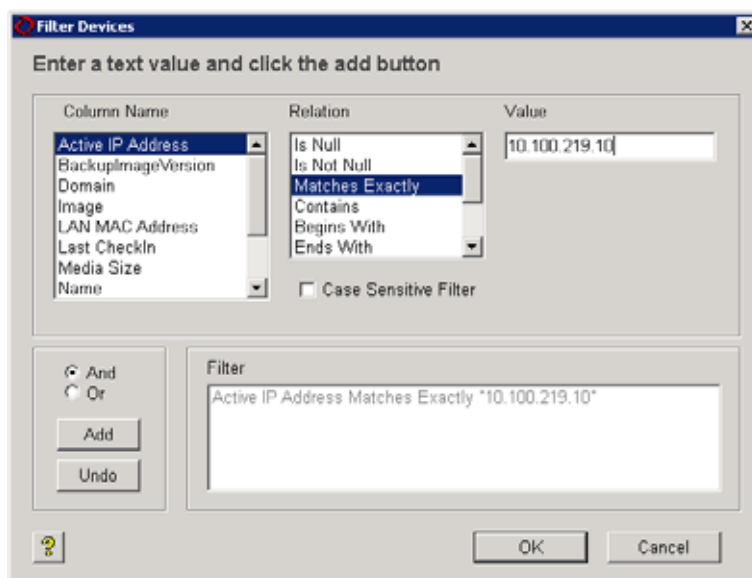
## デバイス フィルタの作成

Device Manager で使用するデバイス フィルタを作成すると、必要なデバイスを簡単に検出できるようになります。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を右クリックして [Create Device Filter] を選択し、[Filter Devices] ダイアログボックスを開きます。

図 2-18 デバイス フィルタ



- ステップ 2** フィルタを作成するには、以下のガイドラインに従います。

- [Column Name] リストから該当する項目を選択します。選択した列名に対して使用可能な [Relation] の選択項目が表示されます。
- [Relation] リストから項目を選択した後で、値を入力する必要があることがあります。また、(選択した項目に応じて) [Case Sensitive Filter] チェックボックスを使用できることがあります。
- 項目を設定したら、この項目を [Filter] ペインに追加できます ([Add] をクリックします)。
- 複数の項目を追加する場合、([Add] をクリックして) 項目を [Filter] ペインに追加する前に、[And] オプションまたは [Or] オプションを使用できます。
- [Filter] ペインから項目を削除するには、[Undo] をクリックします。

- ステップ 3** 条件をすべて入力したら [OK] をクリックします。使用するフィルタが作成されます。



**ヒント** デバイス フィルタを使用するには、[Device Manager] を右クリックして [Find Devices] を選択します。フィルタ条件に一致するデバイスが表示されます。

## デバイス フィルタの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を右クリックして [Edit Device Filter] を選択し、[Filter Devices] ダイアログボックスを開いて使用します。

## デバイス フィルタの削除

Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を右クリックし、次に [Remove Device Filter] をクリックします。



# CHAPTER 3

## Package Manager

この章では、Administrator Console で Cisco VXC Manager パッケージの日常的な管理作業を行う方法を説明します。Cisco VXC Manager 環境内のデバイスに配布できる Cisco VXC Manager パッケージ（ソフトウェア、イメージ、設定など）の管理についても説明します。

Cisco VXC クライアントのパッケージの管理の詳しい手順については、第 4 章「Cisco VXC ファームウェアおよび設定のアップグレード手順」を参照してください。

## Cisco VXC Manager パッケージの管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] をクリックすると、Package Manager が表示されます。Package Manager では、Cisco VXC Manager 環境内のデバイスに配布できる Cisco VXC Manager パッケージを簡単に表示、管理できます（表 3-1 を参照）。また、フィルタ機能やカスタマイズ機能を使用して、Cisco VXC Manager パッケージを容易に表示できます。

図 3-1 Package Manager

Name	Description	Status	Default
Agent Update	Agent Update	Active	Yes
Device Configuration	Device Configuration	Active	Yes
Images	Images	Active	Yes
Other Packages	Other Packages	Active	Yes
ThreadX Configuration	ThreadX Configuration	Active	No

Package ウィザードを使用して Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録する前に、更新配布プロセスと Cisco VXC Manager パッケージの内容を理解し、登録する既存の Cisco VXC Manager パッケージの場所を把握し、イメージまたは設定の取得元デバイスに Cisco VXC Manager Agent がすでにインストールされていることを確認しておく必要があります。登録された Cisco VXC Manager パッケージは、更新として Cisco VXC Manager ネットワーク内のデバイスに配布できます（「Update Manager」(P.5-1) を参照）。



## ヒント


Cisco VXC Manager システムのすべてのデバイスについて、Cisco VXC Manager パッケージの登録とスケジュール設定を同時に実行する場合は、Cisco VXC Manager Mass Imaging Tool を使用すると簡単にこれらのタスクを実行できます（「Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用」(P.D-1) を参照）。

表 3-1 に、Package Manager を使用して実行できる作業の概要を示します。

表 3-1 Package Manager で行う日常的なタスク

実行できるタスク	手順	詳細
スクリプト ファイルから Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録し、このパッケージを配布できる状態にする。	Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。 [Register a Package from a Script File (.RSP)] オプションを選択し、ウィザードの指示に従います。	「スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録」(P.3-4)  <b>ヒント</b> スクリプト ファイルについては、「Cisco VXC ファームウェアおよび設定のアップグレード手順」(P.4-1) を参照してください。
ThreadX パッケージ (RDP、ビデオ、VMwareView など) を作成および登録し、このパッケージを配布できる状態にする。	「ThreadX パッケージのビルドと登録」(P.3-5) のガイドラインに従います。パッケージを作成したら、該当するデバイスにパッケージをドラッグアンドドロップし、パッケージの展開をスケジュールできます。	「ThreadX パッケージのビルドと登録」(P.3-5)
登録 Cisco VXC Manager パッケージの詳細を表示する。	Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開して、Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。詳細 ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックし、[Properties] を選択します。	「登録 Cisco VXC Manager パッケージの詳細の表示」(P.3-6)
登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトを表示および変更する。	Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開して、Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。詳細 ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [View Package Script] を選択し、[Package Script] ダイアログボックスを開いて使用します。	「登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトの表示と変更」(P.3-8)   <b>注意</b> デフォルトの Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトは変更できません。

表 3-1 Package Manager で行う日常的なタスク (続き)

実行できるタスク	手順	詳細
登録 Cisco VXC Manager パッケージの スクリプトを適切なフォルダにエクスポートする。	Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開して、Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。詳細 ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Export Package Script] を選択し、[Browse for Folder] ダイアログボックスを開いて使用します。	「登録 Cisco VXC Manager パッケージの スクリプトのエクスポート」(P.3-9)
登録済みの Cisco VXC Manager パッケージをシステムから削除する。	Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開して、Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。詳細 ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Delete] を選択し、削除操作を確定します。  <b>ヒント</b> 複数の Cisco VXC Manager パッケージを選択するには、Ctrl キーを押しながらクリックするか、Shift キーを押しながらクリックします。	デフォルトの Cisco VXC Manager パッケージは削除できません。  配布をスケジュールされている登録済みの Cisco VXC Manager パッケージは削除できません。「デバイス アップデートのスケジュール管理」(P.5-1) で説明されているように、スケジュールされている更新を最初に削除してから、登録済みの Cisco VXC Manager パッケージを削除する必要があります。   <b>注意</b> 配布されたことのない登録済みの Cisco VXC Manager パッケージを削除すると、Cisco VXC Manager は、Cisco VXC Manager リポジトリからも削除します。Cisco VXC Manager パッケージは、Cisco VXC Manager の外部にコピーがある場合に限り回復可能です。そのような場合は、Cisco VXC Manager パッケージを再登録できます。  <b>ヒント</b> すでに配布されている Cisco VXC Manager パッケージを削除する場合は、Cisco VXC Manager リポジトリの Backup フォルダから回復して、再登録できます。Cisco VXC Manager パッケージをアーカイブすると、このパッケージには日付スタンプを含む名前が付けられるため、アーカイブされている Cisco VXC Manager パッケージを再登録する前に、このパッケージの名前を元の名前に変更する必要があります。

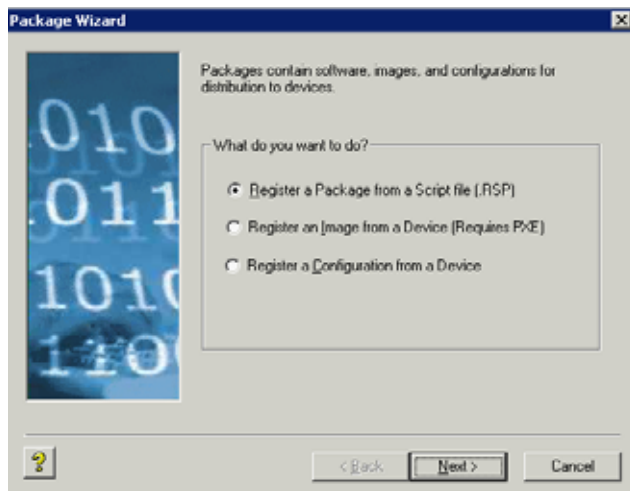
## スクリプト ファイル (.RSP) からのパッケージの登録

.rsp スクリプト ファイルからパッケージを登録するには、次の手順に従います。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。

図 3-2 Package ウィザード



- ステップ 2** [Register a Package from a Script File (.RSP)] オプションを選択して [Next] をクリックします。
- ステップ 3** 登録する Cisco VXC Manager パッケージの Cisco VXC Manager スクリプト ファイル (.rsp) のパス (例 : push\_9V92\_S550\_512.rsp) を入力し ([Browse] を使用してファイルを選択することもできます)、[Next] をクリックします。[Software Package Information] ダイアログボックスが開きます。

図 3-3 Software Package Information



- ステップ 4** Cisco VXC Manager パッケージの名前、説明、およびカテゴリが .rsp ファイルから取得され、表示されます。
- ステップ 5** Cisco VXC Manager パッケージを配布するかどうかに基づいて（配布する場合はアクティブ）、[Active] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 6** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 7** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 8** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスターリポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照）。

## ThreadX パッケージのビルドと登録



(注)

このセクションの内容は、PCoIP 向け ThreadX ファームウェアを実行する Cisco VXC 2111/2211 クライアントにのみ適用されます。

以下のコンフィギュレーション パッケージは、ThreadX デバイスへの大規模展開を行う場合に作成、登録できます。

- **VMwareView パッケージ** : VMwareView パッケージを ThreadX デバイスに展開し、VDM サーバ設定を設定できます。
- **ビデオ パッケージ** : ビデオ パッケージを ThreadX デバイスに展開し、最低および最高イメージ品質設定などのグローバル ビデオ設定を設定できます。
- **RDP パッケージ** : RDP パッケージを ThreadX デバイスに展開し、グローバル RDP 設定を設定できます。

これらのパッケージを作成したら、必要なデバイスにパッケージをドラッグアンドドロップし、その展開をスケジュールします（パッケージのスケジュールの詳細については、「[Update Manager](#)」(P.5-1) を参照してください）。



**ヒント** Cisco VXC Manager にバンドルされているデフォルト/サンプル ThreadX パッケージを使用できます。カスタム VMWareView パッケージ、ビデオ パッケージ、RDP パッケージを作成するには、これらのデフォルト/サンプル ThreadX パッケージをコピーして変更します。その後、これらのパッケージを ThreadX デバイスに登録して展開できます。デフォルト/サンプル ThreadX パッケージは Package Manager ノードの ThreadX Configuration フォルダ内にあります。

デフォルト/サンプル ThreadX パッケージからカスタム ThreadX パッケージを作成するには、次のガイドラインに従います（ビデオ パッケージと RDP パッケージを作成する VMWareView の例でも同じガイドラインを使用します）。

カスタム VMWareView ThreadX パッケージの作成例：

### 手順

- 
- ステップ 1** プレフィクス VMwareView で始まる名前（例：VMwareViewTest1）のフォルダを作成します。
- ステップ 2** 作成したフォルダ（例：VMwareViewTest1）の中に、フォルダと同名で以下の内容の .rsp ファイル（例：VMwareViewTest1.rsp）を作成します。
- ```
[Version]
Number=VMWareViewTest1
Description=Sample ThreadX VMWareView
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
IP=10.10.10.1
Port=80
SSL=0
AutoConnect=0
```
- ステップ 3** RSP スクリプトの「Number=」セグメントに、RSP ファイル名およびフォルダ名と同じ値を指定します（カスタム パッケージの命名に同じ規則が適用されるビデオ パッケージおよび RDP パッケージの例でもこのようにします）。
- ステップ 4** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開します。
- ステップ 5** 詳細ペインで [Other Packages] を右クリックし、[New] > [Package] を選択します。
- ステップ 6** [Register a Package from a Script file (.RSP)] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 7** [Browse] をクリックし、登録する .rsp パッケージ ファイルのファイルパス（例：C:\VMwareViewTest1\VMwareViewTest1.rsp）を選択し、[Open] をクリックします。
- ステップ 8** [Next] をクリックして、Package ウィザードのサマリーを表示します。
- ステップ 9** [Next] をクリックして、[Package Registration Progress] 画面を表示します。
- ステップ 10** [Next] をクリックして、パッケージを作成します。
- ステップ 11** パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。
- ステップ 12** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] > [Other Packages] を選択し、目的のパッケージがパッケージ リスト内にあることを確認します。
- ステップ 13** 後でパッケージをデバイスにドラッグ アンド ドロップし、その展開をスケジュールできます（「[Update Manager] (P.5-1) を参照）。
- 

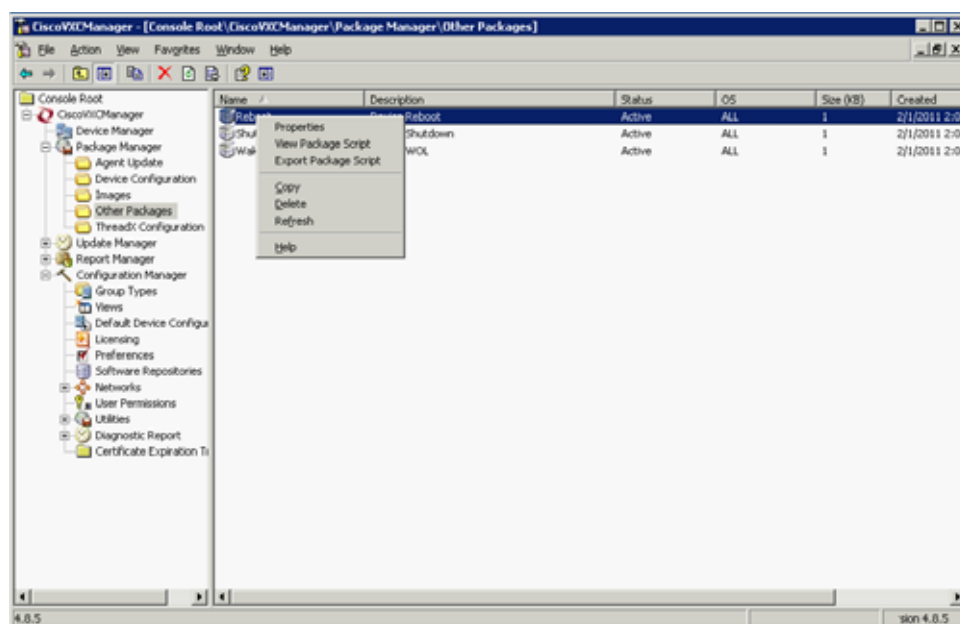
## 登録 Cisco VXC Manager パッケージの詳細の表示

登録 Cisco VXC Manager パッケージの詳細を表示するには、次の手順に従います。

### 手順

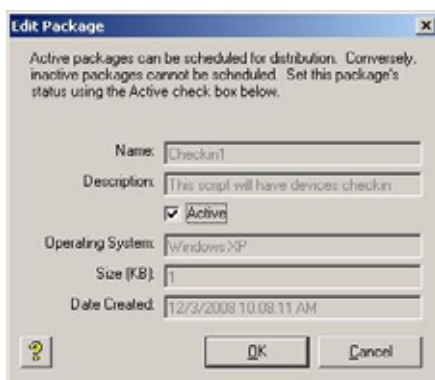
- 
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を展開し、表示する Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。

図 3-4 Cisco VXC Manager パッケージのプロパティ



**ステップ 2** 詳細ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Properties] を選択します。[Edit Package] ダイアログボックスが開き、Cisco VXC Manager パッケージの詳細が表示されます。

図 3-5 Edit Package



[Edit Package] ダイアログボックスには次の内容が表示されます。

- [Name] : Cisco VXC Manager パッケージの名前。
- [Description] : Cisco VXC Manager パッケージの説明。
- [Active] : 選択されている場合は、デバイスへの Cisco VXC Manager パッケージの配布が許可されます。選択されていない場合は、Cisco VXC Manager パッケージをデバイスに配布できません。
- [Operating System] : この Cisco VXC Manager パッケージと互換性のあるオペレーティングシステム。
- [Size] : Cisco VXC Manager パッケージのサイズ (KB 単位)。
- [Date Created] : Cisco VXC Manager パッケージの作成日時。

## 登録 Cisco VXC Manager パッケージのスキプトの表示と変更



### ヒント

Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用 : Cisco VXC Manager スクリプト言語は、Cisco VXC Manager パッケージをビルドする際に使用できる単純なスクリプト言語です。また、ファイルのコピーや、Cisco VXC Manager が管理するデバイスのレジストリの変更といった基本的な作業を実行するときにも使用できます。Cisco VXC Manager スクリプト言語はプログラミング言語ではありません（ループ、分岐、サブルーチンの使用に対応していません）。ただし、さまざまな日常的な機能（特定のデバイスのオペレーティング システムのバージョンのチェックなど）を実行できる小さなコマンドセットがあります。



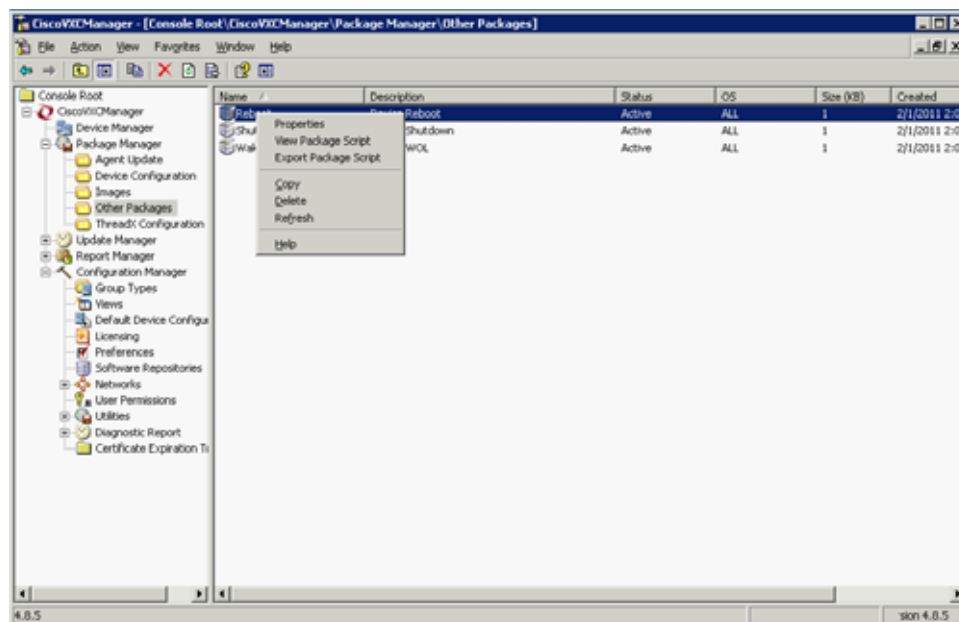
### 注意

デフォルトの Cisco VXC Manager パッケージのスキプトは変更できません。

### 手順

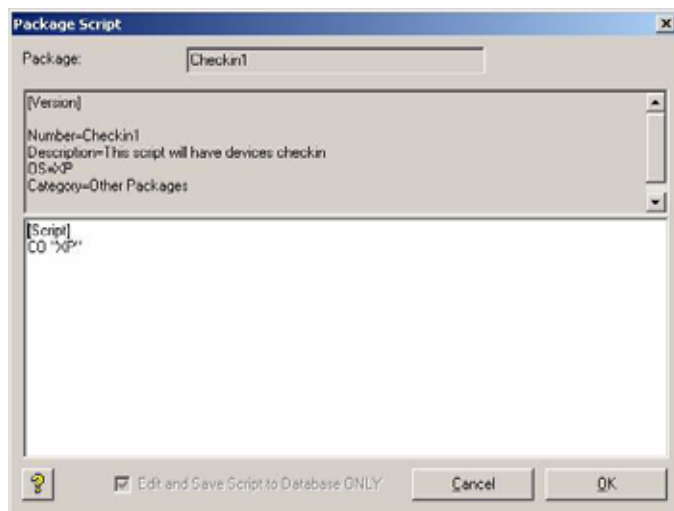
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を展開し、表示する Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。

図 3-6 Cisco VXC Manager パッケージ スクリプトの表示



- ステップ 2** 詳細ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [View Package Script] を選択し、[Package Script] ダイアログボックスを開きます。このダイアログボックスには、Cisco VXC Manager パッケージのスキプトが表示されます。

図 3-7 Package Script



- ステップ 3** [Edit] を選択し、[Save Script to Database ONLY] チェックボックスをオンにし、.rsp ファイルのスクリプトを変更します。
- ステップ 4** 変更が完了したら、[OK] をクリックします。

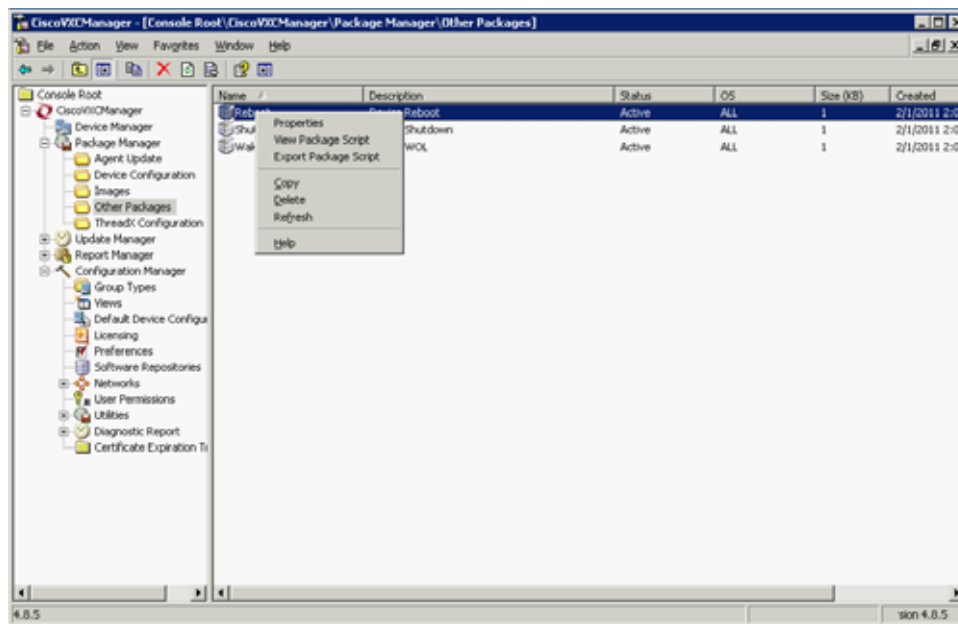
## 登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトのエクスポート

登録 Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトをエクスポートするには、次の手順に従います。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を展開し、表示する Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。

図 3-8 Cisco VXC Manager パッケージ スクリプトの表示



- ステップ 2** 詳細ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Export Package Script] を選択し、[Browse for Folder] ダイアログボックスを開きます。
- ステップ 3** Cisco VXC Manager パッケージのスクリプトのエクスポート先フォルダを選択して確定します。



## CHAPTER 4

# Cisco VXC ファームウェアおよび設定のアップグレード手順

この章では、Package Manager を使用して、(WTOS ファームウェアを実行している) ICA クライアントおよび (ThreadX ファームウェアを実行している) PCoIP クライアントのファームウェア イメージおよび設定をアップグレードするために必要な手順についての情報を説明します。

## PCoIP クライアントのアップグレード手順

次のセクションでは、PCoIP ファームウェア イメージおよびクライアント設定をアップデートする方法について説明します。

- 「[PCoIP ファームウェアのアップデート](#)」 (P.4-1)
- 「[PCoIP クライアント設定のアップデート \(ThreadX パッケージの構築および登録\)](#)」 (P.4-5)

## PCoIP ファームウェアのアップデート

Cisco VXC PCoIP クライアントのファームウェア イメージをアップデートするには、次の手順をリストされている順序で実行します。

- 「[手順 1 : PCoIP イメージの準備](#)」 (P.4-1)
- 「[手順 2 : 準備したイメージからの PCoIP アップグレード用 VXC-M イメージの作成](#)」 (P.4-2)
- 「[手順 3 : デフォルト デバイス構成およびスケジューリング プリファレンスの設定](#)」 (P.4-3)
- 「[手順 4 : PCoIP クライアントの手動検出](#)」 (P.4-3)
- 「[手順 5 : PCoIP クライアントのアップグレード](#)」 (P.4-4)

### 手順 1 : PCoIP イメージの準備

#### 手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバで、ZIP 形式で圧縮されたファームウェア ファイルをローカル フォルダに解凍します。
- ステップ 2** PCoIP ファームウェア イメージを含めるフォルダを作成します (例 : PCoIPFirmware)。

- ステップ 3** PCoIPFirmware フォルダの下に、ファームウェア ファイル用の一意のディレクトリを作成します (ファームウェアの新しいアップデートごとに、別個の一意のディレクトリが必要です)。フォルダ名とファームウェア イメージファイル名が一致していることを確認します。たとえば、イメージ 3\_3\_1Vxxx.all には、¥PCoIPFirmware¥3\_3\_1Vxxx というディレクトリを作成します。
- ステップ 4** .all ファームウェア イメージを、同じ名前のディレクトリにコピーします。
- ステップ 5** 解凍したファームウェア ファイルには、.all イメージと同じ名前の、対応する .rsp ファイルが含まれていない場合があります。 .rsp ファイルが提供されていない場合は、次の内容で独自に作成できます。

```
[Version]
Number=3_3_1Vxxx
Description=TDC release 3.3.1 vxxx
OS=TDC
Imagetype=Merlin
Category=Images
[Script]
RB
```

ここで、3\_3\_1Vxxx は .all ファイル名と一致している必要があります。

(テキスト エディタを使用してファイルを作成し、.all ファイル名と同じ名前を使用してファイルを保存してから、拡張子を .rsp に変更します)。

- ステップ 6** 提供された、または作成した .rsp ファイルを PCoIPFirmware ディレクトリに移動します。例：

- .rsp イメージの場所と名前：  
C:¥VXC-M¥PCoIPFirmware¥3\_3\_1Vxxx.rsp
- ファームウェア ディレクトリの場所と名前：  
C:¥VXC-M¥PCoIPFirmware¥3\_3\_1Vxxx
- ファームウェア ディレクトリ内のファームウェア イメージの場所と名前：  
C:¥VXC-M¥PCoIPFirmware¥3\_3\_1Vxxx¥3\_3\_1Vxxx.all

## 手順 2：準備したイメージからの PCoIP アップグレード用 VXC-M イメージの作成

### 手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager を起動します。
- ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで、[Configuration Manager] > [Preferences] > [Service] を選択します。
- ステップ 3** [Service Preference] ダイアログボックスの [Repository Preferences] の下で、Cisco VXC Manager パッケージ登録中のリポジトリとの通信に使用するプロトコル (HTTP、FTP、またはその両方) を指定します。(FTP サーバまたは HTTP サーバのインストールの詳細については、『*Installation Guide for Cisco VXC Manager*』を参照してください)。シスコでは FTP を使用することを推奨します。この場合、アップグレード中のエラー メッセージを回避するために、HTTP をディセーブルにします。
- ステップ 4** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開します。
- ステップ 5** 詳細ペインで [Images] を右クリックし、[New] > [Package] を選択します。
- ステップ 6** [Register a Package from a Script file (.RSP)] を選択し、[Next] をクリックします。

- ステップ 7 [Browse] をクリックして登録する .rsp パッケージ ファイルのファイルパスを選択し（例：C:\VXC-M\PCoIP\Firmware\3\_3\_1V327.rsp）、[Open] をクリックします。
- ステップ 8 [Next] をクリックして、Package ウィザードのサマリーを表示します。
- ステップ 9 [Next] をクリックして、[Package Registration Progress] 画面を表示します。
- ステップ 10 [Next] をクリックして、パッケージを作成します。
- ステップ 11 パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。
- ステップ 12 Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] > [Images] を選択し、目的のイメージ パッケージがイメージ パッケージ リスト内にあることを確認します。

### 手順 3 : デフォルト デバイス構成およびスケジューリング プリファレンスの設定

#### 手順

- ステップ 1 Administrator Console のツリー ペインで、[Configuration Manager] > [Preferences] を選択します。
- ステップ 2 詳細ペインで、[Device Manager Preferences] をダブルクリックします。
- ステップ 3 [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[DDC] をクリックします。
- ステップ 4 [Default Device Configuration] の下で、[Enable Default Device Configuration] チェックボックスをオンにします。
- ステップ 5 [Time to Schedule DDC Reconciliation] の下で、[Upon Checkin] をクリックします。
- ステップ 6 [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[Scheduling] をクリックします。
- ステップ 7 [Imaging Option] の下で、[Merlin] をクリックします。
- ステップ 8 [OK] をクリックします。

### 手順 4 : PCoIP クライアントの手動検出



- (注) PCoIP ゼロ クライアントのアップグレードをテストする前に、PCoIP ゼロ クライアントを 1 つ以上検出する必要があります。次の手順では、ゼロ クライアントを手動で検出する方法について説明します。推奨される方法では、DHCP オプション タグおよび DNS SRV レコードを使用します。詳細については、「[DHCP サーバの設定](#)」(P.D-5)、「[DNS サーバでのサービス位置レコードの設定](#)」(P.D-11)、および「[DNS サーバでの Cisco VXC Manager サーバのホスト名の設定](#)」(P.D-13) を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1 Administrator Console のツリー ペインで、[Configuration Manager] > [Preferences] を選択します。
- ステップ 2 詳細ペインで、[Device Manager Preferences] をダブルクリックします。
- ステップ 3 [Service] をクリックします。
- ステップ 4 [Enable ThreadX Service Polling] をオンにして、[OK] をクリックします。
- ステップ 5 Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] 右クリックし、[Find Devices] を選択します。
- ステップ 6 [Find Devices] ダイアログボックスで、[IP Ranges] オプション ボタンをクリックします。

- ステップ 7** ダイアログボックスの下部で、[New IP Range] をクリックします。
- ステップ 8** [IP Range] ダイアログボックスで、検出する IP アドレスの範囲を指定します（たとえば、開始 IP アドレス：10.10.10.10、終了 IP アドレス：10.10.10.20）。
- ステップ 9** [Add] をクリックします。
- ステップ 10** [Close] をクリックします。
- ステップ 11** [OK] をクリックします。  
[Device Discovery Progress] ウィンドウが表示されます。
- ステップ 12** 検出が完了したら、上部ツールバーの [Refresh] アイコンをクリックして、検出されたデバイスを表示します。

## 手順 5 : PCoIP クライアントのアップグレード

デフォルト デバイス構成またはドラッグ アンド ドロップ手法を使用して、Cisco VXC 2111/2211 をアップグレードできます。

### 初回デフォルト デバイス構成の手順

この手順は、クライアントアップグレードのデフォルト イメージとして指定するイメージパッケージを新規作成するときに実行します。

- ステップ 1** デフォルト デバイス構成がまだ存在していないことを確認します。
- Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。
  - デフォルトの構成が詳細ペインに表示されたら、デフォルトの構成を右クリックして [Delete] を選択します。
- ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] を右クリックしてから [New] > [Default Device Configuration] を選択して、Default Device Configuration ウィザードを開きます。
- ステップ 3** [Operating System] フィールドで、[ThreadX] を選択します。
- ステップ 4** [Media Size] フィールドで、[0] を選択します。
- ステップ 5** [Qualifying OS Image] フィールドで、アップグレードするバージョンを選択します。
- ステップ 6** [Finish] をクリックします。
- ステップ 7** アップグレードする ThreadX デバイスを右クリックし、[Reboot] を選択します。  
選択したデバイスがリセットされたときに、Cisco VXC Manager に使用可能な新しい ThreadX ファームウェアがあれば、デバイスがアップグレードされます。
- ステップ 8** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。
- ステップ 9** 上部の [Refresh] アイコンをクリックして、変更されたソフトウェア リビジョンを表示します。

### 既存デフォルト デバイス構成の手順

この手順は、クライアントアップグレードのデフォルト イメージとして既存のイメージパッケージを指定する場合に実行します。

- 
- ステップ 1 Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。
  - ステップ 2 [ThreadX] を右クリックし、[Properties] を選択します。
  - ステップ 3 [Qualifying OS Image] フィールドで、アップグレードするイメージを選択します。
  - ステップ 4 [Finish] をクリックします。
  - ステップ 5 Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。
  - ステップ 6 アップグレードする ThreadX デバイスを右クリックし、[Reboot] を選択します。  
選択したデバイスがリセットされたときに、Cisco VXC Manager に使用可能な新しい ThreadX ファームウェアがあれば、デバイスがアップグレードされます。
  - ステップ 7 Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。
  - ステップ 8 上部の [Refresh] アイコンをクリックして、変更されたソフトウェア リビジョンを表示します。
- 

#### ドラッグ アンド ドロップ手法を使用した手順

この手順は、ドラッグ アンド ドロップ手法を使用してクライアントをアップグレードする場合に実行します。

- 
- ステップ 1 Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] > [Images] を選択します。
  - ステップ 2 詳細ペインで新規に登録したイメージをクリックし、ツリー ペインの [Device Manager] アイコンにドラッグ アンド ドロップします。  
Package Distribution ウィザードが開き、PCoIP デバイスのリストが表示されます。
  - ステップ 3 アップグレードするデバイスを選択するには、左側のペインでデバイスをクリックし（複数のデバイスを選択するには、Ctrl または Shift を押しながらクリックします）、右向きのかぎカッコ (>) をクリックして [Selected Devices] ペインに移動します。
  - ステップ 4 [Next] をクリックします。
  - ステップ 5 [Distribution Will Occur] の下で、アップデートの時刻を入力し（[Now] を選択できます）、[Next] をクリックします。  
[Update Creation Progress] ダイアログボックスが表示されます。
  - ステップ 6 [Next] をクリックしてから、[Finish] をクリックします。
  - ステップ 7 アップグレードがただちに実行されない場合は、アップグレードするデバイスを右クリックして [Reboot] を選択します。
  - ステップ 8 デバイスがリセットされ、新しいファームウェアがダウンロードされるまで待ちます。これには、2 ～ 3 分かかります。アップグレードが正常に完了したら、Device Manager のデバイス リスト（およびクライアント自身）に、そのデバイスの新しいファームウェア バージョンが表示されます。
- 

## PCoIP クライアント設定のアップデート（ThreadX パッケージの構築および登録）

以下のコンフィギュレーション パッケージは、ThreadX デバイスへの大規模展開を行う場合に作成、登録できます。

- **VMwareView パッケージ**：VMwareView パッケージを ThreadX デバイスに展開し、VDM サーバ設定を設定できます。
- **ビデオ パッケージ**：ビデオ パッケージを ThreadX デバイスに展開し、最低および最高イメージ品質設定などのグローバル ビデオ設定を設定できます。
- **RDP パッケージ**：RDP パッケージを ThreadX デバイスに展開し、グローバル RDP 設定を設定できます。

これらのパッケージを作成したら、必要なデバイスにパッケージをドラッグ アンド ドロップし、その展開をスケジュールします（パッケージのスケジュールの詳細については、「[Update Manager \(P.5-1\)](#)」を参照してください）。



**ヒント** Cisco VXC Manager にバンドルされているデフォルト/サンプル ThreadX パッケージを使用できません。カスタム VMWareView パッケージ、ビデオ パッケージ、RDP パッケージを作成するには、これらのデフォルト/サンプル ThreadX パッケージをコピーして変更します。その後、これらのパッケージを ThreadX デバイスに登録して展開できます。デフォルト/サンプル ThreadX パッケージは **Package Manager** ノードの **ThreadX Configuration** フォルダ内にあります。

デフォルト/サンプル ThreadX パッケージからカスタム ThreadX パッケージを作成するには、次のガイドラインに従います（ビデオ パッケージと RDP パッケージを作成する VMWareView の例でも同じガイドラインを使用します）。

カスタム VMWareView ThreadX パッケージの作成例：

## 手順

- ステップ 1** プレフィクス **VMwareView** で始まる名前（例：VMwareViewTest1）のフォルダを作成します。
- ステップ 2** 作成したフォルダ（例：VMwareViewTest1）の中に、フォルダと同名で以下の内容の **.rsp** ファイル（例：VMwareViewTest1.rsp）を作成します。  

```
[Version]
Number=VMWareViewTest1
Description=Sample ThreadX VMWareView
OS=TDC
Category=ThreadX Configuration
[Script]
IP=10.10.10.1
Port=80
SSL=0
AutoConnect=0
```
- ステップ 3** RSP スクリプトの「**Number=**」セグメントに、RSP ファイル名およびフォルダ名と同じ値を指定します（カスタム パッケージの命名に同じ規則が適用されるビデオ パッケージおよび RDP パッケージの例でもこのようにします）。
- ステップ 4** Administrator Console のツリー ペインで、**[Package Manager]** を展開します。
- ステップ 5** 詳細ペインで **[Other Packages]** を右クリックし、**[New] > [Package]** を選択します。
- ステップ 6** **[Register a Package from a Script file (.RSP)]** を選択し、**[Next]** をクリックします。
- ステップ 7** **[Browse]** をクリックし、登録する **.rsp** パッケージ ファイルのファイルパス（例：C:\¥VMwareViewTest1¥VMwareViewTest1.rsp）を選択し、**[Open]** をクリックします。
- ステップ 8** **[Next]** をクリックして、Package ウィザードのサマリーを表示します。
- ステップ 9** **[Next]** をクリックして、**[Package Registration Progress]** 画面を表示します。
- ステップ 10** **[Next]** をクリックして、パッケージを作成します。

- ステップ 11** パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。
- ステップ 12** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] > [Other Packages] を選択し、目的のパッケージがパッケージ リスト内にあることを確認します。
- ステップ 13** 後でパッケージをデバイスにドラッグ アンド ドロップし、その展開をスケジュールできます（「[手順 5 : PCoIP クライアントのアップグレード](#)」(P.4-4) を参照）。

## ICA クライアントのアップグレード手順

次のセクションでは、ICA ファームウェア イメージおよびクライアント設定をアップデートする方法について説明します。

- 「[ICA ファームウェアのアップデート](#)」(P.4-7)
- 「[ICA クライアント設定のアップデート \(WTOS パッケージの構築および登録\)](#)」(P.4-11)

## ICA ファームウェアのアップデート

Cisco VXC ICA クライアントのファームウェア イメージをアップデートするには、次の手順をリストされている順序で実行します。

- 「[手順 1 : ICA イメージの準備](#)」(P.4-7)
- 「[手順 2 : 準備したイメージからの ICA アップグレード用 VXC-M イメージの作成](#)」(P.4-8)
- 「[手順 3 : デフォルト デバイス構成、スケジューリング、および WTOS プリファレンスの設定](#)」(P.4-9)
- 「[手順 4 : ICA クライアントの手動検出](#)」(P.4-9)
- 「[手順 5 : デフォルト デバイス構成手法を使用した ICA クライアントのアップグレード](#)」(P.4-10)

### 手順 1 : ICA イメージの準備

#### 手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager がインストールされているサーバで、ZIP 形式で圧縮されたファームウェア ファイルをローカル フォルダに解凍します。
- ステップ 2** ICA ファームウェア イメージを含めるフォルダを作成します（例：**ICAFirmware**）。
- ステップ 3** このフォルダ内に、**7.0\_xxx** という名前のサブフォルダを作成します。ここで、xxx はファームウェアに関連付けられているリリース番号と一致させます。
- ステップ 4** 7.0\_xxx フォルダ内に、**WNOS** という名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 5** ZC0\_wnos\_7.0\_xxx のファイル名を **ZC0\_wnos** に変更します。



#### 注意

ファームウェアのリビジョンに関係なく、すべての ICA ファームウェア イメージのファイル名は正確に **ZC0\_wnos** である必要があります。ファイル名にはサフィクスを付けず、大文字と小文字を正確に一致させる必要があります。（ファームウェア リビジョンの違いは、ディレクトリ構造により区別されます）。

**ステップ 6** ZCO\_wnos ファイルを WNOS フォルダにコピーします。

**ステップ 7** WNOS フォルダ内に wnos.ini という名前のファイルを作成して、次の行を含めます。

```
autoload=1
```

(テキスト エディタを使用してファイルを作成し、ファイル名を wnos で保存してから、拡張子を .ini に変更します)。

**ステップ 8** ICAFirmware フォルダ内に、次の内容の .rsp ファイルを作成します。

```
[Version]
Number=7.0_xxx
Description=WTOS vxxx
OS=BL
Mediasize=128
Imagetype=Merlin
Category=Images
[Script]
```

(テキスト エディタを使用してファイルを作成し、ファイル名を 7.0\_xxx で保存してから、拡張子を .rsp に変更します)。

例：

- .rsp イメージの場所と名前：  
C:\VXC-M\ICAFirmware\7.0\_xxx.rsp
- ファームウェア ディレクトリの場所と名前：  
C:\VXC-M\ICAFirmware\7.0\_xxx\WNOS
- ファームウェア ディレクトリ内のファームウェア イメージの場所と名前：  
C:\VXC-M\ICAFirmware\7.0\_xxx\WNOS\ZCO\_wnos
- ファームウェア ディレクトリ内の wnos.ini ファイルの場所と名前：  
C:\VXC-M\ICAFirmware\7.0\_xxx\WNOS\wnos.ini

## 手順 2：準備したイメージからの ICA アップグレード用 VXC-M イメージの作成

### 手順

**ステップ 1** Cisco VXC Manager を起動します。

**ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開します。

**ステップ 3** 詳細ペインで [Images] を右クリックし、[New] > [Package] を選択します。

**ステップ 4** [Register a Package from a Script file (.RSP)] を選択し、[Next] をクリックします。

**ステップ 5** [Browse] をクリックして登録する .rsp パッケージ ファイルのファイル パスを選択し (例：C:\VXC-M\ICAFirmware\7.0\_xxx.rsp)、[Open] をクリックします。

**ステップ 6** [Next] をクリックして、Package ウィザードのサマリーを表示します。

**ステップ 7** [Next] をクリックして、[Package Registration Progress] 画面を表示します。

**ステップ 8** [Next] をクリックして、パッケージを作成します。

**ステップ 9** パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。

- ステップ 10** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] > [Images] を選択し、目的のイメージ パッケージがイメージ パッケージ リスト内にあることを確認します。

### 手順 3 : デフォルト デバイス構成、スケジューリング、および WTOS プリファレンスの設定

#### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Configuration Manager] > [Preferences] を選択します。
- ステップ 2** 詳細ペインで、[Device Manager Preferences] をダブルクリックします。
- ステップ 3** [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[DDC] をクリックします。
- ステップ 4** [Default Device Configuration] の下で、[Enable Default Device Configuration] ボックスをオンにします。
- ステップ 5** [Time to Schedule DDC Reconciliation] の下で、[Upon Checkin] をクリックします。
- ステップ 6** [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[Scheduling] をクリックします。
- ステップ 7** [Imaging Option] の下で、[Merlin] をクリックします。
- ステップ 8** [Preferences] ダイアログボックスのツリー ペインで、[WTOS] をクリックします。
- ステップ 9** [WTOS Preferences] ダイアログボックスで、[Enable Return FTP/INI At Checkin] がオンになっていることを確認します。
- ステップ 10** [WTOS Root Path] チェックボックスに [WNOS] が含まれていることを確認します。
- ステップ 11** [OK] をクリックします。

### 手順 4 : ICA クライアントの手動検出



- (注) ICA ゼロ クライアントのアップグレードをテストする前に、ICA ゼロ クライアントを 1 つ以上検出する必要があります。次の手順では、ゼロ クライアントを手動で検出する方法について説明します。推奨される方法では、DHCP オプション タグを使用します。詳細については、「[DHCP サーバの設定 \(P.D-5\)](#)」を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] 右クリックし、[Find Devices] を選択します。
- ステップ 2** [Find Devices] ダイアログボックスで、[IP Ranges] オプション ボタンをクリックします。
- ステップ 3** ダイアログボックスの下部で、[New IP Range] をクリックします。
- ステップ 4** [IP Range] ダイアログボックスで、検出する IP アドレスの範囲を指定します (たとえば、開始 IP アドレス : 10.10.10.10、終了 IP アドレス : 10.10.10.20)。
- ステップ 5** [Add] をクリックします。
- ステップ 6** [Close] をクリックします。
- ステップ 7** [OK] をクリックします。
- [Device Discovery Progress] ウィンドウが表示されます。

- ステップ 8** 検出が完了したら、上部ツールバーの [Refresh] アイコンをクリックして、検出されたデバイスを表示します。

## 手順 5：デフォルト デバイス構成手法を使用した ICA クライアントのアップグレード



(注) ICA クライアントは、アップグレード方法としてデフォルト デバイス構成手法だけをサポートしています。ドラッグアンドドロップはサポートされていません。

### 初回デフォルト デバイス構成の手順

この手順は、クライアントアップグレードのデフォルト イメージとして指定するイメージパッケージを新規作成するときに実行します。

- ステップ 1** デフォルト デバイス構成がまだ存在していないことを確認します。
- Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。
  - デフォルトの構成が詳細ペインに表示されたら、デフォルトの構成を右クリックして [Delete] を選択します。
- ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] を右クリックしてから [New] > [Default Device Configuration] を選択して、Default Device Configuration ウィザードを開きます。
- ステップ 3** [Operating System] フィールドで、[WTOS] を選択します。
- ステップ 4** [Media Size] フィールドで、[128] を選択します。
- ステップ 5** [Qualifying OS Image] フィールドで、[7.0\_xxx] を選択します。
- ステップ 6** [Finish] をクリックします。
- ステップ 7** アップグレードする ICA デバイス (WTxxxxx) を右クリックし、[Reboot] を選択します。  
選択したデバイスがリセットされたときに、VXC-M に使用可能な新しい WNOS ファームウェアがあれば、デバイスがアップグレードされます。
- ステップ 8** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。
- ステップ 9** 上部の [Refresh] アイコンをクリックして、変更されたソフトウェア リビジョンを表示します。

### 既存デフォルト デバイス構成の手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。
- ステップ 2** [WTOS] を右クリックし、[Properties] を選択します。
- ステップ 3** [Qualifying OS Image] フィールドで、アップグレードするイメージを選択します。
- ステップ 4** [Finish] をクリックします。
- ステップ 5** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。

- ステップ 6** アップグレードする ICA デバイス (WTxxxxx) を右クリックし、[Reboot] を選択します。  
選択したデバイスがリセットされたときに、VXC-M に使用可能な新しい WNOS ファームウェアがあれば、デバイスがアップグレードされます。
- ステップ 7** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] をクリックします。
- ステップ 8** 上部の [Refresh] アイコンをクリックして、変更されたソフトウェア リビジョンを表示します。

## ICA クライアント設定のアップデート (WTOS パッケージの構築および登録)

### 手順

- ステップ 1** クライアント設定を含めるフォルダを作成します (例: **ICAConfigs**)。
- ステップ 2** ICAConfigs フォルダ内に、次の内容の .rsp ファイルを作成し、ICA1.rsp という名前を付けます。
- ```
[Version]
Number=ICA1
OS=BL
Category=Other Packages
[Script]
```
- ここで、「Number=」セグメントは、RSP ファイル名と正確に一致する値にする必要があります。
- ステップ 3** ICAConfigs フォルダ内に、RSP ファイル名と同じ名前を使用してサブフォルダを作成します (例: **ICA1**)。
- ステップ 4** ICA1 フォルダ内に、**WNOS** という名前のサブフォルダを作成します。
- ステップ 5** WNOS フォルダ内に wnos.ini という名前のファイルを作成して、必要な設定を含めます。(サンプルの .ini ファイルを含む詳細については、『Cisco Virtual Experience Client 2112/2212 WTOS INI Files Reference Guide』を参照してください)。
- 例:
- .rsp イメージの場所と名前:  
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1.rsp
  - WNOS ディレクトリの場所と名前:  
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1\WNOS
  - WNOS ディレクトリ内の wnos.ini ファイルの場所と名前:  
C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1\WNOS\wnos.ini
- ステップ 6** Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開します。
- ステップ 7** 詳細ペインで [Other Packages] を右クリックし、[New] > [Package] を選択します。
- ステップ 8** [Register a Package from a Script file (.RSP)] を選択し、[Next] をクリックします。
- ステップ 9** [Browse] をクリックして登録する .rsp パッケージ ファイルのファイルパスを選択し (例: C:\VXC-M\ICAConfigs\ICA1.rsp)、[Open] をクリックします。
- ステップ 10** [Next] をクリックして、Package ウィザードのサマリーを表示します。
- ステップ 11** [Next] をクリックして、[Package Registration Progress] 画面を表示します。
- ステップ 12** [Next] をクリックして、パッケージを作成します。

- ステップ 13** パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。
- ステップ 14** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] > [Other Packages] を選択し、目的のパッケージがパッケージ リスト内にあることを確認します。
- ステップ 15** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] を右クリックしてから [New] > [Default Device Configuration] を選択して、Default Device Configuration ウィザードを開きます。
- ステップ 16** [Operating System] フィールドで、[WTOS] を選択します。
- ステップ 17** [Media Size] フィールドで、[128] を選択します。
- ステップ 18** [Qualifying OS Image] フィールドは空欄のままにします。
- ステップ 19** [Next] をクリックして、[Software Packages] タブを開きます。
- ステップ 20** [Available For Selection] リストから、DDC に組み込む Cisco VXC Manager パッケージを選択し、[Add] をクリックします。選択されたパッケージが [Selected] リストに移動します。
- ステップ 21** 設定を行ったら、[Next] をクリックして [Execution Time] タブを表示します。
- ステップ 22** DDC 調整のオプションとして [Whenever a device checks in] または [Each day at the time specified] のいずれかを選択します ([Each day at the time specified] オプションを選択する場合は、必ず時刻を入力または選択してください)。
- ステップ 23** 設定を行ったら、[Next] をクリックして [Summary] タブを表示します。
- ステップ 24** [Summary] タブで、DDC が目的の設定になっていることを確認してから (目的の設定と異なる場合は、[Back] をクリックして変更します)、[Finish] をクリックして新しく割り当てられた DDC が表示された詳細ペインを開きます。
- DDC がオペレーティング システムにより識別されます。次回、指定したビューからのデバイスがチェックインするか検出されるかしたときに、オペレーティング システム条件に一致すれば、そのデバイスに DDC が割り当てられます。
- ステップ 25** アップデートされたパッケージをクライアントに送信するには、アップグレードする ICA デバイス (WTxxxxx) を右クリックして、[Reboot] を選択します。
- 選択したデバイスがリセットされたときに、VXC-M に使用可能な新しいパッケージがあれば、デバイスがアップグレードされます。

## Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要

Cisco VXC Manager パッケージ構造は、次の 2 つのコンポーネントからなります。

- パッケージ スクリプト (.rsp) ファイル (ImgXL24.rsp)
  - 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイル (ImgXL24) が格納されている Package フォルダ
- パッケージが正しく機能するには、これらの 2 つのコンポーネントが次の構造上の規則に従っている必要があります。
- パッケージ スクリプト ファイルには .rsp 拡張子が必要です。 .rsp ファイルは、Notepad で作成および編集できます。
  - パッケージ フォルダには、パッケージ スクリプト ファイルと同じ名前を付ける必要があります。
  - パッケージ スクリプト ファイルの [Version] セクションにある Number= パラメータは、デバイスによって Client Manager に報告される値と一致する必要があります。これは、デフォルトのデバイス設定機能を使用する場合は非常に重要になります。

- パッケージ スクリプト ファイルによって参照されるすべてのファイルが、パッケージ フォルダまたはそのサブフォルダに格納されている必要があります。
- コマンド引数はすべて二重引用符で囲む必要があります、またスペースだけで区切ります。
- すべてのレジストリ パスはバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- ルート レジストリ キーには省略形を使用しないでください（たとえば、HKLM ではなく HKEY\_LOCAL\_MACHINE を使用します）。
- ファイル名はすべてバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- パス名とレジストリ ブランチのいずれもバックスラッシュで終わることはできません。
- 通常、コマンドが失敗するとスクリプトは中止されます。コマンドが失敗した場合にスクリプトが中止されないようにするには、コマンドにアスタリスク（\*）を付加します。（すべてのコマンドでこれがサポートされるわけではないことに注意してください）。
- <REGROOT>（例：<regroot>¥sourcefile.txt）は、登録済みパッケージのルート ディレクトリ（c:¥inetpub¥ftproot¥rapport¥<packagename> など）を指します。



**ヒント** <regroot> は、（デバイスではなく）Cisco VXC Manager サーバの特定の場所でパッケージ アプリケーション ファイルを検索するよう Cisco VXC Manager サービスに指示するポインタです。<regroot> は、Cisco VXC Manager マスター リポジトリを見つけて、必要なパッケージ ファイルが格納されているフォルダを識別します。

## スクリプト ファイル構造の概要

Cisco VXC Manager スクリプト（.rsp）ファイルは、Cisco VXC Manager パッケージを構成する 2 つのコンポーネントのうちの 1 つです。

- パッケージ スクリプト（.rsp）ファイル（ImgXL24.rsp）
- 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイル（ImgXL24）が格納されている Package フォルダ

パッケージ スクリプト（.rsp）ファイルは特定の構造に準拠している必要があります、次の 2 つのセクションを含んでいる必要があります。

- Version
- Script

### Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。次に、Version セクションの各要素について説明します。

**[Version]** : 必要なセクション ヘッダー

**Number=** : パッケージ スクリプト ファイル名と同じでなければなりません

**Description=** : パッケージで実行可能な内容の簡単な説明

**OS=** : パッケージの対象となるオペレーティング システム

**USE\_REMOTE=** : YES または NO。リモート リポジトリ（存在する場合）を使用するかどうかを指定します。デフォルト値は YES です。（任意）

**DEPLOYEDSW=** : YES または NO。Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。デフォルト値は YES です。（任意）

**Category=** : パッケージが入れられる、Administrator Console 内の Cisco VXC Manager Package Manager カテゴリ。カテゴリが存在しない場合は、作成されることに注意してください。

#### イメージ カテゴリの特殊タグ

**[Version]** : 必要なセクション ヘッダー

**ImageSize=** : イメージのサイズ (MB 単位)

**BootFloppy=** : ブート フロッピーの名前。デフォルトは RAPPORト です

**IMAGE=** : 使用するイメージ ファイルの名前。デフォルトでは、Cisco VXC Manager はパッケージ フォルダ内で最初に見つかったファイルを使用 (CRC.text を除く)

**Command=** : 実行するイメージ操作

#### Script

Script セクションには、スクリプトの配布時に実行されるコマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

#### 推奨されるスクリプト テンプレート

```
[Version]
Number=Script name (matching the RSP_ file name and Package folder name)
Description=Detailed description with version number and valid images
OS=XX
Category=Other Packages
[Script]
Written by: Your Name and Company
; .....
; >Check the Operating System
; >Check the Image Version
; .....
CO "NT"
CI "XXXX"
; .....
; >Check Free Space
; >Check Minimum Memory, if necessary
; >Check User, if necessary
; .....
CF "X" "XXX"
CR "XXXX"
CU "XXXXXXXX"
; .....
; > Query User then lock Workstation
; .....
QU
LU*
; .....
; >Add Commands Here
; .....
;SF "<regroot>%files%x.xxx" "c:%yyyy%zzzz"
;EX "c:%yyyy%zzzz"
;DF "c:%yyyy%zzzz"
;MR "<regroot>%xxxx.reg"
;SP "c:%windows%system.ini" "DISPLAY" "screen-size" "640"
; .....
; >End Lockout
; .....
EL*
; .....
; >Reboot, if necessary
```

```
.....  
/ .....  
RB  
-----
```

## Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。

### BootFloppy=

イメージング プロセス中に Cisco VXC Manager が使用するブート フロッピーを指定します。

- Rapportitf.0 (イメージング用の Cisco VXC Manager Imaging エージェント)

### Category=

パッケージのカテゴリを定義します。Category= に別のカテゴリ名を入力してから、Cisco VXC Manager を使用してパッケージを登録すると、Package Manager の下にその名前のフォルダが作成されます。



#### ヒント

パッケージは、Category= を変更して、パッケージを再登録することで、あるカテゴリから別のカテゴリに移動できます。

### Command=

実行するイメージ操作。

例 : Command=%ImageWrite%

可能な値 :

- %ImageWrite% (この値は DiskOnChip に書き込まれます)
- %ImageRead% (この値は DiskOnChip から読み取られます)

### DeployedSW=

これは、Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。

DEPLOYEDSW=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。このオプションは、主に DDC とともに使用されます。DDC で [Enforce Sequence] がイネーブルになっている場合は、デバイスに送信されるパッケージによって、DDC は、デバイスの再イメージ化を行います (そのため、パッケージはすべて削除されます)。DeployedSW=No を使用すると、ユーザは、配布を記録せずにデバイスにパッケージを送信できるため、DDC 操作はトリガーされません。

### Description=

スクリプト開発者が、パッケージに関する簡単な説明を追加できるようにします。説明はコメント行で、スクリプトの実行時に Cisco VXC Manager によって解析されません。

### Image=

イメージの読み取りまたは書き込みの際に使用するファイル名を定義します。

## Version

Image=filename : デフォルトは、CRC.txt を除く、<regroot> で検出された最初のファイルです。

## ImageSize=

クライアントに送信されるイメージのサイズを Cisco VXC Manager に示します。

値 : 8、16、24、32、48、64、72、80、96、128、144、192、256、512、1024

## Number=

パッケージの名前を Cisco VXC Manager に示します。パッケージ スクリプト (.rsp) ファイルの名前は Number= パラメータと一致する必要があります。たとえば、パッケージ スクリプト名が ImgXL24.rsp の場合は、ImgXL24.rsp の [Version] セクションに Number=ImgXL24 が必要です。

例 :

```
[Version]
Number=[Number reported by device in Device Manager under Image]
Description=Image to Write to Device
OS=NT
Category=Images
USE_PXE=YES
USE_REMOTE=NO
DEPLOYEDSW=YES
IMAGE=[xyz24x1.img]
IMAGESIZE=24
```

## OS=

デバイスで実行されているオペレーティング システムを定義します。

値 :

- BL WTOS
- TDC ThreadX

## Use\_Remote=

パッケージが、サブネットに割り当てられたリモート リポジトリを使用するか、または常にマスターを使用するかどうかを定義します。

Use\_Remote=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。



# CHAPTER 5

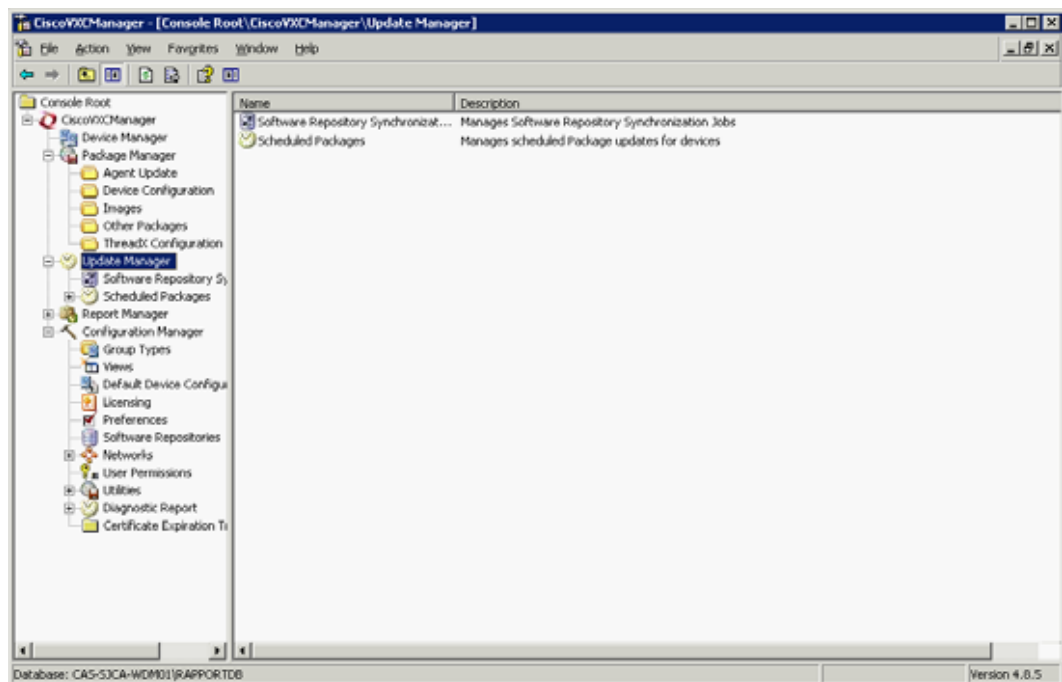
## Update Manager

この章では、Administrator Console を使用して、日常的なデバイス アップデート管理タスクを実行する方法について説明します。ここでは、Cisco VXC Manager システムのデバイス アップデートの管理、およびリモート リポジトリとマスター リポジトリ間の同期スケジュールの情報について説明します。

### デバイス アップデートのスケジュール管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] をクリックすると、Update Manager が表示されます。Update Manager を使用すると、Cisco VXC Manager 環境内のデバイス アップデート（デバイスに配信できる状態の、Cisco VXC Manager Database に登録された Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール）を素早く表示して管理できます（表 5-1 を参照）。また、リモート リポジトリとマスター リポジトリ間の同期スケジュールを表示して管理することもできます。

図 5-1 Update Manager



Update ウィザードを使用してデバイス アップデートをスケジュールする前に、アップデート配信プロセスおよび登録済み Cisco VXC Manager パッケージの内容を理解し、配信する Cisco VXC Manager パッケージのアイデンティティを把握して、さらに画像または設定を送信する対象のデバイスが Cisco VXC Manager システムで認識されていること（たとえば、そのデバイスが Cisco VXC Manager で検出されること）を確認する必要があります。Cisco VXC Manager Database 内の Cisco VXC Manager パッケージの配信をスケジュールしたら、そのスケジュールおよびプリファレンスに従って、Cisco VXC Manager ネットワーク内のデバイスにパッケージがアップデートとして配信されます。



## ヒント

Cisco VXC Manager システムのすべてのデバイスについて、Cisco VXC Manager パッケージの登録とスケジュール設定を同時に実行する場合は、Cisco VXC Manager Mass Imaging Tool を使用すると簡単にこれらのタスクを実行できます（「Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用」(P.D-1) を参照）。

表 5-1 に、Update Manager で実行できる作業の概要を示します。

表 5-1 Update Manager で行う日常的なタスク

実行できるタスク	手順	詳細
Package Distribution ウィザードを使用して、Cisco VXC Manager パッケージがアップデートとして配信されるようにスケジュールする。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] を右クリックしてから [New] > [Update] を選択して、Package Distribution ウィザードを開いて使用します。	「Package Distribution ウィザードを使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-4)
ドラッグアンドドロップ手法を使用して、登録済み Cisco VXC Manager パッケージがアップデートとして配信されるようにスケジュールする（デバイスおよびビューが多数存在する環境で役立ちます）。	「ドラッグアンドドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-6) の手順を実行してください。	「ドラッグアンドドロップ手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定」(P.5-6)
自動配信手法を使用して、登録済み Cisco VXC Manager パッケージがアップデートとして配信されるようにスケジュールする（OS およびメディア サイズが同じデバイスのグループに、指定した設定を自動的に適用する場合に役立ちます）。	「自動配信手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定（デフォルト デバイス構成の割り当て）」(P.5-8) の手順を実行してください。	「自動配信手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定（デフォルト デバイス構成の割り当て）」(P.5-8)
アップデートとして配信される予定の登録済み Cisco VXC Manager パッケージのスケジュールを表示する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] をクリックします（スケジュール済みまたは進行中のデバイス アップデートがあれば、詳細ペインに表示されます）。	
以前にスケジュールしたアップデート（アップデートとして配信される予定の Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール）を変更する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] をクリックします。詳細ペインで以前にスケジュールしたアップデートを右クリックし、[Properties] を選択して [Edit Updates] ダイアログボックスを開いて使用します。	「Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール済みデバイス アップデートの変更」(P.5-8)

表 5-1 Update Manager で行う日常的なタスク (続き)

実行できるタスク	手順	詳細
以前にスケジュールしたアップデート (アップデートとして配信される予定の Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール) を削除する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] を選択します。詳細ペインで以前にスケジュールしたアップデートを右クリックし、[Delete] を選択してから、削除を確定します。 <b>ヒント</b> 複数の Cisco VXC Manager パッケージを選択するには、Ctrl キーを押しながらかlickするか、Shift キーを押しながらかlickします。	進行中の Cisco VXC Manager パッケージのデバイス アップデートは削除できません。 <b>ヒント</b> 進行中のアップデートが (デバイスの問題などの理由により) 完了できない場合は、そのアップデートをエラー状態に移動 (アップデートを右クリックして [Move to Error] を選択) すると、削除できます。
目的のデバイスを見つけやすくするために、[Scheduled Packages] で使用する Update Manager ビュー (デフォルトまたはユーザが作成したもの) を選択する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] を右クリックしてから [Switch View] を選択して、[Select Current Manager View] ダイアログボックスを開いて使用します。	デバイスのグループ タイプ、ネットワークなどに応じてビューを作成し、現在のマネージャ ビューを選択することで、目的のデバイスを簡単に表示できるようになります (「ビューの管理」(P.7-3) を参照)。
Remote Software Repository Synchronization ウィザードを使用して、手動で同期をスケジュールする。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository Synchronization] を右クリックしてから [New] > [Remote SW Repository Synch] を選択して、Remote Software Repository Synchronization ウィザードを開きます。	「同期の手動スケジュール設定 (Remote Software Repository Synchronization を使用)」(P.5-10)
自動同期を設定または変更する。	「自動同期の設定」(P.5-10) の手順を実行してください。	「自動同期の設定」(P.5-10) <b>(注)</b> 自動同期は、インストール中にデフォルトで設定されます。手動同期スケジュールを自動スケジュールに戻す必要が生じた場合、または単純に現在の自動スケジュールの時間設定を変更する必要がある場合は、この手順に従います。
リモート リポジトリ同期のスケジュールを表示する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository] をクリックします (スケジュール済み、エラー状態、または進行中のリモート リポジトリの同期があれば、詳細ペインに表示されます)。	

表 5-1 Update Manager で行う日常的なタスク (続き)

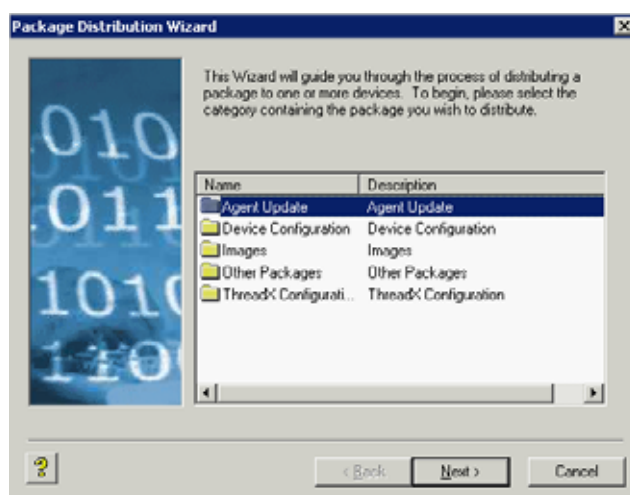
実行できるタスク	手順	詳細
リモート リポジトリ同期のスケジュールを変更する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository Synchronization] をクリックします。詳細ペインでスケジュール済み同期を右クリックして [Properties] を選択し、[Synchronize Remote Software Repository] ダイアログボックスを開いて使用します。	「リモート ソフトウェア リポジトリ同期の変更」(P.5-13)
以前にスケジュールしたリモート リポジトリ同期を削除する。	Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository Synchronization] をクリックします。詳細ペインで以前にスケジュールした同期を右クリックし、[Delete] を選択してから、削除を確定します。	進行中のリモート リポジトリ同期は削除できません。

## Package Distribution ウィザードを使用したデバイス アップデートのスケジュール設定

### 手順

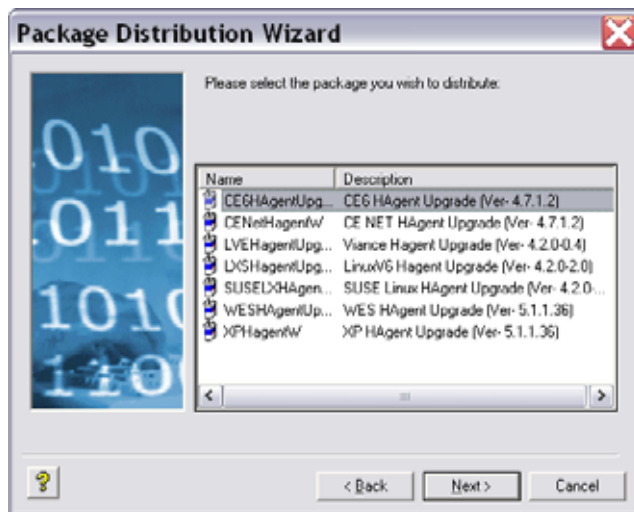
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] を右クリックしてから [Switch] を選択して、[Update Manager View] ダイアログボックスを開きます。ここで、アップデートを受信するグループまたはデバイス グループが含まれるビューを選択します。
- ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで、[Scheduled Packages] を右クリックして [New] > [Update] を選択し、Package Distribution ウィザードを開きます。

図 5-2 Package Distribution ウィザード



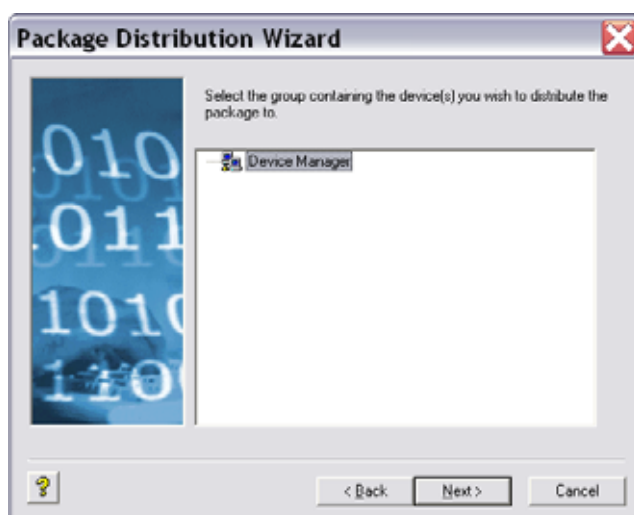
- ステップ 3** 配信する登録済み Cisco VXC Manager パッケージが含まれるフォルダを選択して、[Next] をクリックします。

図 5-3 Cisco VXC Manager パッケージの選択



**ステップ 4** 目的の Cisco VXC Manager パッケージを選択して、[Next] をクリックします。

図 5-4 クライアント グループの選択

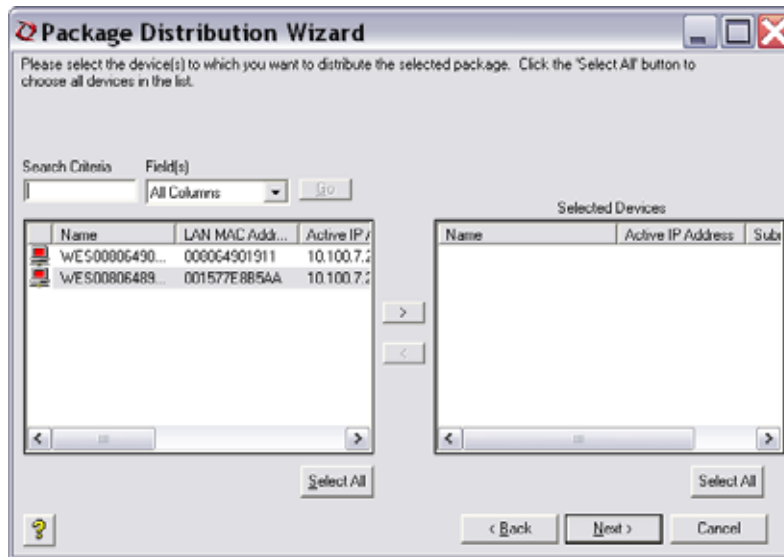


**ステップ 5** アップデートを受信するデバイスのグループを選択して（階層内のすべてのグループを選択するには、階層の一番上の [Device Manager] を選択します）、[Next] をクリックします。



**ヒント** 表示されるデバイス グループは、ステップ 1 で選択した Update Manager ビューに応じて異なります。

図 5-5 クライアントの選択



- ステップ 6** アップデートを受信するデバイスを選択して（Ctrl または Shift を押しながらかlickすると複数のデバイスを選択できます。または、リスト内のすべてのデバイスを選択する場合は [Select All] をクリックします）、[Next] をクリックします。
- ステップ 7** 選択したデバイスに、リモートリポジトリからサービスを提供されているデバイスが含まれているかどうかに応じて（たとえば、アップデートが含まれる Cisco VXC Manager パッケージがリモートリポジトリに含まれている場合）、次のいずれかの手順を実行します。
- 該当するものがない場合は、いつアップデートを実行するかを選択するプロンプトがウィザードに表示されます。アップデートの時刻を選択し、[Next] をクリックしてから、ステップ 8 に進みます。
  - 該当するものがあり、リモートリポジトリを同期するようにプリファレンスを設定済みの場合は、同期情報を求めるプロンプトがウィザードに表示されます。情報を入力し、[Next] をクリックしてから、ステップ 8 に進みます。
- ステップ 8** アップデートの作成を求めるプロンプトが表示されたら、[Next] をクリックします。
- ステップ 9** アップデートが作成されたことがウィザードに表示されたら、[Finish] をクリックします。

## ドラッグアンドドロップ手法を使用したデバイスアップデートのスケジュール設定



### 注意

このセクションの内容は、PCoIP 向け ThreadX ファームウェアを実行する Cisco VXC 2111/2211 クライアントにのみ適用されます。

ドラッグアンドドロップ手法を使用して、登録済み Cisco VXC Manager パッケージがアップデートとして配信されるようにスケジュールできます（デバイスおよびビューが多数存在する環境で役立ちます）。



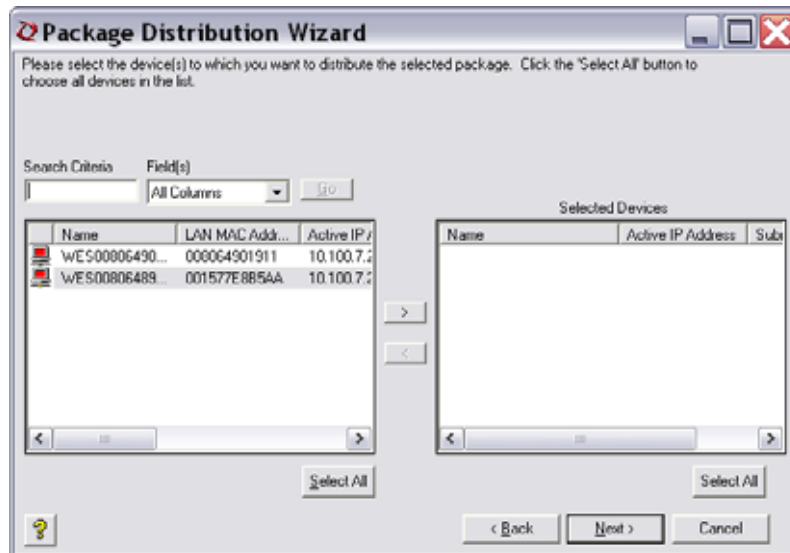
## ヒント

「ビューの管理」(P.7-3) の手順を実行することで、目的のビュー (Cisco VXC Manager パッケージを配信する対象のデバイスが含まれるフォルダ) を作成できます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を展開し、配信する Cisco VXC Manager パッケージが含まれるフォルダをクリックして、詳細ペインに表示します。
- ステップ 2** Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] を展開し、Cisco VXC Manager パッケージを配信する対象のデバイス (ビュー) が含まれるフォルダをツリー ペインに表示します。
- ステップ 3** 詳細ペインで配信する Cisco VXC Manager パッケージをクリックし、ツリー ペイン内の Cisco VXC Manager パッケージを配信する対象のデバイスが含まれるフォルダ (ビュー) の上までドラッグして Cisco VXC Manager パッケージをドロップします。

図 5-6 デバイスの選択



- ステップ 4** 表示される Package Distribution ウィザードで、Cisco VXC Manager パッケージを受信するデバイスを選択し、矢印をクリックして選択したデバイスを [Selected Devices] リストに移動してから (Ctrl または Shift を押しながらかlickすると複数のデバイスを選択できます。または、リスト内のすべてのデバイスを選択する場合は [Select All] をクリックします)、[Next] をクリックします。
- ステップ 5** 選択したデバイスに、リモート リポジトリからサービスを提供されているデバイスが含まれているかどうかに応じて (たとえば、アップデートが含まれる Cisco VXC Manager パッケージがリモート リポジトリに含まれている場合)、次のいずれかの手順を実行します。
- 該当するものがない場合は、いつアップデートを実行するかを選択するプロンプトがウィザードに表示されます。アップデートの時刻を選択し、[Next] クリックしてから、ステップ 6 に進みます。
  - 該当するものがあり、リモート リポジトリを同期するようにプリファレンスを設定済みの場合は、同期情報を求めるプロンプトがウィザードに表示されます。情報を入力し、[Next] をクリックしてから、ステップ 6 に進みます。
- ステップ 6** アップデートの作成を求めるプロンプトが表示されたら、[Next] をクリックします。

**ステップ 7** アップデートが作成されたことがウィザードに表示されたら、[Finish] をクリックします。

## 自動配信手法を使用したデバイス アップデートのスケジュール設定（デフォルト デバイス構成の割り当て）

OS およびメディア サイズが同じデバイスのグループには、デフォルト デバイス構成（DDC）を割り当て、デバイスを自動的にアップデートできます。DDC を使用すると、デバイス グループにデフォルト コンフィギュレーションを設定できるようになるため、デバイスが目的の設定に確実に準拠するようになります。つまり、デフォルト コンフィギュレーションと異なるデバイスがあった場合、Cisco VXC Manager により、そのデバイスは指定した設定に自動的に復元されます（Cisco VXC Manager は、設定したスケジュールに従って DDC 内の Cisco VXC Manager パッケージをデバイスに自動的に送信します。ユーザの介入は不要です）。

### 手順

**ステップ 1** DDC を使用するターゲット デバイスを決める：DDC を割り当てるデバイスを特定し、適切なビューを作成してターゲット デバイスを分離します（DDC は、OS およびメディア サイズが同じデバイス グループにしか適用できません）。



**ヒント** 「ビューの管理」(P.7-3) の手順を実行することで、目的のビュー（Cisco VXC Manager パッケージを配信する対象のデバイスが含まれるフォルダ）を作成できます。

**ステップ 2** DDC で使用する Cisco VXC Manager パッケージを決める：DDC に含める（Cisco VXC Manager Database 内の）登録済み Cisco VXC Manager パッケージを特定します。



**ヒント** DDC を使用することで、Cisco VXC Manager パッケージがデバイスに配信されるシーケンスを決定できるようになります。

**ステップ 3** DDC を作成して割り当てる：「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」(P.7-6) の手順に従って、目的の DDC を作成して割り当てます。

## Cisco VXC Manager パッケージのスケジュール済みデバイス アップデートの変更



### 注意

進行中のデバイス アップデートは編集できません。スケジュールされているデバイスの更新を削除する前にデバイスがネットワークから削除されている場合、スケジュールされている更新のステータスが永久に進行中になることがあります。デバイスを削除する前に、そのデバイスに対してスケジュールされているアップデートがないことを確認してください。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Scheduled Packages] をクリックします。スケジュール済み、エラー状態、または進行中のデバイス アップデートがあれば、詳細ペインに表示されます。
- ステップ 2** 変更するスケジュール済みデバイス アップデートを右クリックし、[Properties] を選択して [Edit Updates] ダイアログボックスを開きます。

図 5-7 Edit Updates



- ステップ 3** 必要な変更を行います ([Next Time the Device Boots] オプションは、デバイスが PXE をサポートしており、かつ PXE ベースのイメージングを使用している場合に PXE でアップデートが実行されるようにプリファレンスを設定している場合に選択できます (「PXE ベースのイメージング」(P.D-16) を参照)。



**ヒント** スケジュール済みデバイス アップデートがリモート リポジトリにリンクされている場合は、[Software Repository Synchronization] ウィンドウの詳細ペインでそのアップデートが 2 行にわたって表示される場合があります。最初の行には、リモート リポジトリをマスター リポジトリに同期するためのアップデートが表示されます (必要な場合)。2 番目の行には、リモート リポジトリによってサービスを提供されるデバイスに対する実際のアップデートを表示されます。これらのアップデートのいずれかまたは両方を編集できます。ただし、対応するデバイスに対してアップデートが実行された後は、(リモート リポジトリとマスター リポジトリ間の) 同期アップデートの再スケジュールはできません。

- ステップ 4** 変更が完了したら、[OK] をクリックします。

## リモート リポジトリ同期のスケジュール設定

Cisco VXC Manager は、デフォルト (インストール中にチェックボックスを使用することで設定) ではリモート リポジトリのインストール後、自動的にリモート リポジトリをマスター リポジトリに同期しますが、リモート リポジトリの Cisco VXC Manager パッケージは、次の方法で同期できます。

- 自動同期の設定：インストール中に設定されるデフォルトです。自動同期は、クライアント デバイスが、クライアント サブネットに割り当てられているリポジトリに含まれていない Cisco VXC Manager パッケージのアップデートを受信したときに実行されます（「[自動同期の設定](#)」(P.5-10) を参照）。
- 同期の手動スケジュール設定：Remote Software Repository Synchronization ウィザードを使用して、必要な特定のスケジュールを設定できます（「[同期の手動スケジュール設定 \(Remote Software Repository Synchronization を使用\)](#)」(P.5-10) を参照）。

## 自動同期の設定

自動同期は、インストール中にデフォルトで設定されます。手動同期スケジュールを自動スケジュールに戻す必要が生じた場合、または単純に現在の自動スケジュールの時間設定を変更する必要がある場合は、次のガイドラインに従います。

### 手順

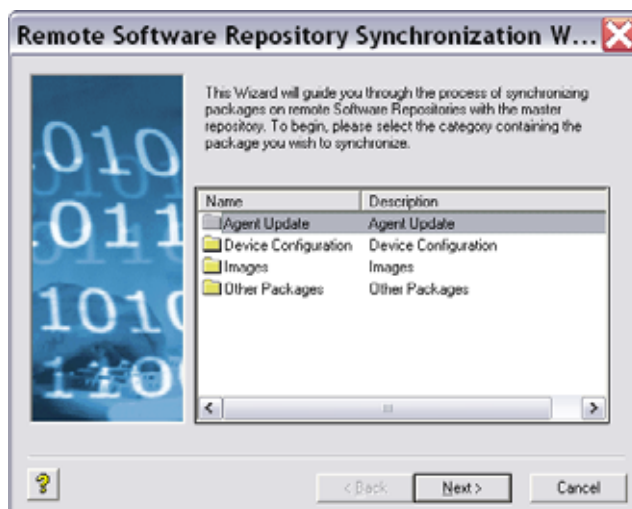
- 
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Preferences] をクリックします。
  - ステップ 2** 詳細ペインで、[Scheduling Preferences] をダブルクリックして [Preferences] ダイアログボックスを開きます。
  - ステップ 3** [Preferences] ダイアログボックスの左ペインで、[Scheduling] をクリックして [Scheduling Preferences] ダイアログボックスを開きます。
  - ステップ 4** 必要な [General Scheduling Preferences] を入力します（「[Scheduling Preferences](#)」(P.7-23) を参照）。
  - ステップ 5** [Auto-synch Remote Software Repository] チェックボックスを選択して、目的の [Max. Retry Count] を選択します（通常、5 が推奨されます）。
  - ステップ 6** 目的の [Imaging Option] を選択します（「[Scheduling Preferences](#)」(P.7-23) を参照）。
  - ステップ 7** [OK] をクリックします。
- 

## 同期の手動スケジュール設定（Remote Software Repository Synchronization を使用）

### 手順

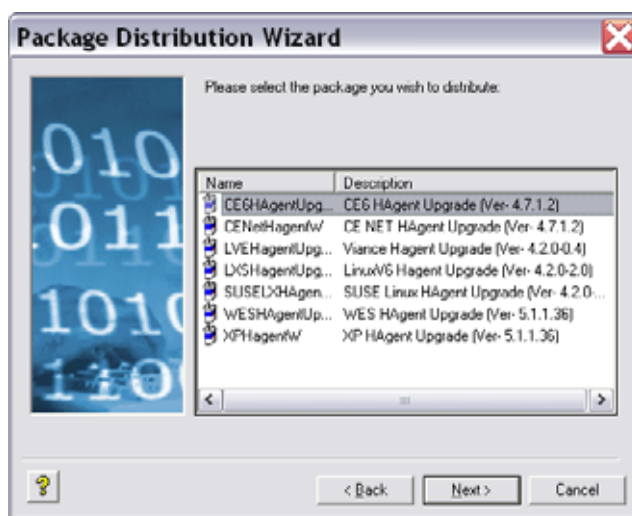
- 
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository Synchronization] を右クリックしてから [New] > [Remote SW Repository Synch] を選択して、Remote Software Repository Synchronization ウィザードを開きます。

図 5-8 Remote Software Repository Synchronization ウィザード



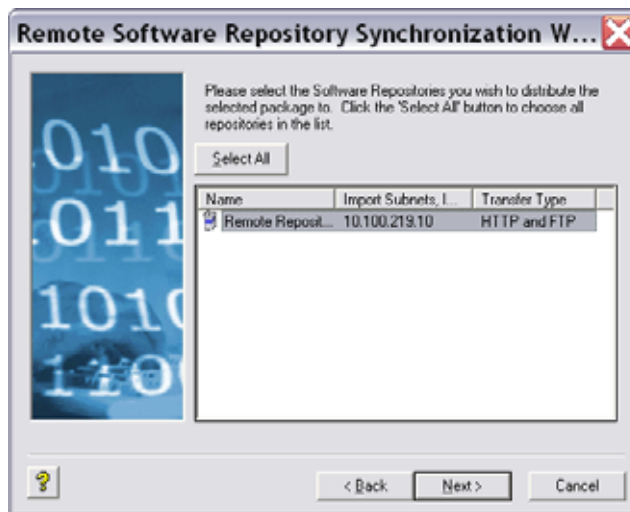
**ステップ 2** 同期する Cisco VXC Manager パッケージが含まれるカテゴリを選択してから、[Next] をクリックします。

図 5-9 Cisco VXC Manager パッケージの選択



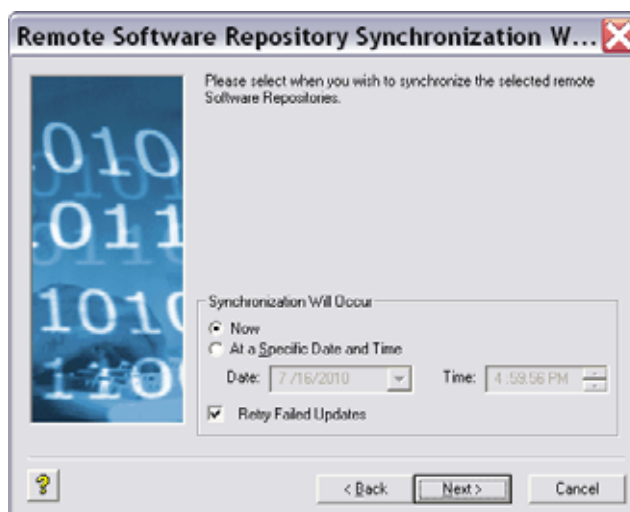
**ステップ 3** 同期する Cisco VXC Manager パッケージを選択してから、[Next] をクリックします。

図 5-10 ソフトウェア リポジトリの選択



**ステップ 4** Cisco VXC Manager パッケージを配信する対象のリポジトリを選択してから、[Next] をクリックします。

図 5-11 スケジュールリング オプションの選択



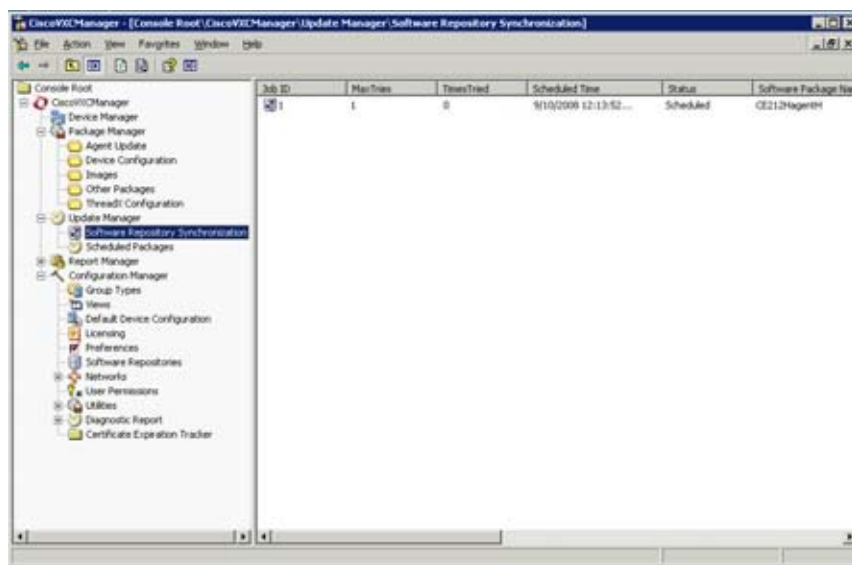
**ステップ 5** 同期のスケジュールリング オプションを選択してから、[Next] をクリックします。

**ステップ 6** スケジュールの作成を求めるプロンプトが表示されたら、[Next] をクリックします。

**ステップ 7** スケジュールが作成されたことがウィザードに表示されたら、[Finish] をクリックします。

**ステップ 8** リポジトリの同期がスケジュールされていることを確認するには、[CiscoVXCManager] > [Update Manager] > [Repository Synchronization] にナビゲートして、詳細ペインに同期の詳細を表示します。

図 5-12 リポジトリの同期

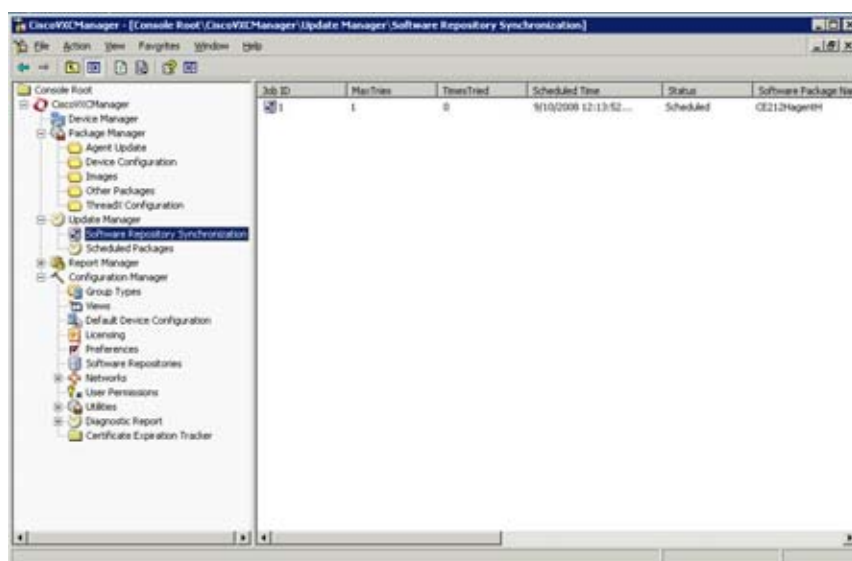


## リモート ソフトウェア リポジトリ同期の変更

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] を展開し、[Software Repository Synchronization] をクリックします。
- ステップ 2** スケジュール済み、エラー状態、または進行中のリポジトリ同期があれば、詳細ペインに表示されます。

図 5-13 ソフトウェア リポジトリ同期



- ステップ 3** 変更するスケジュール済みリポジトリ同期を右クリックし、[Properties] を選択して、[Edit Synchronize Remote Software Repository] ダイアログボックスを開きます。

図 5-14 Edit Synchronize Remote Software Repository



- ステップ 4** 必要な変更を行います。
- ステップ 5** 変更が完了したら、[OK] をクリックします。



# CHAPTER 6

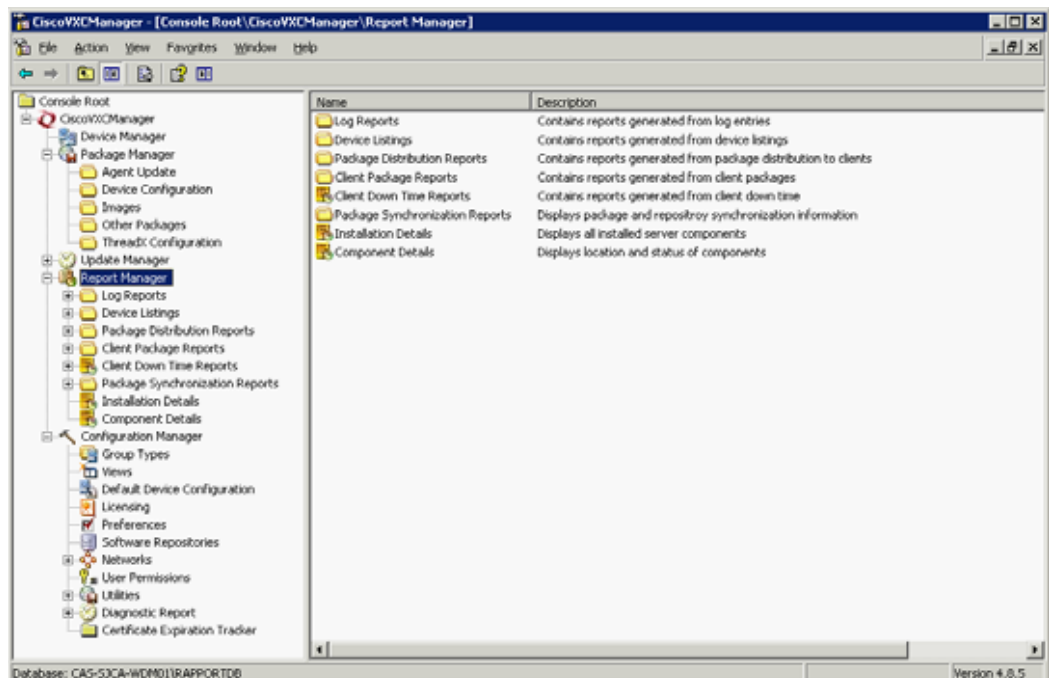
## Report Manager

この章では、Administrator Console を使用して Cisco VXC Manager のレポートを作成および管理する方法について説明します。ここでは、Cisco VXC Manager 環境でさまざまなレポートを生成する際に役立つ情報および手順を説明します。

### レポートの作成および管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] をクリックすると、Report Manager が表示されます。Report Manager を使用すると、Cisco VXC Manager 環境で使用できるレポートを素早く作成および管理できます (表 6-1 を参照)。また、レポートに設定した条件に応じて、デバイスの現在の情報を簡単に表示することもできます。

図 6-1 Report Manager





## ヒント

レポートの詳細ペインに表示するカラムは、対象のレポートが含まれる詳細ペインを右クリックして [View] > [Add/Remove Columns] を選択し、[Add/Remove Columns] ダイアログボックスを表示および使用することで選択できます。  
レポートを .txt ファイルまたは .csv ファイルにエクスポートするには、目的の Report Manager フォルダ（例：Log Reports）を右クリックし、[Export List] を選択してから [Export to a File] ダイアログボックスを使用します。

表 6-1 に、Report Manager で実行できる作業の概要を示します。

表 6-1 Report Manager で行う日常的なタスク

実行できるタスク	手順	詳細
ロギング設定に応じて、すべての Cisco VXC Manager コンポーネントに関連するアクティビティをリストしたレポートを作成する（たとえば、開始時間から終了時間までのすべての管理者アクティビティ）。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Log Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開いて使用します。	「ログ レポート」 (P.6-3) ヒント ロギング設定の設定方法については、「Logging Preferences」 (P.7-14) を参照してください。
独自の条件に応じて、管理対象デバイスをリストしたレポートを作成する（たとえば、オペレーティング システムに応じたすべてのデバイス）。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Device Listings] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開いて使用します。	「デバイス リスト」 (P.6-4)
配信した Cisco VXC Manager パッケージに応じて、管理対象デバイスの情報を示すレポートを作成する（たとえば、特定の Cisco VXC Manager パッケージのアップデートに応じたすべてのデバイス）。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Distribution Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開いて使用します。	「パッケージ配信 レポート」 (P.6-5)
Cisco VXC Manager 環境に存在するデバイスに応じて、配信した Cisco VXC Manager パッケージの情報を示すレポートを作成する（たとえば、特定の Cisco VXC Manager デバイスに応じたすべての Cisco VXC Manager パッケージのアップデート）。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Client Package Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開いて使用します。	「クライアント パッケージ レポート」 (P.6-6)
Cisco VXC Manager 環境に存在する特定のデバイスについてのダウンタイム期間情報を表示した、クライアント ダウンタイム レポートを作成する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Client Down Time Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開いて使用します。	「クライアント ダウンタイム レポート」 (P.6-7)
インストールされた Cisco VXC Manager コンポーネントについての情報を示すインストール詳細レポートを表示する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Installation Details] を選択して詳細ペインにレポートを表示します。	「インストール詳細レポート」 (P.6-8)
実行中の Cisco VXC Manager コンポーネントについての情報を示すコンポーネント詳細レポートを表示する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Component Details] を選択して詳細ペインにレポートを表示します。	「コンポーネント詳細レポート」 (P.6-9)

表 6-1 Report Manager で行う日常的なタスク (続き)

実行できるタスク	手順	詳細
マスター リポジトリ内の各 Cisco VXC Manager パッケージについて、リモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージ同期の詳細を表示するパッケージ同期履歴レポートを作成する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Package Synchronization History] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。	「パッケージ同期履歴レポート」(P.6-11)。詳細については、「パッケージ同期レポート」(P.6-10) も参照してください。
マスター リポジトリ内の各 Cisco VXC Manager パッケージについて、実行されなかったリモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージ同期の詳細を表示する非同期パッケージレポートを作成する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Unsynchronized Packages Report] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。	「非同期パッケージ レポート」(P.6-12)。詳細については、「パッケージ同期レポート」(P.6-10) も参照してください。
マスター リポジトリ内の関連する Cisco VXC Manager パッケージが削除されているにもかかわらず、依然としてリモート リポジトリ内に残っている Cisco VXC Manager パッケージの詳細を表示する、孤立パッケージ レポートを作成する。	Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Orphaned Package Report] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。	「孤立パッケージ レポート」(P.6-13)。詳細については、「パッケージ同期レポート」(P.6-10) も参照してください。

## ログ レポート

ログ レポートには、ロギング設定に応じて、すべての Cisco VXC Manager コンポーネントに関連するアクティビティの情報が示されます（「Logging Preferences」(P.7-14) を参照）。



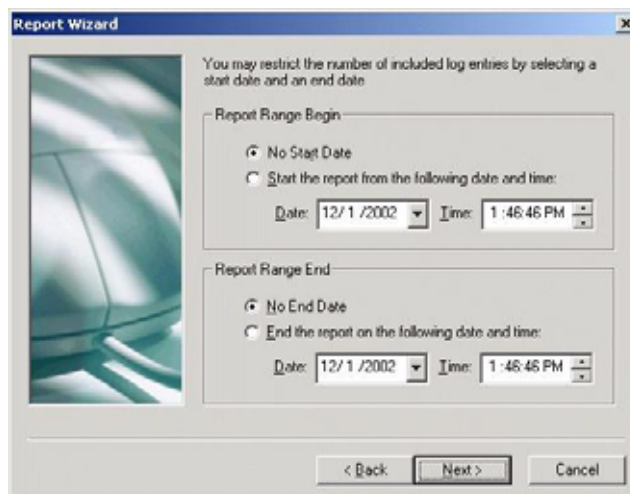
### ヒント

ログ レポートを作成すると、Cisco VXC Manager により条件が自動的に保存されるため、そのレポートを再度作成する必要がなくなります。レポートを表示する（適切なフォルダ内でレポート名をクリックする）たびに、設定した条件に応じた現在の情報が表示されます。また、レポートが含まれているフォルダを右クリックし、[Refresh] を選択することで、レポートを更新できます。

### 手順

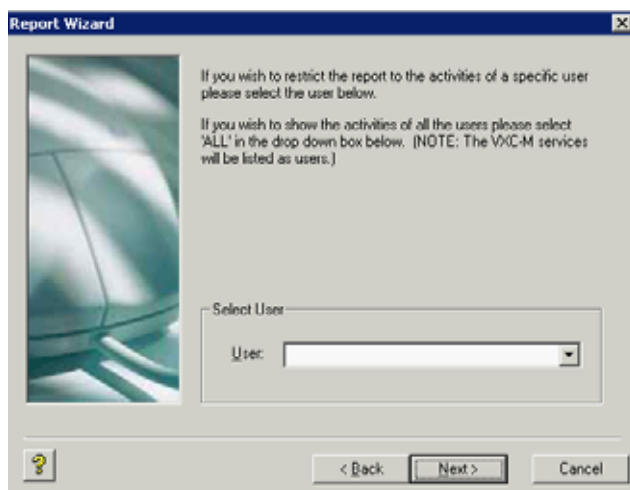
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Log Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開きます。
- ステップ 2** (後で簡単に識別できるような) 名前と説明を入力し、[Next] をクリックします。

図 6-2 開始日と終了日のオプション



**ステップ 3** 目的の開始日および終了日のオプションを選択して、[Next] をクリックします。

図 6-3 ユーザの指定



**ステップ 4** [User] リストから目的のオプションを選択し、[Finish] をクリックしてレポートを作成します。

## デバイス リスト

デバイス リストには、グループ化（「リスト」）条件に応じて、Cisco VXC Manager 環境に存在するデバイスの情報が示されます。



### ヒント

デバイス リスト レポートを作成すると、Cisco VXC Manager により条件が自動的に保存されるため、そのレポートを再度作成する必要がなくなります。レポートを表示する（適切なフォルダ内でレポート名をクリックする）たびに、設定した条件に応じた現在の情報が表示されます。また、レポートが含まれているフォルダを右クリックし、[Refresh] を選択することで、レポートを更新できます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Device Listings] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開きます。
- ステップ 2** レポートを作成する際には、次のガイドラインに従います。
- (後で簡単に識別できるような) 名前と説明を入力します。
  - [Select a Group] リストでグループを選択して、そのグループで使用できる [Group Selections] を表示します。
  - [Group Selections] リストで目的の項目を選択したら、[AND] オプションまたは [OR] オプションのいずれかを使用して、その項目を [Selected Items] ペインに追加 ([Add] をクリック) できます。
  - 同一グループの [Group Selections] リストから複数の項目を [Selected Items] ペインに移動する場合は、[OR] 条件を使用する必要があります。
  - 異なるグループから選択する場合は、[AND] または [OR] いずれか 1 つだけの選択条件を使用できます。たとえば、[OS] および [Subnet] グループを選択し、選択条件を [AND] にした場合、レポートには [OS] および [Subnet] 両方の条件に一致するデバイスのみがリストされます。一方、同じ 2 つのグループについて選択条件を [OR] にした場合は、レポートには (サブネットにかかわらず) [OS] 条件に一致するすべてのデバイスと、(OS にかかわらず) [Subnet] 条件に一致するすべてのデバイスがリストされます。
  - [AND] および [OR] 条件はグローバルです。選択した最初の 2 つのグループに [AND] または [OR] 条件を適用すると、その後選択するその他すべてのグループに同じ条件が適用されます。
  - [Selected Items] ペインから項目を削除するには、その項目を選択して [Remove] をクリックします。
  - [Selected Items] ペインからすべての項目を削除するには、[Clear All] をクリックします。
- ステップ 3** 条件の入力を完了したら、[OK] をクリックしてレポートを作成します。

## パッケージ配信レポート

パッケージ配信レポートには、配信した Cisco VXC Manager パッケージに応じて、管理対象デバイスの情報が示されます。

**ヒント**

パッケージ配信レポートを作成すると、Cisco VXC Manager により条件が自動的に保存されるため、そのレポートを再度作成する必要がなくなります。レポートを表示する (適切なフォルダ内でレポート名をクリックする) たびに、設定した条件に応じた現在の情報が表示されます。また、レポートが含まれているフォルダを右クリックし、[Refresh] を選択することで、レポートを更新できます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Distribution Reports] を右クリックしてから [New]> [Report] を選択して、Report ウィザードを開きます。

図 6-4 パッケージ配信レポートの条件

- ステップ 2** レポートを作成する際には、次のガイドラインに従います。
- (後で簡単に識別できるような) 名前と説明を入力します。
  - [Select a Group] リストでグループを選択して、そのグループで使用できる [Group Selections] を表示します。
  - [Group Selections] リストで目的の項目を選択したら、その項目を [Selected Items] ペインに追加 ([Add] をクリック) できます。
  - [Selected Items] ペインから項目を削除するには、その項目 (例 : [Update5XPE]) を選択して [Remove] をクリックします。
  - [Selected Items] ペインからすべての項目を削除するには、[Clear All] をクリックします。
- ステップ 3** 条件の入力を完了したら、[OK] をクリックしてレポートを作成します。

## クライアント パッケージ レポート

クライアント パッケージ レポートには、Cisco VXC Manager 環境に存在するデバイスに応じて、配信した Cisco VXC Manager パッケージの情報が示されます。



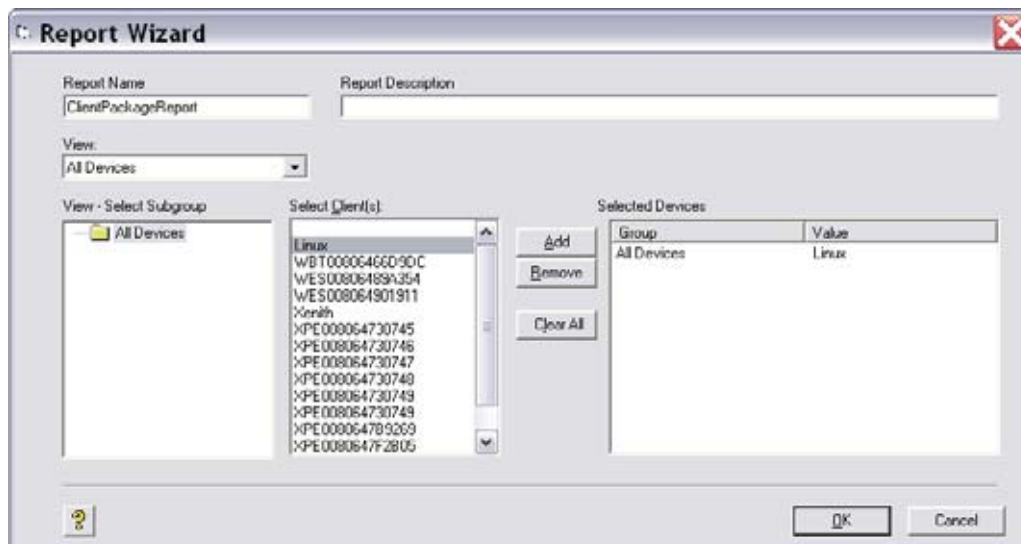
### ヒント

クライアント パッケージ レポートを作成すると、Cisco VXC Manager により条件が自動的に保存されるため、そのレポートを再度作成する必要がなくなります。レポートを表示する (適切なフォルダ内でレポート名をクリックする) たびに、設定した条件に応じた現在の情報が表示されます。また、レポートが含まれているフォルダを右クリックし、[Refresh] を選択することで、レポートを更新できます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Client Package Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開きます。

図 6-5 クライアント パッケージ レポートの条件



- ステップ 2** レポートを作成する際には、次のガイドラインに従います。
- (後で簡単に識別できるような) 名前と説明を入力します。
  - 目的のデバイスが含まれるビューを [View] リストから選択します (ビュー作成の詳細については、「ビューの管理」(P.7-3) を参照してください)。
  - 目的のデバイスが含まれるサブグループを [Select Subgroup] リストから選択して、そのサブグループで使用できるクライアントを表示します。
  - [Select Clients] リストで目的の項目を選択したら、その項目を [Selected Devices] ペインに追加 ([Add] をクリック) できます。
  - [Selected Devices] ペインから項目を削除するには、その項目 (例 : [WES008]) を選択して [Remove] をクリックします。
  - [Selected Devices] ペインからすべての項目を削除するには、[Clear All] をクリックします。
- ステップ 3** 条件の入力を完了したら、[OK] をクリックしてレポートを作成します。

## クライアント ダウンタイム レポート

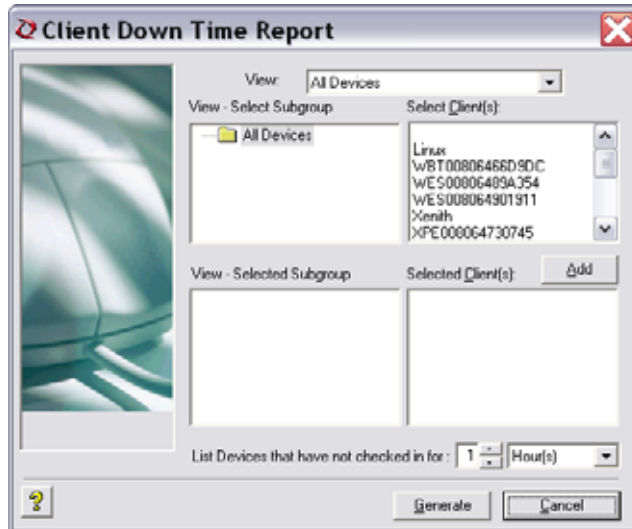
クライアント ダウンタイム レポートには、Cisco VXC Manager 環境に存在する特定のデバイスについてのダウンタイム期間情報が示されます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Client Down Time Reports] を右クリックしてから [New] > [Report] を選択して、Report ウィザードを開きます。

**ステップ 2** (後で簡単に識別できるような) 名前と説明を入力し、[Next] をクリックします。

図 6-6 クライアント ダウンタイム レポートの条件



**ステップ 3** レポートを作成する際には、次のガイドラインに従います。

- 目的のデバイスが含まれるビューを [View] リストから選択します (ビュー作成の詳細については、「ビューの管理」(P.7-3) を参照してください)。
- 目的のデバイスが含まれるサブグループを [Select Subgroup] リストから選択して、そのサブグループで使用できるクライアントを表示します。
- [Select Clients] リストで目的の項目を選択したら、その項目を [Selected Subgroups] ペインおよび [Selected Clients] ペインに追加 ([Add] をクリック) できます。
- [List Devices that have not checked in for] 領域に、時間の値を入力します。

**ステップ 4** 条件の入力を完了したら、[Generate] をクリックしてレポートを作成します。

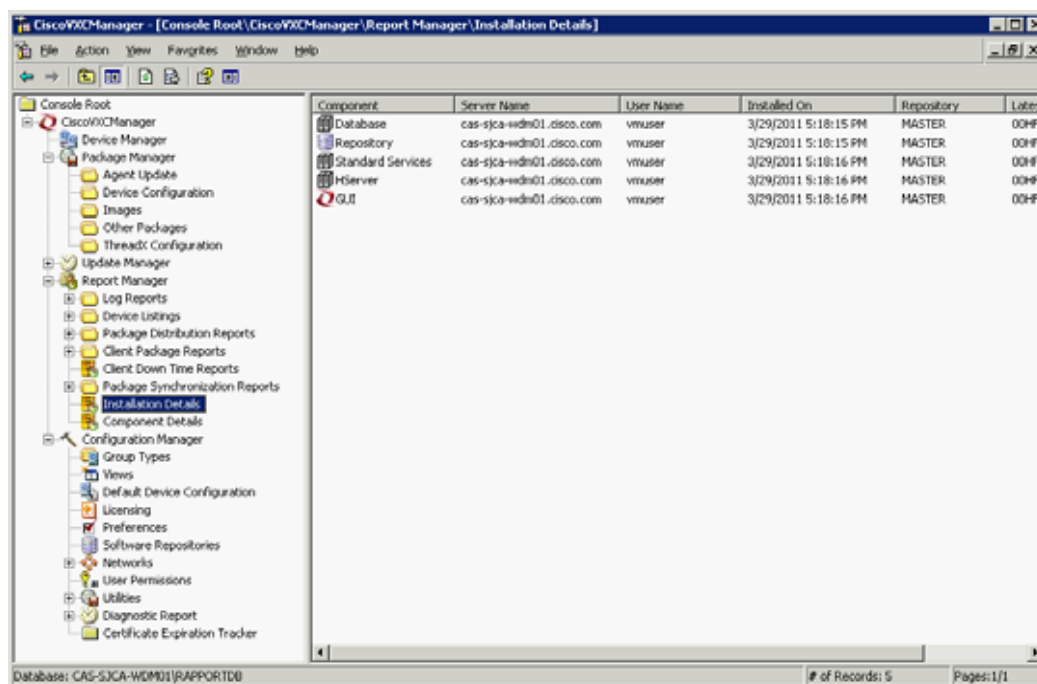
## インストール詳細レポート

インストール詳細レポートには、インストールされた Cisco VXC Manager コンポーネントについての情報が示されます。

### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Installation Details] を選択して詳細ペインにレポートを表示します。

図 6-7 インストール詳細



Component	Server Name	User Name	Installed On	Repository	Latest
Database	cas-sjca-wdm01.disco.com	vmuser	3/29/2011 5:18:15 PM	MASTER	00HFC
Repository	cas-sjca-wdm01.disco.com	vmuser	3/29/2011 5:18:15 PM	MASTER	00HFC
Standard Services	cas-sjca-wdm01.disco.com	vmuser	3/29/2011 5:18:16 PM	MASTER	00HFC
HServer	cas-sjca-wdm01.disco.com	vmuser	3/29/2011 5:18:16 PM	MASTER	00HFC
GUI	cas-sjca-wdm01.disco.com	vmuser	3/29/2011 5:18:16 PM	MASTER	00HFC

**ステップ 2** 次の内容が表示されます。

- [Component] : Cisco VXC Manager のコンポーネント名。
- [Server Name] : Cisco VXC Manager コンポーネントがインストールされているサーバ名。
- [User Name] : サーバユーザのログイン ID。
- [Installed On] : Cisco VXC Manager コンポーネントがインストールされた日時。
- [Repository] : Cisco VXC Manager のメインリポジトリ名。
- [Latest Hot Fix ID] : サーバにインストールされた最新の Cisco VXC Manager ホットフィックスの ID。

## コンポーネント詳細レポート

コンポーネント詳細レポートには、実行中の Cisco VXC Manager コンポーネントについての情報が示されます。

### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Component Details] を選択して詳細ペインにレポートを表示します。

図 6-8 コンポーネント詳細

Server Type	Server Name	IP Address	Listening Port	SSL Port	TZ Offset	Check In
IServer	cas-sjca-wdm01	10.35.48.192	80	0	-420	3/29/2011 5:26:03 PM
Module	cas-sjca-wdm01	10.35.48.192	9880	0	-420	3/29/2011 5:26:03 PM
Standard Services	CAS-SJCA-WDM01	10.35.48.192	8008	0	-420	3/29/2011 5:26:03 PM
GUI	Cas-sjca-wdm01	10.35.48.192	200	0	-420	3/31/2011 2:40:14 PM

Database: CAS-SJCA-WDM01\REPORTDB # of Records: 4 Pages: 1/1

**ステップ 2** 次の内容が表示されます。

- [Server Type] : Cisco VXC Manager のコンポーネント名。
- [Server Name] : Cisco VXC Manager コンポーネントがインストールされているサーバ名。
- [IP Address] : Cisco VXC Manager コンポーネントがインストールされているサーバの IP アドレス。
- [Listening Port] : 特定のコンポーネントが通信を行っているポート番号。
- [SSL Port] : SSL ポート番号。
- [TZ Offset] : ローカル時間と GMT 間のオフセット値。
- [Check In] : 特定のコンポーネントがチェックインした日時。
- [Check Out] : 特定のコンポーネントがチェックアウトした日時。

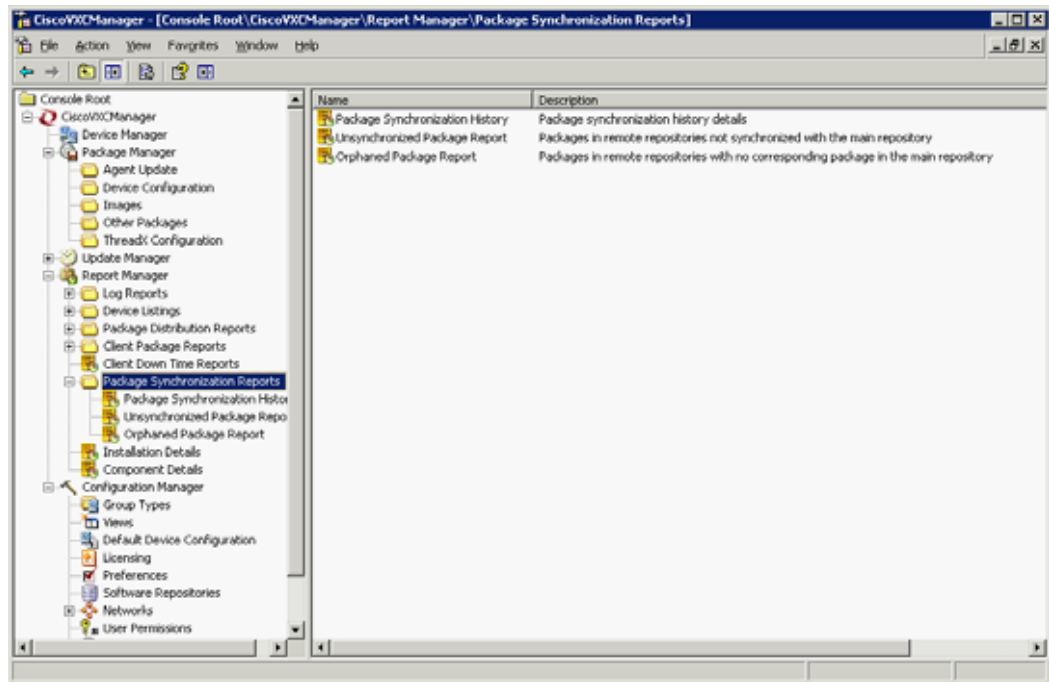
## パッケージ同期レポート

パッケージ同期レポートには、マスター リポジトリとリモート リポジトリ間での Cisco VXC Manager パッケージの同期についての情報が示されます。表示およびエクスポートできるパッケージ同期レポートは、3 種類あります。

- [Package Synchronization History] : すべての Cisco VXC Manager パッケージについて、リモート リポジトリとの同期の詳細が表示されます（「[パッケージ同期履歴レポート](#)」(P.6-11) を参照）。
- [Unsynchronized Package Report] : 各行に、マスター リポジトリとリモート リポジトリ間でバージョンが異なる Cisco VXC Manager パッケージが 1 つずつ表示されます（「[非同期パッケージレポート](#)」(P.6-12) を参照）。

- [Orphaned Package Report]: 対応する Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリに存在しないにもかかわらず、リモート リポジトリには存在している Cisco VXC Manager パッケージのリストが表示されます（「孤立パッケージ レポート」(P.6-13) を参照）。

図 6-9 パッケージ同期レポート



## パッケージ同期履歴レポート

パッケージ同期履歴レポートには、マスター リポジトリ内の各 Cisco VXC Manager パッケージについて、リモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージ同期の詳細が表示されます。Cisco VXC Manager パッケージのリモート リポジトリとの同期 1 回につき、1 行が表示されます。n 個のリモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージ同期が実行される場合、Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行されるたびに、n 個の行が表示されます。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Package Synchronization History] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。

図 6-10 パッケージ同期履歴

Repository	Package Name	Synchronization Time	Version	Master Version	Status
RemoteRepos	dummyc	1/7/2009 8:05:46 PM	Jan 7 2009 7:43PM	Jan 15 2009 11:40AM	Not Synchronized
RemoteRepos	dummyc	1/7/2009 8:07:54 PM	Jan 7 2009 8:07PM	Jan 15 2009 11:40AM	Not Synchronized
RemoteRepos	dummyc	1/7/2009 8:13:18 PM	Jan 7 2009 8:09PM	Jan 15 2009 11:40AM	Not Synchronized
RemoteRepos	dummyd	1/8/2009 2:57:22 PM	Jan 8 2009 2:52PM		Deleted
RemoteRepos	dummyd	1/8/2009 2:58:41 PM	Jan 8 2009 2:58PM		Deleted
RemoteRepos	WisFTPpush_9W92_561...	3/6/2009 2:15:02 PM	Mar 5 2009 10:17PM		Deleted
RemoteRepos	dummyc	1/9/2009 10:23:07 PM	Jan 7 2009 8:33PM	Jan 15 2009 11:40AM	Not Synchronized
RemoteRepos	dummyc	1/9/2009 10:33:20 PM	Jan 9 2009 10:29PM	Jan 9 2009 10:29PM	Synchronized
RemoteRepos	WisFTPpush_9W92_56...	3/6/2009 4:30:36 PM	Mar 6 2009 4:18PM		Deleted
RemoteRepos	dummy	12/23/2008 2:35:56 PM	Dec 18 2008 3:33PM	Dec 30 2008 8:00PM	Not Synchronized
RemoteRepos	dummy	12/30/2008 8:01:54 PM	Dec 30 2008 8:00PM	Dec 30 2008 8:00PM	Synchronized
RemoteRepos	dummy	1/7/2009 2:39:41 PM	Dec 30 2008 8:00PM	Dec 30 2008 8:00PM	Synchronized

**ステップ 2** マスター リポジトリとリモート リポジトリ間での Cisco VXC Manager パッケージの同期 1 回につき、1 行が表示されます。特定の Cisco VXC Manager パッケージに対して表示される行数は、Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行された回数と同じです。次の内容が表示されます。

- [Repository] : Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行されたりリモート リポジトリの名前。
- [Package Name] : Cisco VXC Manager パッケージの名前。
- [Synchronization Time] : リモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行された時刻。予約されている Cisco VXC Manager パッケージの同期（まだ開始されていないもの）については、同期時刻は表示されないため、注意してください。
- [Version] : 該当の Cisco VXC Manager パッケージの最新の同期に対してのみ有効です。
- [Master Version] : マスター リポジトリ内の Cisco VXC Manager パッケージの現在のバージョン。
- [Status] : 現時点でのマスター リポジトリとリモート リポジトリ間の Cisco VXC Manager パッケージのバージョンの比較。次のように表示されます。
  - [Synchronized] : Cisco VXC Manager パッケージは同一です。
  - [Not Synchronized] : Cisco VXC Manager パッケージが異なります。
  - [Deleted] : マスター リポジトリの Cisco VXC Manager パッケージは削除されています（リモート リポジトリに関連する Cisco VXC Manager パッケージが依然として存在している場合は、「孤立パッケージ レポート」(P.6-13) で説明されているように、孤立パッケージ レポートで表示できます)。

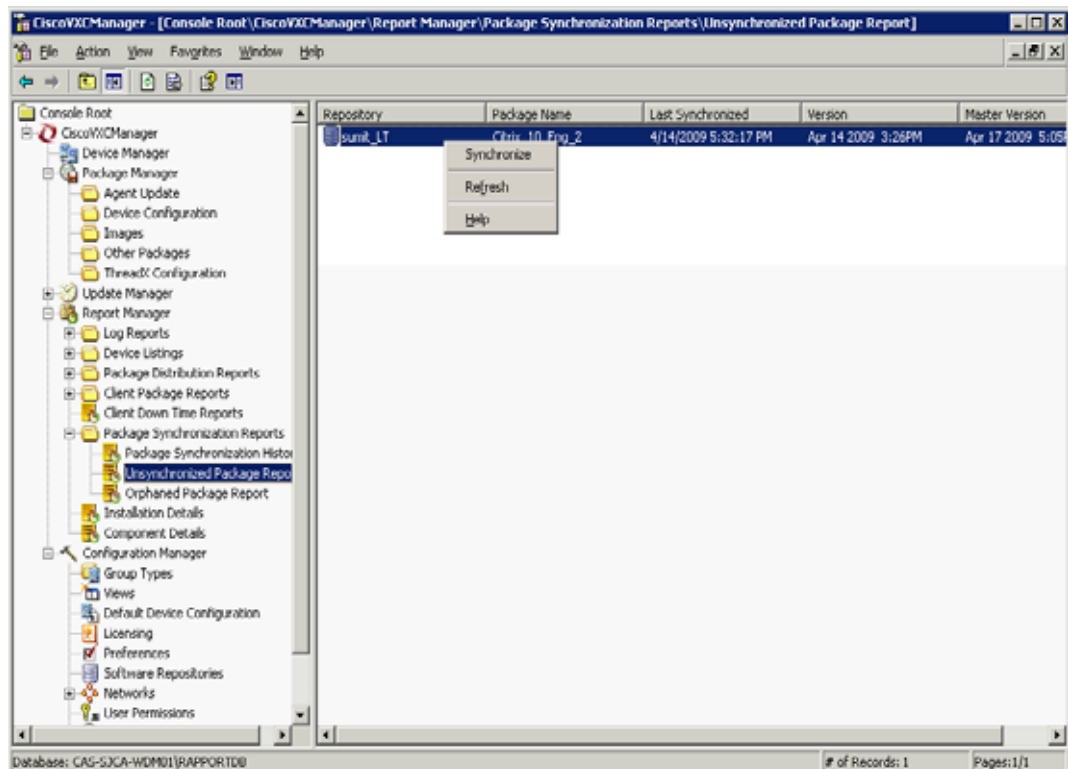
## 非同期パッケージ レポート

非同期パッケージ レポートには、マスター リポジトリ内の各 Cisco VXC Manager パッケージについて、実行されなかったリモート リポジトリとの Cisco VXC Manager パッケージ同期の詳細が表示されます。Cisco VXC Manager パッケージのリモート リポジトリとの非同期 1 回につき、1 行が表示されます。該当の Cisco VXC Manager パッケージのバージョンは、現時点ではマスター リポジトリとリモート リポジトリ間で異なります。

### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Unsynchronized Packages Report] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。

図 6-11 非同期パッケージ レポート



**ステップ 2** マスター リポジトリとリモート リポジトリ間での Cisco VXC Manager パッケージの非同期 1 回につき、1 行が表示されます。特定の Cisco VXC Manager パッケージに対して表示される行数は、Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行されなかった回数と同じです。次の内容が表示されます。

- [Repository] : Cisco VXC Manager パッケージの同期が実行されなかったリモート リポジトリの名前。
- [Package Name] : Cisco VXC Manager パッケージの名前。
- [Last Synchronized] : 最新の同期時刻（この時刻の記録は、Cisco VXC Manager パッケージのパッケージ同期履歴レポートにも表示されます）。
- [Version] : リモート リポジトリ内の Cisco VXC Manager パッケージの現在のバージョン。
- [Master Version] : マスター リポジトリ内の Cisco VXC Manager パッケージの現在のバージョン。



**ヒント** 非同期の Cisco VXC Manager パッケージをただちに同期するには、Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Synchronize] を選択します。

## 孤立パッケージ レポート

孤立パッケージ レポートには、マスター リポジトリ内の関連する Cisco VXC Manager パッケージが削除されているにもかかわらず、依然としてリモート リポジトリ内に残っている Cisco VXC Manager パッケージの詳細が表示されます。リモート リポジトリに残っている孤立 Cisco VXC Manager パッケージ 1 個につき、1 行が表示されます。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Report Manager] を展開し、[Package Synchronization Reports] を展開してから [Orphaned Package Report] を選択して、詳細ペインにレポートを表示します。

図 6-12 孤立パッケージ レポート

Repository	Package Name	Last Synchronized	Version
RemoteRepos	WisHTTPpush_9V92_56...	3/6/2009 4:30:36 PM	Mar 6 2009 4:18PM
RemoteRepos	WisFTPpush_9V92_561...	3/6/2009 2:15:02 PM	Mar 5 2009 10:17PM
RemoteRepos	dummyd	1/12/2009 12:09:54 PM	Jan 12 2009 12:09PM

Database: 53C-NBK-HNOVAKO # of Records: 3 Pages: 1/1

- ステップ 2** リモート リポジトリに残っている孤立 Cisco VXC Manager パッケージ 1 個につき、1 行が表示されま  
す。次の内容が表示されます。

- [Repository] : 孤立 Cisco VXC Manager パッケージが含まれているリモート リポジトリの名前。
- [Package Name] : Cisco VXC Manager パッケージの名前。
- [Last Synchronized] : 最新の同期時刻（この時刻の記録は、Cisco VXC Manager パッケージの  
パッケージ同期履歴レポートにも表示されます）。
- [Version] : リモート リポジトリ内の Cisco VXC Manager パッケージの現在のバージョン。



# CHAPTER 7

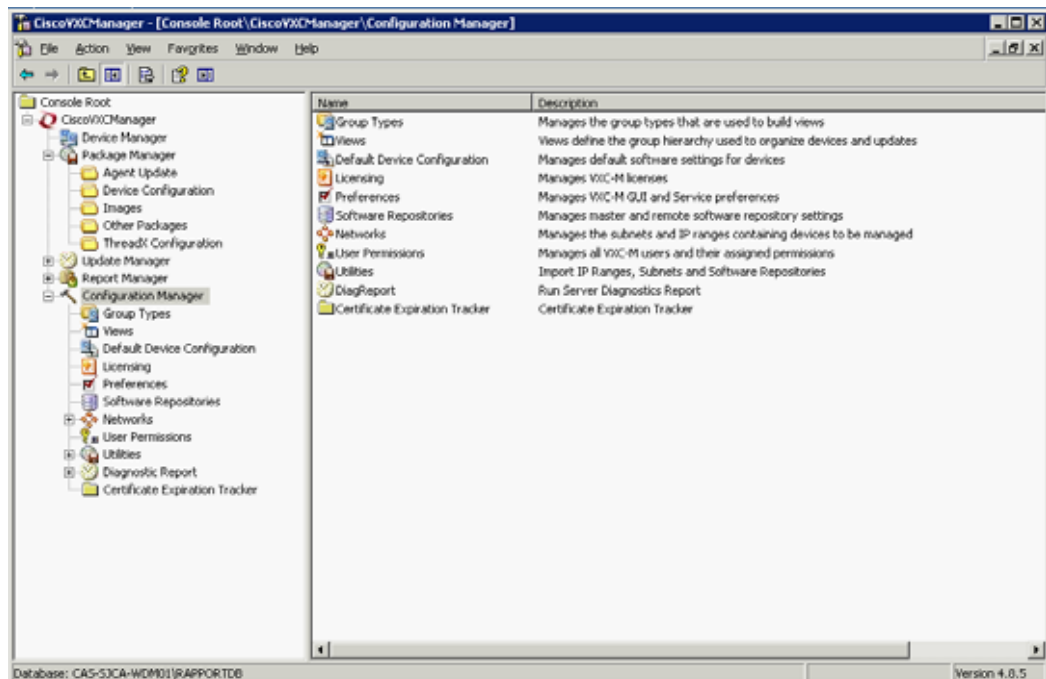
## Configuration Manager

この章では、Administrator Console で日常的な Cisco VXC Manager コンフィギュレーション管理作業を行う方法を説明します。Cisco VXC Manager システム全体のコンフィギュレーション設定とプリファレンスの管理について説明します。

### Cisco VXC Manager のコンフィギュレーション設定およびプリファレンスの管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] をクリックすると、Configuration Manager が表示されます。Configuration Manager では、Cisco VXC Manager 環境の主要な機能を容易に表示、管理できます。また、必要に応じて Cisco VXC Manager 環境の設計を容易に変更できます（たとえば、企業におけるニーズの拡大に対応して Cisco VXC Manager 環境の必須機能を拡張できます）。

図 7-1 Configuration Manager



Configuration Manager では Cisco VXC Manager を管理できます。

- [グループタイプ](#) ([「グループタイプの管理」 \(P.7-2\)](#) を参照)
- [ビュー](#) ([「ビューの管理」 \(P.7-3\)](#) を参照)
- [デフォルト デバイス コンフィギュレーション](#) ([「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理」 \(P.7-6\)](#) を参照)
- [プリファレンス](#) ([「プリファレンスの設定」 \(P.7-12\)](#) を参照)
- [ソフトウェア リポジトリ](#) ([「Cisco VXC Manager リポジトリについて」 \(P.7-26\)](#) を参照)
- [ネットワーク](#) ([「ネットワークの管理」 \(P.7-30\)](#) を参照)
- [ユーザ権限](#) ([「ユーザ権限の管理」 \(P.7-34\)](#) を参照)
- [ユーティリティ](#) ([「Cisco VXC Manager のユーティリティの使用法」 \(P.7-38\)](#) を参照)
- [診断レポート](#) ([「診断レポートの生成」 \(P.7-44\)](#) を参照)
- [Certificate Expiration Tracker](#) ([「Certificate Expiration Tracker の使用法」 \(P.7-45\)](#) を参照)

## グループタイプの管理

グループタイプにより、デバイスと更新を容易に編成、管理するうえで必要なビューを作成（「ビルド」）できます。必要なグループタイプを作成したら、管理する必要があるデバイス（特定の建物内の特定サブネット上の WTOS デバイスなど）からなるビューを作成し、（Device Manager など）このビューを使用できます。これにより、デバイスを迅速に検出して作業を行うことができます。

便宜上、Cisco VXC Manager にはデフォルトの事前定義グループタイプ（OS、Platform、Image/Firmware Image Number、Subnet、Location、TimeZone、VendorID、Custom1、Custom2、および Custom3）があります。Cisco VXC Manager では、カスタムグループタイプが必要な場合にはカスタムグループタイプも作成できます。事前定義のグループタイプとカスタムグループタイプを組み合わせて使用することで、詳細なビューを実現できます（ビューの作成については、[「ビューの管理」 \(P.7-3\)](#) を参照してください）。グループタイプとビューの詳細については、[「グループタイプとビューについて」 \(P.A-1\)](#) を参照してください。

このセクションでは、次の情報について説明します。

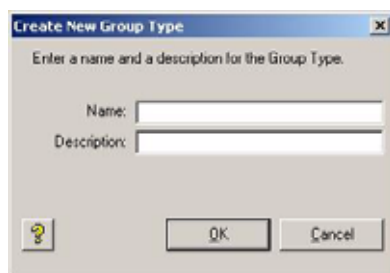
- [「カスタムグループタイプの作成」 \(P.7-2\)](#)
- [「カスタムグループタイプの編集」 \(P.7-3\)](#)
- [「カスタムグループタイプの削除」 \(P.7-3\)](#)

## カスタムグループタイプの作成

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Group Types] を右クリックして [New] > [Group] を選択し、[Create New Group Type] ダイアログボックスを開きます。

図 7-2 Create New Group Type



**ステップ 2** 名前と説明を入力します。

**ステップ 3** [OK] をクリックします。グループ タイプが使用可能なグループ タイプのリストに表示されます。このリストは、デバイスをグループに割り当てるときに使用できます（「[グループへのデバイスの割り当て](#)」(P.A-3) を参照）。

## カスタム グループ タイプの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Group Types] をクリックします。編集するグループ タイプを右クリックして [Properties] を選択し、[Edit Group Type] ダイアログボックスを開いて使用します。事前定義のグループ タイプは編集できない点に注意してください。

## カスタム グループ タイプの削除

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Group Types] をクリックします。削除するグループ タイプを右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。事前定義のグループ タイプは削除できない点に注意してください。

## ビューの管理

Cisco VXC Manager のビューでは、デバイスを機能に基づいて視覚的に編成または「フィルタリング」できます。これにより、デバイスの管理が容易になります。ビューは、フォルダ グループの階層で構成されています。これらのフォルダは、グループ タイプ別（事前定義またはカスタム）、グループ インスタンス別（グループ タイプ内）、またはこれらの組み合わせです。グループ タイプとビューの詳細については、「[グループ タイプとビューについて](#)」(P.A-1) を参照してください。

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 「[ビューの作成](#)」(P.7-4)
- 「[ビューの編集](#)」(P.7-5)
- 「[ビューの削除](#)」(P.7-5)
- 「[Advanced View Configuration のオプションの使用法](#)」(P.7-5)

## ビューの作成



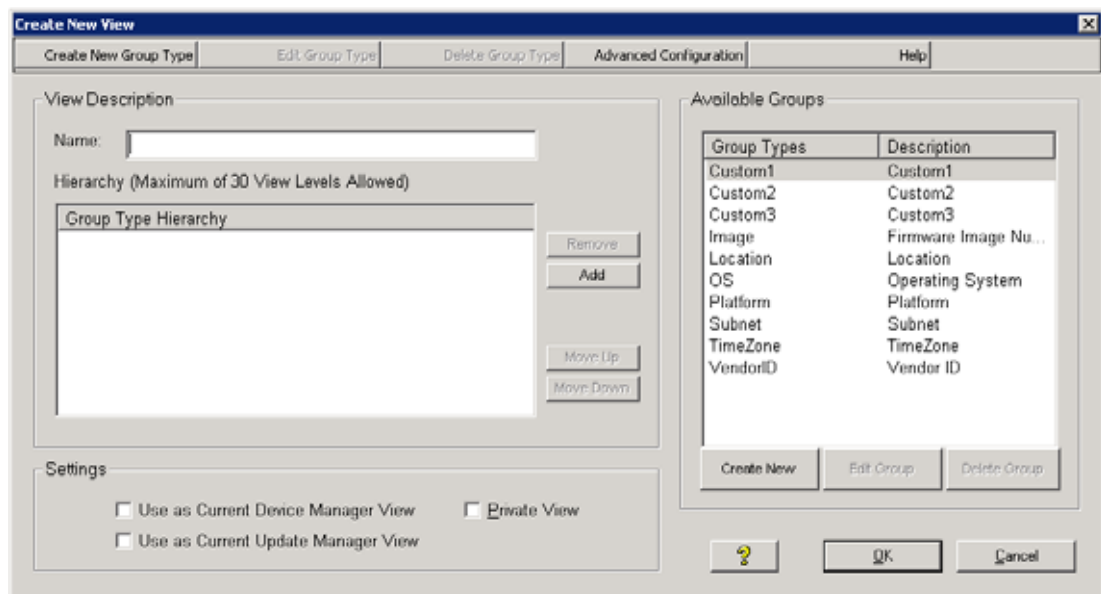
### ヒント

ビューを作成（「ビルド」）するために必要なグループ タイプをすでに作成していることを確認してください（「グループ タイプの管理」(P.7-2) を参照）。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[View] を右クリックして [New] > [View] を選択し、[Create New View] ダイアログボックスを開きます。

図 7-3 Create New View



- ステップ 2** ビューを作成するには、以下のガイドラインに従います。
- ビューの名前を入力します（名前を入力しておく、後でビューをすぐに認識できます）。
  - [Available Groups] リストから使用するグループ タイプを選択し、[Group Type Hierarchy] ペインに追加します（[Add] をクリックしてグループ タイプをダブルクリックするか、または所定の位置までグループ タイプをドラッグ アンド ドロップします）。また、[Create New]、[Edit Group]、および [Delete Group] コマンド ボタンを必要に応じて使用することもできます。「グループ タイプの管理」(P.7-2) を参照してください。
  - 引き続きビューに追加するグループ タイプを [Available Groups] リストから選択できます（最大 30 レベルまで）。
  - グループ タイプをビューに追加するときには、[Group Type Hierarchy] リストから項目を選択し、必要に応じて [Remove]、[Move Up]、[Move Down] コマンド ボタンを使用し、ビューのグループ タイプ階層を作成できます。
  - 現在作成しているビューが、Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] をクリックしたときにデフォルト ビューとして自動的に表示されるようにするには、[Use as Current Device Manager View] チェックボックスをオンにします。以前のデフォルト ビューはこの新しいデフォルト ビューに置き換わります（以前のデフォルト ビューは [Select Current Manager View] リストに移動されます。これはビューを切り替えるときに使用できるリストです）。

- 現在作成しているビューが、更新作成プロセスで自動的に選択され、Administrator Console のツリー ペインで [Update Manager] をクリックしたときにデフォルト ビュー (スケジュールされている Cisco VXC Manager パッケージを表示する際のデフォルト) として表示されるようにするには、[Use as Current Update Manager View] チェックボックスをオンにします。以前のデフォルト ビューはこの新しいデフォルト ビューに置き換わります (以前のデフォルト ビューは [Select Current Manager View] リストに移動されます。これはビューを切り替えるときに使用できるリストです)。
- 作成している現在のビューをユーザ自身だけが使用できるようにするには、[Private View] チェックボックスをオンにします。このチェックボックスをオフにすると (デフォルト)、Cisco VXC Manager を使用する権限のあるすべての管理者に対してビューが使用可能になります。



**ヒント** また、[Advanced Configuration] コマンド ボタンを使用して、「[Advanced View Configuration のオプションの使用法](#)」(P.7-5) で説明する詳細な設定を行うことができます。

**ステップ 3** ビューの設定が完了したら、[OK] をクリックして使用可能なビューにこのビューを追加します。

## ビューの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Views] をクリックします。編集するビューを右クリックして [Properties] を選択し、[Edit View] ダイアログボックスを開いて使用します。

## ビューの削除

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Views] をクリックします。削除するビューを右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。



**ヒント** Device Manager または Update Manager のいずれかで現在使用されているビューは削除されません (ビューを削除する前に、別のビューに切り替える必要があります)。

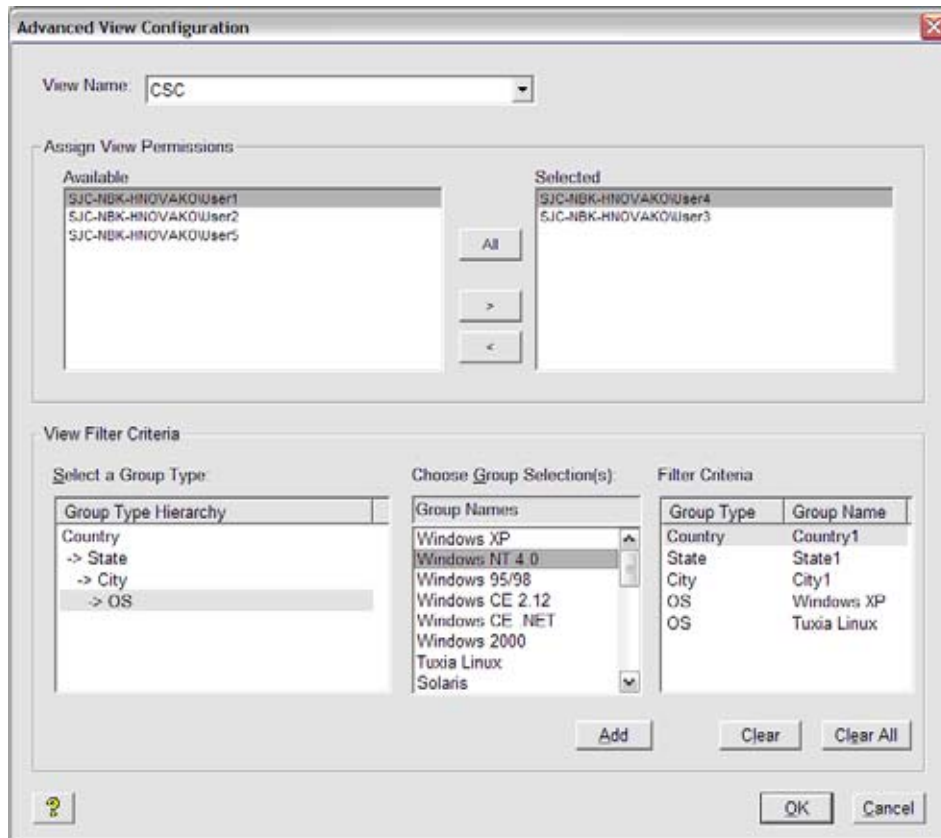
## Advanced View Configuration のオプションの使用法

管理者は Advanced View Configuration のオプション ([Assign View Permissions] と [View Filter Criteria]) を使用すると、ビューでユーザとデバイスを容易に管理できるようになります。

### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Views] をクリックします。Advanced View Configuration のオプションを使用して設定するビューを右クリックして [Advanced Filter] を選択し、[Advanced View Configuration] ダイアログボックスを開いて使用します。

図 7-4 Advanced View Configuration



**ステップ 2** 次のガイドラインに従います。

- 選択したビューへのアクセス権限を複数のユーザに付与するには、[Available] リストでユーザを選択し、コマンド ボタンを使用して（またはユーザをダブルクリックして）ユーザを [Selected] ペインに割り当てます（有効なすべてのユーザを割り当てるには [All] を使用します）。
- ビューのグループ タイプ階層のグループ タイプにフィルタ条件を割り当てるには、[Select a Group] リストからグループを選択し、そのグループで選択可能なグループ選択項目を表示します。[Group Selections] リストからビューのフィルタ条件に組み込む項目を選択し、この項目を ([Add] をクリックするかまたは項目をダブルクリックして) [Filter Criteria] ペインに追加します（選択を解除するには、必要に応じて [Clear] または [Clear All] を使用します）。

**ステップ 3** 使用する Advanced View Configuration オプションを選択したら、[OK] をクリックします。

## デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理

デフォルト デバイス コンフィギュレーション (DDC) 機能を使用してデバイス グループのデフォルト コンフィギュレーションを設定できます。この機能により、デバイスがコンフィギュレーションに準拠します。デフォルト コンフィギュレーションから逸脱している場合、Cisco VXC Manager はデバイスを指定されたコンフィギュレーションに戻します。この機能により、障害発生デバイスのリカバリ、既存のデバイスの目的の再定義、既存のインフラストラクチャへの新規デバイスの追加が自動化されます。



注意

デバイスを自動的に更新するために DDC を作成して割り当てる前に、DDC として割り当てる設定、アプリケーション、またはイメージ更新が含まれている適切な Cisco VXC Manager パッケージを登録しておく必要があります。[Default Device Configuration] ダイアログボックスの [Enable Default Device Configuration] オプションも選択する必要があります（「Device Manager Preferences」(P.7-12) を参照）。

このセクションでは、次の情報について説明します。

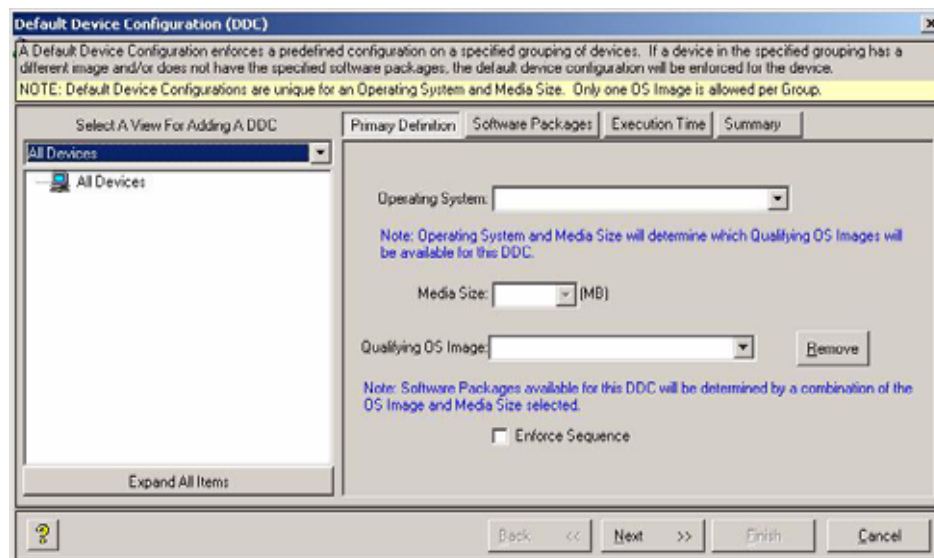
- 「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの作成と割り当て」(P.7-7)
- 「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの編集」(P.7-10)
- 「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの削除」(P.7-10)
- 「デフォルト デバイス コンフィギュレーションの要約の表示」(P.7-11)

## デフォルト デバイス コンフィギュレーションの作成と割り当て

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] を右クリックして [New] > [Default Device Configuration] を選択し、[Default Device Configuration Wizard] を開きます。

図 7-5 Default Device Configuration ウィザード—[Primary Definition] タブ



- ステップ 2** [Primary Definition] タブで次のガイドラインに従います。

- [Select A View For Adding A DDC] : DDC を割り当てるデバイスのグループが含まれているビューを選択します。ビューを選択すると、[View Hierarchy] ペインにそのビューのさまざまなグループとレベルが表示されます（ビュー内のすべてのレベルを表示するには [Expand All Items] を使用します）。[View Hierarchy] ペインで、DDC を割り当てるデバイスが含まれているグループフォルダを選択します。
- [Operating System] : DDC を割り当てるデバイスのオペレーティング システムを選択します。

- [Media Size] : DDC を割り当てるデバイスのメディア サイズ (MB 単位) を入力します。DDC で使用される Cisco VXC Manager パッケージの Cisco VXC Manager スクリプト パッケージ ファイルでは、[Version] セクションの imagesize パラメータにターゲット デバイスのメディア サイズ値が指定されている必要があります (例 : Imagesize=32)。スクリプトの詳細については、「Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool およびスクリプト言語」 (P.H-1) を参照してください。



**ヒント** ThreadX デバイスの場合メディア サイズは 0 でなければなりません。

- [Qualifying OS Image] : 割り当てる DDC のベースにする OS に関連付けられているイメージを選択します (イメージの選択は必須ではありません。イメージングを行わない場合はリストから [No Image] を選択できます。イメージを選択せずに設定とその他のアドオンを選択します)。イメージを選択する場合は、Device Manager で表示されるイメージ番号に対応する名前をイメージ パッケージに付ける必要があります。
- [Remove] : [Remove] ボタンをクリックすると、DDC のグループに関連付けられているイメージが削除されます。このボタンは、DDC 定義からグループを削除するときに使用します。



**ヒント** ビューの異なるフォルダに異なるイメージとパッケージを割り当てることができます。

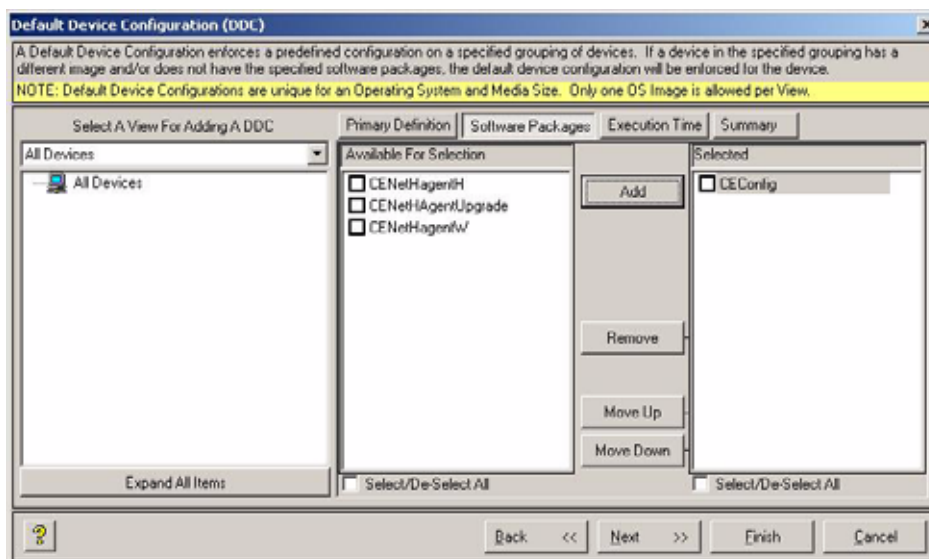
- [Enforce Sequence] : DDC に含める Cisco VXC Manager パッケージを、デバイスで使用できる唯一のパッケージにする (その他のパッケージはそのデバイスに送信できないようにする) かどうかに基づいて、[Enforce Sequence] を選択または選択解除します。



**注意** [Enforce Sequence] を選択すると、DDC プロセス外部でデバイスに送信またはスケジュールされているすべての Cisco VXC Manager パッケージの妨げとなります。

**ステップ 3** 設定を行ったら、[Next] をクリックして [Software Packages] タブを表示します。

図 7-6 Default Device Configuration ウィザード—[Software Packages] タブ



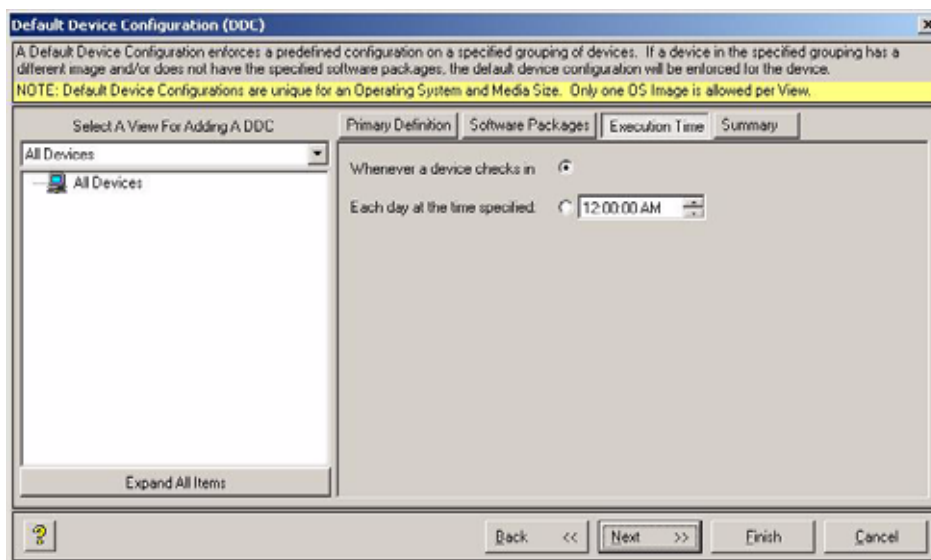
**ステップ 4** [Available For Selection] リストから、DDC に組み込む Cisco VXC Manager パッケージを選択し、[Add] をクリックします。選択されたパッケージが [Selected] リストに移動します。



**ヒント** [Add] と [Remove] を使用して、必要な数のパッケージを [Selected] リストとの間で移動できます。[Available For Selection] リストまたは [Selected] リストですべてのパッケージのチェックボックスをオンまたはオフにするには、[Select All]/[De-Select All] を使用します。[Selected] リストでの Cisco VXC Manager パッケージの順序を変更するには、[Move UP] と [Move Down] を使用します。リストされているソフトウェア パッケージにマウス カーソルを合わせると、該当するパッケージの説明がツールチップに表示されます。

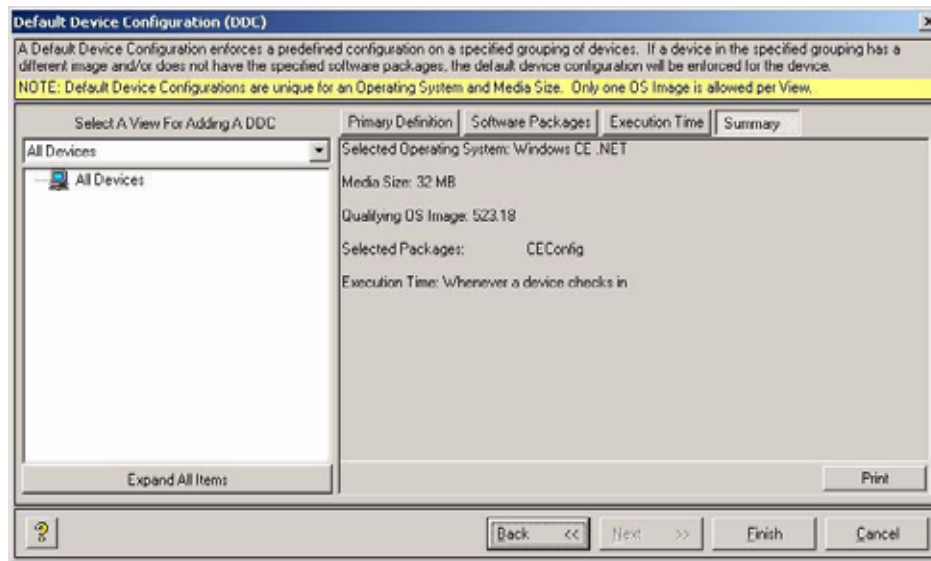
- ステップ 5** (任意) ビュー内の特定のグループに異なる OS イメージとソフトウェア パッケージを追加するには、[Primary Definition] タブに戻り、グループごとにステップ 2 から 4 を実行します。
- ステップ 6** 設定を行ったら、[Next] をクリックして [Execution Time] タブを表示します。

図 7-7 Default Device Configuration ウィザード—[Execution Time] タブ



- ステップ 7** DDC 調整のオプションとして [Whenever a device checks in] または [Each day at the time specified] のいずれかを選択します ([Each day at the time specified] オプションを選択する場合は、必ず時刻を入力または選択してください)。
- ステップ 8** 設定を行ったら、[Next] をクリックして [Summary] タブを表示します。

図 7-8 Default Device Configuration ウィザード-[Summary] タブ



**ステップ 9** [Summary] タブを表示し、DDC が適切に設定されていることを確認し（適切に設定されていない場合は [Back] をクリックして変更を行います）、[Finish] をクリックします。新たに割り当てた DDC が詳細ペインに表示されます。

DDC はそのオペレーティング システムとメディア サイズによって識別されます。次回にビュー内の指定したデバイスがチェックインするかまたは検出され、オペレーティング システムとメディア サイズの条件を満たす場合、このデバイスは自動的に DDC に割り当てられます。



ヒント

Cisco VXC Manager システムでの DDC の要約の表示については、「[デフォルト デバイス コンフィギュレーションの要約の表示](#)」(P.7-11) を参照してください。

## デフォルト デバイス コンフィギュレーションの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。編集する DDC を右クリックして [Properties] を選択し、[Edit Default Device Configuration] ダイアログボックスを開いて使用します。

## デフォルト デバイス コンフィギュレーションの削除

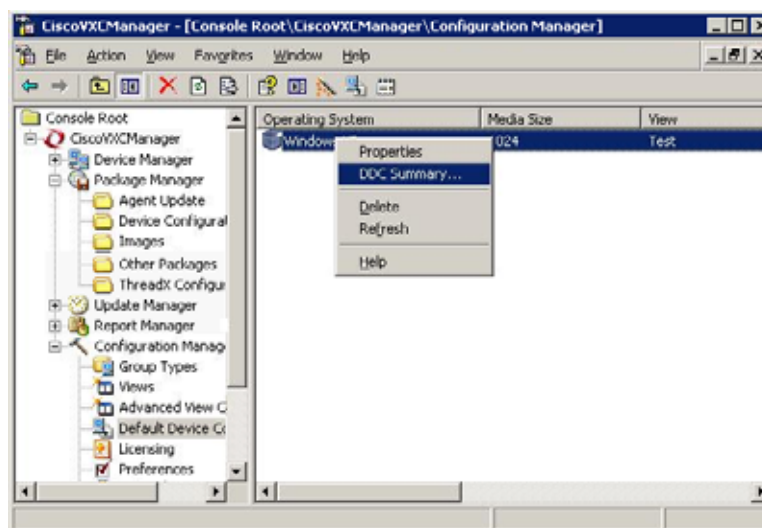
Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] をクリックします。削除する DDC を右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。

## デフォルト デバイス コンフィギュレーションの要約の表示

### 手順

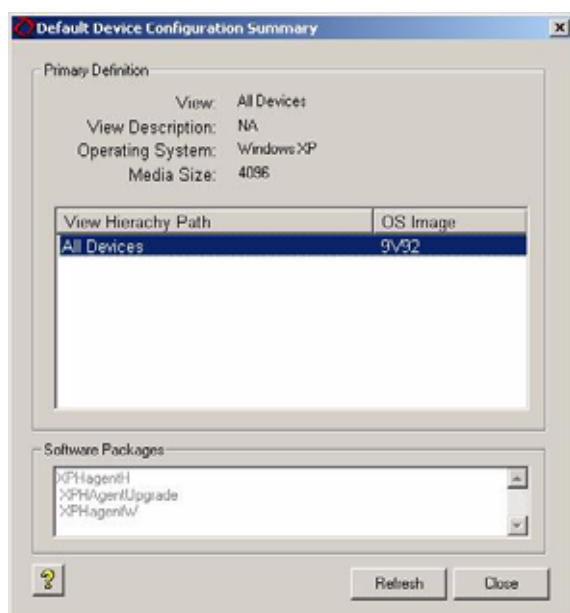
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Default Device Configuration] を選択し、既存の DDC を表示します。
- ステップ 2** 要約を表示する DDC を右クリックし、[DDC Summary] を選択します。

図 7-9 [DDC Summary Option] を選択します



- ステップ 3** 特定の DDC の [Summary] ページが表示されます。

図 7-10 DDC Summary



# プリファレンスの設定

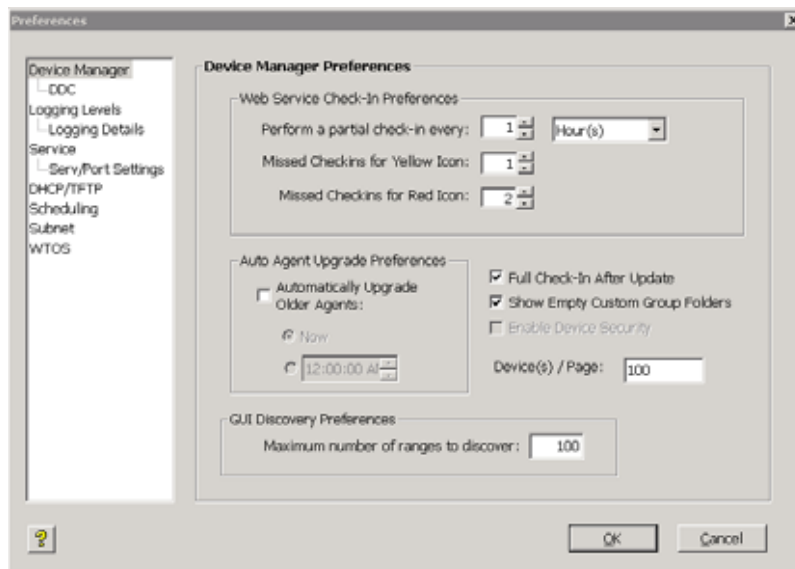
## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Preferences] をクリックします。詳細ペインに設定可能なプリファレンスのリストが表示されます。
- ステップ 2** 設定するプリファレンスの名前をダブルクリックし、[Preference] ダイアログボックスを開いて使用します。
- ステップ 3** 設定するプリファレンスに応じて、以下の項目を参照してください。
- 「Device Manager Preferences」 (P.7-12)
  - 「Logging Preferences」 (P.7-14)
  - 「Service Preferences」 (P.7-17)
  - 「DHCP/TFTP Preferences」 (P.7-22)
  - 「Scheduling Preferences」 (P.7-23)
  - 「Subnet Preferences」 (P.7-25)
  - 「WTOS Preferences」 (P.7-25)

## Device Manager Preferences

プリファレンス リストで [Device Manager Preferences] をクリックすると、[Device Manager Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-11 Device Manager Preferences

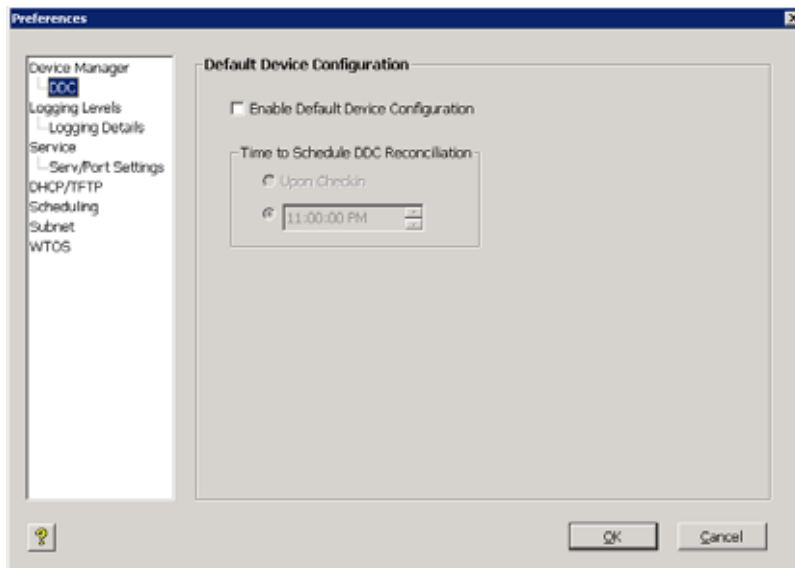


次のガイドラインに従います。

- [Web Service Check-In Preferences] エリア：
  - [Perform a partial check-in every] : すべてのデバイスの部分チェックインの実行頻度を設定します。数値と時間の単位（分、時間、日）を選択します。デフォルトは1時間です。部分チェックインは、デバイスのヘルス ステータス（赤色、黄色、緑色）を確認する目的で、指定された間隔で定期的に行われます。部分チェックインの実行に必要なネットワーク帯域幅は、完全チェックインの場合よりも少なくなります（これは、数千のデバイスが含まれている大規模な Cisco VXC Manager 環境では重要です）。チェックイン頻度を変更する場合、以前に設定されたチェックイン時刻を過ぎるか、またはデバイスが更新されるまでは変更が反映されません。
  - [Missed Check-ins for Yellow Icon] : デバイスのアイコンが、デバイスに問題がある可能性を示す黄色になる条件となる未実行チェックインの数を選択します。
  - [Missed Check-ins for Red Icon] : デバイスのアイコンが、デバイスに重大な問題がある可能性を示す赤色になる条件となる未実行チェックインの数を選択します。
- [Auto Agent Upgrade Preferences] エリア：
  - [Automatically Upgrade Older Agents] : Cisco VXC Manager Agent の Auto-Agent Upgrade を有効にする場合に選択します。選択した場合は、[Now]（Cisco VXC Manager によりエージェントが検出される時に古いエージェントをアップグレードする）または [Clock]（Cisco VXC Manager が Cisco VXC Manager Agent の古いバージョンを検出した後で、これらの古いバージョンを更新する時刻を設定する）のいずれかのオプションを選択します（Agent アップグレード トランザクションによってネットワークに過負荷が生じないようにするため、ネットワーク アクティビティが少ない時間を選択してください）。
  - [Full Check-In After Update] : デバイスが Cisco VXC Manager パッケージを受け取り、このパッケージの中のファイルを実行した後で、デバイスが Web サービスでチェックインを行うようにする場合に選択します。
  - [Show Empty Custom Group Folders] : ビューのカスタム グループ タイプを作成するときに Device Manager に空のフォルダを表示する場合に選択します（デバイス編成に対するこのオプションの影響については、「[Show Empty Custom Group Folders] オプションについて」（P.A-2）を参照してください）。
  - [Enable Device Security] : Cisco VXC Manager Agent が許可された Cisco VXC Manager だけで管理されるようにする場合に選択します（Cisco VXC Manager セキュリティの詳細については、「Cisco VXC Manager のセキュリティについて」（P.B-1）を参照してください）。
  - [Device(s) / Page] : [Device] ページに表示するデバイスの数を選択します。
- [GUI Discovery Preferences] エリア：
  - [Maximum number of ranges to discover] : 検出する範囲の最大数を入力します。

[Device Manager] ツリーの [DDC]（デフォルト デバイス コンフィギュレーション）をクリックすると、[Default Device Configuration] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-12 Default Device Configuration



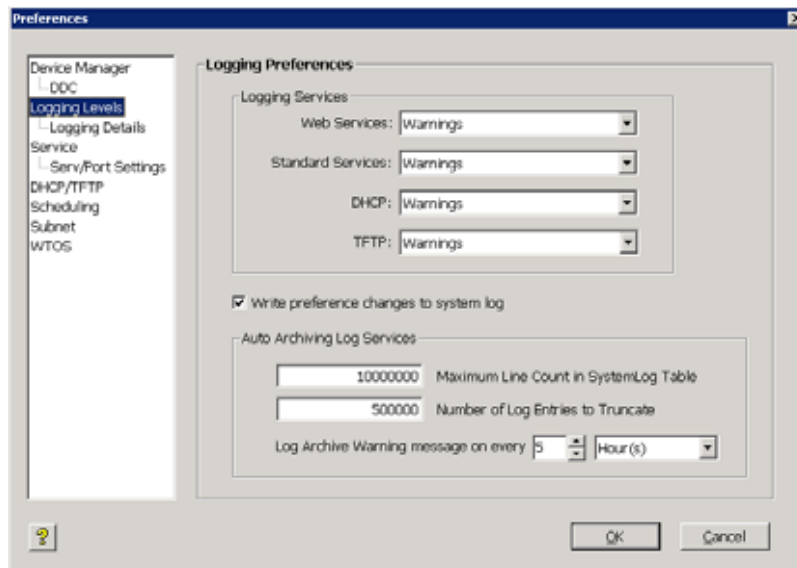
次のガイドラインに従います。

- [Enable Default Device Configuration] : デバイスが自動アップグレードに DDC 使用できるようにする場合に選択します（「[デフォルト デバイス コンフィギュレーションの管理](#)」(P.7-6) を参照）。
- [Time to Schedule DDC Reconciliation] エリア : Web サービスを使用してデバイスのチェックインが実行される場合に DDC を実行するには [Upon Check-in] オプションを選択します。特定の時刻以降に DDC を実行する場合にその時刻を指定するには **カスタム時刻** を指定します（これは、DDC が調整される実際の時刻ではない点に注意してください。実際の時刻は、[Device Manager Preferences] ダイアログボックスで設定したチェックインの頻度によって異なります）。

## Logging Preferences

プリファレンス リストで [Logging Preferences] をダブルクリックすると、[Logging Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-13 Logging Preferences



次のガイドラインに従います。

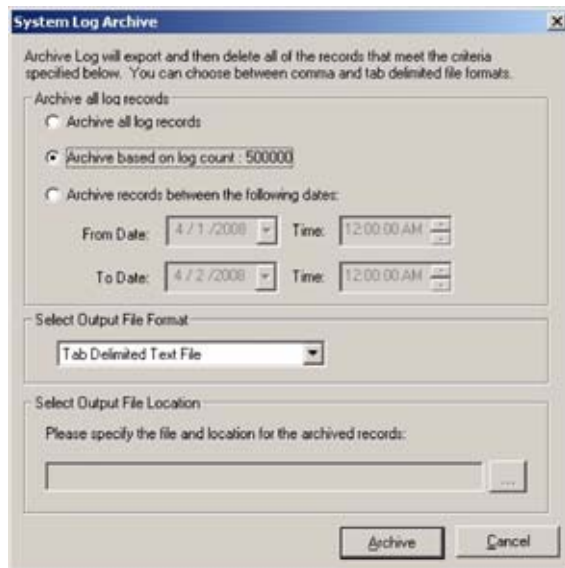
- [Logging Services] エリア：各通信プロトコルのログ レベルを選択します。次のオプションが用意されています。
  - [Errors]：単純なエラー メッセージを記録します。
  - [Warning]：エラー メッセージと警告を記録します（デフォルト オプション）。
  - [Informational]：エラー メッセージ、警告メッセージ、およびその他の情報項目を記録します。
  - [Debug]：[Errors]、[Warning]、[Informational] のすべてのメッセージと、トラブルシューティングに役立つ可能性があるその他のデバッグ データを記録します。
- [Write Preferences changes to system log]：システム ログ テーブルのログ レベルの変更を維持する場合に選択します。
- [Auto Archiving Log Services] エリア：システム ログ テーブルのサイズと警告メッセージの頻度を設定します。
  - [Maximum Line Count in SystemLog Table]：アーカイブが実行されるまでに記録できるレコードの数を入力します。有効な値は 500000 ~ 10000000 です（デフォルト値は 10000000 です）。
  - [Number of Log Entries to Truncate]：アーカイブされるレコードの数を入力します。有効な値は、[Maximum Line Count in SystemLog Table] の設定値に応じて異なります。最大行数が 5000 の場合、切り捨て対象ログ エントリ数の有効な値は 500 ~ 4999 です。最大行数が 10000000 に設定されている場合、切り捨て対象ログ エントリの有効な値は 500 ~ 999999 です。



**ヒント** [Number of Log Entries to Truncate] の値は常に、[Maximum Line Count in SystemLog Table] の値よりも小さくなります。

- [Log Archive Warning message on every]：循環ログ警告メッセージの表示間隔を編集します（デフォルトの間隔は 5 時間ごとです）。[Maximum Line Count in SystemLog Table] に設定した値を超えると、Archive Logs 警告メッセージが表示されます。行数が設定されている制限を初めて超えるとすぐに警告メッセージが表示されます。[OK] を選択すると、[System Log Archive] ウィンドウが表示されます（[Cancel] を選択すると、設定されている次の警告メッセージ間隔で警告が表示されます）。

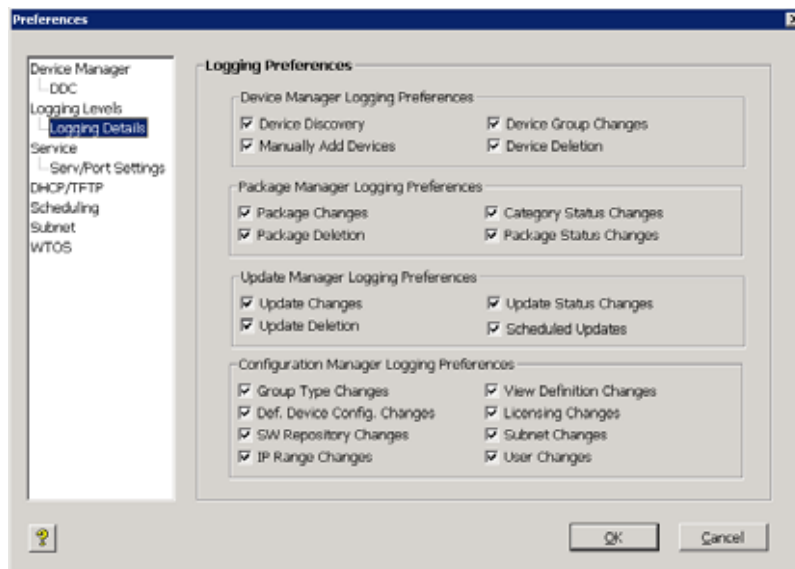
図 7-14 [System Log Archive] ウィンドウ



オプションとリストメニューを使用して、アーカイブするログ、出力ファイル形式、および出力ファイルの場所を選択します。設定が完了したら、[Archive] をクリックします。

[Logging Levels] ツリーの [Logging Details] をクリックすると [Logging Details Preferences] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスで、さらに詳細な内容を選択できます。

図 7-15 Logging Details Preferences



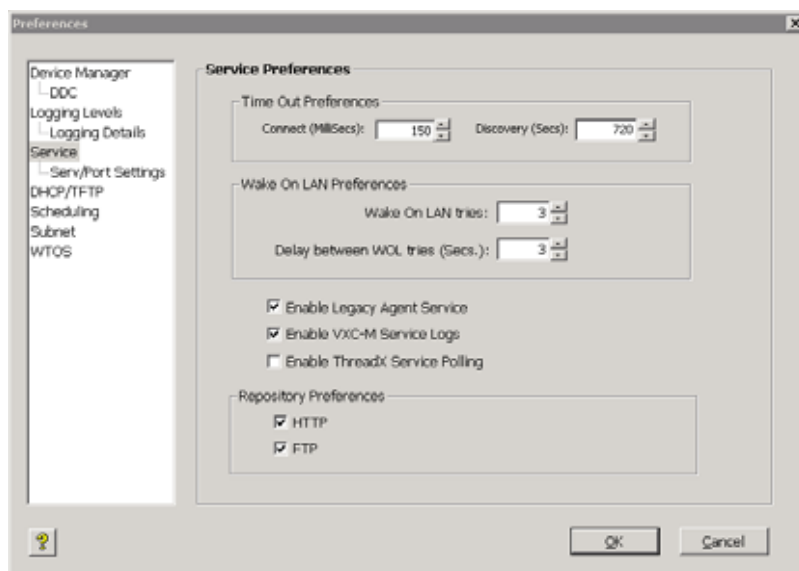
## ヒント

[Category Status Changes] は、Cisco VXC Manager パッケージのカテゴリが変更されたかどうかを示します（たとえば、Cisco VXC Manager パッケージのスクリプト ファイルを編集して Image から Client Configuration に変更した場合など）。[Package Status Changes] は、パッケージのステータスがアクティブから非アクティブ、または非アクティブからアクティブに変わったかどうかを示します。

## Service Preferences

プリファレンス リストで [Service Preferences] をダブルクリックすると、[Service Preferences] ダイアログボックスが表示されます。このダイアログボックスを使用して、グローバル サービス プリファレンスとリポジトリ通信プリファレンスを設定します。

図 7-16 Service Preferences



次のガイドラインに従います。

- [Time Out Preferences] エリア : [Connect (Millisecs)] (Cisco VXC Manager が、タイムアウトになるまでに Web サービスまたは標準サービスを使用してデバイスへの接続を試行する期間 (ミリ秒単位)) と [Discovery (Secs)] (Cisco VXC Manager がネットワーク内のすべてのデバイスを検出するための時間として割り当てられる最大時間) を選択します。
- [Wake On LAN Preferences] エリア : [Wake On LAN Retries] (サービスが停止するまでに WOL コマンドを試行する回数) と [Delay between WOL Retries (Secs)] (Cisco VXC Manager が別の WOL コマンドを同じデバイスに対して試行する前に一時停止する期間の長さ) を選択します。
- [Enable Legacy Agent Service] : 古いバージョンの Cisco VXC Manager Agent と通信する場合に選択します。
- [Enable Cisco VXC Manager Service Logs] : Cisco VXC Manager の始動時にサービス ログを開始または停止するには、このオプションをオンにします。
- [Repository Preferences] エリア : [HTTP] または [FTP]、あるいはこの両方を転送プロトコルとして選択します。[Repository Preferences] の設定により、クライアントデバイスでの Cisco VXC Manager パッケージの登録、Cisco VXC Manager パッケージの削除、リモート リポジトリ同期、および Cisco VXC Manager パッケージの更新の実行時に、リポジトリとの通信に使用するプロトコル (**HTTP** または **FTP**) が決定します。



**ヒント** これは、Cisco VXC Manager Administrator Console の起動時にのみ適用されるグローバル オプションです。特定のセッションのサービス ログを開始または停止するには、[CiscoVXCManager] を右クリックし、表示される [Stop Service Log]/[Start Service Log] トグル オプション (図 7-18 および図 7-18 を参照) を使用してサービス ログを開始または停止します。

**注意**

マスター ソフトウェア リポジトリは、[Repository Preferences] で選択されているプロトコルをサポートしている必要があります。Cisco VXC Manager パッケージ登録と Cisco VXC Manager パッケージ更新のリポジトリ プリファレンスがクライアント デバイスに及ぼす影響については、表 7-1 および表 7-2 を参照してください。

図 7-17 Start Service Log

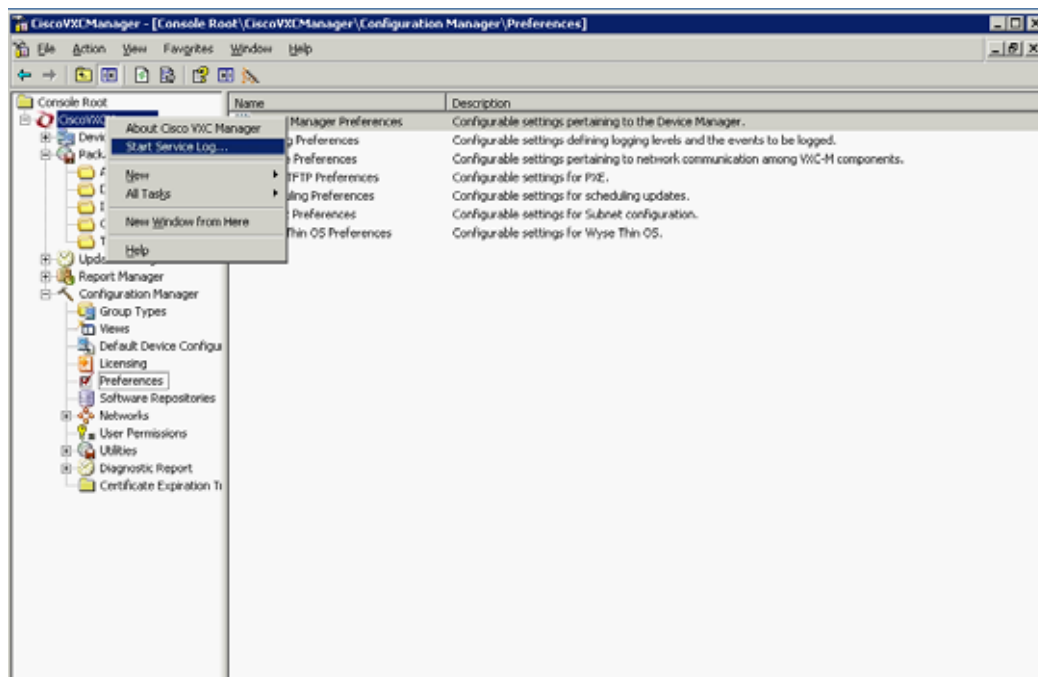


図 7-18 Stop Service Log

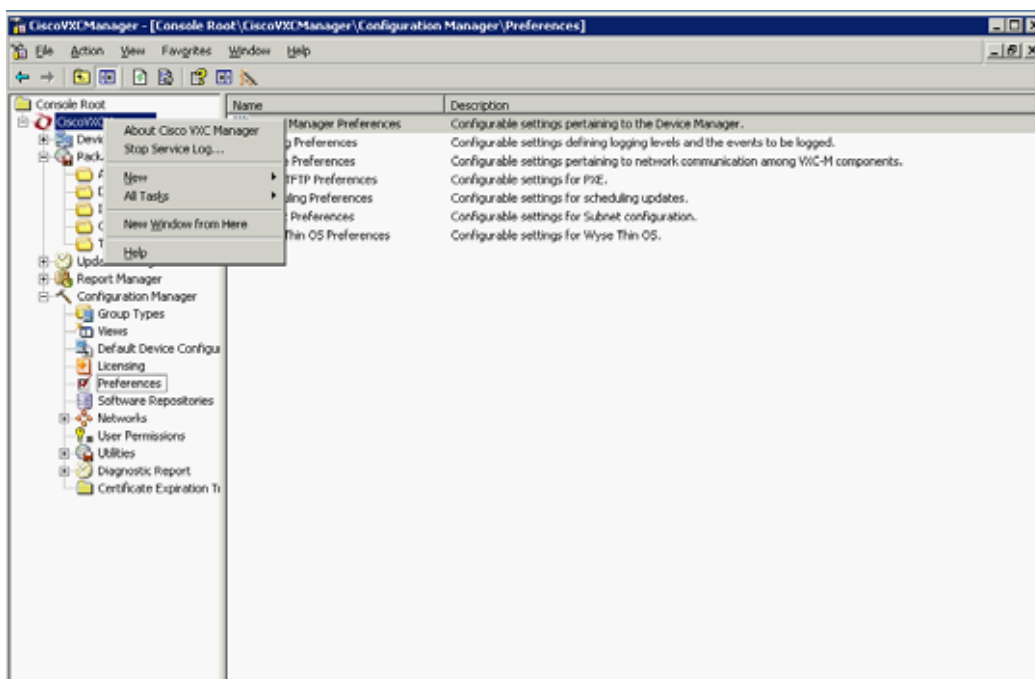


表 7-1 Cisco VXC Manager パッケージをマスター ソフトウェア リポジトリに登録するときに使用されるプロトコル

グローバル リポジトリ プリファレンス設定	マスター リポジトリ プリファレンス設定	Cisco VXC Manager 転送プロトコル
HTTP	HTTP (S)	HTTP (S) のみ
FTP	FTP	FTP のみ
FTP	HTTP (S) および FTP	FTP のみ
HTTP および FTP	HTTP (S) および FTP	HTTP (S) および FTP HTTP (S) が試行され、成功した場合は使用され、失敗した場合は FTP が使用されます。

表 7-2 Cisco VXC Manager パッケージをマスター ソフトウェア リポジトリに登録するときに使用されるプロトコル

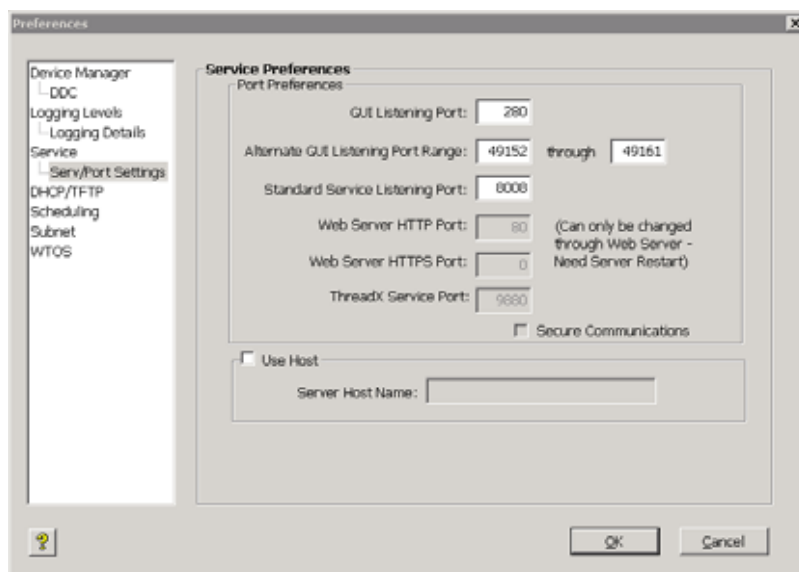
グローバル リポジトリ プリファレンス設定	クライアントで使用されるリポジトリのプリファレンス設定	パッケージの転送に使用されるプロトコル
HTTP	FTP	クライアント デバイスの HAgent はマスター HTTP (S) リポジトリだけを使用します
HTTP	HTTP (S) および FTP	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている HTTP (S) リポジトリだけを使用します

表 7-2 Cisco VXC Manager パッケージをマスター ソフトウェア リポジトリに登録するときに使用されるプロトコル (続き)

グローバル リポジトリ プリファレンス設定	クライアントで使用されるリポジトリのプリファレンス設定	パッケージの転送に使用されるプロトコル
FTP	FTP	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている FTP リポジトリだけを使用します
FTP	HTTP (S)	クライアント デバイスの HAgent はマスター FTP リポジトリだけを使用します
FTP	HTTP (S) および FTP	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている FTP リポジトリだけを使用します
HTTP および FTP	HTTP (S)	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている HTTP (S) リポジトリだけを使用します
HTTP および FTP	FTP	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている FTP リポジトリだけを使用します
HTTP および FTP	HTTP (S) および FTP	クライアント デバイスの HAgent は割り当てられている HTTP (S) リポジトリの接続をテストし、テストが正常に完了した場合は HTTP (S) 経由で割り当てリポジトリを使用します。  接続が失敗すると、HAgent は FTP 経由で割り当てリポジトリを使用します。

- [Service] ツリーの [Serv/Port Settings] をクリックし、[Serv/Port Settings Preferences] ダイアログボックスを開きます。

図 7-19 Serv/Port Settings Preferences



次のガイドラインに従います。

- [Port Preferences] エリア :
  - [GUI Listening Port]: Web サービスが着信 Cisco VXC Manager Agent 要求を待ち受けるポート。
  - [Standard Service Listening Port]: 標準サービスがデバイス チェックイン アクティビティを待ち受けるポート。
  - [Web Service HTTP Port]: Cisco VXC Manager がリアルタイム コマンド (クイック デバイス コマンドや特定の時点でのデバイス更新など) を実行するときに使用するポート。通常、このポートは 80 です。このポートは Web サーバだけで変更可能である点に注意してください。
  - [Web Service HTTPS Port]: Cisco VXC Manager がリアルタイム コマンド (クイック デバイス コマンドや特定の時点でのデバイス更新など) を実行するときに使用するポート。通常、このポートは 443 です。このポートは Web サーバだけで変更可能である点に注意してください。



#### 注意

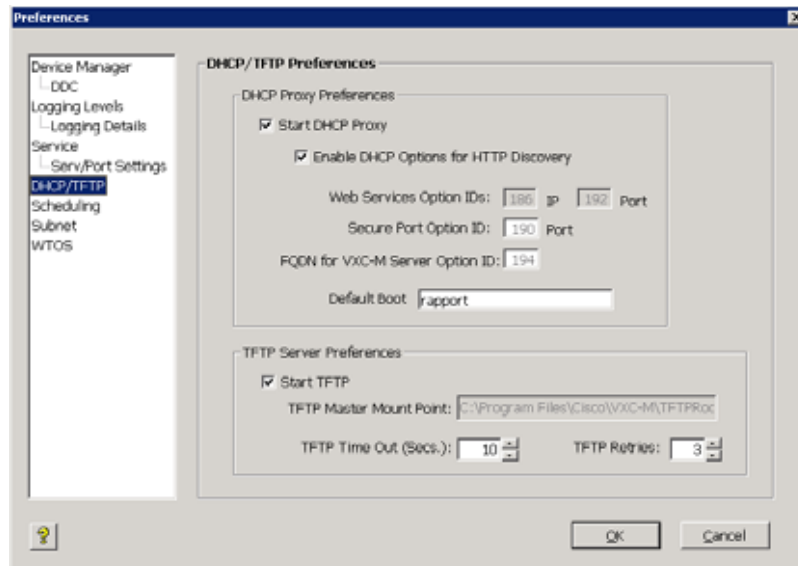
設定されているポート (HTTP または HTTPS) により、Cisco VXC Manager のコンポーネント間の通信プロトコルが決定します。

- [Secure Communications]: Cisco VXC Manager のコンポーネント (およびデバイス) 間の通信がセキュア (オン) であるかセキュアではない (オフ) かを示す読み取り専用ボックスです。

## DHCP/TFTP Preferences

プリファレンスリストの [DHCP/TFTP Preferences] をダブルクリックすると、[DHCP/TFTP Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-20 DHCP/TFTP Preferences



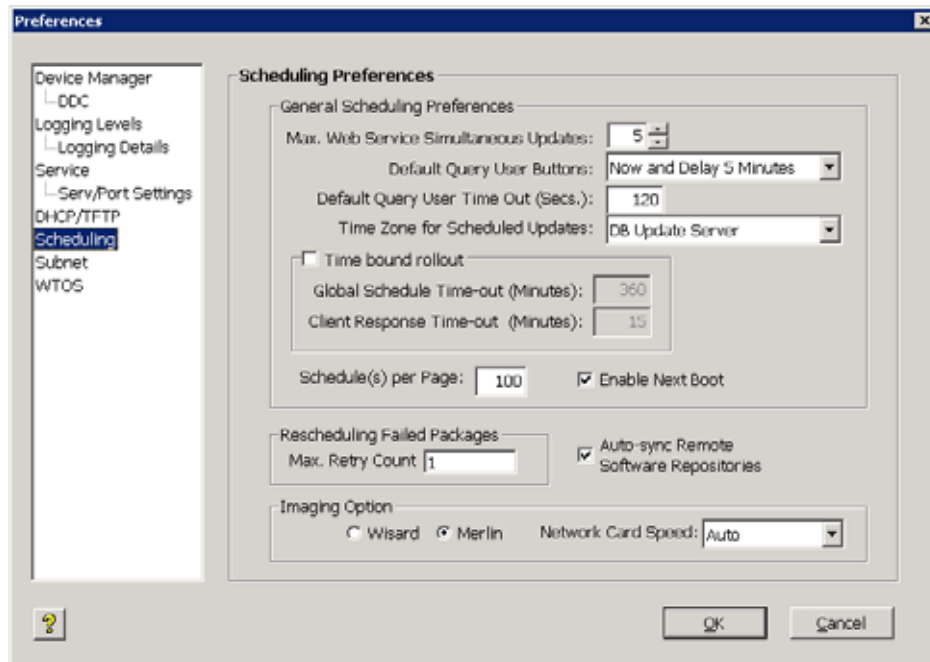
次のガイドラインに従います。

- [DHCP Proxy Preferences] エリア :
  - [Start DHCP Proxy] : Cisco VXC Manager を Dynamic Host Configuration Protocol (DHCP) プロキシとして使用可能にする場合に選択します。
  - [Enable DHCP Options for HTTP Discovery] : Web サービスがデバイスを検出する際に DHCP を使用できるようにする場合に選択します。
  - [Default Boot Image] : デフォルト ブート イメージが保存されているフォルダの名前を入力します。通常これはマスター リポジトリにより使用される FTP ホーム ディレクトリの下 Trivial File Transfer Protocol (TFTP) ルート ディレクトリです。
- [TFTP Server Preferences] エリア :
  - [Start TFTP] : Cisco VXC Manager がデバイスの更新時に TFTP を使用できるようにする場合に選択します。
  - [TFTP Master Mount Point] : インストール時に Cisco VXC Manager により設定された TFTP マウント ポイントを表示します。通常これはマスター リポジトリにより使用される FTP ホーム ディレクトリの下 TFTP ルート ディレクトリ (Cisco VXC Manager) です。
  - [TFTP Time Out (Secs.)] : Cisco VXC Manager が TFTP サービスへの接続を待機する期間 (秒単位) を指定します。この期間が経過すると、再接続が試行されます。
  - [TFTP Retries] : Cisco VXC Manager が TFTP サービスへの接続を試行する回数を指定します。この回数を超えると失敗になります。

## Scheduling Preferences

プリファレンス リストで [Scheduling Preferences] をダブルクリックすると、[Scheduling Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-21 Scheduling Preferences



次のガイドラインに従います。

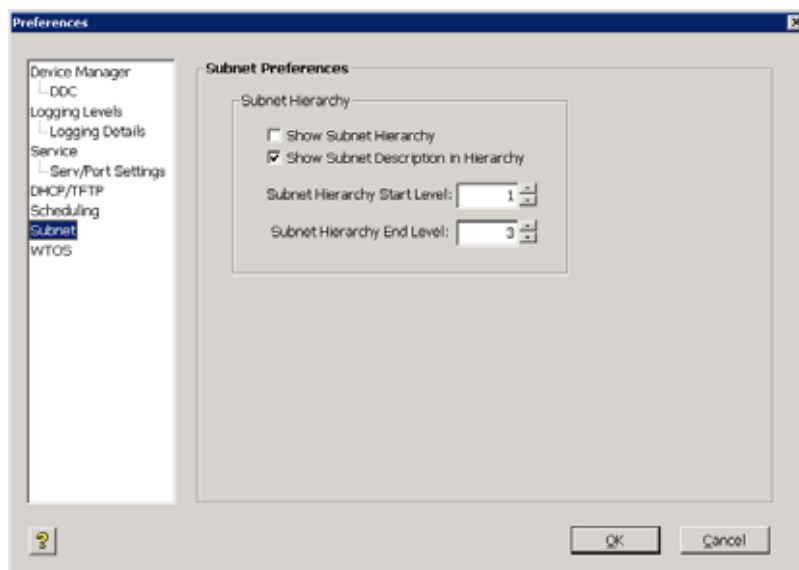
- [General Scheduling Preferences] エリア :
  - [Max. Web Service Simultaneous Updates]: Cisco VXC Manager Agent がインストールされているデバイスに対して Cisco VXC Manager が同時に実行できる更新の最大数を指定します。
  - [Default Query User Buttons] : リストに表示するオプションを選択します。この項目は、グローバル設定を上書きします。Cisco VXC Manager スクリプト パッケージ ファイル (.rsp ファイル) に QU が指定されているが引数が指定されていない場合、このボックスに指定されるデフォルトは、デバイス更新の一部として QU ステートメントが実行されるときにユーザに対して表示されるオプションを指定します。
  - [Default Query Time Out (Secs.)] : ユーザからの入力なしでスクリプトが実行されるまで、ユーザ オプションが表示される期間を指定します。
  - [Time Zone for Scheduled Updates] : デバイス更新をスケジュールするときに反映される Cisco VXC Manager の時間帯を選択します。オプションには、[DB Update Server] (Cisco VXC Manager Database の物理的な位置によって定義される時間帯)、[Console] (Cisco VXC Manager Administrator Console の物理的な位置によって定義される時間帯)、および [Device] (実際の更新を実行するデバイスの物理的な位置によって定義される時間帯) があります。たとえば、コンソールの時間帯が 0、Cisco VXC Manager Database が +1、デバイスが +2 の場合、時間帯として [Console] を選択し、1:00 PM に更新をスケジュールすると、それぞれの現地時間での更新実行時刻は、コンソールは 1:00 PM、データベースは 2:00 PM、デバイスは 3:00 PM になります。Cisco VXC Manager Database とデバイスで同じ設定を使用する場合、コンソールの現在時刻が 1:00 PM であり、1:00 PM に更新がスケジュールされているとすると、コンソールの時間帯の時間で示される更新実行時刻は、コンソールは 1:00 PM、Cisco VXC Manager Database は 12:00 PM、デバイスは 11:00 AM になります。

- [Schedule(s) / Page] : [Scheduled Packages] ページに表示するスケジュール済み Cisco VXC Manager パッケージの数を入力します。
- [Enable Next Boot] : 次回のリブート後に、Cisco VXC Manager によるデバイスの更新を許可する場合に選択します。
- [Time Bound Rollout] : スケジュールされている更新に対してガーベッジ コレクタ機能を有効または無効にします。選択すると、[Global Schedule Time-out] と [Client Response Time-out] の設定によって、スケジュールされている更新がエラーになるか、または永久的にスケジュール状態のままになるかが決定します。
  - [Global Schedule Time-out (Minutes)] : スケジュールされているが未実行のすべての更新がエラー状態になるまでの期間。
  - ・ [Client Response Time-out (Minutes)] : Cisco VXC Manager サーバが、Cisco VXC Manager によるクライアントへの通知送信が正常に完了した後にクライアントのチェックインを待機する期間。
- [Auto-sync Remote Repositories] : Cisco VXC Manager が、リモートリポジトリによりサービスされるデバイスに対して更新を実行する前に、Remote Repository を同期するかどうかを決定できるようにする場合に、選択します。
- [Rescheduling Failed Packages] エリア :
  - [Max. Retry Count] : Cisco VXC Manager パッケージの配布が失敗した場合の最大再試行回数を指定します。
- [Imaging Option] エリア : 次の2種類のデバイス イメージング方法のいずれかを選択します。
  - [WISard] : 従来のデバイス イメージング方式。イメージングを実行するには PXE が必要です。Cisco VXC には適用されません。
  - [Merlin] : FTP、HTTP、または HTTPS ベースのデバイス イメージングを有効にします。Cisco VXC では必須です。
- [Network Card Speed] : (Merlin イメージングのみ) 指定可能な値は [Auto]、[100M-F] (100 MBPS 全二重)、[100M-H] (100 MBPS 半二重)。

## Subnet Preferences

プリファレンス リストで [Subnet Preferences] をダブルクリックすると、[Subnet Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-22 Subnet Preferences



次のガイドラインに従います。

- [Show Subnet Hierarchy] : サブネット ビューにサブネットの階層ビューを含める場合に選択します。
- [Show Subnet Description in Hierarchy] : 階層サブネット ビューをサブネットのアドレスではなくサブネットの説明によって表示する場合に選択します。デフォルトの説明は常にサブネット IP である点に注意してください。
- [Subnet Hierarchy Start Level] : サブネット階層表示の開始レベルを指定します。レベルとは、サブネットアドレスの4つのオクテットの1つを指します。
- [Subnet Hierarchy End Level] : サブネット階層表示の終了レベルを指定します。レベルとは、サブネットアドレスの4つのオクテットの1つを指します。

## WTOS Preferences

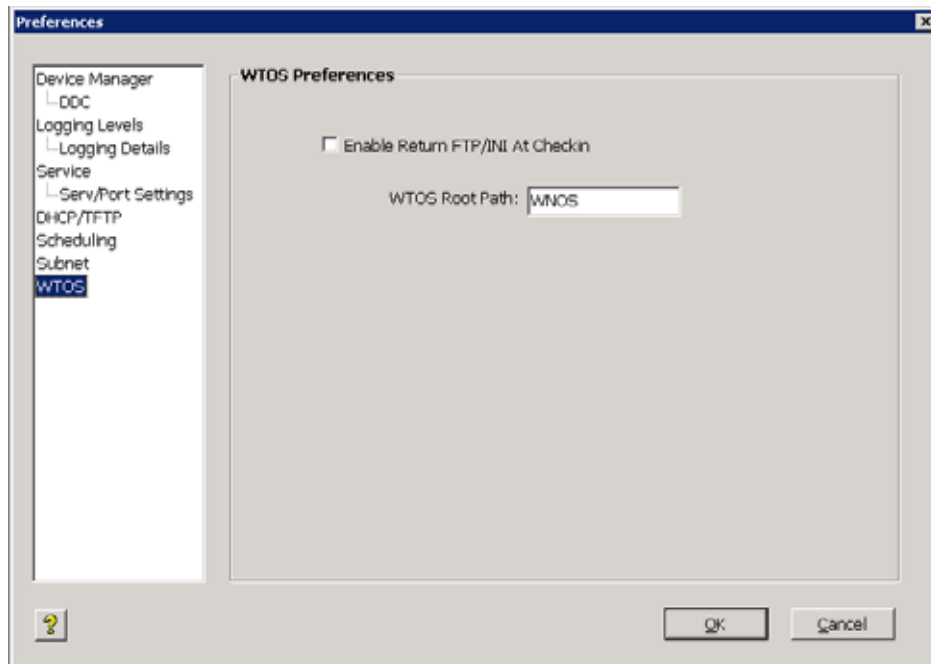


注意

このセクションの内容は、ICA 向け WTOS ファームウェアが実行されている Cisco VXC 2112/2212 クライアントにのみ適用されます。

プリファレンス リストで [WTOS Preferences] をダブルクリックすると、[WTOS Preferences] ダイアログボックスが表示されます。

図 7-23 WTOS Preferences



次のガイドラインに従います。

- [Enable Return FTP/INI At Checkin] : Cisco VXC Manager がデバイスの更新時にファイル転送プロトコル (FTP) を使用できるようにする場合に、選択します。
- [WTOS Root Path] : WTOS ルートパスを入力します。

## Cisco VXC Manager リポジトリについて

Cisco VXC Manager リポジトリは、通信プロトコルとして FTP、HTTP、および HTTPS プロトコルをサポートしており、Cisco VXC Manager パッケージが格納されているサーバです。Package Manager を使用して Cisco VXC Manager パッケージを登録すると、Cisco VXC Manager により Cisco VXC Manager パッケージの関連フォルダとファイルが Cisco VXC Manager リポジトリにコピーされます。Cisco VXC Manager には、マスター リポジトリとリモート リポジトリの 2 種類のリポジトリがあります。デフォルトでは、インストールされる各 Cisco VXC Manager には 1 つのマスター リポジトリがあります。マスター リポジトリは、すべての Cisco VXC Manager パッケージ ファイルが保管される中央のストレージです。

更新を配布すると、デバイスが (コンフィギュレーション設定に基づいて) FTP、HTTP、または HTTPS 経由でマスター リポジトリに接続し、パッケージのスクリプト ファイル (.rsp ファイル) に指定されているファイルをダウンロードします。Cisco VXC Manager と Cisco VXC Manager Agent は、マスター リポジトリとの間での適切な Cisco VXC Manager パッケージの送信/取得に FTP、HTTP、または HTTPS を使用します。

また、Cisco VXC Manager ではネットワークで複数のサブネットの複数のコンピュータにリモート リポジトリをインストールできます (「ソフトウェア リポジトリの管理」(P.7-27) を参照)。この拡張性により、複数のサブネットを介して更新を送信する必要がある場合のネットワーク トラフィックが減少します。ローカル リモート リポジトリを使用すると、特定サブネット上のデバイスがファイルを取得するためにワイドエリア ネットワーク (WAN) 経由でマスター リポジトリにアクセスする必要がなくなります。(Cisco VXC Manager は、Cisco VXC Manager パッケージの配布前にマスター リポジトリとリモート リポジトリを同期します)。

インストールされている Cisco VXC Manager にリモート リポジトリが含まれている場合、Cisco VXC Manager は特定のデバイスセットと、これらのデバイスにサービスを提供するリモート リポジトリとの間の関係を確立する必要があります（これによりネットワークの負荷が低下します）。この関係の確立後に、Cisco VXC Manager はパッケージをデバイスに配布するときに適切なリポジトリを選択できるようになります。デバイスは、属するサブネットによってリモート リポジトリに関連付けられます。リポジトリへのサブネットの割り当てが完了すると、そのサブネット上のすべてのデバイスが、割り当てられたリポジトリを使用するようになります。

## ソフトウェア リポジトリの管理

Cisco VXC Manager では複数のリポジトリをネットワークにインストールできます（リポジトリのインストール手順については、『*Installation Guide for Cisco VXC Manager*』を参照してください）。リモート リポジトリを使用するとネットワーク帯域幅を節約できます。これは、リモート リポジトリにソフトウェア更新が保管され、各リポジトリと同じサブネット上にあるデバイスにソフトウェア更新がローカルに配布されるためです。

以下の点に注意してください。

- Cisco VXC Manager では常に、最初にインストールされるリポジトリに **Master** という名前が付けられます。その後インストールする追加リモート リポジトリには、**Master** 以外の名前を指定できます。FTP ベースのリポジトリでは、すべてのリポジトリのユーザ ID とパスワードが同一ですが、HTTP ベースのリポジトリでは異なるものにする必要があります。
- 複数のリモート リポジトリをインストールしない場合、Cisco VXC Manager はマスター リポジトリをすべてのサブネットに使用します。
- Cisco VXC Manager コンポーネントを個別に展開した場合は、その他の Cisco VXC Manager コンポーネントをインストールしたサブネット上のマシンにマスター リポジトリをインストールすることを推奨します。
- 次の 2 種類のリポジトリ認証があります。
  - **Basic Authentication** : システムにアクセスするには有効な NT ログインとパスワードを入力する必要がある認証モード。**Basic Authentication** が有効な場合、仮想ディレクトリにアクセスしようとするユーザー名とパスワードの入力が求められます。パスワードはクリアテキストで送信されます。
  - **Integrated Windows Authentication** : IIS での最も安全性が高い認証方式です。ログイン時に NT によりログインが検証され、ユーザー名だけがネットワーク経由で転送されます。パスワードは転送されないため、パスワードが漏えいすることはありません。

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 「リモート リポジトリの登録」 (P.7-27)
- 「ソフトウェア リポジトリの編集」 (P.7-30)
- 「ソフトウェア リポジトリの削除」 (P.7-30)

## リモート リポジトリの登録

追加リモート リポジトリをインストールしたら、Cisco VXC Manager Database にインストールしたリモート リポジトリを登録し、サブネットにリモート リポジトリを割り当てる必要があります。



ヒント

サブネットへのソフトウェア リポジトリの割り当てについては、「サブネットの管理」 (P.7-30) を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] をクリックし、[Repositories] を右クリックして [New] > [Repository] を選択し、[Software Repository] ダイアログボックスを開きます。

図 7-24 Software Repository

- ステップ 2** 次のガイドラインに従います。

- [Name] : インストール中に入力したリモート リポジトリのわかりやすい名前が表示されます。
- [Connection Information] エリア :
  - [Location] : リモート リポジトリを識別する IP アドレス。
  - [Transfer Type] : 使用されている転送プロトコルのタイプ ([「Service Preferences」 \(P.7-17\)](#) を参照)。オプションは [FTP]、[HTTP]、またはこの両方です
  - [Relative Path] : FTP ルート フォルダを基準にした相対パス。
- [FTP] エリア :
  - [User Name] : IIS FTP または FTP サービスにより設定された FTP アカウントのユーザ名。このアカウントは、リポジトリへの接続に使用されます。
  - [Password] : IIS FTP または FTP サービスにより設定された FTP パスワード。このアカウントは、リポジトリへの接続に使用されます。
  - [Verification] : パスワードを正しく入力していることを検証するため、パスワードを再入力します。
  - [Port Number] : FTP 通信に使用するポートの番号。FTP のデフォルト ポート番号は 21 です。
  - [Session Timeout] : 各セッションの接続を開いたままにしておく期間 (秒単位)。
  - [Bandwidth] : ソフトウェア リポジトリとの間でのデータ転送に使用される帯域幅 (Kbps)。
- [HTTP] エリア :
  - [User Name] : ソフトウェア リポジトリに対して **Basic Authentication** または **Windows Integrated Authentication** を使用する場合にはユーザ名を入力することを強く推奨します。ただし、このボックスは必須ではありません。

- [Context] : HTTP 通信のための仮想ディレクトリパス。選択されている転送タイプが FTP だけの場合、このボックスは使用不可です。
- [Password] : ソフトウェア リポジトリに対して Basic Authentication または Windows Integrated Authentication を使用する場合にはパスワードを入力することを強く推奨します。ただし、このボックスは必須ではありません。
- [Port Number] : HTTP 通信に使用するポートの番号。HTTP のデフォルトのポート番号は 80、HTTPS の場合は 443 です。
- [Verification] : HTTP ユーザのパスワード検証。
- [Timeout] : 各セッションの接続を開いたままにしておく期間 (秒単位)。
- [Secure (HTTPS)] : 選択すると、リポジトリの HTTP 通信がセキュアになります。
- [Validate Certificate with CA] : オンの場合、HTTPS 通信の証明書検証が有効になります。

**ステップ 3** [OK] をクリックします。Cisco VXC Manager は、登録されたリモート リポジトリへの接続をテストし、接続が適切に設定されていることを確認します (リモート リポジトリへの接続はいつでもテストできます。テストするには、リモート リポジトリ名を右クリックして [Test Connection] を選択します)。新しいリモート リポジトリがセットアップされ、Cisco VXC Manager Database に登録されます。これで、リモート リポジトリをサブネットに割り当てることができます (「サブネットの管理」(P.7-30) を参照)。



**ヒント** Cisco VXC Manager は、登録されたすべてのパッケージをマスター リポジトリに保管します。ローカル リポジトリにアクセスできるサブネット上のデバイスに対して更新を実行するたびに、リモート リポジトリを同期することができます。表 7-3 に、マスター リポジトリとリモート リポジトリのプロトコル設定に基づいて同期に使用されるプロトコルを示します。リモート リポジトリの同期の詳細については、「リモート リポジトリ同期のスケジュール設定」(P.5-9) を参照してください。

表 7-3 リモート リポジトリの同期に使用されるプロトコル

マスター リポジトリ プリファレンス設定	リモート リポジトリ プリファレンス設定	同期プロトコル
HTTP	HTTP (S)	HTTP (S) のみ
HTTP	FTP	エラー - 同期は実行されません
HTTP	HTTP および FTP	HTTP のみ
FTP	HTTP (S)	エラー - 同期は実行されません
FTP	FTP のみ	FTP のみ
FTP	HTTP (S) および FTP	FTP のみ
HTTP および FTP	HTTP (S)	HTTP (S) のみ
HTTP および FTP	FTP	FTP のみ
HTTP および FTP	HTTP (S) および FTP	HTTP (S) が試行され、成功すると HTTP (S) が使用されます。失敗すると FTP が使用されます

## ソフトウェア リポジトリの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Software Repositories] をクリックします。編集するソフトウェア リポジトリを右クリックして [Properties] を選択し、[Edit Software Repository] ダイアログボックスを開いて使用します。

## ソフトウェア リポジトリの削除

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Software Repositories] をクリックします。削除するソフトウェア リポジトリを右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。

# ネットワークの管理

ネットワークの管理には、以下の作業が含まれます。

- 「サブネットの管理」(P.7-30)
- 「IP 範囲の管理」(P.7-32)

## サブネットの管理

Cisco VXC Manager は、ネットワーク上のデバイスの検出とデバイスとの通信にサブネット情報を使用します。



### ヒント

Cisco VXC Manager にサブネットを手動で追加できますが、Cisco VXC Manager ユーティリティを使用して、コンマ区切りファイルまたはタブ区切りファイルからサブネット データをデータベースにインポートすることもできます（「ファイルからのサブセットデータのインポート」(P.7-39) を参照）。

このセクションでは、次の情報について説明します。

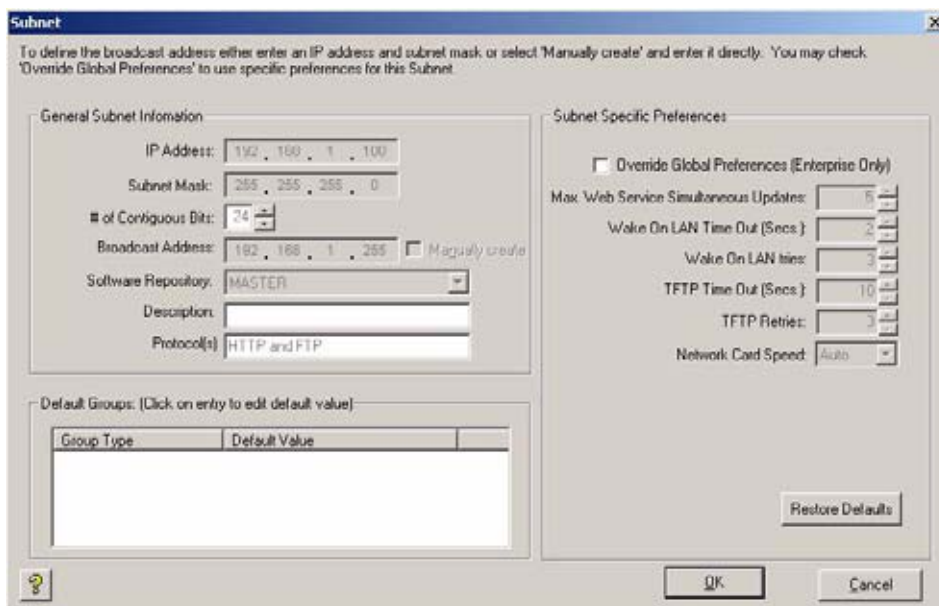
- 「Cisco VXC Manager へのサブネットの手動での追加」(P.7-30)
- 「サブネットの編集」(P.7-32)
- 「サブネットの削除」(P.7-32)

## Cisco VXC Manager へのサブネットの手動での追加

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[Subnets] を右クリックして [New] > [Subnet] を選択し、[Subnet] ダイアログボックスを開きます。

図 7-25 Subnet



**ステップ 2** 次のいずれかを実行します。

- サブネットのブロードキャストアドレスを手動で入力する場合は、[Manually create] を選択し、ブロードキャストアドレスを入力します。
- サブネットのブロードキャストアドレスを手動で入力しない場合は、[IP Address] (サブネットの有効な IP アドレスを入力)、[Subnet Mask] (サブネットのサブネット マスクを入力)、および [# of Contiguous Bits] (Classless Inter-Domain Routing またはスーパーネットを使用するネットワークの場合に、サブネット マスクを構成する連続ビットの数を入力) にそれぞれ値を入力します。

**ステップ 3** ソフトウェア リポジトリを選択します。Cisco VXC Manager コンフィギュレーションに複数のリモート リポジトリが含まれており、その 1 つにサブネットを関連付ける場合は、ソフトウェア リポジトリ リストからそのリポジトリを選択します。



**ヒント** Cisco VXC Manager パッケージをデバイス グループに配布するときに、Cisco VXC Manager はサブネットとリポジトリの関連付けから、デバイスに対して適切なりモート リポジトリを判別します。

**ステップ 4** Cisco VXC Manager Database でサブネットを識別する記述を入力します。

**ステップ 5** (任意) このサブネットで新たに検出されたデバイスをユーザ定義のグループ タイプに関連付ける場合は (Cisco VXC Manager では常に、デバイスで検出された値に基づいて、デバイスが事前定義のグループ タイプに割り当てられます)、[Default Groups] ペインから必要なグループ タイプの行を選択し、[Default Group Value] ダイアログボックスを開いて使用します ([Subnet] ダイアログボックスに戻るには、[Default Group Value] ダイアログボックスの [Default Value] を選択して [OK] をクリックします)。サブネット内のデバイスをグループ タイプに関連付ける場合、該当するグループ タイプがすでに作成されている必要がある点に注意してください。

**ステップ 6** 次のいずれかを実行します。

- このサブネットのグローバル プリファレンスを上書きしない場合は [OK] をクリックします。

- このサブネットのグローバルプリファレンスを上書きする場合は、[Override Global Preferences] を選択し、以下のガイドラインに従ってサブネットプリファレンスを入力し、[OK] をクリックします。
  - [Maximum Simultaneous Updates] : このサブネットと同時に実行できるデバイス更新の最大数。
  - [Wake On LAN Time Out (Secs.)] : Cisco VXC Manager が、停止するまでにサブネットのデバイスの起動を試行する期間の長さ。
  - [Wake On LAN Retries] : Cisco VXC Manager が、停止するまでにサブネット内のデバイスの起動を試行する回数。
  - [TFTP Time Out (Secs.)] : Cisco VXC Manager が、PXE 実行時にデバイスとの通信に Trivial File Transfer Protocol (TFTP) の使用を試行する期間の長さ。
  - [TFTP Retries] : Cisco VXC Manager が、停止するまでに TFTP の使用を試行する回数。
  - [Network Card Speed] : このボックスは Merlin イメージングを使用する場合にのみ有効です。指定可能な値は [Auto]、[100M-F] (100 MBPS 全二重)、[100M-H] (100 MBPS 半二重) です。

これで、サブネットとそのプリファレンスに関する情報が Cisco VXC Manager Database に保管され、Cisco VXC Manager がサブネット上のデバイスを検出できるようになりました。

## サブネットの編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[Subnets] をクリックし、編集するサブネットを右クリックして [Properties] を選択し、[Edit Subnet] ダイアログボックスを開いて使用します。

## サブネットの削除

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[Subnets] をクリックし、削除するサブネットを右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。

## IP 範囲の管理

IP 範囲により、Cisco VXC Manager はサブネットレベル全体への User Datagram Protocol (UDP) ブロードキャストではなく、IP 範囲内の各デバイスへの伝送制御プロトコル (TCP) を使用して、サポートされているすべてのバージョンの Cisco VXC Manager Agent がインストールされているデバイスを検出できます。



### ヒント

Cisco VXC Manager に IP 範囲を手動で追加できますが、Cisco VXC Manager ユーティリティを使用して、コンマ区切りファイルまたはタブ区切りファイルから IP 範囲データをデータベースにインポートすることもできます（「ファイルからの IP 範囲データのインポート」(P.7-38) を参照）。

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 「Cisco VXC Manager への IP 範囲の手動での追加」(P.7-33)
- 「IP 範囲の編集」(P.7-33)
- 「IP 範囲の削除」(P.7-34)

## Cisco VXC Manager への IP 範囲の手動での追加

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[IP Ranges] を右クリックして [New] > [IP Range] を選択し、[IP Range] ダイアログボックスを開きます。

図 7-26 IP Range

- ステップ 2** 次のガイドラインに従います。
- [Start IP Address] : IP 範囲の開始 IP アドレス。
- [End IP Address] : IP 範囲の終了 IP アドレス。
- [Exclude From] : 設定する範囲から除外するアドレス範囲の開始 IP アドレス (たとえば 192.168.1.30 以降のデバイスを除外するには、192.168.1.30 と入力します)。
- [Exclude To] : 設定する範囲から除外するアドレス範囲の終了 IP アドレス (たとえば 192.168.1.35 までのデバイスを除外するには、192.168.1.35 と入力します)。
- [Description] : IP 範囲を示す簡単な説明を入力します。
- ステップ 3** [Add] をクリックして IP 範囲に関する情報を Cisco VXC Manager Database に保管します。これで、Cisco VXC Manager は各デバイスへの TCP 接続を介してサブネット上のデバイスを選択的に検出できます。

## IP 範囲の編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[IP Ranges] をクリックし、編集する IP 範囲を右クリックして [Properties] を選択し、[Edit IP Ranges] ダイアログボックスを開いて使用します。

## IP 範囲の削除

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開します。[IP Ranges] をクリックし、削除する IP 範囲を右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。

## ユーザ権限の管理

管理者は Cisco VXC Manager のユーザを追加、編集、削除できます。Cisco VXC Manager では、ローカル コンピュータ アカウントまたは Active Directory のユーザを管理できます。

このセクションでは、次の情報について説明します。

- 「ローカル コンピュータ アカウントからのユーザの追加」(P.7-34)
- 「Active Directory からのユーザまたはグループの追加」(P.7-35)
- 「ユーザ権限の編集」(P.7-36)
- 「ユーザの削除」(P.7-37)

## ローカル コンピュータ アカウントからのユーザの追加



### ヒント

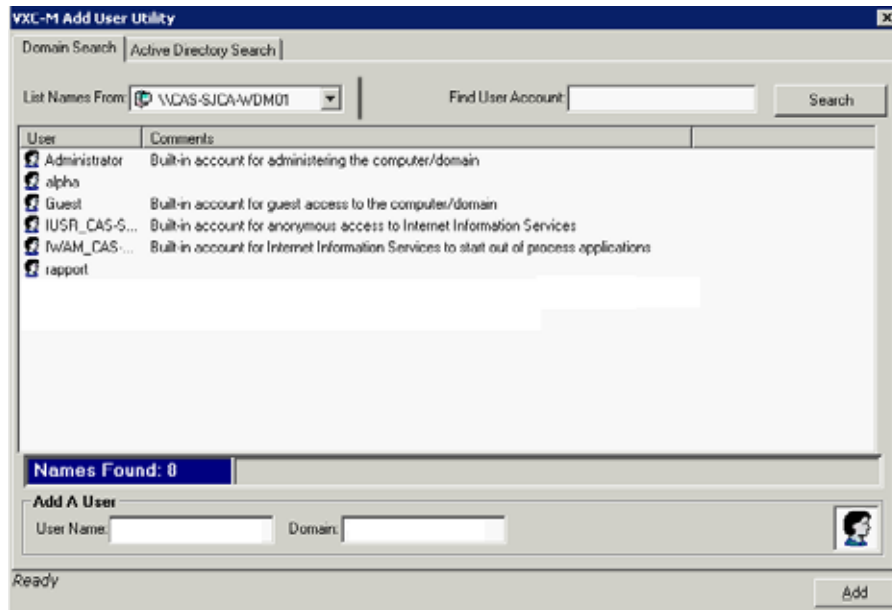
Cisco VXC Manager ユーザを追加する前に、そのユーザが Cisco VXC Manager のインストール先 Windows ドメインのユーザ リストにすでに含まれている必要があります。

### 手順

#### ステップ 1

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[User Permissions] を右クリックして [New] > [User/Group] を選択し、[Cisco VXC Manager Add User Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-27 [Cisco VXC Manager Add User Utility] – [Domain Search] タブ



- ステップ 2** [Domain Search] タブで、Cisco VXC Manager ユーザとして追加するユーザの名前を選択し、[Add] をクリックします。
- ステップ 3** [OK] をクリックします。新しいユーザが Cisco VXC Manager ユーザのリストに追加されます。
- ステップ 4** ユーザ権限を編集するまでは、新しいユーザには権限がありません。「[ユーザ権限の編集](#)」(P.7-36)に進みます。

## Active Directory からのユーザまたはグループの追加



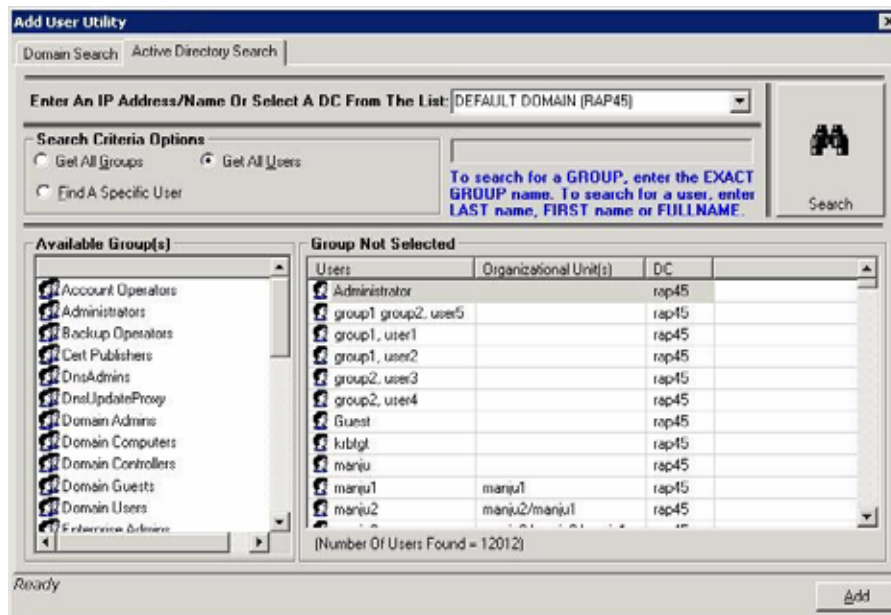
### ヒント

Cisco VXC Manager グループを追加する前に、そのグループが Active Directory にすでに存在している必要があります。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[User Permissions] を右クリックして [New] > [User/Group] を選択し、[Cisco VXC Manager Add User Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-28 [Cisco VXC Manager Add User Utility] – [Active Directory Search] タブ



- ステップ 2** [Active Directory Search] タブで、IP アドレス/名前を入力するか、またはリストからドメイン コントローラを選択します（Cisco VXC Manager をインストールしたサーバがドメインに含まれている必要があります）。
- ステップ 3** 使用する検索条件オプションを選択し（[Find A Specific User] を選択する場合は、正確なユーザ名を入力してください）、[Search] をクリックします。検索結果が表示されます。
- ステップ 4** 該当するユーザを選択し、[Add] をクリックします。ユーザとグループが Cisco VXC Manager に統合されます。

## ユーザ権限の編集



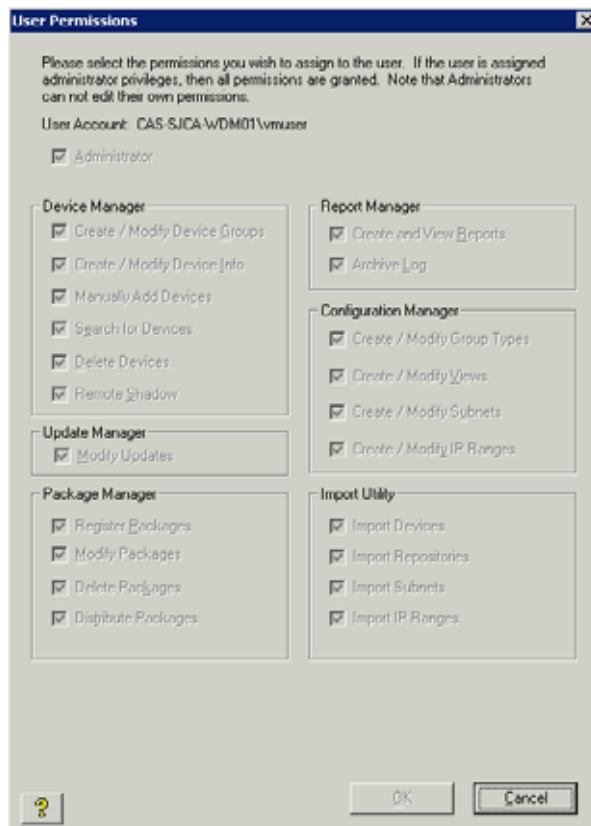
### ヒント

自分自身のユーザ権限は編集できません。


### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[User Permissions] をクリックし、Cisco VXC Manager ユーザのリストを表示します。
- ステップ 2** 編集するユーザを右クリックし、[Properties] を選択し、[User Permissions] ダイアログボックスを開きます。


図 7-29 ユーザの権限




**ステップ 3** ユーザに割り当てるユーザ権限を選択してから、[OK] をクリックします。

 **ヒント** [Administrator] チェックボックスをオンにすると、すべての権限が選択されます。

## ユーザの削除

 **ヒント** 自分自身のアカウントは削除できません。

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[User Permissions] をクリックします。削除するユーザを右クリックして [Delete] を選択し、[Yes] をクリックして確定します。

 **ヒント** ユーザを削除すると、そのユーザのプライベート ビューも削除されます。

## Cisco VXC Manager のユーティリティの使用法

Cisco VXC Manager には、管理作業を支援するさまざまなユーティリティがあります。このセクションでは、次の情報について説明します。

- 「ファイルからの IP 範囲データのインポート」 (P.7-38)
- 「ファイルからのサブセットデータのインポート」 (P.7-39)
- 「ソフトウェア リポジトリ データのインポート」 (P.7-41)
- 「ファイルからのデバイス設定データのインポート」 (P.7-43)

### ファイルからの IP 範囲データのインポート

Cisco VXC Manager では、コマンド区切りファイルまたはタブ区切りファイルから Cisco VXC Manager Database に IP 範囲データをインポートできます。



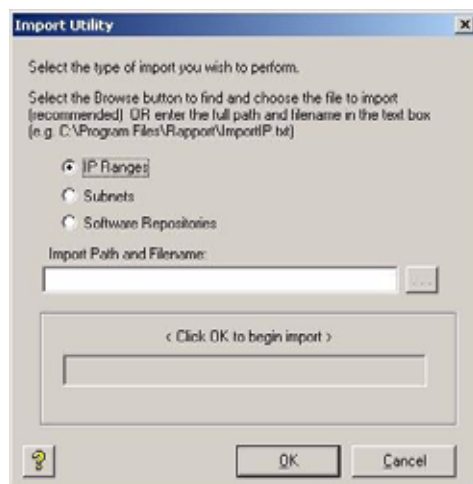
ヒント

リモート リポジトリ フラット ファイルの必須形式については、「ファイルから IP 範囲データをインポートするときの必須形式」 (P.7-39) を参照してください。

#### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Utilities] を展開します。[Imports] を右クリックして [New] > [Import] を選択し、[Import Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-30 [Import Utility] – [IP Ranges]



- ステップ 2** [IP Ranges] オプションを選択し、[Import Path and Filename] ボックスにデータ ファイルの場所を入力 (または参照して選択) します。

- ステップ 3** [OK] をクリックし、IP 範囲データを Cisco VXC Manager Database にインポートします（新たにインポートされたリモート IP 範囲データを表示するには、Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開して [IP Ranges] を選択します）。

## ファイルから IP 範囲データをインポートするときの必須形式

IP 範囲フラット ファイルの必須形式を次の例に示します。

StartIP, EndIP, ExclusionStartIP, ExclusionEndIP, Description

**StartIP** : IP 範囲の開始 IP アドレス

**EndIP** : IP 範囲の終了 IP アドレス

**ExclusionStartIP** : IP 除外範囲の開始 IP アドレス

**ExclusionEndIP** : IP 除外範囲の終了 IP アドレス

**Description** : Administrator Console に表示される IP 範囲の名前

例 : 10.10.10.10,10.10.10.200,10.10.10.20,10.10.10.30, My IP Range

この IP 範囲定義がデータベースに追加され、これにより IP 範囲のウォーキング検出が可能になり、範囲 10.10.10.10 ~ 10.10.10.19 および 10.10.10.31 ~ 10.10.10.200 のすべてのデバイスが検出されます。この IP 範囲定義は、Administrator Console に My IP Range として表示されます。

## ファイルからのサブセット データのインポート

Cisco VXC Manager では、コマンド区切りファイルまたはタブ区切りファイルから Cisco VXC Manager Database にサブセット データをインポートできます。



### ヒント

リモート リポジトリの場合、サブセットを使用した処理を行う前に、Cisco VXC Manager Database に 1 つ以上のリモート リポジトリの情報が含まれている必要があります（「ソフトウェア リポジトリの管理」(P.7-27) を参照）。



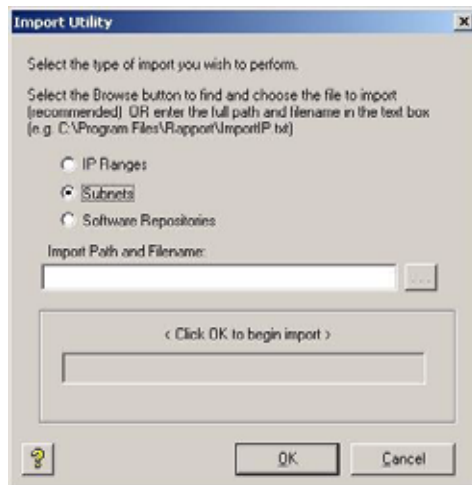
### ヒント

リモート リポジトリ フラット ファイルの必須形式については、「ファイルからサブネット データをインポートするときの必須形式」(P.7-40) を参照してください。

## 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Utilities] を展開します。[Imports] を右クリックして [New] > [Import] を選択し、[Import Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-31 Import Utility – [Subnets]



- ステップ 2** [Subnets] オプションを選択し、[Import Path and Filename] ボックスにデータ ファイルの場所を入力 (または参照して選択) します。
- ステップ 3** [OK] をクリックし、サブネットを Cisco VXC Manager Database にインポートします (新たにインポートされたリモート サブネット データを表示するには、Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Networks] を展開して [Subnets] を選択します)。

## ファイルからサブネット データをインポートするときの必須形式

サブネット フラット ファイルの必須形式を次の例に示します。

Broadcast Address, Description, SW Repository, Override Default Parameters, IP Address, Subnet Mask, Max.Web Service Simultaneous Updates, Wake On LAN Time Out(Secs.), Wake On LAN Tries, TFTP Time Out(Secs.), TFTP Retries, Network Card Speed

**Broadcast Address** : ブロードキャスト アドレス (例 : 10.10.10.255)

**Description** : Administrator Console に表示されるサブネットの名前

**SW Rep** : ソフトウェア リポジトリの名前。ソフトウェア リポジトリのないサブネットは追加できません。マスター リポジトリ ID の名前は MASTER です。

**Override Default Parameters** : グローバル プリファレンスを上書きします (Enterprise のみ)。

**IP Address** : サブネット内の有効な IP アドレス (例 : 199.199.10.2)

**Subnet Mask** : サブネット マスク (例 : 255.255.255.0)

**Max.Web Service Simultaneous Updates** : 同時実行可能な更新の最大数 (例 : 5)。

**Wake On LAN Time Out(Secs.)** : Wake On LAN のタイムアウト (例 : 2)

**Wake On LAN Tries** : WOL 再試行回数 (例 : 3)

**TFTP Time Out(Secs.)** : TFTP タイムアウト (例 : 10)

**TFTP Retries** : TFTP 再試行回数 (例 : 3)

**Network Card Speed** : ネットワーク カード速度 (例 : 1 (Auto)、2 (100M-F)、3 (100M-H))

例 : 10.10.10.255,Subnet1,MASTER,False,199.199.10.2,255.255.255.0,6,2,1,1,7,2

これにより、サブネット上で割り当て IP アドレスが 199.10.0.1 ~ 199.10.0.254 のデバイスを検出および管理するサブネット定義がデータベースに追加されます。列ヘッダーは上記の順序どおりの場合とこの順序ではない場合があります。

## ソフトウェア リポジトリ データのインポート

Cisco VXC Manager では、コマンド区切りファイルまたはタブ区切りファイルから Cisco VXC Manager Database にリモート リポジトリ データをインポートできます。



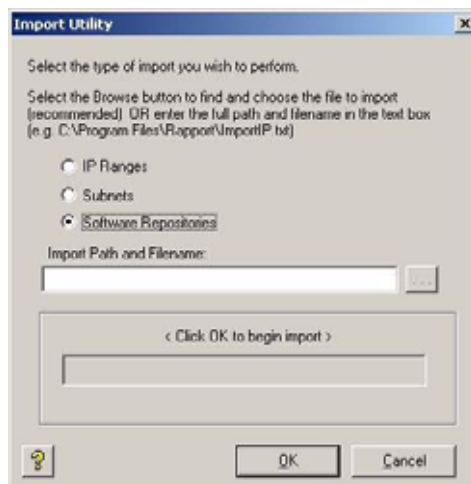
### ヒント

リモート リポジトリ フラット ファイルの必須形式については、「[ファイルからサブネット データをインポートするときの必須形式](#)」(P.7-40) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Utilities] を展開します。[Imports] を右クリックして [New] > [Import] を選択し、[Import Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-32 Import Utility – [Software Repositories]



- ステップ 2** [Software Repository] オプションを選択し、[Import Path and Filename] ボックスにデータ ファイルの場所を入力（または参照して選択）します。
- ステップ 3** [OK] をクリックし、ソフトウェア リポジトリ データを Cisco VXC Manager Database にインポートします（新たにインポートされたリモートソフトウェア リポジトリ データを表示するには、Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Software Repository] を選択します）。



## ヒント

新しいソフトウェア リポジトリを登録すると、Cisco VXC Manager により接続が確立され、リモート リポジトリと通信できる状態になります。リポジトリ データをインポートすると、Cisco VXC Manager はリポジトリへの接続を自動的にテストします。したがって、1 つ以上のリモート リポジトリのデータをインポートした後で接続をテストする必要はありません。

## ファイルからソフトウェア リポジトリ データをインポートするときの必須形式

リモート リポジトリ フラット ファイルの必須形式を次の例に示します。

Name of Rep,IP Address of Repository,TransferType,RelPath,Context,FTPPortNumber,HTTPPortNumber,FTP UserName,FTP Password,HTTP UserName,HTTP Password,IsHTTPSsecure,HTTPSValidateWithCA

**Name :** Administrator Console に表示するリモート リポジトリの名前

**Location :** FTP サーバの IP アドレス

**Transfer Type :** 使用している転送プロトコルのタイプ。オプションは [FTP]、[HTTP]、またはこの両方です。

**Relative Path :** ルート ディレクトリを基準にしたソフトウェア リポジトリの相対パス。デフォルト値は /rapport です。

**Context :** 有効な仮想ディレクトリの名前。HTTP 通信の場合に有効です。

**FTP Port Number :** FTP 通信に使用するポート番号。デフォルトのポート番号は 21 です。

**HTTP Port Number :** HTTP または HTTPS 通信のポート番号。HTTP のデフォルト ポート番号は 80 です。HTTPS 通信のデフォルト ポート番号は 443 です。

**FTP User Name :** IIS FTP または FTP サービスにより設定された FTP アカウントのユーザ名。リポジトリへの接続に使用します

**FTP Password :** IIS FTP または FTP サービスにより設定された FTP アカウントのパスワード。リポジトリへの接続に使用します

**HTTP User Name :** IIS HTTP または HTTP サービスにより設定された HTTP アカウントのユーザ名。リポジトリへの接続に使用します

**HTTP Password :** IIS HTTP または HTTP サービスにより設定された HTTP アカウントのパスワード。リポジトリへの接続に使用します

**Secure (HTTPS) :** [Secure] がオンの場合 (HTTPS がサポートされている場合) の値は -1、[Secure] がオフの場合 (HTTP がサポートされているが HTTPS はサポートされていない場合) の値は 0 です。

**HTTPSValidateWithCA :** [Validate Certificate with CA] がオンの場合は -1、オフの場合は 0 です

例 : [Transfer Type] が FTP の場合

**RemoteFTP,10.10.11.9,FTP,/rapport,,21,,FTPUserName,FTPPassword,,0,0**

例 4 の構文では、このソフトウェア リポジトリ定義は Cisco VXC Manager Database に追加され、IP アドレス 10.10.11.9 のサーバのリポジトリを定義します。このサーバの FTP サービス ルート ディレクトリはデフォルトパスの /rapport です。このソフトウェア リポジトリへはユーザ名 user を使用してアクセスできます。転送プロトコルとして FTP を使用し、Administrator Console には Remote と表示されます。列ヘッダーは上記の順序どおりの場合とこの順序ではない場合があります。

## ファイルからのデバイス設定データのインポート

Cisco VXC Manager では、コマンド区切りファイルまたはタブ区切りファイルから Cisco VXC Manager Database にデバイス設定データをインポートできます。



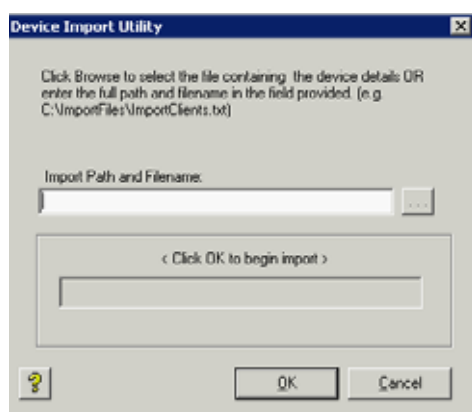
ヒント

リモート リポジトリ フラット ファイルの必須形式については、「[ファイルからデバイス設定インポートするときの必須形式](#)」(P.7-43) を参照してください。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Utilities] を展開します。[Import Device Settings] を右クリックして [New] > [Device Import] を選択し、[Device Import Utility] ダイアログボックスを開きます。

図 7-33 Device Import Utility



- ステップ 2** [Import Path and Filename] ボックスにデータ ファイルの位置を入力（または参照して選択）します。
- ステップ 3** [OK] をクリックしてデバイス設定データを Cisco VXC Manager Database にインポートします（新たにインポートされたリモート デバイス設定データを表示するには、Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Device Manager] をクリックします）。

## ファイルからデバイス設定インポートするときの必須形式

IP 範囲フラット ファイルの必須形式を次の例に示します。

**Client Name** : クライアントの名前 (例 : W1009341019)

**Mac address** : クライアントの MAC アドレス (例 : 0080646A1144)

**Platform** : デバイスのプラットフォーム (例 : VX0)

**Custom field 1** : 特定のデバイスのカスタム フィールド

**Custom field 2** : 特定のデバイスのカスタム フィールド

**Custom field 3** : 特定のデバイスのカスタム フィールド

**Contact** : デバイスの連絡先情報

**Location** : デバイスの場所

クライアント インポート ファイルの必須形式を次の例に示します。

```
ClientName;MACAddress;Platform;Custom1;Custom2;Custom3;Contact;Location
W1009341019;0080646A1144;VX0;ABCD;EFGH;IJKL;Administrator;Saj Jose Office
```

## 診断レポートの生成

診断レポートには、ハードウェアおよびソフトウェアの要約情報と実行中プロセスのリストが出力されます。

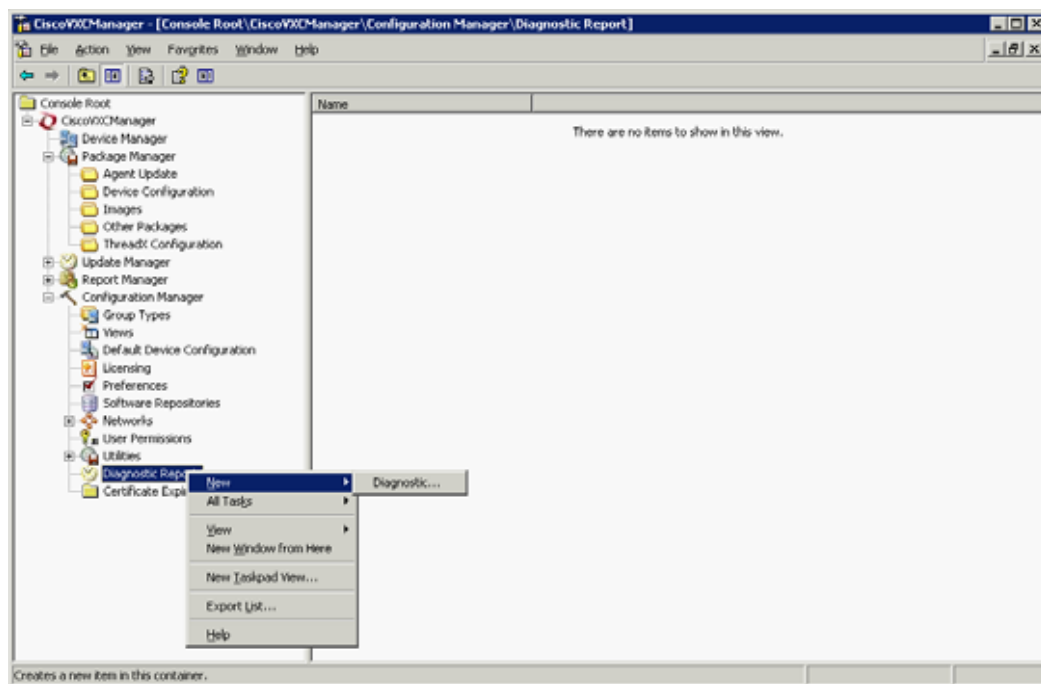
Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Diagnostic Report] を右クリックして [New] > [Diagnostic Report] を選択し、レポートを生成します。



ヒント

あるいは、[Device Manager] ウィンドウの詳細ペインでデバイスを右クリックして [Diagnostic Report] を選択することもレポートを生成できます。

図 7-34 Diagnostic Report



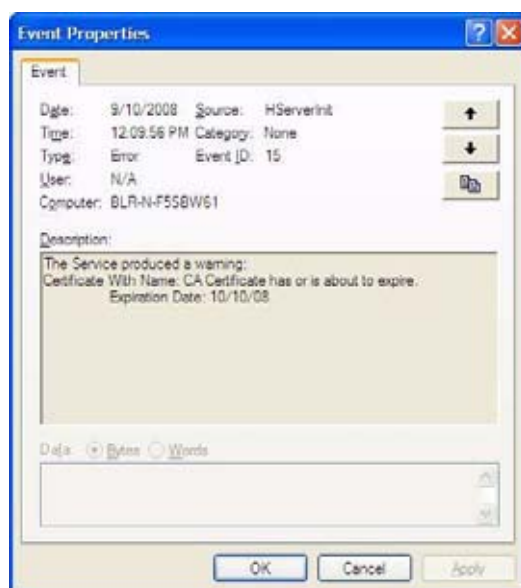
Cisco VXC Manager システムの診断レポートには次のセクションが含まれています。

- [Software Repository Information] : ソフトウェア リポジトリ コンポーネントのステータス。
- [HServer Information] : HServer コンポーネントのステータス。
- [Standard Service Information] : 標準サービス コンポーネントのステータス
- [Basic System Information] : 現在実行中のプロセスのステータス。
- [Install Information] : インストールされているコンポーネントの情報。
- [Database Information] : プリファレンス設定の値。
- [Logs] : ログ情報。

## Certificate Expiration Tracker の使用法

Certificate Expiration Tracker ユーティリティでは、システムに追加した証明書の有効期限を追跡できます。指定した内容に基づいて証明書の有効期限に関する警告が通知され、Windows Event Viewer に有効期限情報が記録されます。

図 7-35 警告メッセージ



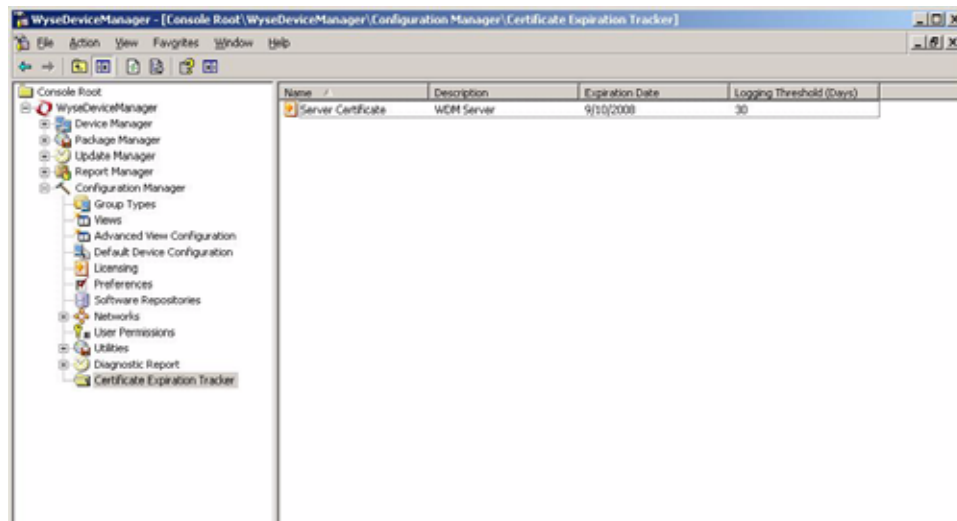
ヒント

ライセンスと証明書については、「[ライセンスとセールスキー](#)」(P.F-1) を参照してください。

## Certificate Expiration Tracker での証明書情報の表示

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Certificate Expiration Tracker] をクリックし、追跡対象のすべての証明書に関する情報を表示します。

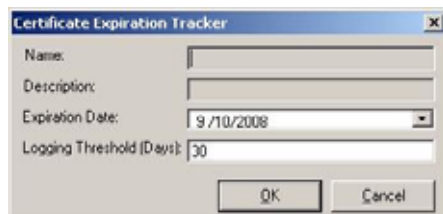
図 7-36 Certificate Expiration Tracker



## Expiration Tracker への証明書の追加

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Certificate Expiration Tracker] を右クリックして [New] > [Certificate Authority] を選択し、[Certificate Expiration Tracker] ダイアログボックスを開いて使用します。

図 7-37 Certificate Expiration Tracker



次のガイドラインに従います。

- [Name] : 追跡する証明書の名前を入力します。
- [Description] : 証明書の説明を入力します。
- [Expiration Date] : 証明書の有効期限を選択します。
- [Logging Threshold (Days)] : 証明書の有効期限が切れる前に警告を表示する期間の日数を指定します。たとえば 30 日を指定すると、証明書の有効期限の 30 日前から毎日 Windows Event Viewer に警告メッセージが表示されます (警告メッセージはエラー メッセージとして表示されます)。

## Expiration Tracker での証明書の編集

Administrator Console のツリー ペインで [Configuration Manager] を展開し、[Certificate Expiration Tracker] をクリックします。編集する証明書を右クリックして [Properties] を選択し、[Certificate Expiration Tracker] ダイアログボックスを開いて使用します。



# APPENDIX A

## グループとビューの操作

この付録では、Cisco VXC Manager 内のグループとビューを操作する詳細情報を説明します。次のトピックが含まれます。

- 「グループ タイプとビューについて」 (P.A-1)
- 「[Show Empty Custom Group Folders] オプションについて」 (P.A-2)
- 「グループへのデバイスの割り当て」 (P.A-3)
- 「カスタム グループ間でのデバイスの移動」 (P.A-4)
- 「ビューの作成：作業例」 (P.A-5)

## グループ タイプとビューについて



ヒント

グループ タイプの管理については、「[グループ タイプの管理](#)」(P.7-2) を参照してください。ビューの管理については、「[ビューの管理](#)」(P.7-3) を参照してください。

グループはグループ タイプ（事前定義済みまたはカスタム）、グループ インスタンス（グループ タイプ内）、またはこれらの項目の任意の組み合わせとして定義できます。Cisco VXC Manager では、事前定義済みのグループ タイプ（OS、Platform、Image/Firmware Image Number、Subnet、Location、TimeZone、VendorID、Custom1、Custom2、Custom3）を使用することも、任意の数のカスタム グループ タイプおよびグループ インスタンスを作成して、デバイスを機能の階層に整理することもできます。これらのグループを使用して、デバイスのカスタム ビューを作成できます。

ビューでは、デバイスを管理しやすいように、機能によってデバイスを視覚的に整理することができます。Cisco VXC Manager には事前定義済みのグループ タイプが用意されているとともに、カスタム グループ タイプとカスタム グループ インスタンスを作成することもできるため、組織のニーズに合わせて簡単にデバイスを整理できます。事前定義済みのグループ タイプ、カスタム グループ タイプ、カスタム グループ インスタンスを組み合わせると、ビューを高度にカスタマイズできます（ビューの作成については、「[ビューの管理](#)」(P.7-3) を参照してください）。

簡単なビューでは、1つのグループ タイプと、デバイスに対応する任意の数のグループ インスタンスが含まれます。たとえば、会社のデバイスが2つの建物に分散している場合、デバイスが物理的に存在する建物ごとにデバイスを整理するビューを作成できます。この例でのビューは次のようになります。

- それぞれのビューはビュー名で識別されます。この例では、ビュー名を **By Building** とします。
- 1つのレベルのビューでは、1つのグループ タイプを使用してデバイスを整理します。この例では、グループ タイプは **Building** です。

## ■ [Show Empty Custom Group Folders] オプションについて

- グループ タイプ内のグループ インスタンスは、そのグループ タイプの特定のインスタンスを定義します。この例では、一般的なグループ タイプ Building のグループ インスタンスは Cisco I Building および Cisco II Building の 2 つです。

複数レベルのビューでは、複数の階層レベルを使用します。それぞれの追加レベルは、上位のレベルにネストされます。1 つのレベルのビューに独自のカスタム グループ タイプを作成できるように、ネストされた階層レベルにもカスタム グループ タイプを作成できます。たとえば、建物ごとにデバイスを整理するだけでなく、各建物でデバイスを使用する部署ごとに識別することもできます。そのようなビューには、簡単なビューの例の階層よりも詳細な階層が必要です。このような複数レベルのビューでは、次のようになります。

- わかりやすいように、ビュー名はビューの階層と同じ名前にします。この例では、ビューを By Building => Departments という名前にします。
- 各グループ タイプは、ビューのビュー レベルに対応します。この例では、Building が View Level-1 のグループ タイプであり、Departments が View Level-2 のグループ タイプです。
- View Level-2 グループはそのレベルのグループ タイプのグループ インスタンスです。この例では、Engineering、Sales、Marketing などのグループはすべて、一般的なグループ タイプ Departments のグループ インスタンスです。

## [Show Empty Custom Group Folders] オプションについて

Cisco VXC Manager のビューは、フォルダ グループの階層によって構成されています。フォルダはグループ タイプ用（事前定義済みまたはカスタム）、グループ インスタンス用（グループ タイプ内）、またはこれらの項目の任意の組み合わせです。[Show Empty Custom Group Folders] は Device Manager の設定オプションであり、ビューに空のカスタム グループ フォルダを含めるかどうかを選択できます（「[Device Manager Preferences](#)」(P.7-12) を参照）。

一般的に、ビューを作成するときは [Show Empty Custom Group Folders] をイネーブルにすることを推奨します。新しいカスタム グループを作成すると、それらのフォルダは空で始まります。[Show Empty Custom Group Folders] をディセーブルにすると、ビューには新しく作成されたフォルダ（またはデバイスが含まれていない既存のフォルダ）が表示されません。そのため、このオプションをディセーブルにしたままカスタム グループを作成している場合、作成中のフォルダを表示するために、Cisco VXC Manager では [Show Empty Custom Group Folders] をイネーブルにするかどうかを尋ねるメッセージを表示します。カスタム グループにデバイスを割り当てた後に、デバイスが割り当てられてないグループ フォルダがいくつか残る場合があります。デバイスが割り当てられているフォルダのみが階層に表示されるように、[Show Empty Custom Group Folders] オプションをディセーブルにして、空のフォルダをビューから削除できます。

[Show Empty Custom Group Folders] オプションをイネーブルまたはディセーブルにするときには、次の注意事項に従ってください。

- 事前定義済みのグループ タイプを使用する**：[Show Empty Custom Group Folders] オプションは、Cisco VXC Manager 事前定義済みのグループ タイプに影響を与えません。[Show Empty Custom Group Folders] オプションがイネーブルになっているかどうかにかかわらず、空の事前定義済みのグループ フォルダは Administrator Console に表示されません。そのため、ネットワーク内の任意のデバイスの特性に一致しない事前定義済みのグループ タイプのフォルダは表示されません。たとえば、すべてのデバイスのオペレーティング システムが WTOS の場合、ThreadX オペレーティング システムのデバイスはネットワーク上にないため、空のフォルダは表示されません。Cisco VXC Manager の事前定義済みのグループ タイプ間ではデバイスを移動できないことに注意してください（たとえば、WTOS OS グループから ThreadX OS グループへはデバイスを移動できません）。
- カスタム グループ タイプとカスタム インスタンスを使用する**：特に一部のフォルダが空のままの場合、ビュー内の 1 つのカスタム グループから別のカスタム グループにデバイスを移動するには、[Show Empty Custom Group Folders] オプションをイネーブルにする必要があります。

- **事前定義済みのグループ タイプのみのフォルダでビューを使用する**：前述のとおり、[Show Empty Custom Group Folders] オプションは、事前定義済みのグループ タイプのフォルダには影響を与えません。事前定義済みのグループ タイプのフォルダは、事前定義済みのグループ タイプの特性に一致するデバイスがない限り、ビューに表示されません。たとえば、ネットワーク内のすべてのデバイスが WTOS であり、レベルが 1 つのビューに OS の事前定義済みのグループ タイプがある場合、そのビューには WTOS のグループだけが含まれ、ThreadX オペレーティング システムのグループは含まれません。事前定義済みのグループ タイプが含まれるビューでは、Cisco VXC Manager によって事前定義済みのグループ タイプ間のデバイスの移動が阻止されます。ThreadX OS を搭載するデバイスを WTOS OS を搭載するデバイスのフォルダに移動することは論理的ではありません。
- **カスタム グループ タイプおよびカスタム グループ インスタンスのフォルダのみでビューを使用する**：カスタム グループ タイプとカスタム グループ インスタンスだけを使用するビューがあり、[Show Empty Custom Group Folders] オプションがイネーブルの場合、デバイスがすべてのフォルダに割り当てられているかどうかにかかわらず、ビューにはすべてのグループ フォルダが表示されます。たとえば、レベルが 1 つのビューにはカスタム グループ タイプが 1 つだけあります。この場合は Building です。このカスタム グループ タイプのグループ インスタンスには、Cisco I Building と Cisco II Building が含まれます。[Show Empty Custom Group Folders] オプションがイネーブルであるため、Cisco I Building にはデバイスがなくても、ビューには Cisco I Building のフォルダが表示されます（このようなビューでは、デバイスをドラッグアンドドロップして Cisco II Building から Cisco I Building に移動できます（「[カスタム グループ間でのデバイスの移動](#)」(P.A-4) を参照)。ただし、[Show Empty Custom Group Folders] オプションがディセーブルの場合、ビューには（デバイスが含まれる）Cisco II Building だけが表示されます。
- **事前定義済みのグループ タイプとカスタム グループ タイプのフォルダのあるビューを使用する**：事前定義済みのグループ タイプとカスタム グループ タイプの両タイプを持つビューがある場合、各グループ タイプの標準の規則が引き続き当てはまります。ただし、事前定義済みのグループ タイプのフォルダはカスタム グループ タイプの子フォルダの親になれるため、特別な状況が発生します。たとえば、[Show Empty Custom Group Folders] をイネーブルしても、すべてのカスタム グループ タイプ フォルダが空の場合、事前定義済みのグループ タイプの子であるカスタム グループ タイプのフォルダは表示されません。ただし、これらの子フォルダのいずれかにデバイスが割り当てられている場合、同じ親フォルダの下にある他の子フォルダはすべて表示されます。

## グループへのデバイスの割り当て

Cisco VXC Manager では次の 3 つの方法を使用して、デバイスをグループに割り当てます（はじめの 2 つの方法では、ユーザが直接操作せずに Cisco VXC Manager によりデバイスが割り当てられます）。

- **各デバイスのシステム値を使用する**：デバイスを検出すると、Cisco VXC Manager はデバイスのシステム値を検証します（プラットフォーム、ベンダー ID、OS など）。次に、Cisco VXC Manager に組み込まれている、該当する事前定義済みのグループ タイプ（OS、Platform、Image/Firmware Image Number、Subnet、Location、Contact）にデバイスを自動的に振り分けます。
- **サブネットに関連するグループ タイプ内のカスタム グループ タイプとカスタム グループ インスタンスを使用する**：サブネットを定義するとき、Cisco VXC Manager では、サブネット内のデバイスをそのグループ タイプ内のカスタム グループ タイプとカスタム グループ インスタンスに自動的に割り当てるかどうかを指定できます。たとえば、Department という名前のカスタム グループ タイプは、組織内のさまざまな部署を表すために使用できます（Marketing、Sales、Engineering など）。この例では、それぞれの部署はより大きいグループ タイプ内のグループ インスタンスです。サブネットによってデバイスを割り当てるには、サブネットを割り当てる前に、目的のグループ（グループ タイプおよびグループ インスタンス）を作成する必要があります（「[ビューの管理](#)」(P.7-3) を参照）。

- **手動で割り当てる**：ビューを作成して、これらのグループ タイプ内で特定のグループ タイプとグループ インスタンスにデバイスを割り当てたら、ビュー内で 1 つのカスタム グループから別のカスタム グループに手動でデバイスをドラッグアンドドロップする（割り当てる）ことができます。たとえば、ビューで建物内の部署別にデバイスをグループ化すると、デバイスを 1 つの建物の Engineering 部署から同じ建物または別の建物の Marketing 部署に簡単にドラッグアンドドロップできます（「[カスタム グループ間でのデバイスの移動](#)」（P.A-4）を参照）。

## カスタム グループ間でのデバイスの移動

ビューを作成して、特定のカスタム グループ タイプやグループ インスタンスにデバイスを割り当てたら、ビュー内の 1 つのカスタム グループから別のカスタム グループに手動でデバイスを移動できます（たとえば、特定のデバイスを新しい部署に移動したり、別の機能を割り当てたりする必要がある場合）。

Cisco VXC Manager には、移動できるデバイスと移動できないデバイスがあります。たとえば、WTOS デバイスのグループから ThreadX デバイスのグループにデバイスを移動することはできません。デバイスの移動に関する次の規則に注意してください。

- デバイスはカスタム グループ間でのみ移動できます。
- Cisco VXC Manager の事前定義済みのグループ タイプ間ではデバイスを移動できません。たとえば、WTOS OS グループから ThreadX OS グループにデバイスを移動することはできません。
- デバイスは、そのソース グループから、別のブランチにある上位レベルのグループに移動することができます。ただし、デバイスは元のグループのデバイス特性が一致するグループにターゲットブランチを下げます。そのデバイス特性に一致するグループがない場合、デバイスは元のグループのデバイス特性に一致する別のグループ セットを作成します。



**ヒント** 新しく作成されたフォルダや空のフォルダが表示されるように、Device Manager の設定である [Show Empty Custom Group Folders] がイネーブルになっていることを確認してください（「[\[Show Empty Custom Group Folders\] オプションについて](#)」（P.A-2）を参照）。

ビュー内のカスタム グループ間でデバイスを移動するには

### 手順

- 
- ステップ 1** グループ間でデバイスを移動するビューに切り替えます。
  - ステップ 2** 移動するデバイスが含まれるグループのフォルダをクリックして、そのグループ フォルダ内のデバイスを表示する詳細ペインを開きます。
  - ステップ 3** 詳細ペインから目的のデバイスを選択して、目的のターゲット フォルダにドラッグします。
-

# ビューの作成：作業例

ビューの作成手順は、3つの段階に分けられます。ビューを作成するとき、次のセクションで説明されている注意事項に従ってください。

## 第1段階：ビューの論理グループと階層を決定する。

- ステップ 1** 機能面から組織構造を分析して、デバイスを管理しやすいように論理的にデバイスをグループ化する方法を決定します。次に、デバイスを整理するために使用する必要なカテゴリ（グループタイプ）を考えます。Cisco VXC Manager では、これらのグループタイプを使用して、必要な任意の詳細レベルを持つデバイスグループ（ビュー）の階層を構築できます。デバイスがビューの階層にグループ化されたら、デバイスを簡単に管理および制御できます。
- ステップ 2** 考えたグループタイプを組織のデバイス（ビュー）の機能階層に整理する方法を決定します。Cisco VXC Manager では無数のグループタイプを使用できると同時に、任意の数のビューを持つことができます。必要な数のビューを作成して、デバイスを整理できます。たとえば、グループタイプに Building と Department がある場合、各部署内の建物ごとにデバイスをグループ化する1つのビューを作成できます。または、同じグループタイプを使用して、各建物内の部署ごとにデバイスをグループ化するビューを作成できます。
- ステップ 3** Administrator Console の Configuration Manager を使用して、前の手順で作成した組織の階層に対応する、必要なグループタイプを作成します。グループタイプを作成するには、Configuration Manager にあるグループタイプノードを使用します（「グループタイプの管理」(P.7-2)を参照）。

## 第2段階：ビューを作成してそのビューレベルを選択する

- ステップ 4** ビューには任意の文字列で名前を付けることができます。ただし、ビューを簡単に識別できるように、ビューのレベルに対応する名前を割り当てることを推奨します。各レベル間で矢印(=>)を使用して、ビューの階層をビュー名によって明確に指定することができます。命名規則を決定したら、Configuration Manager の下のビューノードを使用してビュー名を作成できます（「ビューの管理」(P.7-3)を参照）。
- ステップ 5** それぞれのビューでは、少なくとも1つのビューレベルを選択する必要があります。ビューレベルの数により、デバイス階層の細かさが決まります。ビューレベルは、第1段階で作成したグループタイプと同じです。この例には Building と Departments のグループタイプがあり、ビューでは Building => Departments の2つのレベルの階層を使用するため、Building のグループタイプを最初のビューレベルとして選択し、2つめのビューレベルとして Departments を選択します。このように階層を整理することにより、デバイスを建物ごとにグループ化してから、各建物内でデバイスが属する部署別にデバイスをグループ化することができます。

## 第3段階：グループインスタンスを作成して、デバイスをグループに割り当てる準備をする

- ステップ 6** グループタイプを作成し（第1段階）、グループタイプをレベルビューに割り当てたら（第2段階）、各グループタイプにグループインスタンスを作成できます。この例では、グループタイプ Building のグループインスタンスに Cisco I Building と Cisco II Building を作成します。同様に、グループタイプ Departments のグループとして、Engineering、Sales、Marketing というグループを作成します。グループインスタンスを作成するには、各ビューレベルで Device Manager ノードを使用します。

ビューを作成したら、デバイスをグループに割り当てる準備ができました。たとえば、デバイスを Unassigned フォルダからビューに適切なフォルダにドラッグアンドドロップできます（Unassigned フォルダは、グループタイプやグループインスタンスとして割り当てるまでデバイスを格納するために使用できます）。デバイスをグループに割り当てる詳細については、「グループへのデバイスの割り当て」(P.A-3)を参照してください。

■ ビューの作成：作業例



## APPENDIX **B**

# Cisco VXC Manager のセキュリティについて

この付録には、Cisco VXC Manager のセキュリティに関する詳細情報が記載されています。

Cisco VXC Manager では、不正な Cisco VXC Manager インストールがデバイスを管理することを防止するよう Device Manager を設定できます。[Enable Device Security] オプションを設定すると、Cisco VXC Manager Agent および Cisco VXC Manager Web サービスは 1 対 1 の関係になります。この関係では、デバイスと Web サービスの両方が共通の固有のセキュリティ証明書を共有します。Cisco VXC Manager の要求を処理する前に、デバイスの Cisco VXC Manager Agent が証明書を確認します。Web サービスの証明書が Cisco VXC Manager Agent の証明書と一致する場合、Cisco VXC Manager Agent は、デバイスによる要求された関数または命令の実行を許可します。証明書が一致しない場合、Cisco VXC Manager Agent は、デバイスによるどの要求への対応も防止します。



(注)

Cisco ThreadX デバイスではデバイス セキュリティはサポートされません。



注意

**デバイス セキュリティをイネーブルにする場合：**デバイス セキュリティをイネーブルにする場合は、必ず証明書番号を書き留めて、安全な場所に保持してください。何らかの理由で Cisco VXC Manager インストールが破損して、Cisco VXC Manager の再インストールが必要になった場合は、新しい証明書番号を取得します。ただし、元の証明書番号がないと、デバイスを管理できません。Cisco VXC Manager では、セキュリティ証明書を新しい証明書に変更するか、古い証明書を復元するオプションが示されます。

**デバイス セキュリティをディセーブルにする場合：**デバイス セキュリティをディセーブルにすると、既存のデバイスは、次のチェックインまでセキュリティ証明書を解放しません。サーバは証明書を提示しなくなるため、証明書を更新または再検出できません。間隔の間にチェックインする必要があります (つまり、プッシュではなくプル)。

Cisco VXC Manager のセキュリティをイネーブルにするには、次の手順を実行します。

- 「デバイスでの証明書のインポート」 (P.B-2)
- 「セキュアな通信 (HTTPS) の使用」 (P.B-5)
- 「Cisco VXC Manager デバイス セキュリティのイネーブル化」 (P.B-7)
- 「Cisco VXC Manager セキュリティ証明書の変更」 (P.B-8)

## デバイスでの証明書のインポート

Cisco VXC Manager のコンポーネント間のセキュアな通信を開始する前に、証明書をデバイスにインポートします。証明書をインポートするには、2つの方法があります。1つは、証明書が含まれるパッケージを作成して配置する方法です。もう1つは、証明書が含まれる DDC を作成して、DDC が証明書をすべてのデバイスに自動的に配置できるようにする方法です。インポート手順は、デバイスの OS によって異なります。



### ヒント

証明書認証：証明書パッケージをデバイスに配置した後で、サーバで証明書を認証する必要があります。サーバとクライアント間の証明書を認証するための基準は、証明書を発行した認証局、証明書の作成日、および証明書の名前に基づいています。証明書認証が正常に行われると、サーバとクライアントは相互のセキュアな通信を開始します。

## WTOS

WTOS が実行されているデバイスで証明書をインポートするには、(Cisco VXC Manager で登録するその他のパッケージと同様に) 2つのパッケージを登録する必要があります。1つのパッケージは、証明書を追加するためのもので、もう1つは、証明書をデバイスから削除するためのパッケージです。証明書の追加または削除を行う場合は、wnos.ini ファイルを変更して、2つの別個のパッケージを登録する必要があります。

証明書パッケージのフォルダ構造は VXC-M Package¥CADeployment で、CADeployment という名前のフォルダには wnos という名前のフォルダが1つ含まれています。wnos という名前のフォルダには、cacerts という名前のフォルダと wnos.ini という名前のファイルが格納されています。cacerts という名前のフォルダには実際の証明書ファイルが含まれています。

次に、証明書を追加するための wnos.ini の例を示します。

```
# Bypass the user log in to the local device
signon=0
# Set the Privilege to high
Privilege=high
# Command to Import the certificate to WTOS devices
AddCertificate= CA certificate file name
```

次に、証明書を削除するための wnos.ini の例を示します。

```
# Bypass the user log in to the local device
signon=0
# Set the Privilege to high
Privilege=high
# Command to delete the certificate in WTOS devices
DelCertificate= CA certificate file name
```

次に、WTOS デバイスに証明書を追加するための rsp ファイルの例を示します。

```
[Version]
Number=CADeployment
Description=CA Certificate Deployment
OS=BL
Category=Images
ImageSize=
[Script]
```

## Windows XPe



(注)

この項は、Cisco VXC デバイスには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Windows XPe が実行されているデバイスで証明書をインポートするには、(Cisco VXC Manager で登録するその他のパッケージと同様に) 2 つのパッケージを登録する必要があります。1 つのパッケージは、証明書を追加するためのもので、もう 1 つは、証明書をデバイスから削除するためのパッケージです。

証明書パッケージを追加するためのフォルダ構造は「¥VXC-M Packages¥CertificateAdd」で、フォルダ「¥VXC-M Packages¥CertificateAdd」には別の「CertificateAdd」フォルダとファイル「CertificateAdd.rsp」が含まれています。フォルダ「CertificateAdd¥CertificateAdd」には、「root\_cert.pem」という名前の実際の証明書ファイルが格納されます。

次に、Windows XPe が実行されているデバイスに証明書を追加するための rsp ファイルの例を示します。

```
[Version]
Number=CertificateAdd
Description=Installs a root CA Certificate
OS=XP
Category=Other Packages
[Script]
;
;-----
;Check Operating System and Confirm free space
;-----
CO "XP"
CF "C" "200"
;-----
;Query User and Lockout
;-----
LU
;-----
;Copy over certificate file
;-----
SF "<regroot>¥root_cert.pem" "c:¥Program Files¥VXC-M¥root_cert.pem"
;-----
;Update Registry & End Lockout
;-----
SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥RAPPORT¥HAGENT¥CAValidation" "1" "REG_DWORD"
SV "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥RAPPORT¥HAGENT¥CAPath" "c:¥Program
Files¥VXC-M¥root_cert.pem"
EL
```

証明書パッケージを削除するためのフォルダ構造は「¥VXC-M Packages¥CertificateRemove」で、フォルダ「¥VXC-M Packages¥CertificateRemove」には別の「CertificateRemove」フォルダとファイル「CertificateRemove.rsp」が含まれています。

次に、Windows XPe が実行されているデバイスから証明書を削除するための rsp ファイルの例を示します。

```
[Version]
Number=CertificateRemove
Description=Removes a root CA Certificate
OS=XP
Category=Other Packages
[Script]
;;
```

```

;-----
;Check Operating System and Confirm free space
;-----
CO "XP"
CF "C" "200"
;-----
;Query User and Lockout
;-----
LU
;-----
;Delete certificate file
;-----
DF "c:¥Program Files¥VXC-M¥root_cert.pem"
;-----
;Update Registry & End Lockout
;-----
DR "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥RAPPORT¥HAGENT¥CAValidation"
DR "HKEY_LOCAL_MACHINE¥SOFTWARE¥RAPPORT¥HAGENT¥CAPath"
EL

```



注意

デバイス レジストリで CA 検証フラグが 1 に設定されている場合、証明書の検証が行われます。このフラグが 1 に設定されていない場合は、クライアント側では証明書の検証は行われません。

## Windows CE .NET



(注)

この項は、Cisco VXC デバイスには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Windows CE .NET が実行されているデバイスで証明書をインポートするには、(Cisco VXC Manager で登録するその他のパッケージと同様に) 証明書ファイルが含まれているパッケージを登録する必要があります。たとえば、証明書パッケージのフォルダ構造は「VXC-M Package¥CE\_CertInstall」で、フォルダ「CE\_CertInstall」には、「CE\_CertInstall」という名前のフォルダが 1 つとファイル「CE\_CertInstall.rsp」が含まれています。フォルダ「CE\_CertInstall¥CE\_CertInstall」には、「CRC.txt」という名前のテキスト ファイルと「root\_cert.cer」という名前の実際の証明書ファイルの 2 つのファイルが格納されています。

次に、Windows CE が実行されているデバイスに証明書をインストールするための rsp ファイルの例を示します。

```

[Version]
Number=CE_CertInstall
Description=Installs a Certificate to a CE .NET device
OS=CEN
Category=Other Packages
[Script]
;
;-----
;Check Operating System and Confirm free space
;-----
CO "CEN"
;-----
;Query User and Lockout
;-----
LU

```

```

;-----
;Update Registry & End Lockout
;-----
SV "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco\AutoLoadCert\AutoLoadCert" "1" "REG_DWORD"
SV "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\Cisco\AutoLoadCert\CertFiles\Root" "root_cert.cer"
SF "CECert" "<regroot>\root_cert.cer" "%flash1\root_cert.cer"
EL
RB

```

次に、Windows CE .NET デバイスの証明書の検証をオンまたはオフにするための .rsp ファイルの例を示します。

```

[Version]
Number=CE_CertValOff
Description=Turns Certificate Validation OFF for a CE .NET device
OS=CEN
Category=Other Packages
[Script]
;DATE: 26 Sept 2008
;
;-----
;Check Operating System and Confirm free space
;-----
CO "CEN"
;-----
;Query User and Lockout
;-----
LU
;-----
;Update Registry & End Lockout
;-----
SV "HKEY_LOCAL_MACHINE\SOFTWARE\RAPPOR\HAGENT\CAValidation" "0" "REG_DWORD"
EL
RB

```

## セキュアな通信 (HTTPS) の使用

Cisco VXC Manager では、Cisco VXC Manager のコンポーネント間のセキュアな HTTPS 通信がサポートされます。

セキュアな通信は、次の 2 つの方法で開始できます。

- HAgent で開始される HTTPS 通信
- Cisco VXC Manager Administrator Console で開始される HTTPS 通信

### HAgent で開始される HTTPS 通信

HAgent は、クライアントデバイスの起動中に HServer との通信を開始できます。クライアントの HAgent が起動すると、DHCP サーバまたはプロキシ サーバから次の情報を要求します。

- サーバ IP アドレス
- 通信に使用される HTTPS ポート番号

HAgent が DHCP オプション タグから HTTPS ポート番号を取得できる場合は、IP アドレスとポート番号を使用して、HTTPS を介して HServer と通信します。

HAgent が DHCP オプション タグから HTTPS ポート番号を取得できない場合は、次の順序に従います。

1. HAgent は、ポート 443 と 8443 を使用して HTTPS を介して通信しようとしています。
2. HAgent が HTTPS を介して通信できない場合は、ポート 80 と 280 を使用して HTTP を介して接続しようとしています。
3. HAgent が HServer との通信を正常に開始した場合は、使用される通信メカニズム、IP アドレス、およびポート番号をキャッシュに入れて、後続の要求にその情報を使用します。
4. 起動中に HTTPS 通信が失敗した場合、HAgent は HTTPS プロトコルを再試行しません。

## Cisco VXC Manager Administrator Console で開始される HTTPS 通信

Administrator Console が、HServer との通信に使用するポート番号とプロトコルを判別できるようにネットワークを設定できます。

### ポート番号の判別

Administrator Console が通信用のポート番号を判別できるようにするには、次のようにします。

#### 手順

- ステップ 1** 必要なポート番号を使用して HServer をホストする IIS を設定します。
- ステップ 2** IIS および WWW サービスを停止します。
- ステップ 3** HServerInit サービスを起動します。

Administrator Console が開始すると、HServer との通信に使用するポート番号と IP アドレスを取得するためにデータベースに照会します。¥

### プロトコルの判別

Administrator Console が通信用のプロトコルを判別できるようにするには、次のようにします。

#### 手順

- ステップ 1** HServer をホストする IIS を TCP、SSL、または TCP、および SSL ポートとバインドします。



**ヒント** SSL ポートの場合は、証明書をインストールする必要があります。

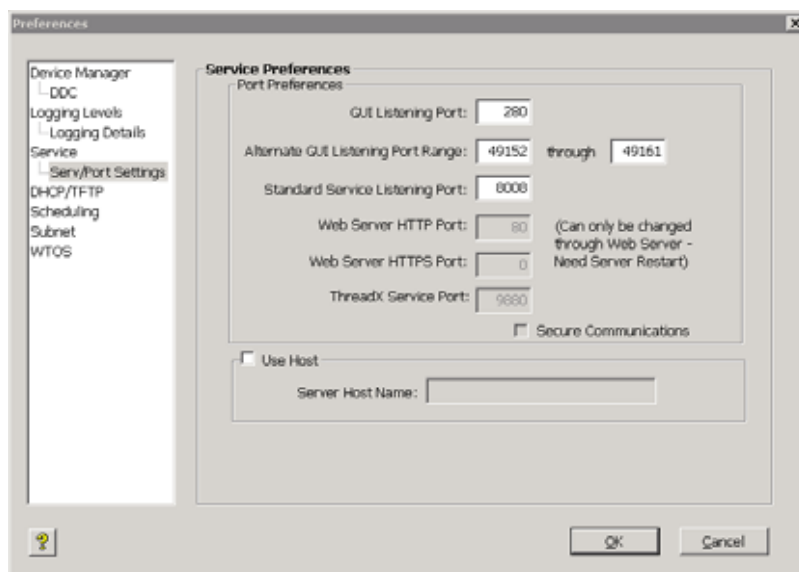
- ステップ 2** IIS および WWW サービスを停止します。
- ステップ 3** HServerInit サービスを起動します。

ポート番号と IP アドレスは、Cisco VXC Manager Database に格納されます。

要求が SSL を介して行われた場合は、Cisco VXC Manager 設定全体がセキュアに設定されます。

Administrator Console での設定は必要ありませんが、通知のために [Secure Communications] チェックボックスが [Serv/Port Settings Preferences] ダイアログボックスに表示されます。

図 B-1 Serv/Port Settings Preferences



IIS で SSL ポートが設定されている場合は、[Secure Communications] チェックボックスはオンになります。設定されていない場合はオフになります。

セキュアな通信を開始する前に、すべての設定が行われていることを確認します。



**ヒント** セキュアな通信のフラグは、リモートリポジトリとマスターリポジトリの両方に適用されます。

## Cisco VXC Manager デバイス セキュリティのイネーブル化

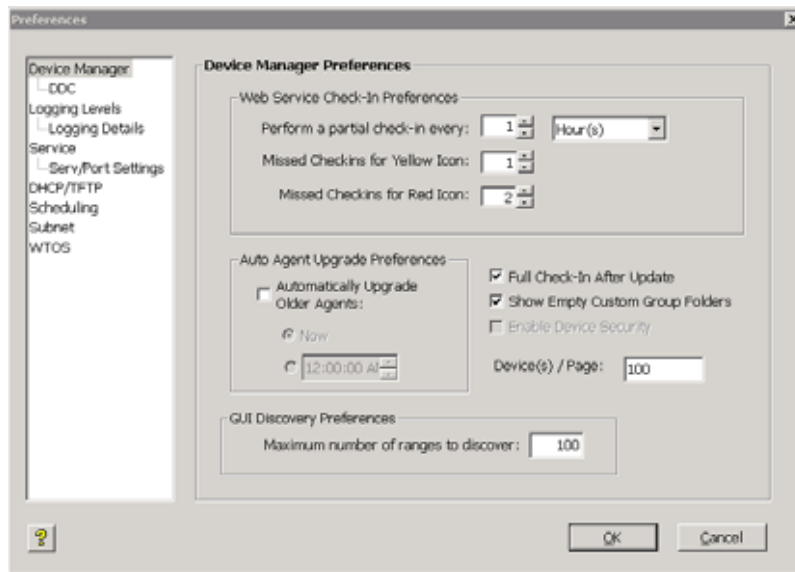
Cisco VXC Manager では、不正な Cisco VXC Manager インストールがデバイスを管理することを防止するよう Device Manager を設定できます。

デバイスセキュリティをイネーブルにするには、次のようにします。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Configuration Manager] を展開して、[Preferences] を選択して、[Cisco VXC Manager Preferences] のカテゴリが表示された詳細ペインを表示します。
- ステップ 2** [Device Manager Preferences] をダブルクリックして、[Device Manager Preferences] ダイアログボックスを開きます。

図 B-2 Device Manager Preferences



**ステップ 3** [Enable Device Security] を選択して [OK] をクリックしてから、[Yes] をクリックして確認します。

これ以降、デバイスがセキュリティ証明書をまだ保持していない場合は、次回のデバイスの再検出またはチェックイン時に、Cisco VXC Manager は、デバイスの Cisco VXC Manager Agent と Cisco VXC Manager インストール間の 1 対 1 の関係を確立します。この関係は、不正な Cisco VXC Manager インストールがデバイスを管理することを防止します。



**ヒント** デバイスセキュリティを適用すると、Cisco VXC Manager は、Web サービスと Cisco VXC Manager Agent 間の通信をすべて自動的に暗号化します。ただし、暗号化は、デバイスセキュリティとは関係なくオンにできます（「[Service Preferences](#)」(P.7-17) を参照）。

## Cisco VXC Manager セキュリティ証明書の変更

Cisco VXC Manager セキュリティ証明書を変更する前に、デバイスセキュリティをディセーブルにしたことを確認してから、Cisco VXC Manager セキュリティ証明書を変更してください。証明書番号の変更後に、デバイスセキュリティを再度イネーブルにできます（「[Cisco VXC Manager デバイスセキュリティのイネーブル化](#)」(P.B-7) を参照）。

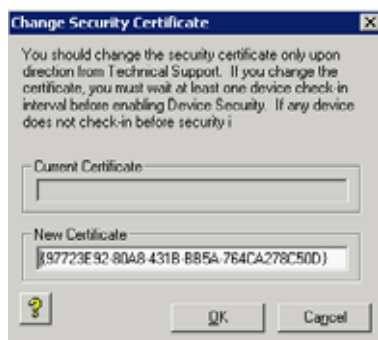
Cisco VXC Manager 証明書番号を変更するには、この手順を使用します（証明書を新しい番号に変更するか、古い証明書を復元できます）。


Cisco VXC Manager セキュリティ証明書を変更するには、次のようにします。

### 手順

**ステップ 1** [Configuration Manager] を展開して、[Licensing] ノードを右クリックし、[New] > [Certificate] を選択して [Change Security Certificate] ダイアログボックスを開きます（Cisco VXC Manager によって、[New Certificate] ボックスに新しい証明書番号が作成されることに注意してください）。

## 図 B-3 Change Security Certificate



 **ヒント** デバイス セキュリティをディセーブルにしている場合は、警告メッセージが表示されます。

**ステップ 2** 新しい証明書を受け入れるかどうかによって、次のいずれかを実行します。

- 受け入れる場合は、[OK] をクリックします。この手順はこれで完了です。
- 受け入れない場合は、復元するセキュリティ証明書を入力して（デバイスは前の Cisco VXC Manager インストールのこの証明書を共有している可能性があります。セキュリティ証明書を復元することによって、デバイスのコントロールを再度取得します）、[OK] をクリックします。



**注意** セキュリティ証明書を変更する前に、すべてのデバイスがチェックインして、現在の証明書を解放できるように、1 回のチェックイン間隔の間待機します。現在の証明書を使用するデバイスが、この時間内にチェックインしない場合に、新しい証明書のセキュリティをイネーブルにすると、チェックインしなかったデバイスは管理不能になります（まだ古い証明書を保持しているため）。





## APPENDIX **C**

# Cisco VXC Manager Agent のアップグレード

この付録では、Cisco VXC Manager Agent のアップグレードに関する詳細情報を説明します。また、Cisco VXC Manager Agent のエラー コードについての情報も提供します。

Cisco VXC Manager Agent は、管理対象デバイスのオペレーティング システム内で実行される小さい Web エージェントです。このエージェントの負荷は非常に小さく、シンクライアント環境に最適化されています。Cisco VXC Manager Agent は Cisco VXC Manager サーバ上の Cisco VXC Manager サービスとともに動作し、管理者に必要な操作を実行します。Cisco VXC Manager Agent は、Cisco VXC Manager サーバから送信されたコマンドを解釈して、管理対象デバイスに必要な変更を加えます。さらに、Cisco VXC Manager Agent は Cisco VXC Manager サーバに対してデバイスのステータス更新を伝えます。

次のトピックが含まれます。

- [「Auto-Agent Upgrade 機能の使用」 \(P.C-1\)](#)
- [「Cisco VXC Manager Agent エラー コードについて」 \(P.C-3\)](#)

## Auto-Agent Upgrade 機能の使用

Auto-Agent Upgrade 機能を使用すると、デバイス上にある Cisco VXC Manager Agent の既存のバージョンを自動的にアップグレードできます。この設定をイネーブルにすると、デバイスが検出されたとき（またはチェックインしたとき）に、デバイスは Cisco VXC Manager Agent の最新バージョンに自動的にアップグレードされます。



**注意**

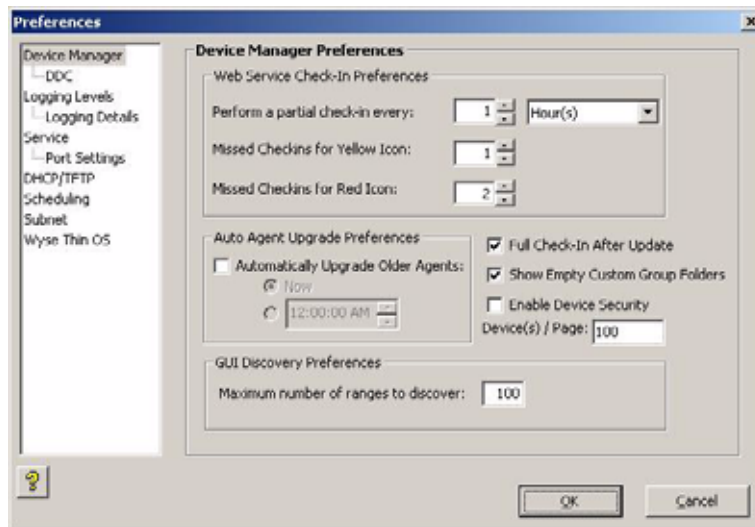
FTP や HTTP の制限がある場合や、古い Cisco VXC Manager Agent を搭載する大量のデバイスがネットワークにある場合、この操作には非常に長い時間がかかる場合があります。そのため、古い Cisco VXC Manager Agent だけをアップグレードすることから始めることを推奨します。対象のデバイスをアップグレードしたら、Auto-Agent Upgrade 機能をオンにして、アップグレードプロセスを完了し、ネットワークに追加された新しいデバイスを Cisco VXC Manager が検出したときに、デバイスのアップグレードを続行できます。

Cisco VXC Manager Agent の自動アップグレードをイネーブルにするには

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、Configuration Manager を展開して、[Preferences] をクリックします。
- ステップ 2** [Device Manger Preferences] をダブルクリックして、[Preferences] ダイアログ ボックスを開きます。

図 C-1 [Preferences] - [Device Manager]



**ステップ 3** [Automatically Upgrade Older Agents] チェックボックスを選択して、[Auto-Agent Upgrade Preferences] を設定します ([Now] を選択すると、アップグレードプロセスがただちに始まります。時計オプションを選択すると、アップグレードプロセスを開始する時間を設定できます。ネットワーク活動が少ない時間を推奨します)。



**ヒント** デフォルトでは、指定されている時間帯は、[Database Update Server] の時間帯です (別の時間帯を指定するには、「[Scheduling Preferences](#)」(P.7-23) を参照してください)。

次のことに注意してください。

- Cisco VXC Manager にインストールされる新しいパッケージは、既存の Cisco VXC Manager Agent デバイスをアップグレードすることを目的として作られています。
- Cisco VXC Manager Agent Upgrade では、バージョン番号の最初の 3 桁を使用して、より新しい Cisco VXC Manager Agent を利用できるかどうかを判断します。最後の桁は Cisco VXC Manager の内部制御用であり、Auto-Agent Upgrade では使用されません。
- [Enforce Sequence] がイネーブルになっている Default Device Configuration (DDC) が存在する場合、Auto-Agent Upgrade により DDC がトリガーされてデバイスが再イメージングされ、これにより Auto-Agent Upgrade がトリガーされるため、この繰り返しが無制限に続きます。既存の DDC を最新の Cisco VXC Manager Agent が含まれるイメージで再構築してください。

**ステップ 4** 設定が終了したら、[OK] をクリックします。



**ヒント** スケジュールアップデート編集または削除については、「[デバイスアップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照してください。

# Cisco VXC Manager Agent エラー コードについて

この項では、次のエラーについて説明します。

- **ファイル転送プロトコル エラー コード**：ファイル転送プロトコル (FTP) は、異なるオペレーティングシステムを搭載するマシン間でファイルを転送できるようにするプロトコルです。FTP ユーティリティはすべてのユーザ コマンドに対してエラー コードまたは応答コードを発行します。FTP エラーは、「[ファイル転送プロトコル \(FTP\) エラー コード](#)」(P.C-3) で説明されています。
- **Windows ソケット エラー コード**：任意の TCP/IP アプリケーションを使用するとき、設定またはネットワークでエラーが発生することがあります。多くのアプリケーションではこれらのエラーはレポートされず、ネットワーク エラーがあることだけが通知されます。(Microsoft のレポートによる) 可能性のあるエラーのリストは、「[Windows ソケット エラー コード](#)」(P.C-5) に示されています。

## ファイル転送プロトコル (FTP) エラー コード

次に、FTP に関する RFC 959 の抜粋を示します。

FTP 応答は 3 桁の数字とそれに続く文字列で構成されています (3 つの英数字として送信)。この数字は次の状態を決定するための自動処理用であり、文字列はユーザが使用するためのものです。

応答の 3 桁の数字には、それぞれ特別な意味があります。これは、ユーザからの非常に簡単な応答から複雑な応答まで処理できることを目的としています。1 桁めは、応答が良いか、悪いか、不完全かを示します。単純なユーザプロセスでは、この 1 桁めを確認するだけで次の動作 (計画どおり続行するか、再実行するか、削除するかなど) を決定できます。発生したエラーの概要 (ファイル システム エラー、コマンド構文エラーなど) をユーザプロセスで確認するには 2 桁めを確認します。3 桁めは詳細な情報のために予約されています。

### 1 桁め

応答コードの 1 桁めには、次のような 5 つの値があります。

- **1yz 肯定先行応答**：要求された処理は実行中です。この応答を待ってから、新しいコマンドを処理します (応答が完了する前にユーザプロセスが別のコマンドを送信するはプロトコル違反です。ただし、コマンドの処理中に到着したコマンドは、サーバ側の FTP プロセスによってキューに入れます)。このタイプの応答は、同時モニタリングが難しい実装に対して、コマンドが受け入れられたため、ユーザプロセスがデータ接続に集中できることを示すために使用できます。サーバ側の FTP プロセスは、コマンドにつき最大で 1 つの 1yz 応答を送信できます。
- **2yz 肯定完了応答**：要求された処理は正常に完了しました。新しい要求を開始できます。
- **3yz 肯定中間応答**：コマンドは受け入れられましたが、要求された動作は中止され、さらなる情報の受領を保留しています。ユーザはこの情報を指定する別のコマンドを送信する必要があります。この応答はコマンドシーケンス グループで使用されます。
- **4yz 一時的否定完了応答**：コマンドは受け入れられず、要求された動作は実行されませんでした。エラー状態は一時的であり、動作をもう一度要求できます。コマンドシーケンスがある場合、ユーザはコマンドシーケンスの最初に戻る必要があります。2 つの個別のサイト (サーバプロセスとユーザプロセス) が解釈に合意する必要がある場合は特に、「一時的な」に意味を割り当てることは困難です。4yz カテゴリの応答はそれぞれ異なる時間値を持つ可能性があります。ユーザプロセスは再試行するように促されます。応答が 4yz または 5yz (恒久的否定) のどちらのカテゴリに当てはまるかを決定する目安は、コマンド形式やユーザやサーバのプロパティを変更することなくコマンドを繰り返すことができる場合の応答は 4yz になります。たとえば、コマンドが同じ引数を使用して同じように繰り返され、ユーザはそのファイル アクセス権やユーザ名を変更する必要はなく、サーバには新しい実装が必要ない場合です。

- **5yz 恒久的否定完了応答**：コマンドは受け入れられず、要求された動作は実行されませんでした。ユーザプロセスは（同じシーケンスで）その要求を繰り返さないよう指示されます。永続的なエラー状態でも修正可能な場合もあるため、将来の任意の時点（つづりを変更した後や、ユーザがディレクトリの状態を変更した後など）で、ユーザがそのユーザプロセスを操作することにより、コマンドシーケンスを再実行できます。

## 2 桁め (機能のグループ化)

次の機能グループは 2 桁めで符号化されています。

- **x0z 構文**：これらの応答は構文エラー、構文は正しいがどの機能カテゴリにも当てはまらないコマンド、実装されていないコマンド、余分なコマンドを示します。
- **x1z 情報**：ステータスやヘルプのような情報の要求に対する応答です。
- **x2z 接続**：制御およびデータ接続を表す応答です。
- **x3z 認証および課金手続き**：ログイン プロセスと課金手続きのための応答です。
- **x4z**：未定。
- **x5z ファイル システム**：これらの応答は、要求された転送動作またはその他のファイル システム動作からのサーバ ファイル システムのステータスを示します。

## 3 桁め

3 桁めは、次のリストに示されるように、2 桁めで指定されている各機能カテゴリの意味をさらに細かく段階分けします。



### ヒント

各応答に関連するテキストは、必須ではなくあくまで推奨であり、関連付けられるコマンドによって変わる場合もあります。一方で、応答コードは最後のセクションの仕様に厳密に従う必要があります。つまり、ここで説明する状況とわずかに異なる状況でのサーバ実装においては、新しいコードを作成するのではなく、すでに定義されているコードを採用してください。

- **100**
  - 110 マーカー応答の再開。
  - 120 サービスが数分以内に準備完了。
  - 125 データ接続がすでに確立済み。転送開始。
  - 150 ファイル ステータス正常開始。データ接続を確立中。
- **200**
  - 200 コマンド使用可能。
  - 202 コマンドが実装されていないため、このサイトでは使用できない。
  - 211 システム ステータス、またはシステム ヘルプ応答。
  - 212 ディレクトリ ステータス。
  - 213 ファイル ステータス。
  - 214 ヘルプ メッセージ。
  - 215 NAME システム タイプ。
  - 220 新規ユーザに対してサービスを使用可能。
  - 221 サービスは制御接続を終了中。適切な場合はログアウト。
  - 225 データ接続を確立中。進行中の転送はなし。

- 226 データ接続を終了中。要求されたファイル動作は正常に完了（ファイル転送やファイル停止など）。
- 227 パッシブ モードを開始中（h1、h2、h3、h4、p1、p2）。
- 230 ユーザはログイン済み。続行。
- 250 要求されたファイル動作は正常に完了。
- 257 パス名を作成済み。
- 300
  - 331 ユーザ名は正常。パスワードが必要。
  - 332 ログイン用のアカウントが必要。
  - 350 要求されたファイル動作はこれ以上の情報を保留中。
- 400
  - 421 サービスが利用不能。制御接続を終了中。サービスが接続の終了を認識している場合、この応答は任意のコマンドに対する応答の場合があります。
  - 425 データ接続を確立できない。
  - 426 接続が終了。転送は中止。
  - 450 要求されたファイル動作が実行されない。ファイル利用不可（ファイルがビジーなど）。
  - 451 要求された動作が中止。ローカル エラーを処理中。
  - 452 要求された動作が実行されない。システムに十分な記憶域がない
- 500
  - 500 構文エラー、コマンドが認識されない。これには、コマンドラインが長すぎるなどのエラーが含まれる場合があります。
  - 501 パラメータや引数の構文エラー。
  - 502 コマンドが実装されていない。
  - 503 コマンドのシーケンスが正しくない。
  - 504 そのパラメータのコマンドが実装されていない。
  - 530 ログインしていない。
  - 532 ファイルを保存するには、アカウントが必要。
  - 550 要求された動作が実行されない。ファイルが利用できない（ファイルが見つからない、アクセス権がないなど）。
  - 551 要求された動作が中止。ページ タイプが不明。
  - 552 要求されたファイル動作が中止。ストレージの割り当てを超過（現在のディレクトリまたはデータ セット）。
  - 553 要求された動作が実行されない。許可されていないファイル名。

## Windows ソケット エラー コード

Cisco VXC Manager Agent でスクリプトが実行されていると、WINSOCK エラーが生成されます。その場合、スクリプトの一部としてファイルを取得または送信するときに Cisco VXC Manager Agent ではエラーが発生します。次に、(Microsoft のレポートによる) 可能性のあるエラーの一覧を示します。



## ヒント

エラーはエラー マクロによりアルファベット順に一覧表示されています。Winsock2.h に定義されているエラー コードによっては、関数から戻らないものもあります。それらはこのリストには含まれていません。

- WSAEINTR 10004 : 関数呼び出しに割り込みがありました。ブロック操作は呼び出しによって中断されました。
- WSAEACCES 10013 : アクセス権限は拒否されました。禁じられた方法でソケットにアクセスしようとした。
- WSAEFAULT 10014 : アドレスが正しくありません。システムは無効なポインタ アドレスを検出しました。
- WSAEINVAL 10022 : 無効な引数。いくつかの無効な引数が指定されました。
- WSAEMFILE 10024 : 開いているファイルが多すぎます。開いているソケットが多すぎます。
- WSAEWOULDBLOCK 10035 : リソースが一時的に利用できなくなっています。この段階でソケットは操作できません。
- WSAEINPROGRESS 10036 : 操作は現在実行中です。ブロック操作を実行中です。
- WSAEALREADY 10037 : 操作はすでに実行中です。すでに操作が実行中の非ブロック ソケットに対して操作が試行されました。
- WSAENOTSOCK 10038 : 非ソケットに対するソケット操作。ソケット以外に対して操作が試行されました。
- WSAEDESTADDRREQ 10039 : 送信先のアドレスが必要。必要なアドレスが操作から省略されました。
- WSAEMSGSIZE 10040 : メッセージが長すぎます。データグラム ソケットで送信されるメッセージが、内部メッセージバッファよりも長いものでした。
- WSAEPROTOTYPE 10041 : ソケットのプロトコル タイプが正しくありません。サポートされていないソケット関数呼び出しで、プロトコルが指定されました。
- WSAENOPROTOOPT 10042 : プロトコル オプションが正しくありません。不明か、無効か、サポートされていない呼び出しが実行されました。
- WSAEPROTONOSUPPORT 10043 : プロトコルがサポートされていません。要求されたプロトコルはシステムで構成されていません。
- WSAESOCKTNOSUPPORT 10044 : ソケット タイプがサポートされていません。指定されたソケット タイプのサポートは存在しません。
- WSAEOPNOTSUPP 10045 : 操作がサポートされていません。実行された操作はサポートされていません。
- WSAEPFNOSUPPORT 10046 : プロトコル ファミリがサポートされていません。プロトコル ファミリがシステムで構成されていないか、そのための実装が存在していません。
- WSAEAFNOSUPPORT 10047 : アドレス ファミリがサポートされていません。要求されたプロトコルと互換性のないアドレスが使用されました。
- WSAEADDRINUSE 10048 : アドレスはすでに使用中です。アプリケーションは、既存のソケットにすでに使用されている IP アドレスまたはポートにソケットをバインドしようとした。
- WSAEADDRNOTAVAIL 10049 : 要求されたアドレスを割り当てられません。要求されたアドレスは有効ではありません。
- WSAENETDOWN 10050 : ネットワークがダウンしています。ソケット操作は、ネットワークのダウンに遭遇しました。

- WSAENETUNREACH 10051 : ネットワークに到達できません。ソケット操作は、到達不能なネットワークへの接続を試みました。
- WSAENETRESET 10052 : ネットワークが接続をドロップしました。操作の実行中に、keep-alive 動作によってエラーが検出されたため、接続が切断されました。
- WSAECONNABORTED 10053 : ソフトウェアによって接続が中止されました。TCP/IP 設定エラー、データ転送のタイムアウト、プロトコル エラーなどの理由により、マシンのソフトウェアによって接続が中止されました。
- WSAECONNRESET 10054 : ピアによって接続がリセットされました。既存の接続が、リモートホストによって強制的に切断されました。
- WSAENOBUFS 10055 : バッファ領域が利用できません。システムのバッファ領域が不足しているか、キューがいっぱいであるため、ソケットでの操作を実行できませんでした。
- WSAEISCONN 10056 : ソケットはすでに接続されています。すでに接続されているソケットに対して、接続要求が行われました。
- WSAENOTCONN 10057 : ソケットが接続されていません。ソケットが接続されていないため、データの送信要求または受信要求はできません。
- WSAESHUTDOWN 10058 : ソケットのシャットダウン後に送信できません。ソケットがすでにシャットダウンされているため、データの送信または受信要求はできません。
- WSAETIMEDOUT 10060 : 接続がタイムアウトになりました。一定の時間を過ぎても接続が正常に応答しませんでした。
- WSAECONNREFUSED 10061 : 接続が拒否されました。対象マシンによって能動的に拒否されたため、接続できませんでした。
- WSAEHOSTDOWN 10064 : ホストがダウンしています。接続先のホストがダウンしているため、ソケット操作が失敗しました。
- WSAEHOSTUNREACH 10065 : ホストへのルートがありません。到達できないホストに対してソケット操作を実行しようとしてしました。
- WSAEPROCLIM 10067 : プロセスが多すぎます。Windows ソケットの実装には、同時に使用できるアプリケーションの数に制限がある場合があります。
- WSASYSNOTREADY 10091 : ネットワーク サブシステムが利用できません。このエラーは、システムが現在利用できないためにソケット実装が動作しない場合に返されます。
- WSAVERNOTSUPPORTED 10092 : このバージョンの Winsock.dll はサポートされていません。現在の Windows ソケットの実装は、要求された Windows ソケット仕様のバージョンをサポートしていません。
- WSANOTINITIALISED 10093 : 起動に失敗しました。アプリケーション ソケットの起動に失敗しました。
- WSAEDISCON 10101 : 正常なシャットダウン処理が進行中です。リモートの呼び出し先が正常なシャットダウン処理を開始したことを示します。
- WSATYPE\_NOT\_FOUND 10109 : クラス タイプが見つかりません。指定されたクラスが見つかりませんでした。
- WSAHOST\_NOT\_FOUND 11001 : ホストが見つかりません。そのようなホストはありません。
- WSATRY\_AGAIN 11002 : 権限のないホストが見つかりません。ホストの名前解決中に一時的に発生するエラーで、権限を持つサーバからの応答をローカル サーバが受信しなかったことを示します。
- WSANO\_RECOVERY 11003 : これは回復不可能なエラーです。データベースの検索中に回復不可能なエラーが発生しました。

## ■ Cisco VXC Manager Agent エラーコードについて

- **WSANO\_DATA 11004** : 名前は有効ですが、要求されたタイプのデータレコードがありません。要求された名前は有効で、データベースに存在しましたが、解決先の正しい関連データが存在しません。
- **ERROR\_INTERNET\_TIMEOUT 12002** : インターネットがタイムアウトしました。要求がタイムアウトしました。



## APPENDIX **D**

# Mass Imaging Tool とデバイス イメージング

この付録では、Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用に関する詳細情報を説明します。また、Cisco VXC Manager のデバイス イメージングを使用して、Cisco VXC Manager システムでデバイスをイメージングする方法についても説明します。

次のトピックが含まれます。

- 「Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用」 (P.D-1)
- 「Cisco VXC Manager でのデバイス イメージングの使用」 (P.D-3)
- 「PXE ベースのイメージング」 (P.D-16)
- 「PXE ベース以外のイメージング (WTOS Boot Agent)」 (P.D-3)
- 「PXE ベース以外のイメージング (Merlin Boot Agent)」 (P.D-15)

## Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool は、Cisco VXC Manager システムにあるすべてのデバイスの Cisco VXC Manager パッケージを同時に管理（登録、登録解除、スケジュールの追加、スケジュールの削除、レコードの削除）するためのツールです。Cisco VXC Manager の Administrator Console を使用して Cisco VXC Manager パッケージの登録やスケジュール設定を実行するときに（それぞれ「[Package Manager](#)」 (P.3-1) および「[Update Manager](#)」 (P.5-1) を参照）、Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool を使用すると、Cisco VXC Manager システム内にあるすべてのデバイスに対してこれらのタスクを簡単に実行できます。

### 前提条件



注意

Cisco VXC Manager の Imaging Tool を開いて使用する前に、次の前提条件が満たされていることを確認してください。

- アップデートするデバイスが Cisco VXC Manager システムに追加されているサブネットに属している（サブネットは Cisco VXC Manager システムによって認識されます）。



**ヒント** 1つのデバイスを Cisco VXC Manager システムに手動で追加する場合、そのサブネットにあるすべてのデバイスに必要なサブネットを追加します（「[デバイスの手動追加](#)」(P.2-8)を参照）。

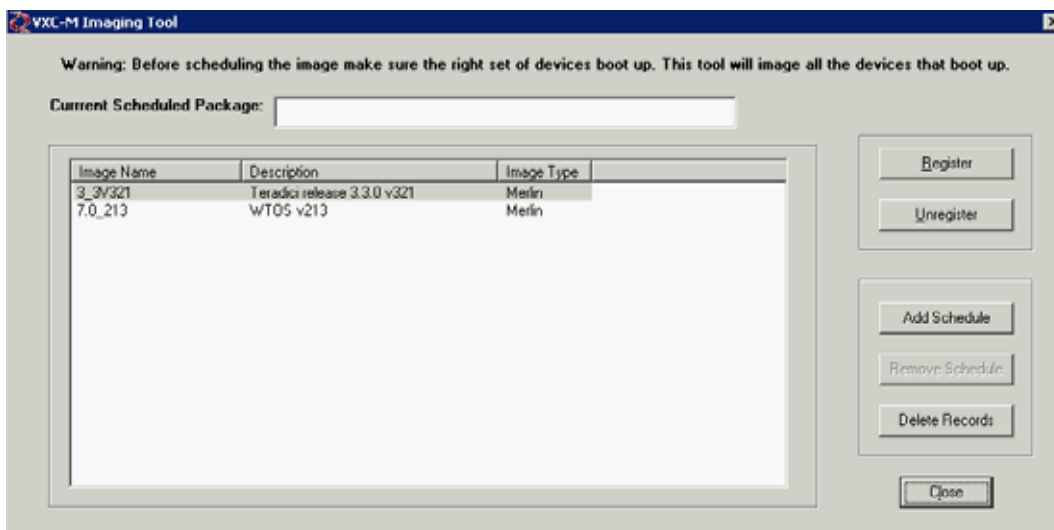
- イメージングするデバイスだけが Cisco VXC Manager システムに接続されている。イメージは、デバイスのブートやリブート時に、接続されているすべてのデバイスに配布されます。配布を停止するには、Cisco VXC Manager の Imaging Tool の [Remove Schedule] コマンド ボタンを使用して、[Current Scheduled Package] ボックスに表示されている、スケジュールが設定されているアップデートを削除します。Cisco VXC Manager の Imaging Tool の [Remove Schedule] コマンド ボタンを使用して、[Current Scheduled Package] ボックスに表示されているスケジュールが設定されているアップデートを削除するまで、イメージングしないデバイスが Cisco VXC Manager システムからすべて切断されていることを確認してください。
- Cisco VXC Manager の Administrator Console (GUI) が閉じられている。

## 手順

### 手順

**ステップ 1** [Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [VXC-MImaging] をクリックして、Cisco VXC Manager の Imaging Tool を開きます。

**図 D-1** Cisco VXC Manager の Imaging Tool



**ステップ 2** 利用可能なコマンド ボタンでは、次の注意事項に従ってください。

- [Register] : [Cisco VXC Manager Package Registration] ウィザードを使用して Cisco VXC Manager パッケージを登録できます ([Register] をクリックして、目的の .rsp ファイルを参照および選択し、[Next] をクリックして、[Register] をクリックし、[OK] をクリックします。登録するすべてのパッケージがツールのメイン ペインに表示され、[Add Schedule] を使用してスケジュールを設定できます)。
- [Unregister] : Cisco VXC Manager パッケージの登録をシステムから削除できます (メイン ペインでパッケージを選択して、[Unregister] をクリックしてから確定します)。

- [Add Schedule] : Cisco VXC Manager パッケージの配布スケジュールを設定できます (メイン ペインでパッケージを選択し、[Add Schedule] をクリックしてから確定します。Cisco VXC Manager パッケージが [Current Scheduled Package] ボックスに表示され、次にデバイスを起動したときに配布が実行されます)。

**注意**

同じデバイスに正常に配布されたイメージングのスケジュールを変更する場合、はじめに [Delete Records] をクリックして、データベースからエントリをクリアする必要があります。

- [Remove Schedule] : [Current Scheduled Package] ボックスに表示されている、スケジュールが設定されているアップデートを削除できます。たとえば、デバイスのブートやリブート時に、接続されているすべてのデバイスを正常にイメージングした後、イメージングしないデバイスを接続する前に、[Remove Schedule] をクリックします。
- [Delete Records] : Cisco VXC Manager Database 内のデバイスのイメージング ステータスをリセットできます。たとえば、イメージングを正常に完了した後 (および Cisco VXC Manager Database テーブルでこれらの特定の MAC アドレスがアップデートされた後)、同じデバイスに対してイメージングのスケジュールを変更するには、はじめに [Delete Records] をクリックして、データベースからエントリをクリアする必要があります。

**ステップ 3** Cisco VXC Manager の Imaging Tool を使用し終わったら、[Close] をクリックします。

## Cisco VXC Manager でのデバイス イメージングの使用

Cisco VXC Manager は、オペレーティング システムをデバイスでロードする前にデバイスで実行できます。これを行うために、デバイスは Cisco VXC Manager サーバと通信してイメージング タスクを実行できる環境にブートされます。イメージのキャプチャと配布、スクリプトによるインストール、レジストリ バックアップを実行したり、特定のスクリプトを実行したりするには、この環境にデバイスをブートする方法を実装する必要があります。

デバイスをイメージングする方法は 2 とおりあります。

- 「PXE ベース以外のイメージング (WTOS Boot Agent)」 (P.D-3)
- 「PXE ベース以外のイメージング (Merlin Boot Agent)」 (P.D-15)
- 「PXE ベースのイメージング」 (P.D-16) (PXE ベースのイメージングは Merlin および WISard でサポートされています)

## PXE ベース以外のイメージング (WTOS Boot Agent)

PXE ベース以外のイメージングは、クライアント デバイスのフラッシュ メモリに存在する Boot Agent に依存します。現在、Boot Agent では Merlin ブート フロッピーのダウンロードのみをサポートしています。Boot Agent は Cisco VXC Manager サーバと通信し、ターゲット デバイ스에 イメージングが必要かどうかを決定します。Boot Agent は PXE プロトコルからブートしないため、Cisco VXC Manager プロキシ DHCP サービスから Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスとポート番号を受け取りません。このリリースでは、Boot Agent は次のいずれかのソースから Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスとポート番号を検出できます (プライオリティ順)。

1. 標準の DHCP サーバから受信した DHCP オプション タグ値。
2. Boot Agent デスクトップから設定された Cisco VXC Manager サーバ URL。

3. 標準または Cisco VXC Manager のプロキシ DHCP サービスから受信したベンダー クラス RTIAgent の DHCP オプション タグ値。
4. DNS サービスの位置レコード。
5. DNS ホスト名ルックアップ。

## WTOS Boot Agent デスクトップからの VXC Manager URL の設定

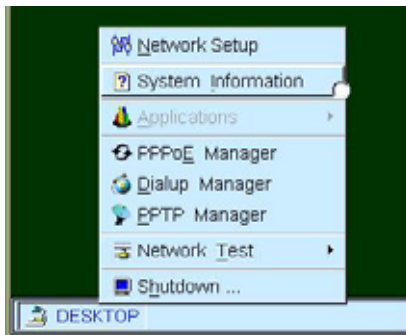
Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスとポート番号がローカルに設定されておらず、DHCP または DNS サーバからその情報を取得できない場合、Boot Agent にはエラー メッセージ「NO HSERVER CONFIGURED OR UNABLE TO CONNECT TO SERVER.Boot to guest OS in flash? (Press ESC/No in 5 seconds to return to Boot Agent desktop)」が表示されます。

Boot Agent デスクトップから Cisco VXC Manager サーバ URL を設定するには

### 手順

- ステップ 1** [ESC] を押して、Boot Agent デスクトップに移行します。

図 D-2 Boot Agent デスクトップ



- ステップ 2** [DESKTOP] をクリックして、[Network Setup] を選択します。

図 D-3 [Network Setup] ウィンドウ



**ステップ 3** [Servers] タブをクリックして、Cisco VXC Manager サーバ URL を入力します。サーバ URL の設定では、次の注意事項に従ってください。

- 完全修飾 URL は「<protocol>://<server ip/name>:<port #>」という形式です。たとえば、「https://192.168.1.100:443」です
- セミコロン (;) で区切って URL のリストを入力できます。Boot Agent は指定した順番に各 URL を試します。URL リストの全体の長さは 63 文字を超えてはなりません。
- プロトコル文字列が指定されておらず、ポート 80 が設定されている場合、Boot Agent は HTTP を試します。ポート 80 が設定されていない場合、Boot Agent は HTTPS を試します。
- ポート番号が指定されていない場合、Boot Agent は HTTPS にポート 443 を試し、HTTP にポート 80 を試します。

プロトコルとポート番号の両方が指定されていない場合、Boot Agent はポート 443 で HTTPS を試します。

たとえば、次の URL の場合、

```
https://vxcmserver.vxcm.cisco.com; http://192.168.1.100:88;vxcmserver
```

Boot Agent は次を試します。

```
https://vxcmserver.vxcm.cisco.com:443
```

```
http://192.168.1.100:88
```

```
https://vxcmserver.<domain name>:443
```

**ステップ 4** [OK] をクリックします。新しい設定は次のブートで有効になります。

## DHCP サーバの設定

DHCP サーバで次のオプション タグ値を設定します。

**オプション タグ 186** : Cisco VXC Manager サーバの IP アドレス (192.168.1.10 など)。この値は 4 バイトの IP アドレス形式にする必要があります。

**オプション タグ 190** : Cisco VXC Manager サーバがリスンするセキュア ポート番号 (ポート 443 など)。この値は語形式 (値 = 0x01bb) または 2 バイト配列形式 (値 = 0x01 0xbb) にする必要があります。

**オプション タグ 192** : Cisco VXC Manager サーバがリスンする非セキュア ポート番号 (80 など)。この値は語形式 (値 = 0x0050) または 2 バイト配列形式 (値 = 0x00 0x50) のいずれかにする必要があります。



#### ヒント

Cisco VXC Manager サーバと DHCP サーバを同じマシン上で実行することはできません。一部の旧エージェントでは、Cisco VXC Manager の非セキュア ポート番号にオプション タグ 187 が使用されます。オプション タグの値がベンダー クラス固有の情報に埋め込まれている場合 (オプション 43)、その値はオプション タグ 192 と同じ方法で解釈されます。オプション タグ 192 が指定されていない場合、新しい Boot Agent はレガシー サポートでのみオプション タグ 187 を使用します。DHCP サーバではオプション タグ 192 を使用することを推奨します。DHCP オプション値の設定の詳細については、DHCP サーバ マニュアルを参照してください。

Windows DHCP サーバで Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスとポート オプション値を設定するには

#### 手順

- ステップ 1** DHCP 管理ウィザードを開き、設定する DHCP サーバを選択して、サーバ名を右クリックし、[Set Predefined Options] を選択して、[Select Predefined Options and Values] ウィンドウを開きます。

図 D-4 [DHCP] ウィンドウ

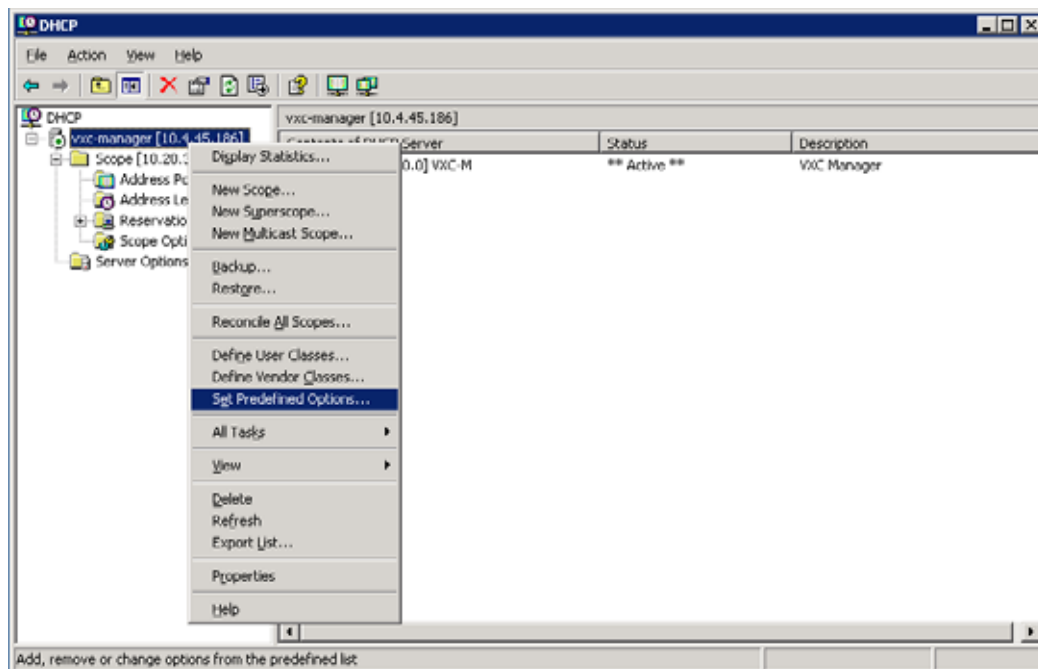
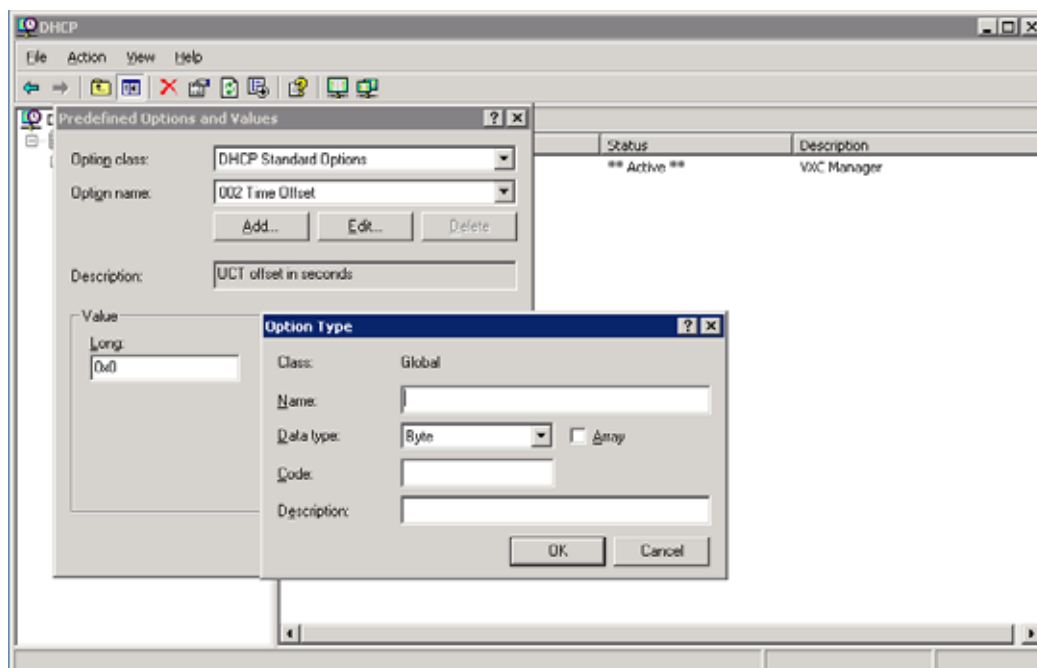


図 D-5 Select Predefined Options and Values

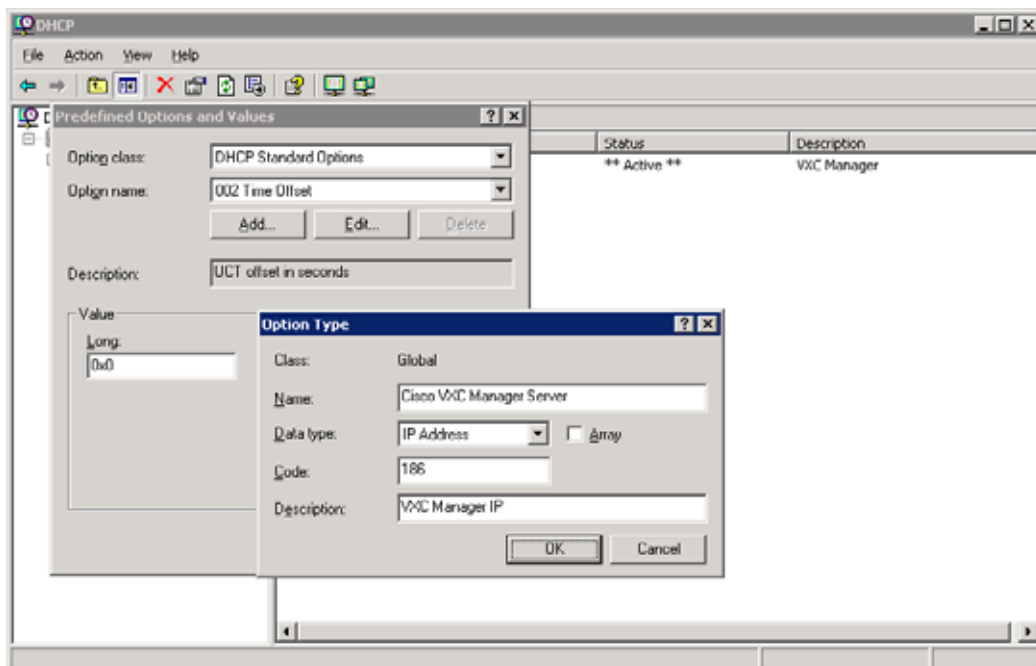


**ステップ 2** [Predefined Options and Values] 画面で、[Add] ボタンをクリックします。[Option Type] ウィンドウが表示されます。

**ステップ 3** [Option Type] ウィンドウで、必要な次の情報を入力します。

- [Name] : Cisco VXC Manager Server
- [Code] : 186
- [Data Type] : IP Address
- [Description] (任意) : 目的の情報を入力するか、なにも入力しません

図 D-6 [Option Type] : Server IP



**ステップ 4** [OK] をクリックします。

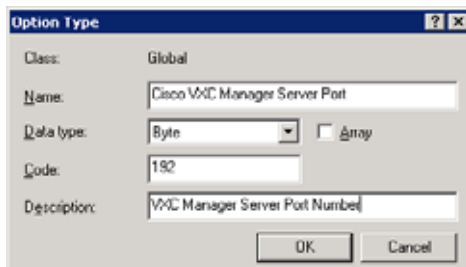
**ステップ 5** Cisco VXC Manager サーバ ポートで手順 2 と 3 を繰り返し、次の情報を入力します。

- [Name] : Cisco VXC Manager Server Secure Port
- [Code] : 190
- [Data Type] : Word

**ステップ 6** Cisco VXC Manager サーバ ポートで手順 2 と 3 を繰り返し、次の情報を入力します。

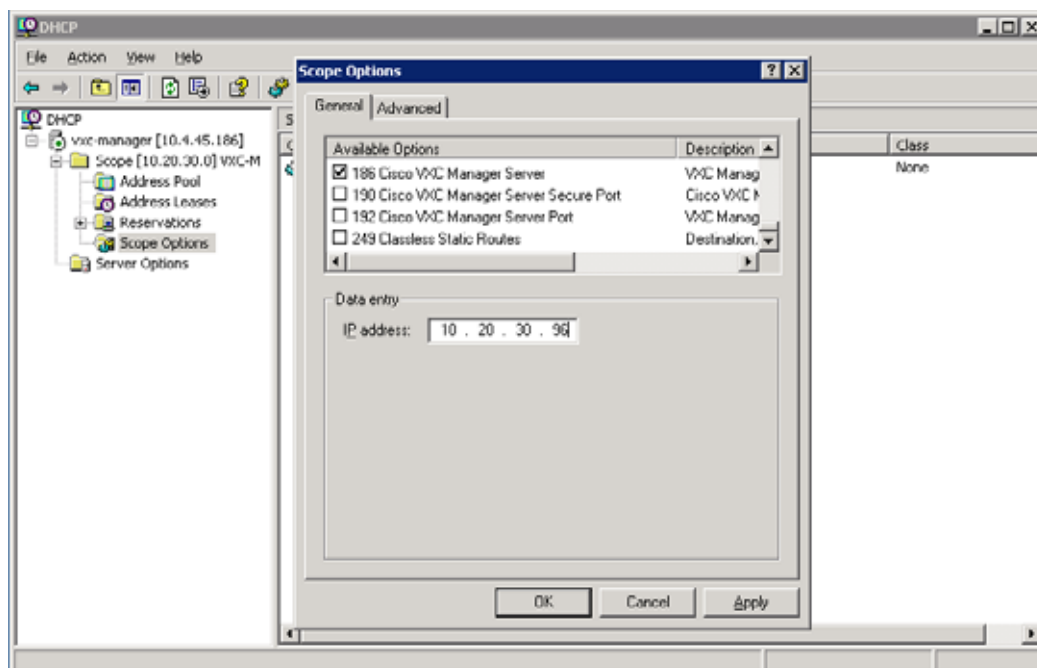
- [Name] : Cisco VXC Manager Server Port
- [Code] : 192
- [Data Type] : Byte または Word

図 D-7 [Option Type] : Cisco VXC Manager Server Port



**ステップ 7** [OK] をクリックします。

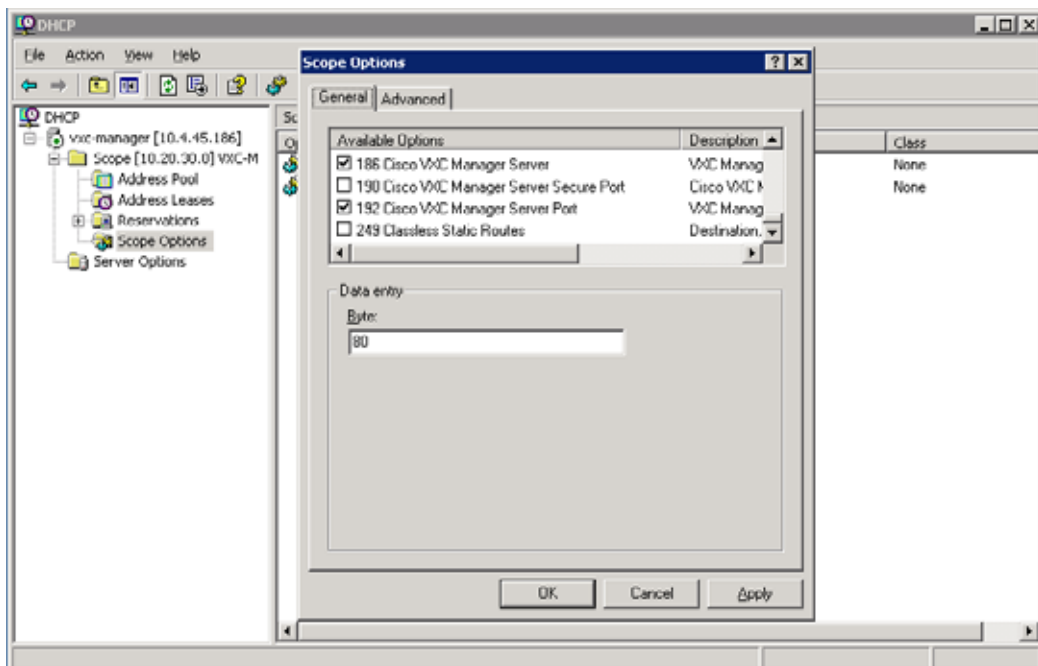
図 D-8 [DHCP] の [Scope Options] : Cisco VXC Manager Server



**ステップ 8** DHCP 管理ウィザードから、[Scope Options] (図 D-8 に示されるとおり、ターゲットの [DHCP Server Scope] から) を選択して右クリックし、[Configure Options] を選択します。

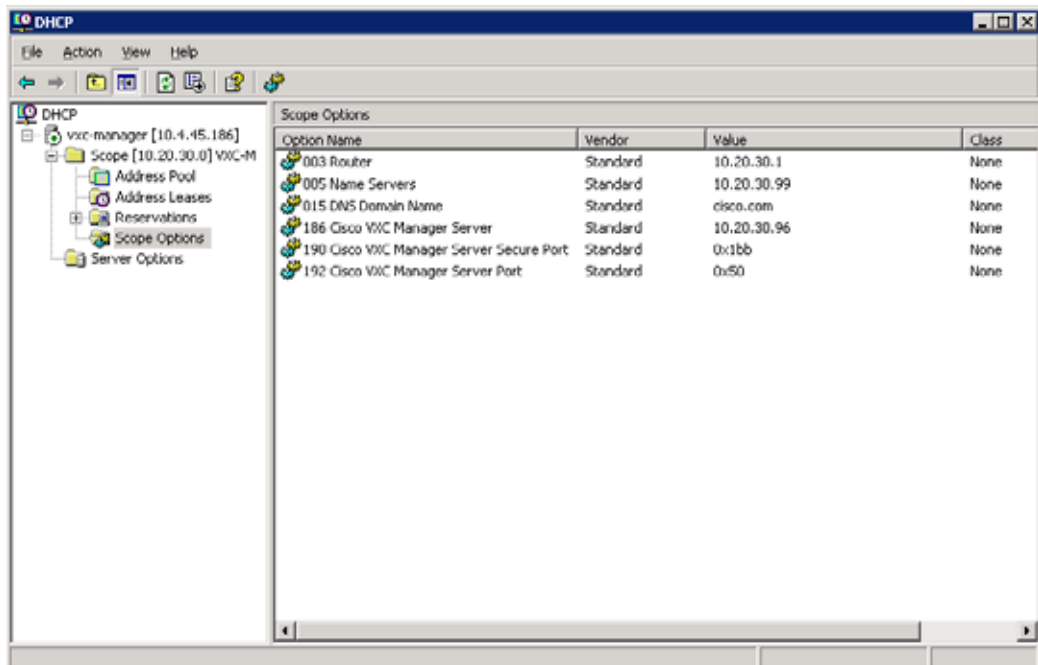
- [Available Options] のリストで、オプション番号 186 をオンにして、Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスを入力します。
- [Available Options] のリストで、オプション番号 190 をオンにして、Cisco VXC Manager サーバがセキュア通信をリッスンするポート番号を入力します。
- [Available Options] のリストで、オプション番号 192 をオンにして、Cisco VXC Manager サーバがセキュア通信をリッスンするポート番号を入力します (図 D-9 にはポート 80 が示されています)。

図 D-9 [DHCP] の [Scope Options] : Cisco VXC Manager サーバポート



ステップ 9 [OK] をクリックします。

図 D-10 [DHCP] の [Scope Options] のリスト



ステップ 10 ターゲット DHCP サーバおよびスコープの下に、186、190、192 のオプションが適切な値で一覧表示されていることを確認します。

## DNS サーバでのサービス位置レコードの設定

DNS サーバで、\_VXCMServer.\_tcp.<domain name> という名前のサービス位置レコード (SRV) を設定します。1 つ以上の Cisco VXC Manager サーバ名やポート、およびこのレコードに対応するポート番号を指定できます。複数の Cisco VXC Manager サーバ名を設定する場合、Boot Agent は各エントリに割り当てる重みとプライオリティに応じて順番にその名前にアクセスします。



### ヒント

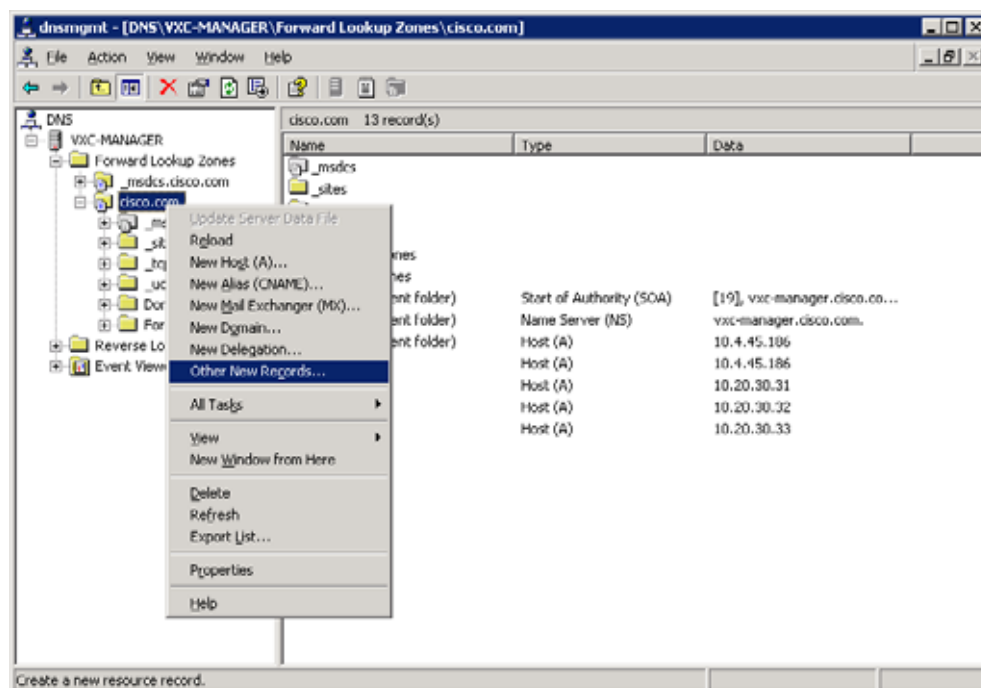
Boot Agent が DNS サーバに照会するためには、その前に DHCP サーバが適切な DNS サーバおよびドメイン名を提供する必要があります。SRV 設定の詳細については、DNS サーバマニュアルを参照してください。

Windows DNS サーバに Cisco VXC Manager サーバの SRV を設定するには

### 手順

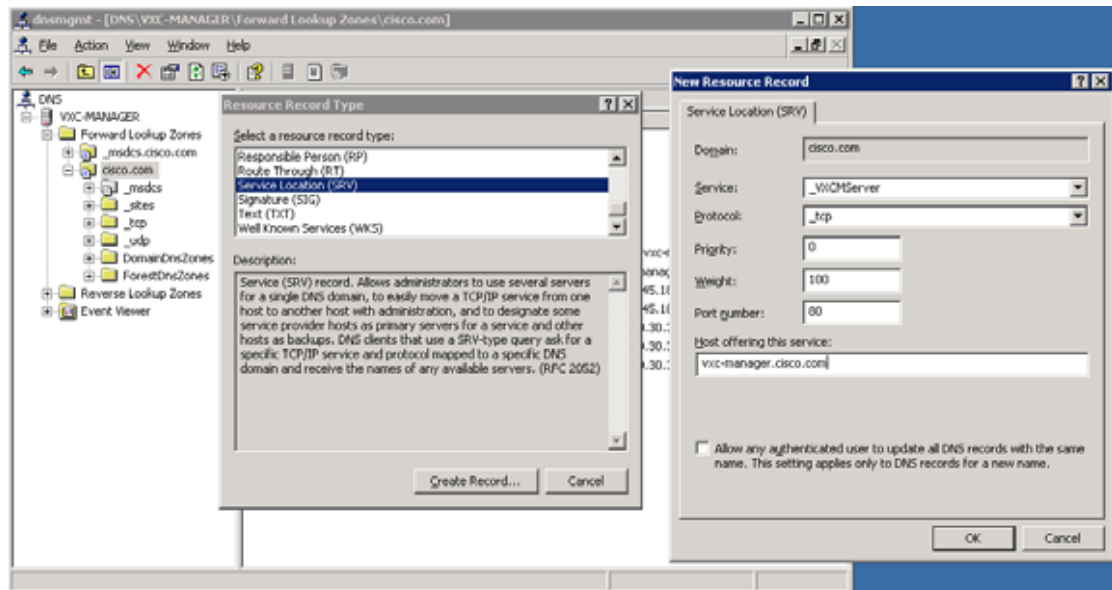
**ステップ 1** DNS 管理ウィンドウを開きます。

図 D-11 DNS 管理 : 新規レコード



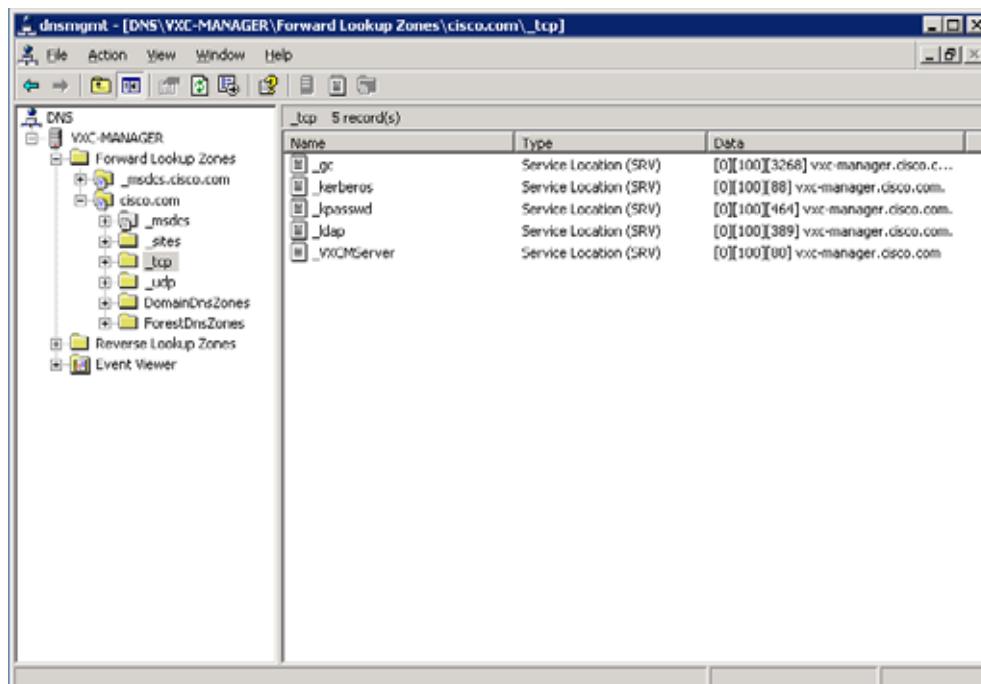
**ステップ 2** Cisco VXC Manager サーバが属するドメインを選択して、ドメイン名を右クリックして、[Other New Records] を選択します。

図 D-12 サービス レコード タイプ



- ステップ 3** [Select a resource record type] リストから、[Service Location (SRV)] を選択して、[Create Record] ボタンをクリックします。
- ステップ 4** [New Resource Record] ウィンドウで、次のボックスに情報を入力します。
- [Service] : \_VXCMserver
  - [Protocol] : \_tcp
  - [Port Number] : 80 (HTTPS を使用する場合は、443 などのセキュア ポート番号を入力)
  - [Host offering this service] : <FQDN of Cisco VXC Manager server>
- ステップ 5** 必要に応じて、Cisco VXC Manager サーバエントリのプライオリティと重み値を入力できます。プライオリティ値では、小さい数字のほうがプライオリティが高いことを示します。同じプライオリティクラスのエントリに順序を付けるには、重み値を指定できます。重み値では、大きい数字のほうがプライオリティが高いことを示します。
- ステップ 6** 完了したら、[OK] をクリックします。

図 D-13 DNS 管理 : リスト



**ステップ 7** DNS 管理画面で、Cisco VXC Manager サーバの SRV が適切な値で適切なドメインに表示されていることを確認します。

## DNS サーバでの Cisco VXC Manager サーバのホスト名の設定

DNS サーバで、Cisco VXC Manager Server という名前と、Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスを使用して、ホスト名レコードを設定します。ポート番号が指定されていないため、Boot Agent は HTTP とデフォルトのポート番号 80 を使用します。



### ヒント

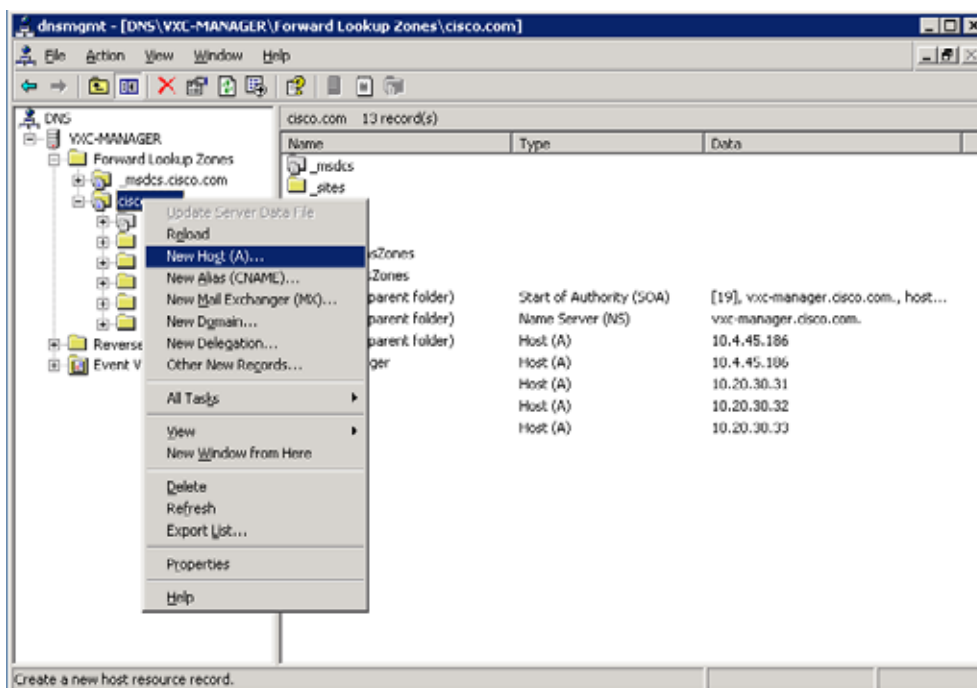
Boot Agent が DNS サーバに照会するためには、その前に DHCP サーバが適切な DNS サーバおよびドメイン名を提供する必要があります。ホスト名の設定の詳細については、DNS サーバ マニュアルを参照してください。

Windows DNS サーバに Cisco VXC Manager サーバのホスト名を設定するには

### 手順

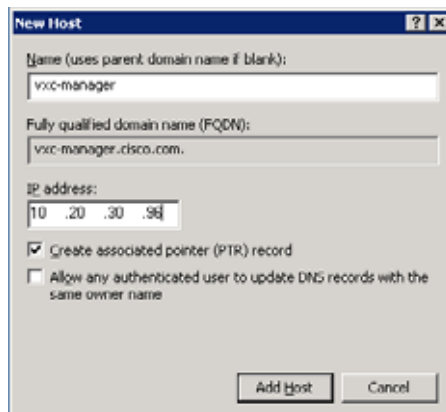
**ステップ 1** DNS 管理ウィンドウを開きます。

図 D-14 DNS 管理 : 新規ホスト



**ステップ 2** Cisco VXC Manager サーバが属するドメインを選択して、ドメインを右クリックして、[New Host] を選択します。

図 D-15 New Host



**ステップ 3** [New Host] ウィンドウで、必要な次の情報を入力します。

- [Name] : Cisco VXC ManagerServer
- [IP address] : <Cisco VXC Manager Server IP address>

**ステップ 4** [Add Host] をクリックします。

**ステップ 5** DNS 管理画面で、Cisco VXC Manager ホスト名が適切な IP アドレスで適切なドメインに表示されていることを確認します。

## PXE ベース以外のイメージングで Merlin を使用したイメージの配布



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Merlin Image を配布するには、次の手順を実行します。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console で、[Device Manager] を展開し、デバイスのリストを表示します。Merlin イメージ (push\_9V92\_S550\_512 など) を目的のデバイスにドラッグアンドドロップします。
- ステップ 2** Merlin イメージング プロセスを確認するには、Boot Agent が最初にデバイスでブートされ、Cisco VXC Manager サーバにアクセスした後にゲスト OS がブートされることを確認します。
- ステップ 3** Merlin を使用して、Boot Agent イメージですでにプログラムしたデバイスのイメージをプルまたはプッシュします。
- ステップ 4** イメージの配布を確認するには、次のようなイベントのシーケンスを確認します。
  - デバイスが Boot Agent から起動する。
  - デバイスが Cisco VXC Manager にアクセスし、HTTP を介して Merlin をダウンロードする。
  - Merlin が Cisco VXC Manager サーバにアクセスし、イメージング プロセスを開始する。

## PXE ベース以外のイメージング (Merlin Boot Agent)



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Merlin Boot Agent をスタティックに設定するときには、次の注意事項に従ってください。

### 手順

- ステップ 1** デバイスに最新の initrd.pxe が配置されるように、最新の initrd.pxe と vmlinuz.pxe で PXE 以外のクライアントをイメージングします。
- ステップ 2** DHCP サーバと標準サービスをディセーブルにします。
- ステップ 3** PXE 以外のイメージング ジョブのスケジュールを設定します。
- ステップ 4** Merlin の起動中にビーブ音がしたら、[Esc] キーを押して、以前のスタティック設定をクリアします。これは、設定をもう一度入力する必要がある場合にのみ必要です。[Esc] キーを押さない場合や設定がない (初回の) 場合、次の項目を入力するように求められます (または、設定値をすでに入力している場合は入力を求められず、直接イメージング モードが始まります)。
  - クライアント IP アドレス
  - サブネット マスク
  - デフォルト ゲートウェイ

- Cisco VXC Manager の IP アドレス
- プロトコル (http/https) のデフォルト http
- ポート番号 (デフォルト ポート 80)

## PXE ベースのイメージング



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

Pre-boot Execution Environment (PXE) は、ネットワークを使用してデバイスをブートするために開発された業界標準です。PXE ではディスク設定やインストールされているオペレーティング システムにかかわらずデバイスをブートできます。また、デバイス上にファイルや設定が必要ありません。PXE ブートを BIOS でオンにすると、デバイスはネットワーク PXE サーバと通信して、イメージング ジョブを受け取ることができます。PXE にはさまざまな利点があり、リモートでイメージをデバイスに配布できます。

## PXE 要求のルーティング

PXE クライアントではブロードキャスト パケットを使用して、ネットワーク上で DHCP および PXE サービスを見つけ、ファイルを転送します。ほとんどのデフォルト ルータ設定ではブロードキャスト トラフィックが転送されないため、これらのパケット タイプでは、PXE 配置を計画するときに問題が生じることがあります。これを解決するには、これらのブロードキャスト パケットを正しいサーバに転送するようにルータを設定するか、PXE サーバを各サブネットに導入します。一般的なルータはブロードキャスト トラフィックを特定のマシンに転送するように設定されています。送信元サブネットでもブロードキャストを送信することもあります。転送されたブロードキャスト トラフィックは特定のマシンに対して送信されます。DHCP をサポートするには、ルータをイネーブルにするのが一般的です。PXE と DHCP の両サービスが同じマシンにあり、DHCP パケットの転送がイネーブルになっている場合、ブロードキャスト パケットは問題なく転送されます。これらのサービスが別のマシンにある場合は、追加の設定が必要になることがあります。パケットを転送する場合は、DHCP および PXE の両サーバの適切なポートと IP アドレスにアクセスできるように、ルータ設定で DHCP トラフィックが許可されていることを確認してください。

## DHCP の導入と設定

DHCP は PXE プロセスに不可欠な要素であり、PXE を設定して使用するには DHCP をインストールする必要があります。DHCP サーバ コンポーネントは個別に取得、インストール、設定する必要があります (DHCP サーバは Cisco VXC Manager では提供されません)。DHCP が設定され、PXE サーバが導入されたら、PXE サーバと DHCP サーバの通信方法を設定する必要があります。

## イメージ パッケージの配布

イメージ パッケージを配布する前に、次の操作を実行します。

## 手順

- ステップ 1** Cisco VXC Manager 内でイメージ パッケージを登録します。イメージ パッケージはカスタム イメージを使用することも、既存の参照デバイスから登録されているイメージを使用することもできます。
- ステップ 2** イメージ パッケージをイネーブルにして、配布できるようにします。
- ステップ 3** イメージングするデバイスが、Cisco VXC Manager システムの一部であることを確認します（デバイスはすでに検出されているか、「[デバイスの追加および自動検出](#)」(P.2-6) で説明されているように、Administrator Console を使用して手動で追加されている必要があります)。
- ステップ 4** WISard を使用してイメージを登録するには、「[WISard を使用したデバイスからのイメージの登録](#)」(P.G-12) の項を参照してください。イメージを Merlin に登録するには、「[Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録](#)」(P.G-15) の項を参照してください。

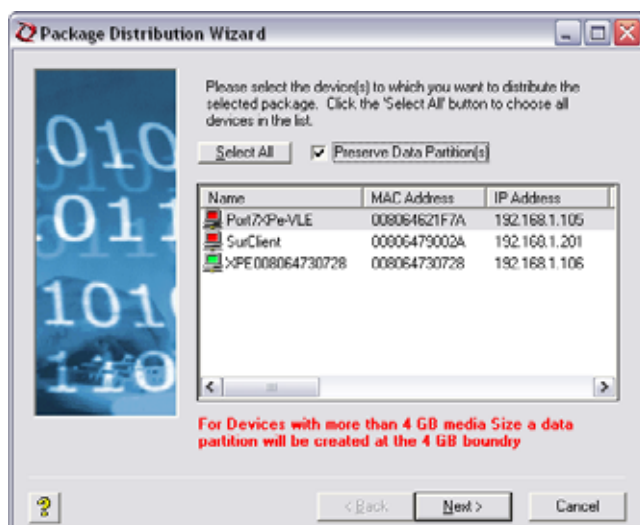


**ヒント** Merlin ではイメージングに FTP、HTTP、HTTPS プロトコルがサポートされています。WISard ではイメージングに FTP プロトコルだけがサポートされています。

デバイスをイメージングするには、次のようにします。

- **デバイスのグループをイメージングする：**
  - a. Administrator Console のツリー ペインで、配布するイメージが見つかるまで [Package Manager] を展開し、イメージを選択します。
  - b. 同じツリー ペインで、[Device Manager] ノードを展開して、イメージングするデバイスのリストが含まれるフォルダを開きます。
  - c. Cisco VXC Manager パッケージを、配布する必要があるイメージのグループにドラッグアンドドロップします。（たとえば、財務部署にあるすべてのデバイスを表示するデフォルトのビューを作成して、そのビューを Finance という名前のフォルダに配置している場合、そのフォルダを開いて、イメージをフォルダにドラッグアンドドロップできます。デバイスのリストは、配布されるイメージと同じオペレーティング システムを持つデバイスだけが含まれるように自動的にフィルタ処理されることに注意してください）。[Package Distribution Wizard] が表示されます。

図 D-16 Package Distribution ウィザード



- d. イメージ パッケージのスケジュールを設定する必要があるデバイスを選択し（データ パーティションを確保する必要がある場合は、[Preserve Data Partition(s)] チェックボックスを選択し）、[Next] をクリックして、Cisco VXC Manager パッケージの配布スケジュールを設定します。
- **Update Manager からイメージングする：**
    - a. Administrator Console のツリー ペインで、[Update Manager] を右クリックして、[New] > [Update] の順に選択して、[Software Package Wizard] を開きます。
    - b. 配布するイメージが含まれるフォルダを選択し、[Next] をクリックします。
    - c. 配布するイメージを選択して、[Next] をクリックします（デバイスのリストは、配布されるイメージと同じオペレーティング システムを持つデバイスだけが含まれるように自動的にフィルタ処理されることに注意してください）。
    - d. Cisco VXC Manager パッケージの配布スケジュールを設定します。
- 

## イメージング プロセスについて

Cisco VXC Manager パッケージの配布スケジュールを設定して、Cisco VXC Manager サーバにデバイスがチェックインされたら、次のイメージング プロセスが実行されます。

1. Cisco VXC Manager サーバは、デバイスのアップデートがあるかどうかをチェックします。
2. イメージング ジョブのスケジュールが設定されている場合、デバイスに通知されます。
3. デバイスが再起動して、ネットワーク ブート プロセスを実行します。
4. Cisco VXC Manager Agent がデバイスにダウンロードされ、Cisco VXC Manager サーバと通信して、Cisco VXC Manager リポジトリから指定されている適切なイメージを取得します。
5. Cisco VXC Manager Agent は、そのイメージをデバイスのフラッシュ ファイル システムに適用します。
6. デバイスは新しいイメージに再起動します。



## APPENDIX **E**

# トラブルシューティング

---

この付録では、一般的なトラブルシューティング情報を説明します。

次のトピックが含まれます。

- 「Cisco VXC Manager のアップグレード インストールでの問題」 (P.E-1)
- 「ライセンス エラー」 (P.E-2)
- 「ファームウェア アップグレード後に PCoIP クライアントが接続できない」 (P.E-3)
- 「リモート シャドウイングの問題」 (P.E-3)
- 「適切なログ レベルの設定」 (P.E-3)
- 「Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスの変更」 (P.E-5)
- 「IIS 6.0 でのリポジトリ テスト接続の問題」 (P.E-5)
- 「データベース接続の問題」 (P.E-6)
- 「デバイス検出の問題」 (P.E-6)
- 「PXE デバイス検出の問題」 (P.E-7)
- 「パッケージ エラー」 (P.E-7)
- 「IIS 6.0 での HServer Init 要求の問題」 (P.E-7)
- 「Wake on LAN コマンドがリモート デバイスに到達しない」 (P.E-9)
- 「Wake on LAN がリモート サブネットにあるデバイスに到達しない」 (P.E-9)
- 「Wake on LAN の応答遅延」 (P.E-9)
- 「HTTP モードの IIS 7.0 でのリポジトリ インストールの問題」 (P.E-9)
- 「Windows Server 2008 での Merlin イメージングの問題」 (P.E-11)
- 「故障したデバイスの復旧」 (P.E-11)
- 「WISard イメージの Merlin への変換」 (P.E-12)

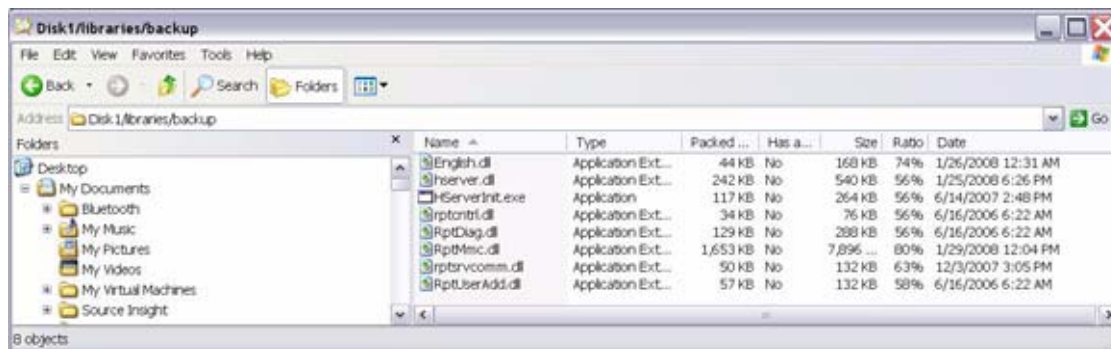
## Cisco VXC Manager のアップグレード インストールでの問題

問題：アップグレード プロセス中に使用されていたファイルが上書きされませんでした。

解決策：次のようにします。

- VXC-Mv<ReleaseNumber>\¥Disk1¥libraries¥backup のフォルダにナビゲートします

図 E-1 バックアップ フォルダの内容



- バックアップ フォルダ内に表示される各ファイルで (図 E-1 を参照)、変更日とファイル サイズのプロパティを確認します
- バックアップ フォルダに表示されているファイル プロパティとインストール先フォルダ内の同じファイルのプロパティを比較します。表 E-1 には、バックアップ フォルダ内にある各ファイルのインストール先フォルダへのパスが示されています

表 E-1 インストール先フォルダのパス

ファイル名	インストール先フォルダへのパス
English.dll	~¥Program Files¥Cisco¥VXC-M
HServer.dll	~¥Inetpub¥wwwroot
HServerInit.exe	~¥Program Files¥Cisco¥VXC-M
rptcntrl.dll	~¥WINDOWS¥system32
rptdiag.dll	~¥Program Files¥Cisco¥VXC-M¥Utilities
RptMmc.dll	~¥Program Files¥Cisco¥VXC-M
RptSrvComm.dll	~¥WINDOWS¥system32
RptUserAdd.dll	~¥WINDOWS¥system32

- バックアップ フォルダ内にあるファイルのプロパティが、インストール先フォルダにあるファイルのプロパティと一致しない場合、バックアップ フォルダのファイルのコピーを作成して、該当するインストール先フォルダに配置します。

## ライセンス エラー

問題 : Cisco VXC Manager でシスコ以外のデバイスが検出された場合、ポップアップ ライセンス エラーが発生します。これらのシスコ以外のデバイスをチェックインしようとしたり、管理者がそれらのデバイスを管理しようとしたときに、このエラーは自動的に表示されます。

解決策 : シスコ以外のデバイスに有効なライセンスをアップロードします。有効なライセンスが利用できない場合、シスコ以外のデバイスを Device Manager から削除し、デバイスをネットワークから切断します。

## ファームウェア アップグレード後に PCoIP クライアントが接続できない

問題：Cisco VXC Manager を使用して、Cisco VXC 2111/2211 PCoIP クライアントのファームウェアをアップグレードする場合、アップグレード後にクライアントが仮想マシンに接続できない場合があります。

解決策：ローカル ユーザはクライアントの [On Screen Display] メニューにアクセスして、次のようにする必要があります。

- 
- ステップ 1 [Options] > [Config] > [Unlock] の順に選択します。
  - ステップ 2 パスワード フィールドをブランクのままにして、[OK] をクリックします。
  - ステップ 3 [Connection Management] タブをクリックして、[Enable Connection Management] をオフにします。
  - ステップ 4 [VMware View] タブをクリックして、[Enable VMware View] と [FQDN] をオンにします。
  - ステップ 5 [FQDN] フィールドに、仮想マシンをホストしているブローカ サーバの FQDN を入力します。
  - ステップ 6 [Port] フィールドで、ゼロ (0) のポート値を削除して、フィールドをブランクのままにします。
  - ステップ 7 [OK] をクリックします。
  - ステップ 8 変更を適用するためにクライアントをリセットするように求められたら、[Yes] をクリックします。
- 

## リモート シャドウイングの問題

問題：リモート シャドウイングに問題があります。

解決策: Remote Shadow の適切な設定を [Viewer] または [Browser] に設定していることを確認します。

## 適切なログ レベルの設定

問題：ログ レベルを適切に設定します。

解決策：問題を特定する場合は、ログ レベルを [Debug only] に設定します。Cisco VXC Manager の通常動作中は、ログ レベルを [Warning] または [Error] に設定します。

## サービス ログの表示：例

次の手順を使用して、Cisco VXC Manager の次のようなサービス ログに記録されたアクティビティを表示します。

- Web サービス ログ：デバイス管理用に Cisco VXC Manager Web サービスのアクティビティの詳細を記録します。
- TFTP ログ：ソフトウェア パッケージをデバイスに配布するために、Trivial File Transfer Protocol アクティビティの詳細を記録します。
- 標準サービス ログ：Cisco VXC Manager 標準サービスのアクティビティの詳細を記録します。

- DHCP ログ: Cisco VXC Manager Dynamic Host Configuration Protocol が IP アドレスをデバイスに割り当てるときのアクティビティの詳細を記録します。

**ヒント**

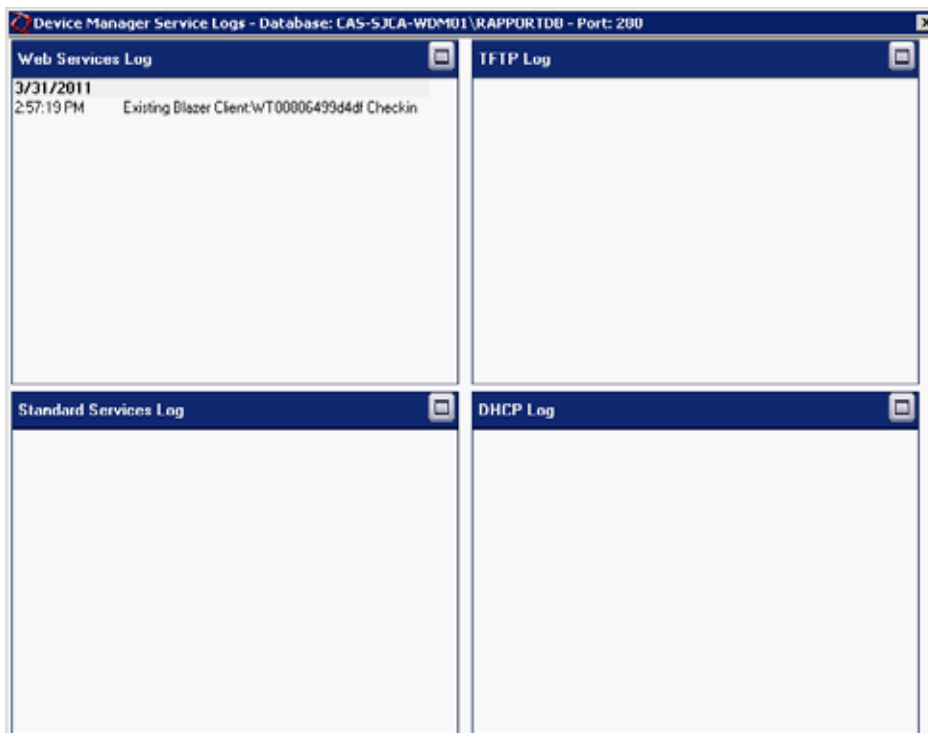
Cisco VXC Manager サービス ログでアクティビティのロギングのレベルを設定する方法については、「[Logging Preferences](#)」(P.7-14) を参照してください。

Cisco VXC Manager のサービス ログを表示するには

**手順**

- ステップ 1** Cisco VXC Manager システム トレイの [Service Logs] アイコンをダブルクリックして、Cisco VXC Manager の [Service Logs] ウィンドウを開きます。

**図 E-2 Service Logs**



- ステップ 2** 目的のログの情報を確認します。



**ヒント** 任意のログのウィンドウを展開するには、その最大化ボタンをクリックします。

## Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスの変更

問題：HServer が実行されている Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスを変更します。

解決策：次の手順を実行して、Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスを変更します。

### 手順

- ステップ 1 次のレジストリ設定を変更します。
  - Configuration Manager¥Software Repositories¥Master = 新しい IP アドレス
  - HKLM¥Software¥Rapport¥SWRep¥FTPUserDomain = 新しい IP アドレス
- ステップ 2 IIS を再起動します。
- ステップ 3 Cisco VXC Manager サービスを再起動します ([Services] タブを使用)。

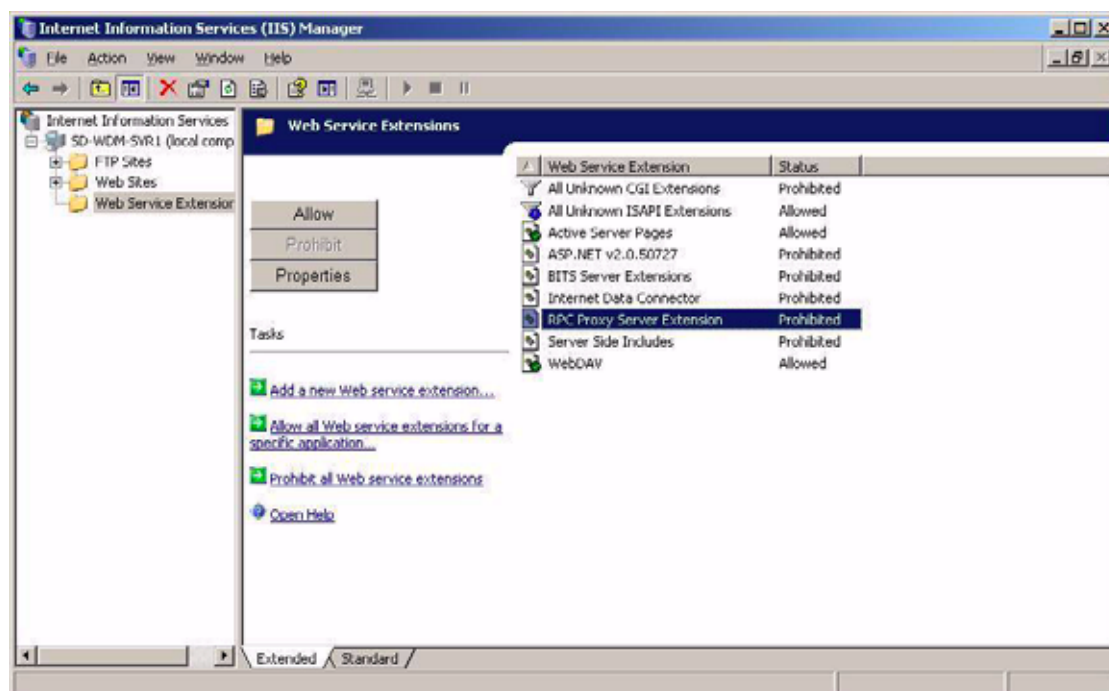
## IIS 6.0 でのリポジトリ テスト接続の問題

マスターまたはリモートリポジトリとのテスト接続が失敗する場合、次を確認します。

### 手順

- ステップ 1 [IIS] にナビゲートして、[World Wide Web Service] を選択し、[Details] ボタンをクリックします。

図 E-3 Web Service Extensions

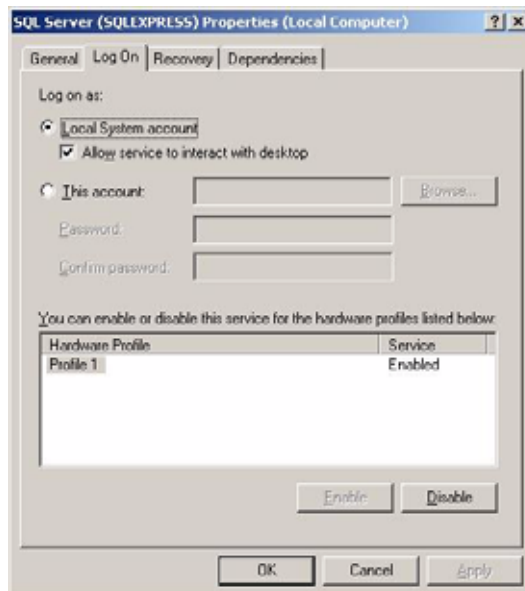


- ステップ 2** [Web Service Extensions] で [WebDAV] と [All Unknown ISAPI Extensions] の両方のステータスが [Allowed] であることを確認します。
- ステップ 3** FTP リポジトリで、(rapport という名前のデフォルト ユーザ用の) パスワードが正しいことを確認します。
- ステップ 4** Linux リポジトリで、WebDAV の「rapport」フォルダですべての権限がイネーブルになっていることを確認します。(『*Installation Guide for Cisco VXC Manager*』の第 2 章を参照してください)。

## データベース接続の問題

インストール中、SQL Server 2005 Express Edition データベースの接続に問題が生じた場合、SqlExpress サービスの [Log on as] 設定が [Local System account] に設定されていることを確認し、サービスを再起動します。(図 E-4 を参照)。

図 E-4           SQL Server Properties



## デバイス検出の問題

問題：デバイス検出に問題があります。

解決策：次の点を確認します。

- デバイス サービスが正常に実行されている
- サーバ サービスが正常に実行されている
- デバイス サービスとサーバ サービス間のパスが正常に実行されている (ping を使用)
- サブネットと IP 範囲が正しく定義されている (サブネットまたは IP 範囲でデバイスを検出する場合)

## PXE デバイス検出の問題

問題：PXE デバイス検出に問題があります。

解決策：次の点を確認します。

- すべてのルータでポート 4011 が開いている
- IP-ヘルパー アドレスが定義され、Cisco VXC Manager-Server を指している
- PXE デバイスが Cisco VXC Manager によって検出された後に（Cisco VXC Manager が PXE デバイスを PXE デバイスとして認識する前に）少なくとも 1 度は再起動された（PXE デバイスは、検出された後に少なくとも 1 度は再起動する必要がある）

## パッケージエラー

問題：パッケージエラーを受信しています。

解決策：次のようにします。

- スクリプト構文を確認する
- スクリプト (\*.rsp) を編集して、LU コマンドをコメント行にする（ターゲット デバイスを利用できるようにする）
- ネットワーク スニファを使用する
- Cisco VXC Manager サーバの IP アドレスが変更されていないことを確認する
- リポジトリ情報が正しいことを確認する
- FTP を使ってファイルを手動でリポジトリに送信できることを確認する
- 無人インストールを実行できることを確認する
- パッケージ構造が正しいことを確認する（フォルダ = \*.rsp 名 = scripts'NUMBER'value）

## IIS 6.0 での HServer Init 要求の問題

問題：[Preferences] ウィンドウでポートを表示できません。

解決策：HServerInit を再起動して、設定を再度確認します。

[Preferences] ウィンドウにポートが依然として表示されない場合、IIS Lockout ツールがサーバで実行され、HServer への要求を停止する URLScan セキュリティ ツールを使用している可能性があります。この問題を解決するには、urlscan.ini ファイルを設定して、設定後に WWW サービスを再起動する必要があります。

urlscan.ini ファイルには次のセクションがあります。

- [Options]：このセクションは一般的な URLScan オプションを記述します。
- [AllowExtensions] および [DenyExtensions]：このセクションは、URLScan が許可するファイル名の拡張子を定義します。
- [AllowVerbs] および [DenyVerbs]：このセクションは、URLScan で許可する動詞（HTTP メソッドとも呼ばれます）を定義します。
- [DenyHeaders]：このセクションは、HTTP 要求で許可されない HTTP ヘッダーを一覧で指定します。このセクションに記されているいずれかの HTTP ヘッダーが HTTP 要求に含まれる場合、URLScan は要求を拒否します。

- [DenyURLSequences] : このセクションは、HTTP 要求で許可されない文字列を一覧で指定します。URLScan は、このセクションに記されている文字列が含まれる HTTP 要求を拒否します。
- [RequestLimits] セクション : このセクションは、サーバに到達する要求の部分をバイト単位のサイズで制限します。

次のように urlscan.ini ファイルを設定します。

### 手順

**ステップ 1** [Options] セクションで次の項目を設定します。

- [Options]
- AllowDotInPath = 1
- UseAllowVerbs=1
- UseAllowExtensions=1

**ステップ 2** [AllowExtensions] および [DenyExtensions] セクションで、次の項目を設定します。

- [AllowExtensions]
- .bat
- .cmd
- .com
- .exe

**ステップ 3** [AllowVerbs] および [DenyVerbs] セクションで、次の項目を設定します。

- [Allowed Verbs]
- GET
- HEAD
- POST
- PROPFIND
- MKCOL
- DELETE
- PUT
- MOVE

**ステップ 4** [DenyHeaders] セクションで、次の項目を設定します。

- [DenyHeaders]
- 「Translate」ヘッダーを許可

**ステップ 5** [RequestLimits] セクションで次の項目を設定します。

- [RequestLimits]
- MaxAllowedContentLength=4294967296

## Wake on LAN コマンドがリモート デバイスに到達しない

問題：WOL コマンドを HServer からリモート デバイスに送信できません。

解決策：UDP ポート 16962 のポート フォワーディングをイネーブルにします。

## Wake on LAN がリモート サブネットにあるデバイスに到達しない

問題：Wake on LAN がリモート サブネットにあるデバイスに到達しません。

解決策：Cisco VXC Manager と Cisco VXC クライアントが異なるサブネットにあるときに Wake On LAN 機能を使用するには、クライアントが存在するすべてのサブネット上でダイレクトブロードキャストを許可するようにルータを設定する必要があります。サンプルのルータ設定については、次を参照してください。

[VLAN 間で Wake-on-LAN をサポートするための Catalyst レイヤ 3 スイッチの設定例](#)

## Wake on LAN の応答遅延

問題：クライアントで Wake on LAN 応答が遅延します (30 ~ 50 秒)。

解決策：スパンニング ツリーがイネーブルになっているスイッチに Cisco VXC 2112/2212 クライアントが接続されている場合、Wake on LAN が正常に機能するように、接続されているスイッチ ポートで STP PortFast をイネーブルにする必要があります。イネーブルにしないと、クライアントはポートが STP フォワーディング モードになるのを待機する必要があります (30 ~ 50 秒)。STP フォワーディング モードになると、Wake on LAN が機能するようになります。

## HTTP モードの IIS 7.0 でのリポジトリ インストールの問題

問題：リポジトリ インストールが HTTP モードで失敗します。

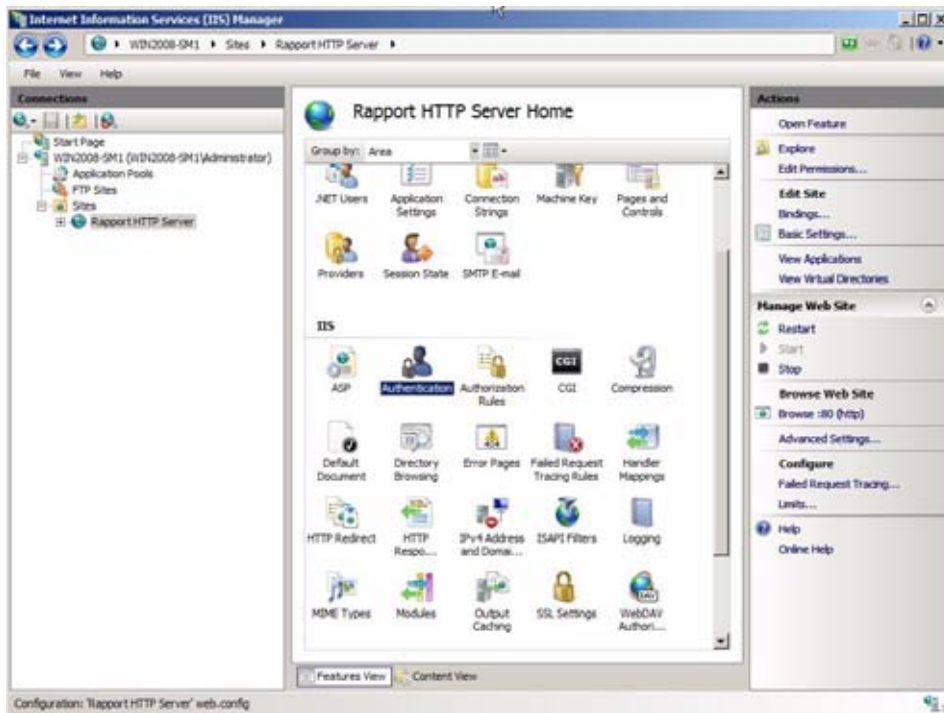
解決策：

### 手順

**ステップ 1** WebDAV がイネーブルになっていることを確認します。WebDAV ステータスを確認するには

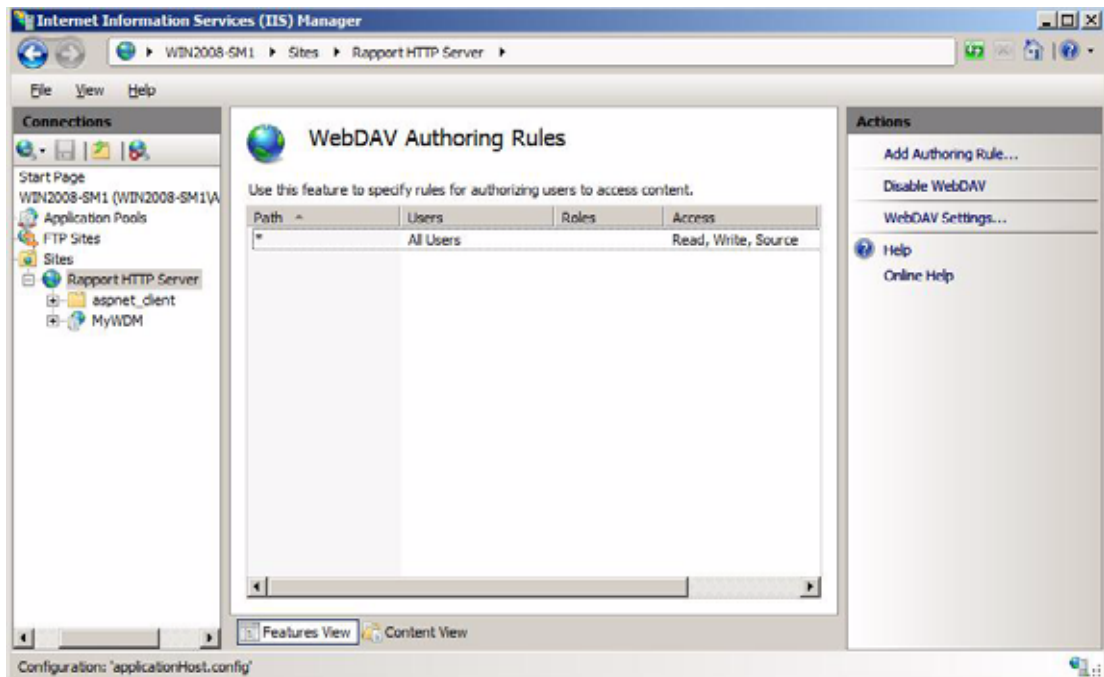
- [Start] > [Administrative Tools] > [Internet Information Services (IIS) Manager] にナビゲートして、[IIS Manager] ウィンドウを開きます。
- サーバ ノードを展開します (サーバ名が表示されます)。
- [Sites] ノードを展開し、[Rapport HTTP Server] を選択します。

図 E-5 IIS Manager



- 右端のペインで Rapport HTTP Server の [WebDAV Authoring Rules] を選択します。
- WebDAV がイネーブルになっていることを確認します。

図 E-6 WebDAV のイネーブルとディセーブル



**ステップ 2** Rapport ユーザが Administrator グループの一員であることを確認します。

ステップ 3 WebClient サービスがシステムで実行されていることを確認します。

## Windows Server 2008 での Merlin イメージングの問題



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

問題：次の理由により、Windows Server 2008 で Merlin イメージングが失敗します。

- アップロードされたファイルのサイズが 30 MB を超える。
- URL とクエリー文字列サイズが適切でない。

解決策：inetpub¥wwwroot フォルダにある web.config ファイルに次の内容を追加して変更します。

```
<security>
  <requestFiltering>
    <requestLimitsmaxAllowedContentLength="4294967296"
      maxUrl="8000"maxQueryString="8000" />
  </requestFiltering>
</security>
```

## 故障したデバイスの復旧

問題：故障したデバイスを復旧します。

解決策：故障したデバイスを再度イメージングして復旧します。

次のガイドラインに従います。

- 次のいずれかの操作を行って、使用するイメージを準備します。
  - イメージファームウェアを取得して、「Cisco VXC Manager パッケージの管理」(P.3-1) で説明されているとおりに、このイメージを Cisco VXC Manager に登録する。
  - すでに登録されている既存のイメージをデバイスからインストールに使用する。
- 新しいデバイスを追加するか（手順は「デバイスの追加および自動検出」(P.2-6) を参照）、既存のデバイスを選択して、「Cisco VXC Manager パッケージの管理」(P.3-1) に記されているように Package Manager を使用して、準備したイメージをデバイスに割り当てます。
- Cisco VXC Manager パッケージを配布するスケジュールを [Next Time Device Boots] に設定します（PXE が必要です）。
- スケジュールが設定されているデバイスを見つけるには、ツリー ペインで [Update Manager] を展開します。
- スケジュールが設定されている Cisco VXC Manager パッケージ エントリを右クリックして、[Roll to boot] を選択します。
- 故障したデバイスの電源を入れ、デバイスが再イメージングされるようにします。

# WISard イメージの Merlin への変換



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティクライアントの管理にのみ適用されます。

問題：WISard イメージを Merlin イメージに変換します。

解決策：Merlin では FTP/HTTP/HTTPS ベースのイメージングが可能です。また、大きいイメージを配布するときのパフォーマンスが向上します。WISard イメージが Cisco VXC Manager に登録されている場合、そのイメージを Merlin 形式に変換できます (すでに Cisco VXC Manager に登録されている WISard イメージを変換しない場合、変換ユーティリティを使用して WISard イメージを直接変換してから、そのイメージを配布用に Cisco VXC Manager に登録できます)。

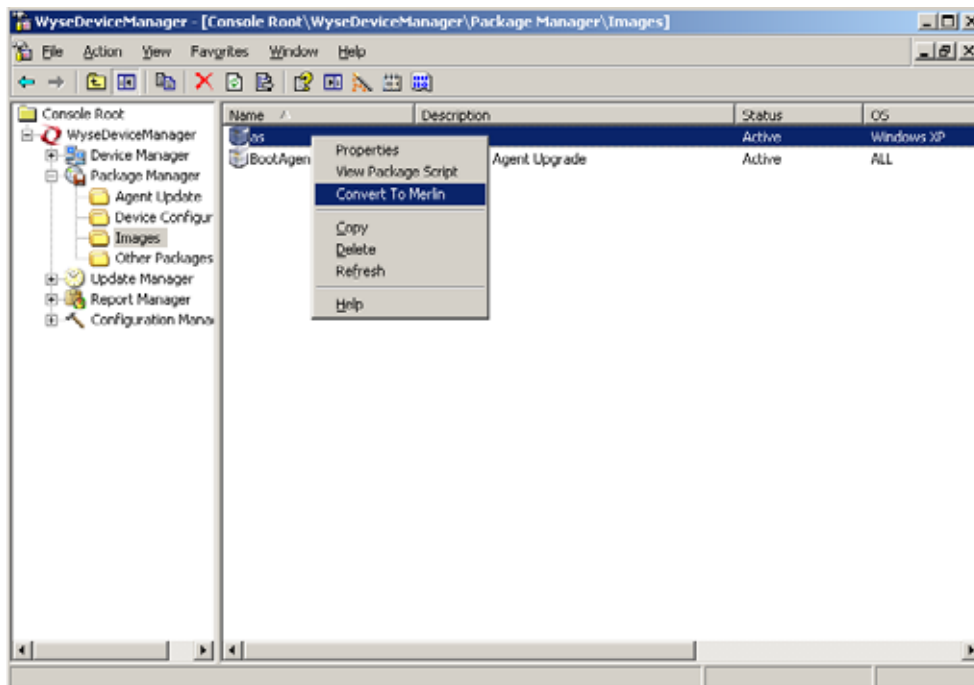
Cisco VXC Manager には、Administrator Console を使用してイメージパッケージが WISard モードで登録されたときに、既存の i2d イメージ (WISard イメージ) を Merlin イメージ形式に変換する変換ユーティリティが用意されています。

既存の WISard イメージを Merlin に変換するには

## 手順

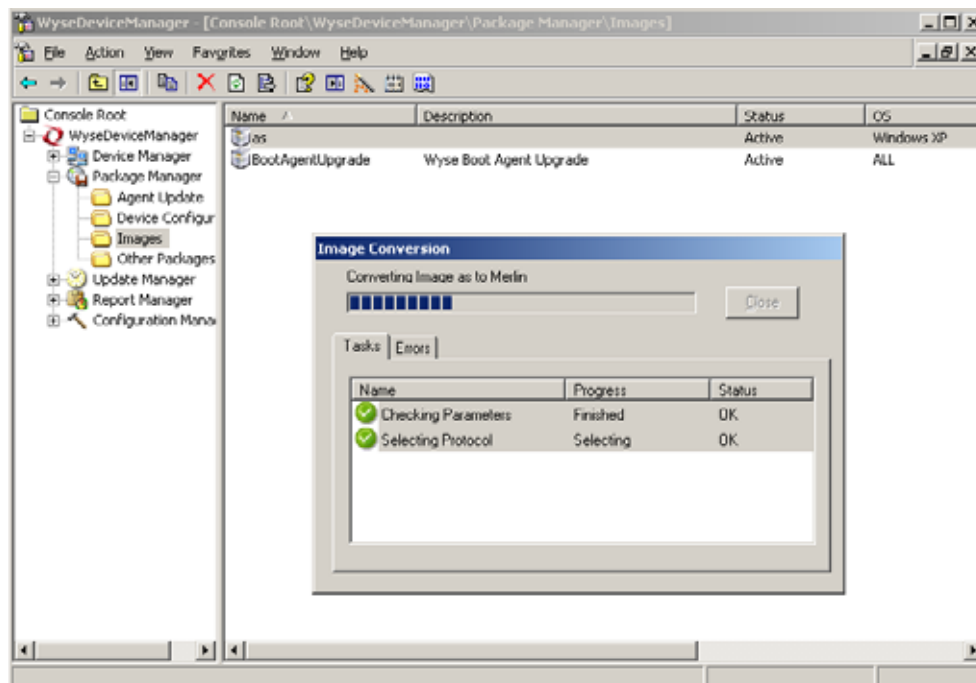
- ステップ 1 Administrator Console で [Package Manager] > [Images] の順にナビゲートし、登録されている WISard イメージを選択します。
- ステップ 2 WISard イメージを右クリックして、[Convert to Merlin] を選択します。

図 E-7 Convert to Merlin



**ステップ 3** [Image Conversion] ウィンドウが表示され、変換の進捗状況が表示されます。

**図 E-8** イメージ変換の進捗状況



**ステップ 4** 変換が正常に完了したら、進捗ウィンドウが閉じます。

**ステップ 5** 進捗ウィンドウでいずれかのタスクが失敗した場合は、[Errors] タブをクリックして、問題を表示します。ウィンドウを閉じるには、[Close] をクリックします。





## APPENDIX **F**

# ライセンスとセールス キー

---

この付録では、Cisco VXC Manager のライセンスについて説明します。また、セールス キーをアクティブにする詳細な手順を示します。



**(注)** Cisco VXC Manager には Cisco VXC クライアントを管理するためのライセンス キーは必要ありません。この項は、Cisco VXC Manager と相互運用するためにライセンスが必要なサードパーティ製品にのみ適用されます。

---

## ライセンスと証明書の管理

Cisco VXC Manager では、ライセンスと証明書を管理できます。

証明書の期限をトラッキングするには、「[Certificate Expiration Tracker の使用法](#)」(P.7-45) を参照してください。

## Cisco VXC Manager セールス キーの管理

Cisco VXC Manager では、必要に応じてセールス キーを表示、追加、アップグレード、削除できます。

### セールス キーの詳細の表示

Administrator Console のツリー ペインで、Configuration Manager を展開し、[Licensing] をクリックして、表示するセールス キーを右クリックし、[Properties] を選択してライセンスの詳細を表示します。

### セールス キーの追加

#### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、Configuration Manager を展開し、[Licensing] を右クリックして、[New] > [License] を選択してライセンス ウィザードを開きます。

図 F-1 ライセンスの追加ウィザード



- ステップ 2** 追加するセールス キーを入力して（またはコピーして貼り付け）、[Next] をクリックして次のページを開きます。
- ステップ 3** [Finish] をクリックして、アクティブ化されていない新しい Cisco VXC Manager セールス キーが表示されているライセンス詳細ペインを開きます。
- ステップ 4** セールス キーのアクティブ化の手順を実行して、このセールス キーをアクティブにします。

## セールス キーのアクティブ化



### 注意

必ず Administrator Console (MMC スナップイン) をインストールしたサーバでアクティベーションを実行します (アクティベーション コードを入力します)。

次のガイドラインに従います。

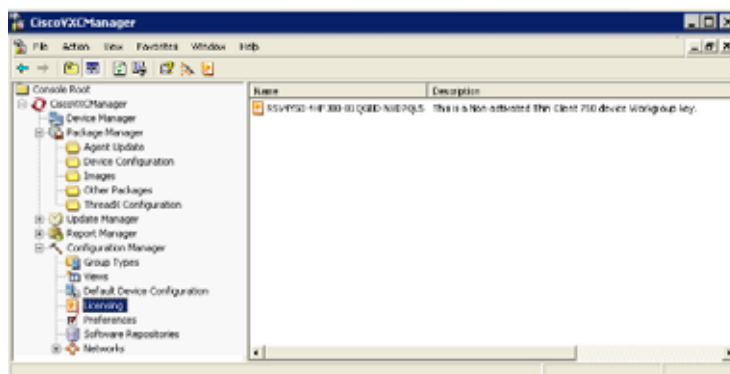
### 手順

- ステップ 1** Administrator Console (MMC スナップイン) をインストールしたサーバのデスクトップで、Cisco VXC Manager アイコンをダブルクリックして、Cisco VXC Manager の Administrator Console を開きます。
- ステップ 2** ツリー ペインで Configuration Manager を展開して、[Licensing] を選択して、アクティブ化されていない Cisco VXC Manager セールス キーを詳細ペインに表示します。



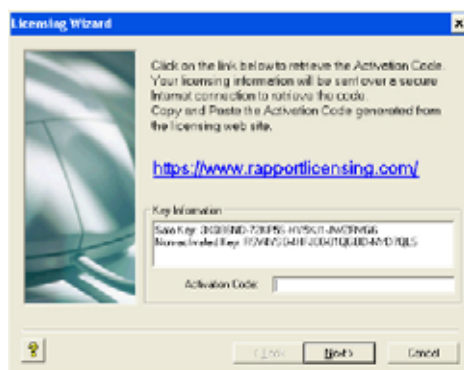
**ヒント** セールス キーがすでにアクティブ化されている場合 ([Activated] と表示)、この手順で終了できます。

図 F-2 Cisco VXC Manager の Administrator Console – [Licensing]



**ステップ 3** アクティブ化されていない Cisco VXC Manager セールス キーを右クリックして、[Activate] を選択してライセンス ウィザードを開きます。

図 F-3 Licensing ウィザード



**ステップ 4** セールス キーとアクティブ化されていないキーの数字を記録して、オンライン Cisco VXC Manager ライセンス フォームで使用します。



**ヒント** Administrator Console (MMC スナップイン) をインストールしたサーバからインターネットにアクセスできる場合は、Licensing ウィザードの [Key Information] 領域からオンラインの Cisco VXC Manager ライセンス フォームに、セールス キーとアクティブ化されていないキーの数字をコピーして貼り付けることができます。

**ステップ 5** インターネットにアクセスできるサーバでは、<https://www.rapportlicensing.com/clientframe/rapport.aspx> からオンラインの Cisco VXC Manager ライセンス フォームを開くことができます。

図 F-4 ライセンス フォーム

The screenshot shows a web browser window titled 'Activate Rapport - Windows Internet Explorer'. The address bar shows 'https://www.rapportlicensing.c...'. The form fields are as follows:

- Company Name:
- First Name:
- Last Name:
- Address:
- City:
- State:  or Province:
- Country:
- Zip/Postal Code:
- Phone Number:
- Company Email:
- Email Address:
- Verify email:
- Sale Key:
- Unactivated Key:
- Security Certificate:

At the bottom of the form is a button labeled 'Get Activation Code'.

- ステップ 6** 情報を入力してフォームを完成します（必ず正確なセールス キーとアクティブ化されていないキー番号を使用し、[Security Certificate] には大文字の B と入力してください）。
- ステップ 7** フォームにすべて入力したら、[Get Activation Code] をクリックして、アクティベーション コードを表示します（アクティベーション コードが含まれる電子メールが、[Email Address] に指定した電子メールアドレスにも送信されます）。
- ステップ 8** Administrator Console（MMC スナップイン）をインストールしたサーバのライセンス ウィザードで、[Activation Code] ボックスにアクティベーション コードを入力し（またはコピーして貼り付け）、[Next] をクリックして、セールス キーが [Activated] と表示される詳細ペインを開きます。

## Cisco VXC Manager セールス キーの削除

Administrator Console のツリー ペインで、Configuration Manager を展開し、[Licensing] をクリックして、削除するセールス キーを右クリックし、[Delete] を選択して、[Yes] をクリックして確定します。



# APPENDIX **G**

## 追加の Package Manager 手順

この付録では、サードパーティクライアントについて追加の日常の Cisco VXC Manager パッケージ管理タスクを実行する方法について説明します。



(注) サードパーティクライアントだけに適用可能な追加の Package Manager 手順が記載されています。この付録は、Cisco VXC クライアントには適用されません。

## Cisco VXC Manager パッケージの管理

Cisco VXC Manager Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] をクリックすると、Package Manager が表示されます。Package Manager では、Cisco VXC Manager 環境内のデバイスに配布できる Cisco VXC Manager パッケージを簡単に表示、管理できます (表 G-1 を参照)。また、フィルタ機能やカスタマイズ機能を使用して、Cisco VXC Manager パッケージを容易に表示できます。

図 G-1 Package Manager

Name	Description	Status	Default
Agent Update	Agent Update	Active	Yes
Device Configuration	Device Configuration	Active	Yes
Images	Images	Active	Yes
Other Packages	Other Packages	Active	Yes
ThreadX Configuration	ThreadX Configuration	Active	No

Package ウィザードを使用して、Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する前に、更新配布プロセスおよび Cisco VXC Manager パッケージの内容を理解し、登録する既存の Cisco VXC Manager パッケージの場所、ベース イメージと、CE バンドル イメージの作成時にベース イメージに追加するアドオンの場所を把握して、イメージまたは設定を取得するデバイスにすでに Cisco VXC Manager

Agent がインストールされていることを確認する必要があります。登録された Cisco VXC Manager パッケージは、更新として Cisco VXC Manager ネットワーク内のデバイスに配布できます（「Update Manager」(P.5-1) を参照）。



#### ヒント

Cisco VXC Manager システムのすべてのデバイスについて、Cisco VXC Manager パッケージの登録とスケジュール設定を同時に実行する場合は、Cisco VXC Manager Mass Imaging Tool を使用すると簡単にこれらのタスクを実行できます（「Cisco VXC Manager の Mass Imaging Tool の使用」(P.D-1) を参照）。

表 G-1 に、Package Manager を使用して実行できる作業の概要を示します。

表 G-1 Package Manager で行う日常的なタスク

<p>配布する準備ができるように、デバイス（たとえば、XPE または CE が実行されているデバイス）からイメージを作成して登録する。</p>	<p>Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を右クリックして、[New] &gt; [Package] を選択して [Package Wizard] を開き、[Register an Image from a Device (Requires PXE)] オプションを選択してから、ウィザードに従います。</p> <p><b>ヒント</b> [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開いて使用することもできます。</p>	<p>「デバイスからのイメージの登録 (PXE が必要)」(P.G-6)</p>
<p>配布する準備ができるように、Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイスから設定を作成して登録する。</p>	<p>Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を右クリックして、[New] &gt; [Package] を選択して [Package Wizard] を開き、[Register a Configuration from a Device] オプションを選択してから、ウィザードに従います。</p> <p><b>ヒント</b> [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Configuration] を選択して [Package Wizard] を開いて使用することもできます。</p>	<p>「デバイスからの設定の登録」(P.G-7)、 「Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録」(P.G-8)</p>
<p>配布する準備ができるように、Windows CE が実行されているデバイスから設定を作成して登録する。</p>	<p>Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を右クリックして、[New] &gt; [Package] を選択して [Package Wizard] を開き、[Register a Configuration from a Device] オプションを選択してから、ウィザードに従います。</p> <p><b>ヒント</b> [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Configuration] を選択して [Package Wizard] を開いて使用することもできます。</p>	<p>「デバイスからの設定の登録」(P.G-7)、 「Windows CE が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録」(P.G-8)</p>

表 G-1 Package Manager で行う日常的なタスク (続き)

配布する準備ができるように、CE イメージとアドオンを作成して登録する。	Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を右クリックして、[New] > [Package] を選択して [Package Wizard] を開き、[Build and register a CE image plus add-ons ("CE bundled image")] オプションを選択してから、ウィザードに従います。	「CE イメージとアドオン (CE バンドル イメージ) の作成と登録」(P.G-10)
配布する準備ができるように、WISard を使用して、デバイスからイメージを作成して登録する。	初めて使用する場合は、「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録」(P.G-12) の手順を実行します  <b>ヒント</b> 必要な設定を行った後で、(Administrator Console のツリー ペインで) [Device Manager] を展開して、必要なデバイスを右クリックしてから、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開いて使用できます。	「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用」(P.G-12)、「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後」(P.G-15)

表 G-1 Package Manager で行う日常的なタスク (続き)

<p>配布する準備ができるように、Merlin を使用して、デバイスからイメージを作成して登録する。</p>	<p>初めて使用する場合は、「<a href="#">Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録 (P.G-15)</a>」の手順を実行します</p> <p><b>ヒント</b> 必要な設定を行った後で、(Administrator Console のツリー ペインで) [Device Manager] を展開して、必要なデバイスを右クリックしてから、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開いて使用できます。</p>	<p>「<a href="#">Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用 (P.G-16)</a>」、「<a href="#">Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後 (P.G-18)</a>」</p>
--	---	--

表 G-1 Package Manager で行う日常的なタスク (続き)

<p>登録済みの Cisco VXC Manager パッケージをシステムから削除する。</p>	<p>Administrator Console のツリー ペインで、[Package Manager] を展開して、Cisco VXC Manager パッケージが含まれているフォルダを選択します。詳細 ペインで Cisco VXC Manager パッケージを右クリックして [Delete] を選択し、削除操作を確定します。</p> <p><b>ヒント</b> 複数の Cisco VXC Manager パッケージを選択するには、Ctrl キーを押しながらクリックするか、Shift キーを押しながらクリックします。</p>	<p>デフォルトの Cisco VXC Manager パッケージは削除できません。</p> <p>配布をスケジュールされている登録済みの Cisco VXC Manager パッケージは削除できません。「<a href="#">デバイスアップデートのスケジュール管理</a>」(P.5-1) で説明されているように、スケジュールされている更新を最初に削除してから、登録済みの Cisco VXC Manager パッケージを削除する必要があります。</p> <p> <b>注意</b> 配布されたことのない登録済みの Cisco VXC Manager パッケージを削除すると、Cisco VXC Manager は、Cisco VXC Manager リポジトリからも削除します。Cisco VXC Manager パッケージは、Cisco VXC Manager の外部にコピーがある場合に限り回復可能です。そのような場合は、Cisco VXC Manager パッケージを再登録できます。</p> <p><b>ヒント</b> すでに配布されている Cisco VXC Manager パッケージを削除する場合は、Cisco VXC Manager リポジトリの Backup フォルダから回復して、再登録できます。Cisco VXC Manager パッケージをアーカイブすると、このパッケージには日付スタンプを含む名前が付けられるため、アーカイブされている Cisco VXC Manager パッケージを再登録する前に、このパッケージの名前を元の名前に変更する必要があります。</p>
--	--	---

## デバイスからのイメージの登録 (PXE が必要)



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この [Package Wizard] オプションでは、デバイス タイプのイメージング スクリプト テンプレートが存在している必要があります。イメージング スクリプト テンプレートが使用不可の場合は、警告メッセージが表示されます。(イメージング スクリプト テンプレートを取得するには、デバイスの製造業者に連絡してください)。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。



**ヒント** Device Manager の詳細ペインで [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開くこともできます。

図 G-2 Package ウィザード



- ステップ 2** [Register an Image from a Device (Requires PXE)] オプションを選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 3** デバイス (参照デバイスなど) からイメージを読み取る Read Image Cisco VXC Manager パッケージの名前と説明を入力して、[Next] をクリックします (Read Image Cisco VXC Manager パッケージを作成する場合は、.rsp ファイルに、イメージの元にするデバイスのイメージ サイズ パラメータとイメージ番号の値が含まれていることを確認します。正しい .rsp ファイルには、適切にフォーマットされたヘッダーがあります)。
- ステップ 4** [Package Wizard] で、イメージを読み取るグループを選択するよう求められたら、参照デバイスがあるグループを選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 5** [Package Wizard] で、必要なデバイスを選択するよう求められたら、Get Cisco VXC Manager パッケージで読み取るイメージがあるデバイスを選択して (PXE をサポートする参照デバイスを選択してください)、[Next] をクリックします。

- ステップ 6** 設定に応じて、次のいずれかを実行します。
- (WISard だけ) WISard を使用する場合は、手順 7 に進みます。
  - (Merlin だけ) Merlin を使用する場合は、[Merlin Pulling Options] ダイアログボックスが表示されます。必要なオプションを選択してから、手順 7 に進みます。
- ステップ 7** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 8** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 9** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。イメージのプル操作が Update Manager の詳細ペインに表示されます。Cisco VXC Manager によって、イメージング ジョブが参照デバイスに送信されます。プル操作の完了後に、プルされたイメージが Package Manager の Images フォルダに表示されます (デバイスのフラッシュ サイズによっては、デバイスからイメージをプルするためのプロセスに時間がかかることがあります)。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました (「[デバイス アップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照)。

## デバイスからの設定の登録



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この [Package Wizard] オプションは、Cisco VXC Manager インストール内で類似したデバイスを容易に設定 (クローン) するために、デバイス (参照デバイスなど) から設定をプルします。



ヒント

この機能でサポートされるデバイスには、Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise、Linux v6.x、または Windows CE が実行されているサードパーティ デバイスが含まれます。

Package ウィザードを使用して参照デバイスから設定をプルして登録する前に、次の点に注意してください。

- 参照デバイスで、Pre-boot Execute Environment (PXE) がサポートされていること。
- 仕様を満たすように参照デバイスを設定したこと。
- 参照デバイスをテストして、問題をすべて解決したこと。

参照デバイスを確実に準備した後で、[Package Wizard] の使用に進んで、ご使用の OS に応じてデバイスから設定をプルして登録できます。

- **Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイス** : 「[Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録](#)」(P.G-8) を参照してください。
- **Windows CE が実行されているサードパーティ デバイス** : 「[Windows CE が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録](#)」(P.G-8) を参照してください。

## Wyse Enhanced SUSE Linux Enterprise または Linux v6.x が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録



**(注)** この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。



**ヒント** Device Manager の詳細ペインで [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Configuration] を選択して [Package Wizard] を開くこともできます。

**ステップ 2** [Register a Configuration from a Device] オプションを選択して、[Next] をクリックします。

**ステップ 3** Cisco VXC Manager パッケージの名前と説明を入力します (新しい Cisco VXC Manager パッケージは、Cisco VXC Manager が参照デバイスから設定を正常に取得するまで非アクティブのままになります)。

**ステップ 4** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。

**ステップ 5** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。

**ステップ 6** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました ([「デバイス アップデートのスケジューリング管理」](#) (P.5-1) を参照)。

## Windows CE が実行されているサードパーティ デバイスからの設定の登録



**(注)** この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。



**ヒント** Windows CE が実行されているデバイスを使用して、後でイメージを配布する際に特定のレジストリ エントリのアクション (置き換え、付加、または除外) を制御することもできます。

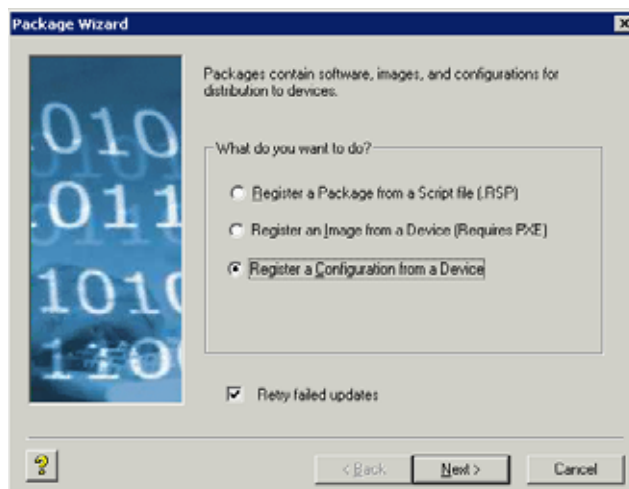
### 手順

**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。



**ヒント** Device Manager の詳細ペインで [Reference Device] を右クリックして、[Get Device Configuration] を選択して [Package Wizard] を開くこともできます。

図 G-3 Package ウィザード

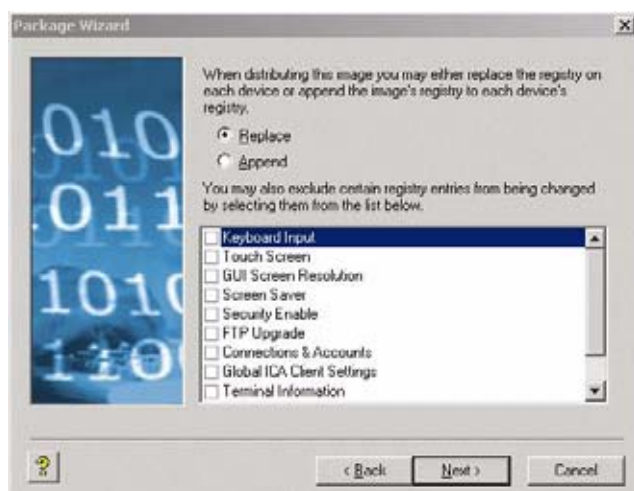


**ステップ 2** [Register a Configuration from a Device] オプションを選択して、[Next] をクリックします。

**ステップ 3** Cisco VXC Manager パッケージの名前と説明を入力します（新しい Cisco VXC Manager パッケージは、Cisco VXC Manager が参照デバイスから設定を正常に取得するまで非アクティブのままになります）。

**ステップ 4** [Next] をクリックします。

図 G-4 レジストリ エントリの置き換えまたは付加



**ステップ 5** レジストリ エントリを置き換えるか付加するには、次の注意事項に従ってください。

この Cisco VXC Manager パッケージを後で配布する際に、設定全体を置き換えるか、参照デバイス設定に付加できます。

- [Replace] : レジストリを置き換えると、レジストリが出荷時の初期状態にリセットされてから、Cisco VXC Manager パッケージの設定（settings.reg）ファイルに含まれているレジストリ設定に適用されます（これは、参照デバイスを準備するときに設定したレジストリ設定です）。
- [Append] : レジストリの付加は、両方のデバイスの設定（settings.reg）ファイルのレジストリ設定（既存のデバイスの既存のレジストリ設定と参照デバイスのレジストリ設定）に適用されます。重複したレジストリ設定は影響を受けないことに注意してください。

- [Exclude List] : 特定のレジストリ エントリをリストで選択する（設定の横にあるチェックボックスを選択する）ことで、配布中の変更対象から除外することもできます。

- ステップ 6** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 7** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 8** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照）。

## CE イメージとアドオン（CE バンドル イメージ）の作成と登録



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この [Package Wizard] オプションでは、CE OS イメージとアドオンで構成される CE バンドル イメージを作成して登録します。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで [Package Manager] を右クリックして [New] > [Package] を選択し、[Package Wizard] を開きます。

図 G-5 Package ウィザード



- ステップ 2** [Build and register a CE image plus add-ons ("CE bundled image")] オプションを選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 3** CE バンドル イメージの名前と説明を入力して、[Next] をクリックします。[Category] ボックスは読み取り専用で、CE バンドル イメージを格納するカテゴリとしてイメージを表示します。

- ステップ 4** Cisco VXC Manager パッケージを配布するかどうかに基づいて（配布する場合はアクティブ）、[Active] チェックボックスをオンまたはオフにします。
- ステップ 5** [Next] をクリックします。
- ステップ 6** CE バンドル イメージの CE バージョン番号とベース イメージを入力します。
- ステップ 7** [CE Base] ボックスでベース CE イメージの場所、オプションでレジストリ イメージの場所を参照して見つけて選択し、[Next] をクリックします。

**注意**

CE ベース イメージ（またはプライム）は通常、バイナリまたは実行可能ファイル（ほとんどの場合 CE オペレーティング システム）です。CE バンドル イメージの作成プロセスでは、params.ini ファイルが必要です。このファイルは、CE ベース イメージを取得したディレクトリと同じディレクトリ内に存在している必要があります。ウィザードによって、params.ini ファイルからビルド バージョン情報が取得されます。ファイルが使用不可の場合、CE バンドル イメージの作成プロセスは停止します。

- ステップ 8** ウィザードは、CE バンドル イメージのアドオンを選択するよう求めます。[Select File] をクリックして、わかっているアドオンがある場所にナビゲートして選択し、必要なアドオンを選択します。

**ヒント**

[Add-on] および [Build] ボックスに、必要な各アドオンの名前とビルドが表示されます。[Add-On selection] ダイアログボックスには選択したアドオンが表示され、引き続き追加のアドオンを選択できます。選択からアドオンを削除するには、選択して（複数の項目を選択するには、Ctrl キーを押しながらかlickするか、Shift キーを押しながらかlickします）、[Remove] をクリックします（[Remove All] をクリックして、アドオンをすべて削除することもできます）。

**注意**

アドオンは通常、バイナリ、実行可能ファイル、またはレジストリ ファイルです。CE バンドル イメージの作成プロセスでは、選択したアドオンごとに params.ini ファイルが必要です。このファイルは、アドオンを取得したディレクトリと同じディレクトリ内に存在している必要があります。ウィザードによって、params.ini ファイルからアドオンのビルド バージョン情報が取得されます。ファイルが使用不可の場合、CE バンドル イメージの作成プロセスは停止します。

- ステップ 9** 必要なアドオンの選択が終了したら、[Next] をクリックします。ウィザードによって、CE バンドル イメージの Cisco VXC Manager パッケージを作成する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 10** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 11** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 12** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照）。

## WISard を使用したデバイスからのイメージの登録



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

[Package Wizard] が自動的に WISard を使用してイメージの作成と登録を行うように、必要な設定を行ったかどうかによって、次のいずれかを実行します。

- 必要な設定を行っていない場合（たとえば、初めて WISard を使用してイメージを作成して登録する場合）、[「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用」\(P.G-12\)](#) の手順を実行します（ここでは、設定を行って、WISard を使用してイメージの作成と登録を行うためのプロセス全体を段階的に説明します）。
- 必要な設定をすでに行っている場合（たとえば、すでに WISard を使用して、イメージを作成して登録している場合）、[「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後」\(P.G-15\)](#) の手順を実行します（ここでは、WISard を使用して、イメージの作成と登録を行うための短縮されたプロセスを段階的に説明します）。



注意

WISard では、デバイスの BIOS で PXE がイネーブルになっている必要があります。PXE の使用の詳細については、[「PXE ベースのイメージング」\(P.D-16\)](#) を参照してください。

## WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。



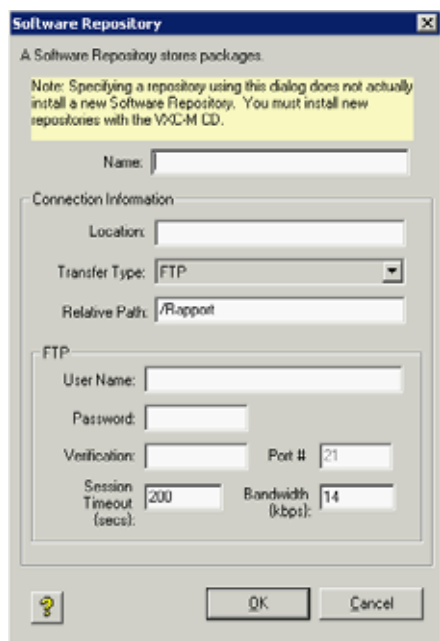
ヒント

このセクションの完了後に、短縮化されたプロセス（[「WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後」\(P.G-15\)](#)）を使用して、将来 WISard を使用してイメージを作成して登録できます。

### 手順

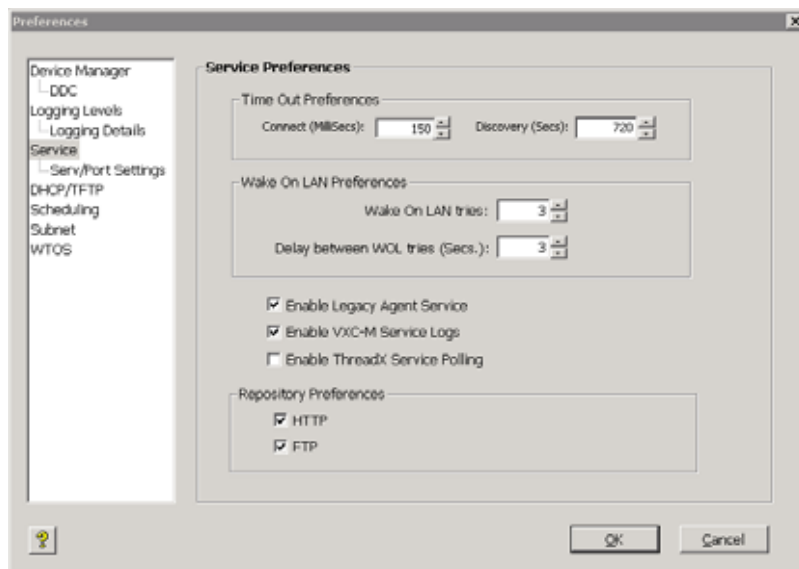
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[CiscoVXCManager] > [Configuration Manager] > [Software Repositories] にナビゲートします。
- ステップ 2** 詳細ペインで、[Master] を右クリックして、[Properties] を選択します。

図 G-6 Software Repository



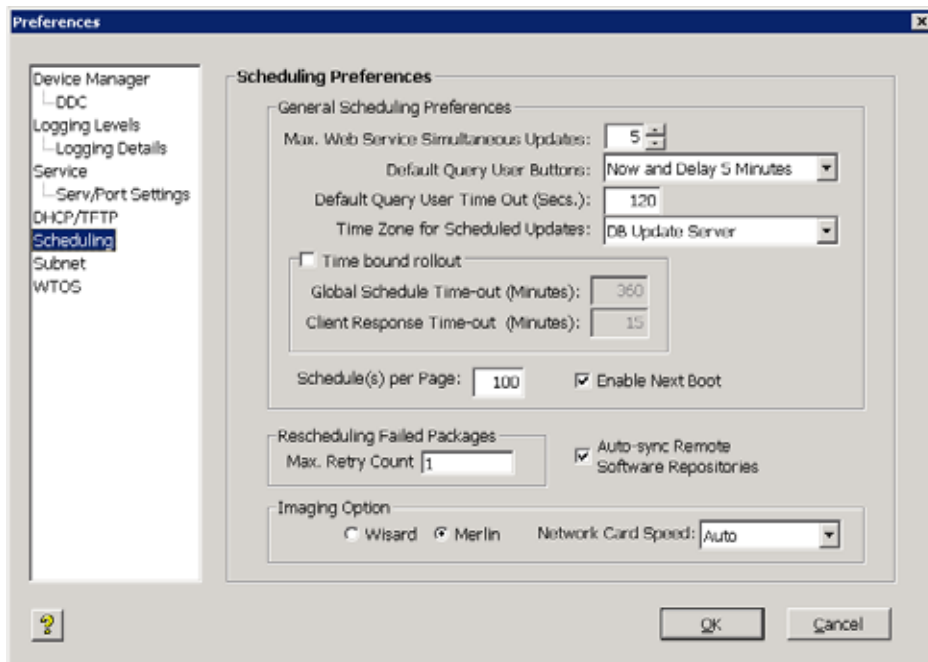
- ステップ 3** [Software Repository] ダイアログボックスで、マスター リポジトリについて [Transfer Type] リストで [FTP] を選択します。
- ステップ 4** Administrator Console のツリー ペインで、[CiscoVXCManager] > [Configuration Manager] > [Preferences] にナビゲートします。
- ステップ 5** [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[Service] を選択します。

図 G-7 [Preferences] : [Service Preferences]



- ステップ 6** [Repository Preferences] 領域で、[FTP] チェックボックスを選択します。
- ステップ 7** [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[Scheduling] を選択します。

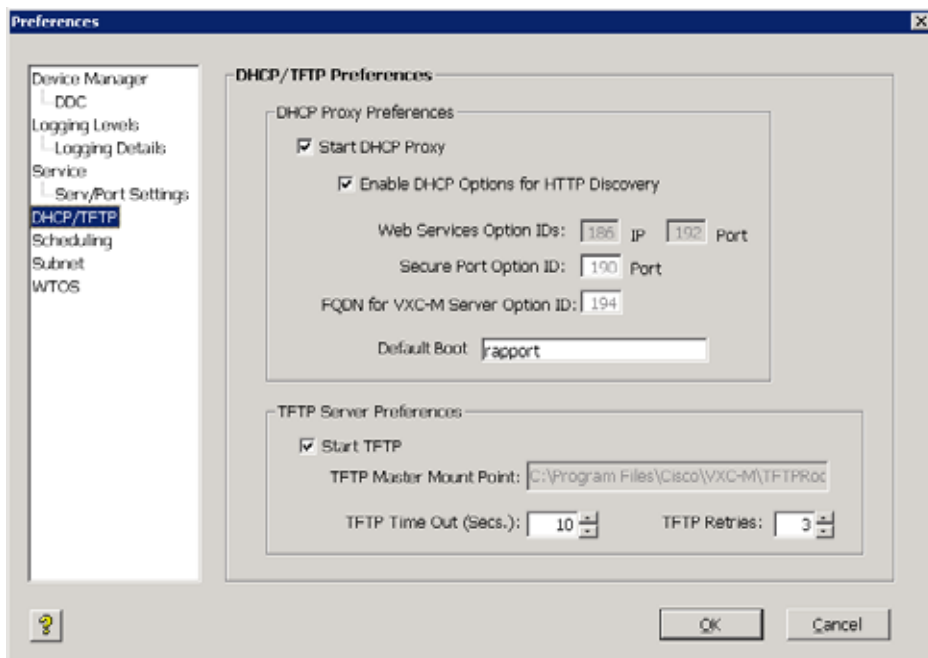
図 G-8 [Preferences] : [Scheduling Preferences]



ステップ 8 [Imaging Option] 領域で、[WISard] オプションを選択します。

ステップ 9 [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[DHCP/TFTP] を選択します。

図 G-9 [Preferences] : [DHCP/TFTP Preferences]



ステップ 10 [TFTP Server Preferences] 領域で、[Start TFTP] チェックボックスを選択します。

ステップ 11 [OK] をクリックします。

- ステップ 12** これで、必要な設定を行いました。「[WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後](#)」(P.G-15) に進んでください。

## WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。



**注意** このセクションを使用する前に、「[WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用](#)」(P.G-12) の手順を完了してください。

### 手順

- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] を展開します。
- ステップ 2** 必要なデバイスを右クリックして、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開きます。
- ステップ 3** Cisco VXC Manager パッケージの名前と説明を入力します。
- ステップ 4** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。
- ステップ 5** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。
- ステップ 6** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager が、デバイスからイメージのプル操作を開始し（デバイスでは、PXE のブートと WISard イメージング プロセスが行われます）、イメージを作成します。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジュール管理](#)」(P.5-1) を参照）。

## Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録



(注) この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

[Package Wizard] が自動的に Merlin を使用してイメージの作成と登録を行うように、必要な設定を行ったかどうかによって、次のいずれかを実行します。

- 必要な設定を行っていない場合（たとえば、初めて Merlin を使用してイメージを作成して登録する場合）、[Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用](#)」(P.G-16) の手順を実行します（ここでは、設定を行って、Merlin を使用してイメージの作成と登録を行うためのプロセス全体を段階的に説明します）。
- 必要な設定をすでに行っている場合（たとえば、すでに Merlin を使用して、イメージを作成して登録している場合）、[Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後](#)」(P.G-18) の手順を実行します（ここでは、Merlin を使用して、イメージの作成と登録を行うための短縮されたプロセスを段階的に説明します）。

**注意**

Merlin は、XPe、WES、または WES 7 が実行されているデバイスの PXE または非 PXE オプションとともに使用できます。その他のデバイスの場合、Merlin では、デバイスの BIOS で PXE がイネーブルになっている必要があります。PXE および非 PXE の使用の詳細については、「[PXE ベースのイメージング](#)」(P.D-16) を参照してください。

**Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用****(注)**

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティクライアントの管理にのみ適用されます。

**ヒント**

このセクションの完了後に、短縮化されたプロセス（「[Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後](#)」(P.G-18)）を使用して、将来 Merlin を使用してイメージを作成して登録できます。

**手順**

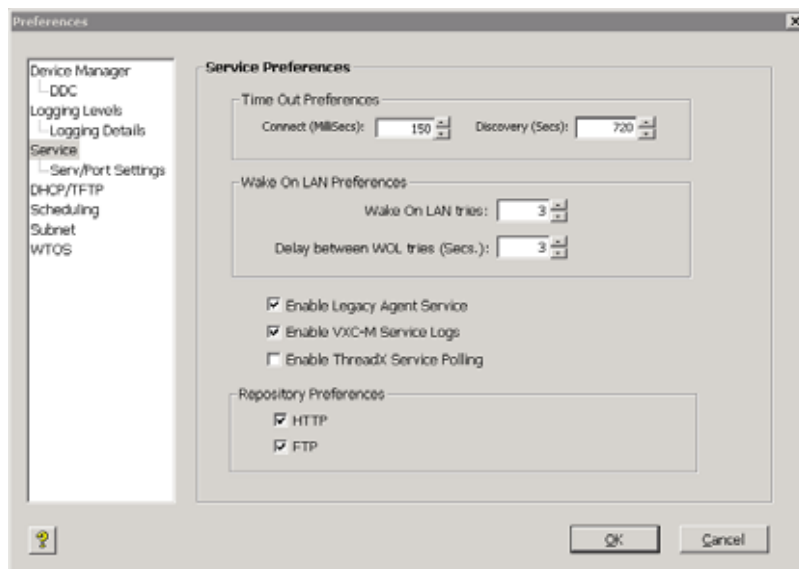
- ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[CiscoVXCManager] > [Configuration Manager] > [Software Repositories] にナビゲートします。
- ステップ 2** 詳細ペインで、[Master] を右クリックして、[Properties] を選択します。

**図 G-10 Software Repository**

- ステップ 3** [Software Repository] ダイアログボックスで、マスターリポジトリの [Transfer Type] (Merlin では、HTTP と FTP の両方がサポートされます) を選択します。
- ステップ 4** Administrator Console のツリー ペインで、[CiscoVXCManager] > [Configuration Manager] > [Preferences] にナビゲートします。

**ステップ 5** [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[Service] を選択します。

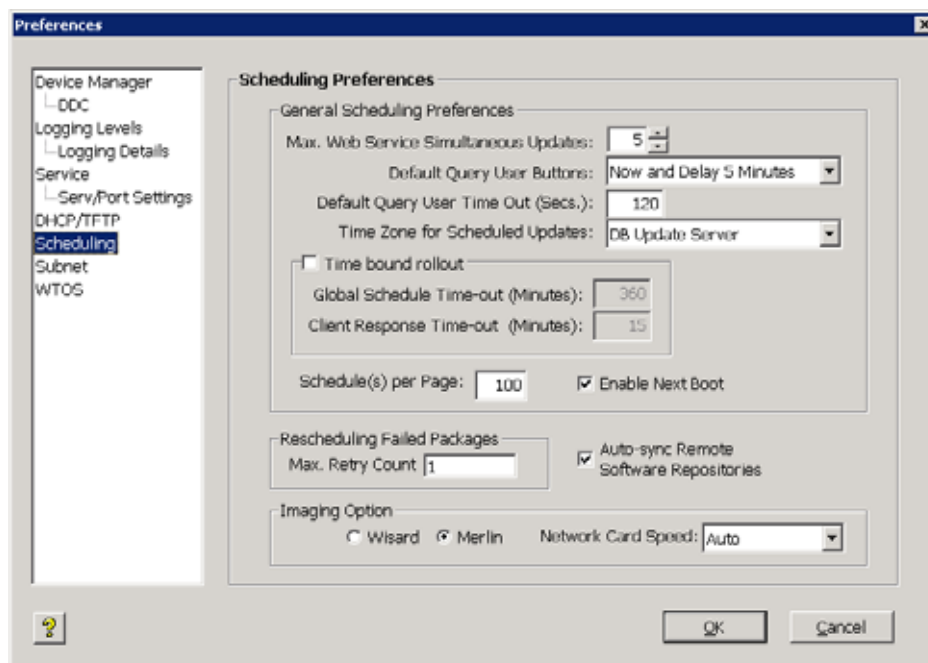
**図 G-11** [Preferences] : [Service Preferences]



**ステップ 6** [Repository Preferences] 領域で、必要な [Repository Preferences] オプションを選択します (Merlin では、HTTP と FTP の両方がサポートされます)。

**ステップ 7** [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[Scheduling] を選択します。

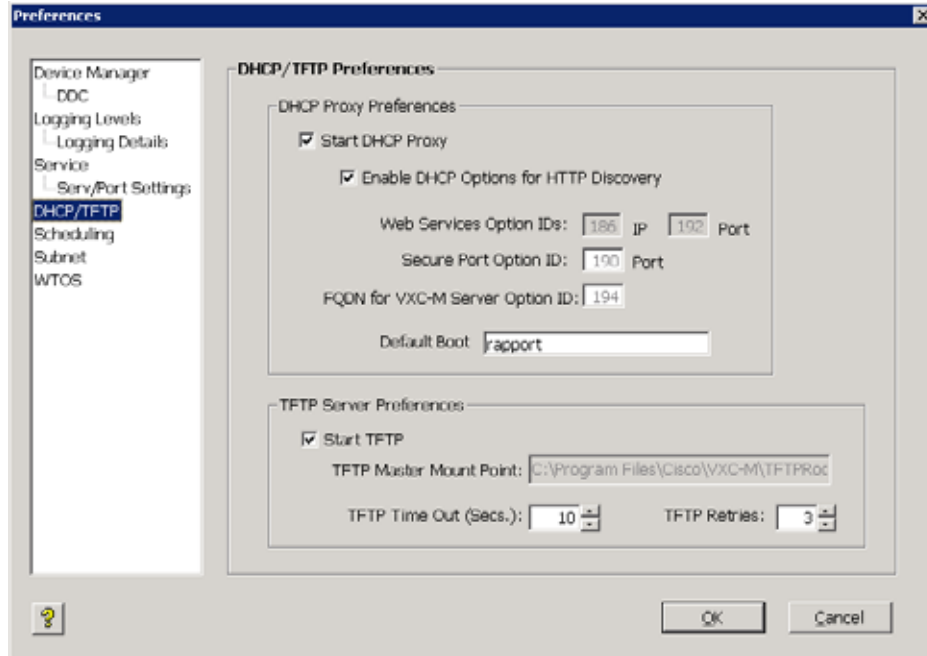
**図 G-12** [Preferences] : [Scheduling Preferences]



**ステップ 8** [Imaging Option] 領域で、[Merlin] オプションを選択してから、デバイスが存在するサブネットのネットワーク速度と一致する [Network Card Speed] を選択します。

**ステップ 9** [Preferences] ウィンドウのツリー ペインで、[DHCP/TFTP] を選択します。

**図 G-13** [Preferences] : [DHCP/TFTP Preferences]



**ステップ 10** [TFTP Server Preferences] 領域で、[Start TFTP] チェックボックスをクリックします。

**ステップ 11** [OK] をクリックします。

**ステップ 12** これで、必要な設定を行いました。「[WISard を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後](#)」(P.G-15) に進んでください。

## Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定後



**(注)** この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティクライアントの管理にのみ適用されます。



**注意** このセクションを使用する前に、「[Merlin を使用したデバイスからのイメージの登録：初期設定と使用](#)」(P.G-16) の手順を完了してください。

### 手順

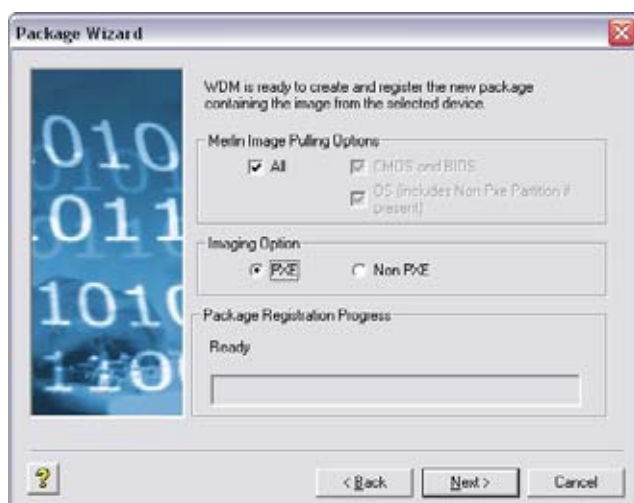
**ステップ 1** Administrator Console のツリー ペインで、[Device Manager] を展開します。

**ステップ 2** 必要なデバイスを右クリックして、[Get Device Image] を選択して [Package Wizard] を開きます。

**ステップ 3** Cisco VXC Manager パッケージの名前と説明を入力します。

**ステップ 4** [Next] をクリックします。

図 G-14 Merlin のオプション



**ステップ 5** 必要なオプションを選択するには、次の注意事項に従ってください。

- [Merlin Pulling Options]
  - [All] : CMOS、BIOS、および OS（存在する場合は、すべての非 PXE パーティションを含む）をプルします。
  - [CMOS and BIOS] : CMOS と BIOS だけをプルします。
  - [OS] : OS だけ（存在する場合は非 PXE パーティションも含む）をプルします。
- [Imaging Option] (XPe、WES、または WES 7 が実行されているデバイスだけで選択可能)
  - [PXE] : 選択すると、イメージングは PXE モードで行われます。
  - [Non PXE] : 選択すると、イメージングは非 PXE モードで行われます。

**ステップ 6** [Next] をクリックします。ウィザードによって、新しい Cisco VXC Manager パッケージを作成して登録する準備ができたことが通知されます。

**ステップ 7** [Next] をクリックし、Cisco VXC Manager パッケージを作成および登録します。

**ステップ 8** Cisco VXC Manager パッケージの作成と登録が完了したら、[Finish] をクリックします。Cisco VXC Manager が、デバイスからイメージのプル操作を開始し（[PXE] を選択した場合、デバイスでは、PXE のブートと Merlin イメージング プロセスが行われます）、イメージを作成します。Cisco VXC Manager パッケージがマスター リポジトリにコピーされ、該当するカテゴリの下に表示されます。これで、Cisco VXC Manager パッケージが配布可能になりました（「[デバイス アップデートのスケジューリング管理](#)」(P.5-1) を参照）。





## APPENDIX **H**

# Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool およびスクリプト言語



(注)

この項は Cisco VXC クライアントには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この付録には、Cisco VXC Manager ScriptBuilder および Cisco VXC Manager スクリプト言語を使用した Cisco VXC Manager パッケージの作成に関する詳細情報が記載されています。

次のトピックが含まれます。

- 「Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用」(P.H-1)
- 「Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool の使用」(P.H-2)
- 「Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要」(P.H-3)
- 「オプションの引数および HKEY\_CURRENT\_USER」(P.H-4)
- 「スクリプト ファイル構造の概要」(P.H-4)
- 「Version」(P.H-6)
- 「Script」(P.H-8)

## Cisco VXC Manager スクリプト言語の使用

Cisco VXC Manager スクリプト言語は、(Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool を使用して、または使用せずに) 独自のソフトウェア パッケージを作成できるように設計されました。ソフトウェア パッケージは、スクリプト (.rsp) ファイルと必要なすべてのアプリケーションまたはイメージ ファイルからなります。ソフトウェア パッケージを作成してから、Cisco VXC Manager を使用して登録して 1 つ以上のデバイスに配布できます。

ソフトウェア パッケージをネットワーク上の 1 つ以上のデバイスに配布すると時間を節約できますが、注意と計画が必要です。有効性と信頼性を確保するために、別個のテスト デバイスでソフトウェア パッケージをテストすることが非常に重要です。



注意

一括配布を行う前に、必ずすべてのソフトウェア パッケージを徹底的にテストしてください。これは、パッケージ配布権限を持つ Cisco VXC Manager 管理者の責務です。

## Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool の使用

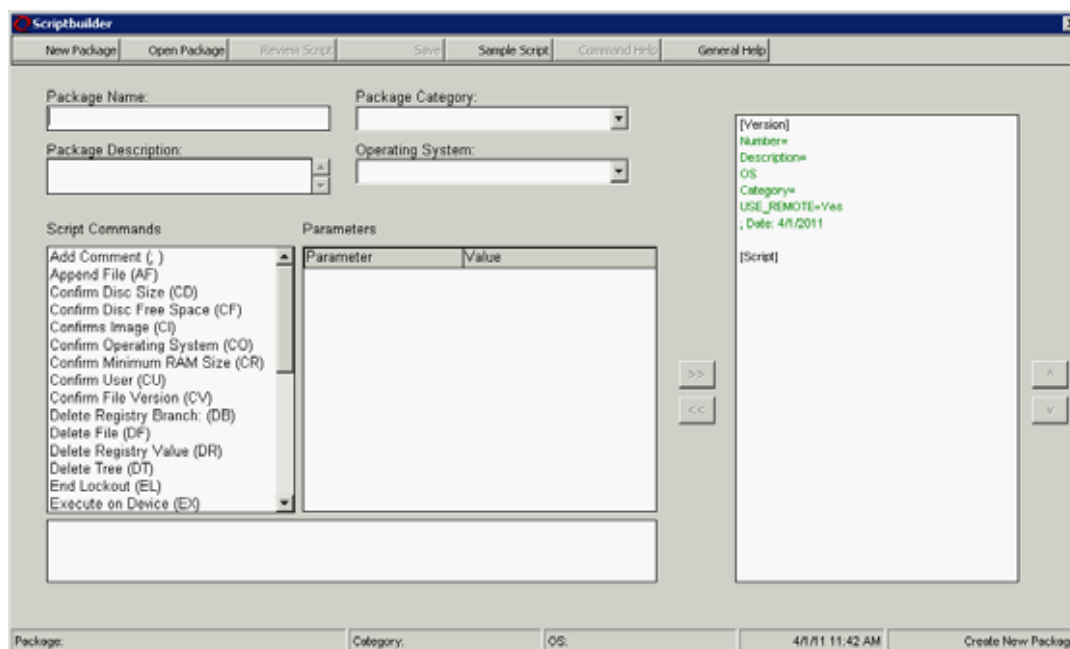
Cisco VXC Manager ScriptBuilder Tool は、Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの管理（作成、編集、および表示）に役立つよう設計されています。Cisco VXC Manager ScriptBuilder で使用可能なスクリプト コマンドの詳細については、「[Script](#)」(P.H-8) を参照してください。

### 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの作成

#### 手順

- ステップ 1** [Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして、ScriptBuilder Tool を開きます。

図 H-1 Cisco VXC Manager ScriptBuilder



- ステップ 2** [New Package] をクリックしてから、次の注意事項に従ってください。
- [Package Name] と（後で容易に認識できるように）[Package Name Description] を入力します。
  - [Package Category] を選択します。
  - [Operating System] を選択します。
  - 追加するスクリプト コマンドを [Script Commands] リストから選択します。
  - 必要なコマンドの値を入力します（一部のパラメータでは、自動的にデフォルト値が入力されます）。使用可能な値の詳細については、「[Script](#)」(P.H-8) を参照してください。
  - [>>] をクリックして、スクリプト パッケージ ペインにスクリプト コマンドを追加します。
  - スクリプト パッケージ ペインに追加するスクリプト コマンドを引き続き [Script Commands] リストで選択できます。

- スクリプト パッケージ ペインにスクリプト コマンドを追加する際に、スクリプト パッケージ ペインで項目を選択して、必要に応じて [add]、[remove]、[move up]、および [move down] コマンド ボタン矢印（可能な操作または論理的な操作に従って自動的にイネーブルまたはディセーブルになります）を使用して、必要なスクリプト パッケージをビルドできます。
- エントリをダブルクリックして、選択した行で変更を行うことによって、スクリプト パッケージ ペインで既存のスクリプトを直接編集することもできますが、このモードではコマンド構文またはパラメータの検証は実行されません。
- 情報については、必要に応じて、[Sample Script]（標準のサンプル スクリプトのあるフォームを開きます）、[Command Help]（[Script Commands] リストで選択したコマンドの詳細なヘルプ）、および [General Help]（スクリプトの一般的なヘルプ）を使用します。

**ステップ 3** 必要な Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの設定後に、[Save] をクリックします。

## 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの編集

[Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして [ScriptBuilder] ダイアログボックスを開き、[Open Package] をクリックして、編集するパッケージを選択してから、「新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの作成」(P.H-2) の注意事項に従います。



### ヒント

既存のスクリプト パッケージに行う変更は、元のパッケージ スクリプトからの変更を示すために、スクリプト パッケージ ペイン内では青色で示されます。

## 新しい Cisco VXC Manager スクリプト パッケージの確認

[Start] > [All Programs] > [Cisco VXC Manager] > [ScriptBuilder] をクリックして [ScriptBuilder] ダイアログボックスを開き、[Review Script] をクリックしてから、確認のために読み取り専用バージョンのスクリプトを開くパッケージを選択します。

## Cisco VXC Manager パッケージ構造の概要

Cisco VXC Manager パッケージ構造は、次の 2 つのコンポーネントからなります。

- パッケージ スクリプト (.rsp) ファイル (ImgXL24.rsp)
  - 必要なアプリケーションまたはイメージ ファイル (ImgXL24) が格納されている Package フォルダ
- パッケージが正しく機能するには、これらの 2 つのコンポーネントが次の構造上の規則に従っている必要があります。
- パッケージ スクリプト ファイルには .rsp 拡張子が必要です。 .rsp ファイルは、Notepad で作成および編集できます。
  - パッケージ フォルダには、パッケージ スクリプト ファイルと同じ名前を付ける必要があります。
  - パッケージ スクリプト ファイルの [Version] セクションにある Number= パラメータは、デバイスによって Client Manager に報告される値と一致する必要があります。これは、デフォルトのデバイス設定機能を使用する場合は非常に重要になります。
  - パッケージ スクリプト ファイルによって参照されるすべてのファイルが、パッケージ フォルダまたはそのサブフォルダに格納されている必要があります。

## ■ オプションの引数および HKEY\_CURRENT\_USER

- コマンド引数はすべて二重引用符で囲む必要があり、またスペースだけで区切ります。
- すべてのレジストリパスはバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- ルートレジストリキーには省略形を使用しないでください（たとえば、HKLM ではなく HKEY\_LOCAL\_MACHINE を使用します）。
- ファイル名はすべてバックスラッシュ（「¥」）で区切り、引用符で囲みます。
- パス名とレジストリブランチのいずれもバックスラッシュで終わることはできません。
- 通常、コマンドが失敗するとスクリプトは中止されます。コマンドが失敗した場合にスクリプトが中止されないようにするには、コマンドにアスタリスク（\*）を付加します。（すべてのコマンドでこれがサポートされるわけではないことに注意してください）。
- <REGROOT>（例：<regroot>¥sourcefile.txt）は、登録済みパッケージのルートディレクトリ（c:¥inetpub¥ftproot¥rapport¥<packagename> など）を指します。



**ヒント** <regroot> は、（デバイスではなく）Cisco VXC Manager サーバの特定の場所でパッケージアプリケーションファイルを検索するよう Cisco VXC Manager サービスに指示するポイントです。<regroot> は、Cisco VXC Manager マスターリポジトリを見つけて、必要なパッケージファイルが格納されているフォルダを識別します。

## オプションの引数および HKEY\_CURRENT\_USER

HKEY\_CURRENT\_USER レジストリブランチでの操作に関連するオプションの引数を持つコマンドは 4 つあります。

Cisco VXC Manager サービス HKEY\_CURRENT\_USER レジストリブランチは、どのユーザ HKEY\_CURRENT\_USER ブランチにも関連していないため、HKEY\_CURRENT\_USER に直接変更を行っても、通常は必要な影響は生じません。これらの 4 つのコマンドは、オプションの UserName 引数を指定して呼び出すと、HKEY\_CURRENT\_USER へのすべての参照が HKEY\_USERS¥<username's SID> に変換されます。



**ヒント**

これらのコマンドは、配布時に特定のユーザがログオンしていない場合は失敗します。

## スクリプト ファイル構造の概要

Cisco VXC Manager スクリプト（.rsp）ファイルは、Cisco VXC Manager パッケージを構成する 2 つのコンポーネントのうちの 1 つです。

- パッケージスクリプト（.rsp）ファイル（ImgXL24.rsp）
  - 必要なアプリケーションまたはイメージファイル（ImgXL24）が格納されている Package フォルダ
- パッケージスクリプト（.rsp）ファイルは特定の構造に準拠している必要があり、次の 2 つのセクションを含んでいる必要があります。
- Version
  - Script

## Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。次に、Version セクションの各要素について説明します。

**[Version]** : 必要なセクション ヘッダー

**Number=** : パッケージ スクリプト ファイル名と同じでなければなりません

**Description=** : パッケージで実行可能な内容の簡単な説明

**OS=** : パッケージの対象となるオペレーティング システム

**USE\_REMOTE=** : YES または NO。リモート リポジトリ (存在する場合) を使用するかどうかを指定します。デフォルト値は YES です。(任意)

**DEPLOYEDSW=** : YES または NO。Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージ テーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。デフォルト値は YES です。(任意)

**Category=** : パッケージが入れられる、Administrator Console 内の Cisco VXC Manager Package Manager カテゴリ。カテゴリが存在しない場合は、作成されることに注意してください。

### イメージ カテゴリの特殊タグ

**[Version]** : 必要なセクション ヘッダー

**ImageSize=** : イメージのサイズ (MB 単位)

**BootFloppy=** : ブート フロッピーの名前。デフォルトは RAPPORIT です

**Use\_PXE=** : YES または NO。Category=IMAGES が指定されているすべてのスクリプトでデフォルト値は YES です

**IMAGE=** : 使用するイメージ ファイルの名前。デフォルトでは、Cisco VXC Manager は、パッケージ フォルダのファイルで見つかった最初のファイルを使用します (CRC.text を除く)。

**Command=** : 実行するイメージ操作

## Script

Script セクションには、スクリプトの配布時に実行されるコマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

### 推奨されるスクリプト テンプレート

```
[Version]
Number=Script name (matching the RSP_ file name and Package folder name)
Description=Detailed description with version number and valid images
OS=XX
Category=Other Packages
[Script]
Written by: Your Name and Company
; .....
; >Check the Operating System
; >Check the Image Version
; .....
CO "NT"
CI "XXXX"
; .....
; >Check Free Space
; >Check Minimum Memory, if necessary
; >Check User, if necessary
; .....
CF "X" "XXX"
CR "XXXX"
CU "XXXXXXXXX"
```

```

; .....
; > Query User then lock Workstation
; .....
QU
LU*
; .....
; >Add Commands Here
; .....
;SF "<regroot>%files%x.xxx" "c:%yyyy%zzzz"
;EX "c:%yyyy%zzzz"
;DF "c:%yyyy%zzzz"
;MR "<regroot>%xxxx.reg"
;SP "c:%windows\system.ini" "DISPLAY" "screen-size" "640"
; .....
; >End Lockout
; .....
EL*
; .....
; >Reboot, if necessary
; .....
RB
-----

```

## Version

Version セクションには、パッケージの登録および配布のために必要な情報が含まれています。

### BootFloppy=

イメージング プロセス中に Cisco VXC Manager が使用するブート フロッピーを指定します。

- Rapportitf.0 (WISard イメージング用の Cisco VXC Manager Imaging エージェント)。
- pxelinux.0 (Merlin イメージング用)。

### Category=

パッケージのカテゴリを定義します。Category= に別のカテゴリ名を入力してから、Cisco VXC Manager を使用してパッケージを登録すると、Package Manager の下にその名前のフォルダが作成されます。



#### ヒント

パッケージは、Category= を変更して、パッケージを再登録することで、あるカテゴリから別のカテゴリに移動できます。

### Command=

実行するイメージ操作。

例 : Command=%ImageWrite%

可能な値 :

- %ImageWrite% (この値は DiskOnChip に書き込まれます)
- %ImageRead% (この値は DiskOnChip から読み取られます)

## DeployedSW=

これは、Cisco VXC Manager によって配置されたデバイス用パッケージテーブルにパッケージを追加するかどうかを定義します。

DEPLOYEDSW=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。このオプションは、主に DDC とともに使用されます。DDC で [Enforce Sequence] がイネーブルになっている場合は、デバイスに送信されるパッケージによって、DDC は、デバイスの再イメージ化を行います（そのため、パッケージはすべて削除されます）。DeployedSW=No を使用すると、ユーザは、配布を記録せずにデバイスにパッケージを送信できるため、DDC 操作はトリガーされません。

## Description=

スクリプト開発者が、パッケージに関する簡単な説明を追加できるようにします。説明はコメント行で、スクリプトの実行時に Cisco VXC Manager によって解析されません。

## Image=

これは、PXE 操作のためのイメージを読み取るか書き込む際に使用するファイル名を定義します。

Image=filename : デフォルトは、CRC.txt を除く、<regroot> で検出された最初のファイルです。

## ImageSize=

クライアントに送信されるイメージのサイズを Cisco VXC Manager に示します。

値 : 8、16、24、32、48、64、72、80、96、128、144、192、256、512、1024

## Number=

パッケージの名前を Cisco VXC Manager に示します。パッケージ スクリプト (.rsp) ファイルの名前は Number= パラメータと一致する必要があります。たとえば、パッケージ スクリプト名が ImgXL24.rsp の場合は、ImgXL24.rsp の [Version] セクションに Number=ImgXL24 が必要です。

例 :

```
[Version]
Number=[Number reported by device in Device Manager under Image]
Description=Image to Write to Device
OS=NT
Category=Images
USE_PXE=YES
USE_REMOTE=NO
DEPLOYEDSW=YES
IMAGE=[xyz24x1.img]
IMAGESIZE=24
```

## OS=

デバイスで実行されているオペレーティング システムを定義します。

値 :

- XPe Windows XPe
- CE Windows CE 2.12
- CEN Windows CE .NET
- CE Windows CE 3.0

- WES Windows Embedded Standard
- LX Tuxia Linux
- BL WTOS
- RLX Red Hat Linux
- SLX SUSE Linux
- LVE Viance OS
- TDC ThreadX

## Use\_PXE=

Cisco VXC Manager は、Intel の Wired for Management 規格 Preboot eXecution Environment (PXE) を使用して、イメージをデバイスにロードします。デフォルトは、Category=Images の場合は Yes で、指定されていないか誤って指定されている場合はその他すべてのカテゴリ (Categories<>Images) で No です。

[Boot from LAN] が BIOS でイネーブルになっている場合、Use\_PXE= です。パッケージを Cisco VXC Manager に非イメージング パッケージとして認識させるか、PXE 対応ではないシステムを操作している場合は、値として No を入力します。

値 : Yes および No

## Use\_Remote=

これは、パッケージ (スクリプト バージョンおよび PXE) が、そのサブネットに割り当てられたリモートリポジトリを使用するかどうか、または常にマスターを使用するかどうかを定義します。

Use\_Remote=Yes または No : 指定しないか、誤って指定した場合、デフォルトは Yes です。

# Script

Script セクションには、スクリプトの配布時に実行される Cisco VXC Manager コマンドが含まれています。各コマンドは、[Script] セクション内に表示される順に実行されます。

## Append File

バージョン : AF

説明 : 指定したテキストを、指定したデバイス ファイル名の最後に新しい行として追加します。

サポート : XPe、Linux

引数 :

- パスおよびファイル名
- 新しいテキスト行

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- AF "c:¥temp¥example.txt" "new line text" (これによって、行「new line text」が c:¥temp¥にある example.txt の最後に追加されます)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- AF "/wfs/Append.txt" "new line text" (これによって、行「new line text」が /wfs にある Append.txt の最後に追加されます)

一般規則 :

- このコマンドは、テキストの新しい行をテキスト ファイルの最後に付加します。ファイルがまだ存在しない場合は、作成されます。これは、追加のコマンドをバッチおよびスクリプト ファイルに追加する際に非常に便利です。



ヒント

このコマンドが機能するには、宛先ディレクトリが存在している必要があります。

## Confirm Disk Free Space

パーブ : CF

説明 : 空き容量が、指定したデバイス ドライブの指定の量よりも大きいことを確認します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- デバイスのドライブ文字 (コロンは必要ありません。CE と Linux では、ブランクでなければなりません)
- KB 単位の空き

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "C" "2048" (C: ドライブに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "" "2048" (ストレージ デバイスに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CF "" "512" (ストレージ デバイスに少なくとも 2 MB の空き容量があることを確認します)

一般規則 :

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。
- デバイスのドライブ文字にコロンを含めないでください。

## Confirm File Version

バーブ : CV

説明 : デバイス ファイル名を指定されたオペランドおよび値と突き合わせて確認します。

サポート : XPe、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- デバイス ファイル名 (CE アドオン名)
- テスト (<, =, >, <=, >=, または !=)
- 値 (10 進数 #)

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CV "c:\Program Files\Rapport\HAgent.exe" ">=" "4.0.0.73" (HAgent.exe がバージョン 4.0.0.73 以降であることを確認します)
- CV "c:\windows\system32\mfc42.dll" "!=" "6.0.9586.0" (mfc42.dll がバージョン 6.0.9586.0 ではないことを確認します)

- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CV "ICA" ">=" "0019" (ICA アドオンがバージョン 019 以降であることを確認します)
- CV "ICA" "=" "0023" (ICA アドオンがバージョン 0023 であることを確認します)
- CV "ICA" "<" "0031" (ICA アドオンがバージョン 0031 未満であることを確認します)



### ヒント

CV コマンドは CE.212 ではサポートされません。

一般規則 :

- CE アドオン名には、Administrator Console で報告されたアドオン名を使用します。

## Confirm Image

バーブ : CI

説明 : デバイスのオペレーティング イメージを確認します。このコマンドは、デバイスにある image.ver のイメージ番号の最初の文字 (パラメータで指定された文字の同じ番号) を使用します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- イメージ バージョン部分文字列

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例：

- CI "1.2" (デバイスのイメージ番号が 1.2 で始まることを確認します。そのため、1.21、1.256、1.295.45 はすべて成功を報告します)
- CI "2.00297.192" (デバイスのイメージ番号が 2.00297.192 で始まることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CI "441" (デバイスのイメージ番号が 441 で始まることを確認します。そのため、441.6、441.22、および 441.39.7 はすべて成功を報告します)
- CI "486.7.1" (デバイスのイメージ番号が 486.7.1 で始まることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CI "3.6.3.00.5" (デバイスのイメージ番号を確認します)
- CI "3.6.3." (デバイスのイメージ番号を確認します)
- CI "3." (デバイスのイメージ番号を確認します)

**一般規則：**

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。
- イメージバージョン部分文字列は、イメージ番号の最後にワイルドカードが存在する場合と同様に動作します。たとえば、コマンドが CI="441" の場合、イメージ番号 441.22 と 441.23 が合格します。イメージ 440 と 442 は不合格です。

## Confirm Minimum RAM Size

パーブ：CR

説明：少なくとも指定された量のメモリがデバイスにあることを確認します。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数：

- RAM の最小量 (KB 単位)

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "16000" (デバイスに最小 16 MB の RAM があることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "16000" (デバイスに最小 16 MB の RAM があることを確認します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- CR "32000" (デバイスに最小 32000 MB の RAM があることを確認します)

一般規則：

- このコマンドは、特定の量のメモリを必要とするソフトウェアを配置するすべてのスクリプトに含める必要があります。

## Confirm Operating System

パーブ：CO

説明：デバイスのオペレーティング システムを確認します。このコマンドは、OS タイプに文字列表現を使用します (つまり、CO "XPe")。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数：

- デバイスのオペレーティング システム
- 省略可能な CE バージョン引数 (CE だけで有効)

使用法

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

- XP=Windows XP

例：

- CO "XP" (オペレーティング システムが XP であることを確認します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

CE=CE 2.12、または

CEN=CE.Net、または

TPC=CE 3.0

例：

- CO "CE" (OS が CE 2.12 であることを確認します)

- CO "CEN" (OS が CE.Net であることを確認します。OS が CE.Net バージョン 4.0 または 4.10 の場合は true を戻します)

- CO "CEN" "4.10" (OS が CE.Net バージョン 4.10 であることを確認します。OS が CE.Net 4.10 の場合は true を戻し、OS が CE.Net バージョン 4.0 の場合は false を戻します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

LX=Tuxia Linux

例：

- CO "LX" (オペレーティング システムが LX であることを確認します)

一般規則：

- このコマンドは、すべてのスクリプトに含める必要があります。

## Confirm User

バージョン : CU

説明 : 指定したユーザがデバイスにログインしていることを確認します。

サポート : XPe

引数 :

- ユーザ名

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- CU "Administrator" (「管理者」が現在ログオンしていることを確認します)

一般規則 :

- このコマンドは、ユーザ固有のレジストリ コマンドを使用するすべてのスクリプトに含める必要があります。

## Delete File

バージョン : DF

説明 : 指定されたデバイス ファイル名を削除します (DEL または rm に相当)。

サポート : XPe、CE 2.12 (限定的なサポート)、CE.Net (限定的なサポート)、CE 3.0、Linux

引数 :

- パスおよびファイル名

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "c:\%winnt%\filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "%Windows%\filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

Cisco VXC デバイスでは、次の限定された DF コマンドがサポートされます。

- DF "Gkeyreset" (デバイスを出荷時の初期状態にリセットします)
- DF "CEAddon" "<addon name>" (3 番目の引数で指定したアドオンを削除します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DF "/wfs/SendTest/filedelete.txt" (特定のファイルをデバイスから削除します)

## 一般規則：

- デバイス ファイル名にはパスを含める必要があります。

**Delete Registry Branch**

バージョン：DB

説明：指定されたレジストリ ブランチを削除します。



警告

---

**このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。**

---

サポート：XPe

引数：

- デバイス キー文字列
- ユーザ プロファイル (CE と一緒に使用されません) (任意)

使用法：

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- DB "HKEY\_LOCAL\_USER¥Printers" "user" (指定されたレジストリ ブランチをユーザ プロファイルから削除します)

一般規則：

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY\_CURRENT\_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステム ユーザです。これを解決するには、システム ユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在している必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインしている必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザ プロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なっていてもかまいません。

**Delete Registry Value**

バージョン：DR

説明：指定したデバイスのレジストリ キーを削除します。ユーザ固有のレジストリ値の変更には、省略可能なユーザ名が使用されます。REDEDIT ファイルは HKEY\_CURRENT\_USER を使用する必要があります。Cisco VXC Manager は、これを HKEY\_USERS\_USERSID に変更します



警告

---

**このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。**

---

サポート：XPe

引数：

- デバイス キー文字列
- ユーザ プロファイル (任意)

**使用法 :**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DR "HKEY\_CURRENT\_USER\CONTROL\_PANEL\COLORS\background" "user" (指定したレジストリ キーを「user」のプロファイルから削除します)

**一般規則 :**

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY\_CURRENT\_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステム ユーザです。これを解決するには、システム ユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在している必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインしている必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザのプロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なっていてもかまいません。
- 変更を有効にするには、DR の後に Reboot コマンド (RB) を使用する必要があります。

**Delete Tree**

バーブ : DT

説明 : 指定したデバイス ディレクトリとその内容を削除します (DELTREE または rm -R に相当)。



**警告**

**このコマンドは注意して使用してください。実行後は取り消すことができません。**

サポート : XPe、Linux

引数 :

- デバイス ディレクトリ

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DT "C:\Test" (「Test」フォルダとその中のすべてのファイルを削除します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- DT "/wfs/Test" (「Test」フォルダとその中のすべてのファイルを削除します)

一般規則 :

- なし

**End Lockout**

バーブ : EL

説明 : LU コマンドによってクライアントデバイスに表示されるスプラッシュ画面を削除します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- EL

- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- EL

一般規則 :

- このコマンドは常に LU とともに使用する必要があります。すべての非イメージ スクリプトでこのコマンドを使用することを推奨します。

## Execute on Device

バーブ : EX

説明 : 指定したクライアント ファイル名を実行します (指定したファイルが実行可能であると想定します)。

サポート : XPe

引数 :

- パスおよびファイル名
- 同期実行 (任意)

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- EX "c:¥test.exe" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進みます)
- EX "c:¥test.exe" "+" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進む前に、実行可能ファイルが終了するまで一時停止します)
- EX "c:¥test.exe" "+30" (デバイスで c:¥test.exe を実行して、スクリプトの次のコマンドに進む前に、実行可能ファイルが終了するか 30 秒経過するまでのいずれか早いほうのタイミングに一時停止します)

一般規則 :

- コマンドは、デバイスのコマンドプロンプトから実行する場合のまったく同じように実行できます。
- Windows では、実行可能ファイルが登録済みの Windows アプリケーションである場合はパスを省略できます

- 省略可能な同期引数によって、実行可能ファイルが終了するまでスクリプトの処理は停止します。このオプションは、タイムアウトなしの「+」、または「+n」として表すことができます。ここで、n は、スクリプトの処理を続行するまでに待機する最大時間（秒単位）を示します。

**ヒント**

処理とシステムの速度の違いのため、このオプションを使用することを強く推奨します。

**Get File**

パーブ : GF

説明 : 指定したデバイス ファイル名を指定したマスター リポジトリ ファイル名にコピーします (COPY または cp に相当)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- デバイス ファイル名 (送信元)
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "c:¥temp¥temp.txt" "<regroot>¥temp.txt" (temp.txt をデバイスからマスター リポジトリにプルします)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "¥Windows¥temp.txt" "<regroot>¥temp.txt" (temp.txt をデバイスからマスター リポジトリにプルします)

Cisco VXC デバイスでは、GF のサポートは限定されています。

- GF "CEConfig" "<regroot>¥Settings.reg" (デバイス レジストリをマスター リポジトリの Settings.reg にエクスポートします)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GF "/wfs/SendTest/zero1.txt" "<regroot>¥zero.txt" (zero1.txt をデバイスからマスター リポジトリの zero.txt にプルします)

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- 送信元とターゲットのファイル名には、完全なパスが含まれている必要があります。
- 宛先パスは <regroot> で定義する必要があります。

## Get Registry

バーブ : GR

**説明 :** 指定したデバイス レジストリ ブランチをエクスポートします。結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT4 形式になります。

サポート : XPe

引数 :

- デバイス レジストリ ブランチ
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GR "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport" "<regroot>¥Rapport.reg" (Cisco VXC Manager レジストリ設定をスクリプト フォルダ内の Rapport.reg にエクスポートします)

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT 形式になります。
- 宛先には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。

## Get Registry Value

バーブ : GV

**説明 :** 単一のレジストリ値をファイルに取得します。次のタイプがサポートされています。

- REG\_SZ
- REG\_MULTI\_SZ
- REG\_EXPAND\_SZ
- REG\_DWORD
- REG\_BINARY

出力ファイル タイプは次のとおりです。

- Windows NT 4.0 : REGEDIT4 形式、PC/ANSI
- Windows 2K/XP : Regedit v5.00、PC/UNICODE



### ヒント

特定のレジストリ キーは OS によってロックされていることがあります、GV 操作を妨害する可能性があります。レジストリ値がロックされていないことをデバイスの製造元と確認してください。

次のいずれかを使用してデバイスをリブートしない限り、レジストリ値の変更は永続的ではありません。

- RB (reboot) コマンドを使用して
- [reboot] を右クリックして
- 手動による操作

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- レジストリ エントリ名を含むレジストリ キーのフルパス
- マスター リポジトリ ファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1"  
" <regroot>¥TestValue1.reg" (TestValue1 をスクリプト フォルダ内の TestValue1.reg にプルします)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- GV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1"  
" <regroot>¥TestValue1.reg" (TestValue1 をスクリプト フォルダ内の TestValue1.reg にプルします)

一般規則 :

- 取得操作では、常にマスター リポジトリにプルされます。
- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 結果として生じるローカル ファイル名は REGEDIT 形式になります。
- 宛先には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。

## Local Pause

バーブ : LP

説明 : 数秒間サーバを一時停止します。これによって、しばらくかかる可能性があるコマンドの後にサーバを一時停止できます。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数 :

- 一時停止する秒数

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- LP "30" (スクリプトの処理を 30 秒間一時停止します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- LP "30" (スクリプトの処理を 30 秒間一時停止します)

## 一般規則：

- なし

## Lockout User

バーブ：LU

説明：更新が行われていることを説明するスプラッシュ画面をデバイスに表示します。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0

引数：

- Yes または No（省略可能）

使用法：

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- LU（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）
- LU "Yes"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを自動的に削除します）
- LU "No"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：Yes

例：

- LU（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）
- LU "Yes"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを自動的に削除します）
- LU "No"（デバイスにスプラッシュ画面を表示し、パッケージで障害が発生するか終了する場合にスプラッシュを削除しません）

一般規則：

- このコマンドは常に EL とともに使用する必要があります。すべての非イメージ スクリプトでこのコマンドを使用することを推奨します。

## Merge Registry

バーブ：MR

説明：指定したデバイス ファイル名をマージします。デバイス ファイル名は REGEDIT 形式でなければなりません (regedit -s に相当)。ユーザ固有のレジストリ値の変更には、省略可能なユーザ名が使用されます。REDEDIT4 ファイルは HKEY\_CURRENT\_USER を使用する必要があります。Cisco VXC Manager は、これを HKEY\_USERS\_USERSID に変更します。

サポート：XPe

引数：

- ローカル ファイル名

- ユーザ プロファイル (任意)

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes

例 :

- MR "<regroot>%control\_panel.reg" "user" (control\_panel.reg を「user」のプロファイルにマージします)

一般規則 :

- ファイル名には、<regroot> で定義した完全なパスが含まれている必要があります。
- 指定するファイル名は REGEDIT ファイルでなければなりません。
- 変更を有効にするには、MR の後に Reboot コマンド (RB) を使用する必要があります。
- ユーザ固有のレジストリ値の変更には、省略可能なユーザ名引数が使用されます。



#### ヒント

REGEDIT ファイルは HKEY\_CURRENT\_USER を指定する必要があります。Cisco VXC Manager は、実行時にこれを HKEY\_USERS\_USERSID に変更します。Cisco VXC Manager Agent は、システムのセキュリティ コンテキストで実行されます。このため、Cisco VXC Manager の HKEY\_CURRENT\_USER は、現在ログインしているユーザではなくシステム ユーザです。これを解決するには、システム ユーザではなく、指定したユーザに変更を適用するようエージェントに指示する特殊なユーザ名引数が存在する必要があります。このコマンドを正常に実行するには、指定したユーザがコンピュータにログインしている必要があります。ハイブの場所を解決するためにユーザ プロファイル名が使用されることに注意してください。プロファイル名とユーザ名は異なっていてもかまいません。

## Query User

バーブ : QU

説明 : 保留中の更新に関してユーザに照会します。ユーザは、更新を今すぐ受け入れるか、更新を 5 分または NT Server への次のログオンまで延期できます (NT/XP だけ)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- ボタン (任意)
  - 1 : 今だけ
  - 2 : 5 分だけ遅延
  - 3 : 今および 5 分遅延
  - 4 : ログイン時だけ更新
  - 5 : 今およびログイン時に更新
  - 6 : 5 分遅延およびログイン時に更新
  - 7 : 今、5 分遅延、およびログイン時に更新
- タイムアウト (秒単位) (省略可能)



#### ヒント

引数を 1 つ使用する場合は、両方を指定する必要があります。

**使用法 :**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU (ボタンが示された [query user] ダイアログと、Cisco VXC Manager サーバによって設定されたタイムアウトを表示します)
- QU "2" "5" (5 秒間「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)
- QU "3" "120" (120 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU (ボタンが示された [query user] ダイアログと、Cisco VXC Manager サーバによって設定されたタイムアウトを表示します)
- QU "2" "5" (5 秒間「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)
- QU "3" "120" (120 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- QU "1" "5" (5 秒間「今更新」および「5 分遅延」ボタンが示された [query user] ダイアログを表示します)

**一般規則 :**

- ユーザの確認なしでのコンピュータの更新に関する企業のポリシーを確認してください。
- 引数が定義されていない場合は、Cisco VXC Manager 設定のグローバル値が使用されます。
- ユーザが割り当てられたタイムアウト内に選択を行わなかった場合は、更新が自動的に行われます。

**Reboot**

**パーブ :** RB

**説明 :** デバイスをリブートします。

**サポート :** XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

**引数 :**

- なし

**使用法 :**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- RB (デバイスをリブートします)

- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
    - RB (デバイスをリブートします)
  - Linux の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
    - RB (デバイスをリブートします)
- 一般規則 :
- なし

## Send File

パーブ : SF

説明 : 指定したローカル ファイル名を指定したデバイス ファイル名にコピーします (COPY または CP DOS コマンドに相当)。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- リポジトリ パスとファイル名 (送信元)
- デバイス パスとファイル名 (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - SF "<regroot>%logos.bmp" "c:%winnt%logos.bmp" (logos.bmp をリポジトリからデバイスの c:%winnt%logos.bmp にコピーします)
- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :

- SF "<regroot>%sol.exe" "%Windows%sol.exe" (sol.exe をリポジトリからデバイスの %Windows%sol.exe にコピーします)

Cisco VXC デバイスでは、SF のサポートは限定されています。

- SF "CEFirmware" "<regroot>%image.bin" (image.bin (アドオンまたは CE イメージ全体のいずれか) をデバイスにロードします)
  - SF "CEConfig" "<regroot>%setting.reg" (settings.reg をデバイスに適用します。 .reg ファイルは、適用前にフィルタリングされることに注意してください)
- Linux の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
    - SF "<regroot>%SendTest%zero.txt" "/wfs/SendTest/zero1.txt" (zero.txt をリポジトリからデバイスの /wfs/SendTest/zero1.txt にコピーします)

**一般規則：**

- 送信元と宛先の両方にフルパスが含まれている必要があり、送信元のパスは <regroot> で定義されている必要があります。
- 宛先ファイル名は、送信元ファイル名と同じである必要はありません。

**Set Device Information**

パーブ：SC

説明：このコマンドを使用すると、デバイス情報を容易に設定できます。

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

**引数：**

- CN=コンピュータ名
- CO=連絡先
- LO=場所
- C1=Custom1
- C2=Custom2
- C3=Custom3

**使用法：**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)
- SC "LO=Here" "CO=Admin" (コンピュータ名またはカスタム 1～3 を変更せずに場所と連絡先を設定します)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SC "CN=DeviceName" "LO=location" "CO=contact" "C1=custom1" "C2=custom2" "C3=custom3" (デバイスを名前変更して、すべてのカスタム情報を設定します)

**一般規則：**

- 各引数は省略可能です。必要な数の引数を設定できます (ただし、少なくとも 1 つは設定する必要があります)。
- 同じコンピュータ名 (CN=) を持つデバイスを複数設定しないでください。

## Set Network Information

パーブ : SN

説明 : この新しいコマンドを使用すると、ネットワーク情報を容易に設定できます。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- IP=IP アドレス
- ED=DHCP オン/オフ
- SM=サブネット マスク
- GW=ゲートウェイ アドレス
- 0D=DNS 手動 (0) または自動 (1)
- 1D=DNS 手動エントリ 1
- 2D=DNS 手動エントリ 2
- 0W=WINS 手動 (0) または自動 (1)
- 1W=WINS 手動エントリ 1
- 2W=WINS 手動エントリ 2
- DM=ドメイン サフィクス

使用法 :

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

— • SN

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"  
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"  
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"  
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

– 番号

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

– 番号

```
"IP=192.168.1.10" "ED=0" "SM=255.255.255.0"
"GW=192.168.1.1" "0D=0" "1D=192.168.3.21"
"2D=192.168.3.22" "0W=0" "1W=192.168.1.2"
"2W=192.168.1.3" "DM=MyDomain"
```

上の例では、次のことを設定します。

DHCP を無効にします

スタティック IP として 192.168.1.10 を割り当てます

サブネット マスク 255.255.255.0

ゲートウェイ 192.168.1.1

DNS の手動エントリを設定します

プライマリ DNS として 192.168.3.21 を割り当てます

セカンダリ DNS として 192.168.3.22 を割り当てます

DNS ドメインを MyDomain に割り当てます

WINS の手動エントリを設定します

プライマリ WINS として 192.168.1.2 を割り当てます

セカンダリ WINS として 192.168.1.3 を割り当てます

**一般規則：**

- 同じ IP アドレス (IP=) を持つデバイスを複数設定しないでください。
- ED=1 (DHCP オン) を送信すると、他のエントリが無効になります
- 1D および 2D は、0D=0 の場合だけ処理されます
- 1W および 2W は、0W=0 の場合だけ処理されます

## Set Profile

パーブ：SP

**説明：**このコマンドは、ini ファイルの更新に使用されます。デバイス ファイル名は、更新する ini ファイルの名前を指定します。セクション、キー、および値によって、ini ファイルで更新する内容が決まります。

**サポート：**XPe、CE 3.0、Linux

**引数：**

- デバイス パスとファイル名
- セクション
- キー
- 値

**使用法：**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SP "c:\winnt\system.ini" "drivers" "timer" "timer.drv" (System.ini ファイルを次のように編集します。  
[drivers]  
timer=timer.drv)

- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SP "%Windows%\SetProfile.txt" "SetProfile" "Test" "Worked" (SetProfile.txt を次のように編集します。  
[SetProfile]  
test=worked

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SP "/wfs/SetProfile.txt" "SetProfile" "Test" "Worked" (SetProfile.txt を次のように編集します。  
[SetProfile]  
Test=Worked

**一般規則：**

- ファイルが存在しない場合は、作成されます。
- ほとんどの INI ファイルはセクションとキー別に編成されています。セクションは、カッコ付きのテキスト ([Example]) を含む行で定義されます。キーの後には、等号と値 (Key=value) が続きます。
- キーは、1 行に 1 つずつ配置する必要があります。

**Set Registry Value**

バージョン：SV

説明：単一のレジストリ値を設定します。

**ヒント**

特定のレジストリ キーは OS によってロックされていることがあり、SV 操作を妨害する可能性があります。レジストリ値がロックされていないことをデバイスの製造元と確認してください。次のいずれかを使用してデバイスをリブートしない限り、レジストリ値の変更は永続的ではありません。

RB (reboot) コマンド

[reboot] を右クリックして

手動による操作

サポート：XPe、CE 2.12、CE.Net

**引数：**

- レジストリ エントリ名を含むレジストリ キーのフルパス
- レジストリ エントリに設定する値
- 引数 #2 に使用するレジストリ タイプ。現在、REG\_SZ (文字列) と REG\_DWORD (数値) だけがサポートされます。(任意) <![endif]>

**使用法：**

- XPe の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行：No

例：

- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue1" "5551234" 可能なシナリオ：
  - TestValue1 が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「5551234」に設定されます
  - TestValue1 が REG\_DWORD としてすでに存在し、数値 5551234 に設定されます
  - TestValue1 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
  - TestValue1 は存在せず、文字列「5551234」に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestValue2" "StringValue" 可能なシナリオ：
  - TestValue2 が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「StringValue」に設定されます
  - TestValue2 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
  - TestValue2 は存在せず、文字列「StringValue」に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE¥SOFTWARE¥Rapport¥hAgent¥TestDWORD" "2833" "REG\_DWORD"

可能なシナリオ :

- TestDWORD が REG\_DWORD としてすでに存在し、数値 2833 に設定されます
- TestDWORD が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestDWORD は存在せず、数値 2833 に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Rapport\hAgent\TestString" "MyString" "REG\_SZ"

可能なシナリオ :

- TestString が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「MyString」に設定されます
- TestString が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestString は存在せず、文字列「MyString」に設定されます
- CE の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Rapport\hAgent\TestValue1" "5551234"

可能なシナリオ :

- TestValue1 が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「5551234」に設定されます
- TestValue1 が REG\_DWORD としてすでに存在し、数値 5551234 に設定されます
- TestValue1 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue1 は存在せず、文字列「5551234」に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Rapport\hAgent\TestValue2" "String Value"

可能なシナリオ :

- TestValue2 が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「String Value」に設定されます
- TestValue2 が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestValue2 は存在せず、文字列「String Value」に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Rapport\hAgent\TestDWORD" "2833" "REG\_DWORD"

可能なシナリオ :

- TestDWORD が REG\_DWORD としてすでに存在し、数値 2833 に設定されます
- TestDWORD が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestDWORD は存在せず、数値 2833 に設定されます
- SV "HKEY\_LOCAL\_MACHINE\SOFTWARE\Rapport\hAgent\TestString" "MyString" "REG\_SZ"

可能なシナリオ :

- TestString が REG\_SZ としてすでに存在し、文字列「MyString」に設定されます
- TestString が別のタイプとしてすでに存在し、エージェントはエラーを戻します
- TestString は存在せず、文字列「MyString」に設定されます

一般規則 :

- レジストリ ハイブの名前は短縮形にできません。
- 3つの引数が指定されている場合は、エージェントは、指定されたタイプの存在しないキーを作成するか、タイプが既存のキーのタイプと一致しなければエラーを出します。

- 2つの引数だけが指定されていて、キーがまだ存在しない場合は、タイプ REG\_SZ（文字列）が想定されます。
- 2つの引数だけが指定されていて、キーが存在せず、タイプが REG\_DWORD の場合は、エージェントは、値が数値であり、DWORD として設定されていることを確認します。

## シャットダウン

バーブ : SD

説明 : デバイスをシャットダウンして、電力の状態を設定します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - SD (デバイスをシャットダウンします)
- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - SD (デバイスをシャットダウンします)
- Linux の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - SD (デバイスをシャットダウンします)

一般規則 :

- なし

## Synch Time

バーブ : ST

説明 : 更新サーバの時刻と一致するようにデバイスの時刻を変更します。

サポート : XPe、CE 2.12、CE.Net、CE 3.0、Linux

引数 :

- なし

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes  
例 :
  - ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)

- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes  
例 :
  - ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)
- Linux の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : Yes  
例 :
  - ST (デバイスの時刻を Cisco VXC Manager サーバの時刻と同期します)

**一般規則 :**

- ネットワークの遅延が原因で、サーバとデバイスの間では、わずかに時間の相違が発生することがあります。
- タイムゾーン オフセットが考慮されます。正しいタイムゾーンがデバイスで設定されていることを確認してください。

**Wake On LAN**

バープ : WL

説明 : シャットダウンされているデバイスをブートします (デバイスでは BIOS で Wake On LAN がイネーブルになっている必要があります)。

サポート : ハードウェア依存であり、エージェント依存ではありません。

**X Copy**

バープ : XC

説明 : 指定したデバイス ディレクトリとその内容を指定したローカル ディレクトリにコピーします (XCOPY または cp -R に相当)。

サポート : XPe、CE 3.0、Linux

引数 :

- リポジトリ ディレクトリ (送信元)
- デバイス ディレクトリ (宛先)

使用法 :

- XPe の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - XC "<regroot>%Files%winnt%system32%" "C:%winnt%system32" (パッケージの system32 フォルダのファイルをすべてデバイスの system32 フォルダにコピーします)
- CE の使用法  
スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No  
例 :
  - XC "<regroot>%system%" "%system" (パッケージの system フォルダのファイルをすべてデバイスの system フォルダにコピーします)

- Linux の使用法

スクリプト コマンドが失敗した場合は続行 : No

例 :

- XC "<regroot>¥XCTest¥\*" "/wfs/" (パッケージの XCtest フォルダのファイルをすべてデバイスの wfs フォルダにコピーします)

一般規則 :

- 送信元パスは <regroot> で定義する必要があります。
- 送信元パスは ¥\* で終わる必要があります (\* は、すべてのファイルとディレクトリを示すワイルドカードです)。



## Autogenic Imaging



**(注)** この付録は Cisco VXC デバイスには適用されません。サードパーティ クライアントの管理にのみ適用されます。

この付録には、Autogenic Imaging に関する詳細情報が含まれています。

### 概要

Autogenic Imaging (イメージバックアップメカニズムスキーム) の目的は、デバイスのフラッシュやハードドライブにあるイメージを使ってデバイスをイメージングすることです。このマニュアルでは、実際のイメージングプロセスやスキームの前に完了する必要がある次の手順を説明します。

#### 手順

- ステップ 1** Autogenic Capable にするイメージを準備する。
- ステップ 2** 準備したイメージを Cisco VXC Manager に登録する。
- ステップ 3** 登録したイメージを Autogenic Capable Image に変換する。
- ステップ 4** デバイスを Autogenic Capable Device に変換する。
- ステップ 5** Autogenic Capable Image のスケジュールを Autogenic Capable Device に設定する。



**注意** Autogenic Imaging が正常に動作するようにするには、Cisco VXC Manager にはアクティブな OS パーティションの 2 倍のフラッシュ サイズが必要です。WES7 を使用している場合、Autogenic Imaging には 8 GB が必要です。

Autogenic Imaging とは、デバイス フラッシュやハードドライブのバックアップパーティションにあるイメージを使用してデバイスをイメージングすることを意味します。バックアップ OS パーティションは、バックアップイメージがある FAT32 パーティションです。デバイスのディスクレイアウトは次のとおりです。

#### XPe の場合 :

WFS | アクティブ OS パーティション (NTFS) | 非 PXE ブート エージェント (Fat32) | バックアップ OS パーティション (Fat32)

**WES2009 の場合 :**

WFS | 非 PXE ブート エージェント (Fat32) | アクティブ OS パーティション (NTFS) | バックアップ OS パーティション (Fat32)

**WES7 の場合 :**

非 PXE ブート エージェント (Fat32) | アクティブ OS パーティション (NTFS) | バックアップ OS パーティション (Fat32)

Autogenic Image のパッケージには、標準のイメージ ファイルの他、image.rsp という名前の追加の スクリプト ファイルが含まれています。パッケージ スクリプトでは、<BackupImage> タグを探すことによつて Autogenic Image を確認できます。登録されているイメージ パッケージ スクリプトにこのタグがある場合、このイメージは自律型です。イメージのスケジュールを設定するとき、イメージ スクリプト (.rsp ファイル) はエージェントに対してマスター (またはリモート) リポジトリからバックアップ パーティションにイメージをダウンロードするように指示します。

## 手順

### 手順 1 : Autogenic Capable にするイメージを準備する

コンバータ ユーティリティを使用して、通常の WISard Image または Merlin Image を PXE Merlin Image 以外のイメージに変換します。

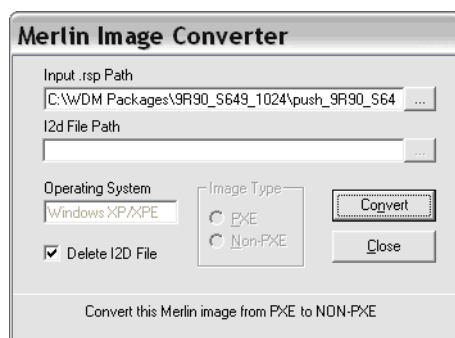
**(注)**

WISard Image の場合、コンバータ ユーティリティの [Delete I2D file] チェックボックスがオンになっていることを確認します。

**注意**

イメージを変換する前に、initrd.pxe ファイルおよび vmlinuz ファイルが ConverterUtility.exe と同じフォルダにあることを確認します。

図 I-1 Merlin Image Converter



## 手順 2 : 準備したイメージを Cisco VXC Manager に登録する



(注) PXE Merlin 以外のイメージだけを Autogenic Capable Image に変換できます。そのため、イメージを Cisco VXC Manager に登録する前に、PXE Merlin 以外のイメージを登録することを確認してください (パッケージに i2d ファイルを含めることはできません)。

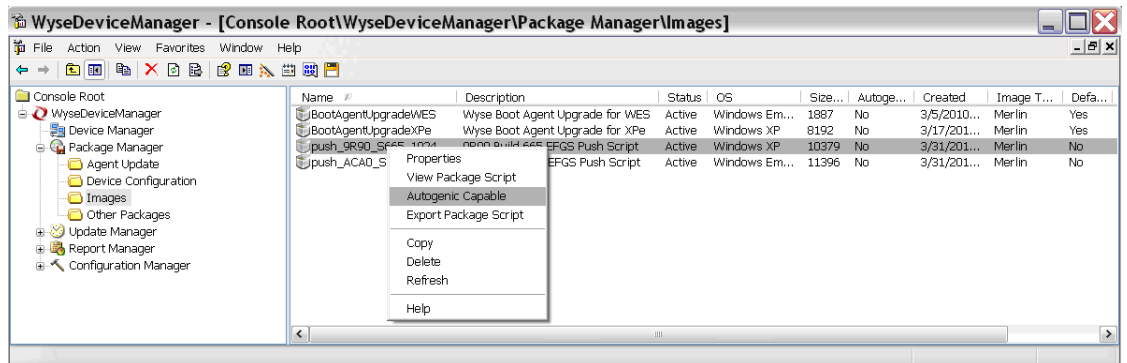
準備したイメージを Cisco VXC Manager に登録するには、通常のパッケージを Cisco VXC Manager に登録する手順と同じ手順を実行します (Cisco VXC Manager のマニュアルを参照)。Cisco VXC Manager にイメージを登録したら、[Package Manager View] にイメージタイプが Merlin と表示されることを確認します。

## 手順 3 : 登録したイメージを Autogenic Capable Image に変換する

イメージを Cisco VXC Manager に登録したら、登録されているイメージを右クリックして、利用可能なオプションから [Autogenic Capable] オプションを選択します。イメージが Autogenic Capable Image に変換されます。

Cisco VXC Manager でイメージを Autogenic Capable Image に変換したら、[Package Manager View] のそのイメージの [Autogenic] 列に [Yes] と表示されていることを確認します。

図 I-2 Package Manager View



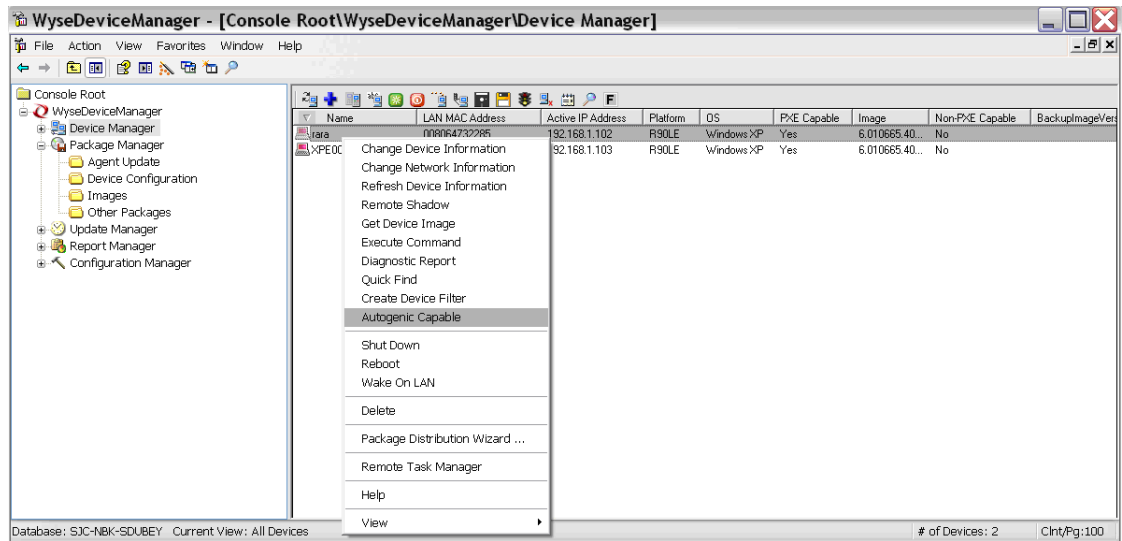
## 手順 4 : デバイスを Autogenic Capable Device に変換する

登録されている Autogenic Capable Image が Cisco VXC Manager Package Manager にない場合、デバイスは Autogenic Capable Device に変換できません。そのため、デバイスを Autogenic Capable Device に変換する前に、Autogenic Capable Image が Cisco VXC Manager Package Manager に存在することを確認します。

### 手順

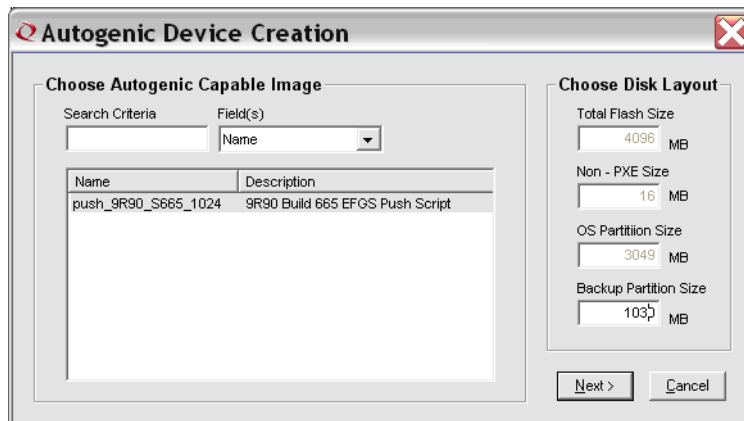
- ステップ 1 Cisco VXC Manager の [MMC Snap-in] ツリー パネルで、[Device Manager] ノードを展開します。
- ステップ 2 目的のデバイスを選択して右クリックします。

図 I-3 Device Manager



**ステップ 3** 利用可能なオプションから [Autogenic Capable] オプションを選択します。[Autogenic Device Creation] ウィンドウが表示されます。

図 I-4 Autogenic Device Creation



**ステップ 4** 要件に従ってディスク レイアウトを選択します。バックアップパーティションのサイズは、そのバックアップイメージに合うような大きさが必要です。デバイスには、バックアップイメージおよび実行している OS パーティションに合うような十分なスペースが必要です。

**ステップ 5** イメージを選択すると、4 つの [Disk Layout] の値が次の値で必ず自動設定されます。

- Total Flash Size : 選択したデバイス上のフラッシュの合計サイズ (MB 単位) です。
- Non - PXE Size : 常に 16 MB です。
- OS Partition Size : これは [Backup Partition Size] によって異なり、4096 MB 以下のフラッシュ サイズを持つデバイスでは [Total Flash Size]、[Non - PXE Size]、[Backup Partition Size] に設定され、4096 MB より大きいフラッシュを持つデバイスでは、[4096]、[Non - PXE Size]、[Backup Partition Size] に設定されます。
- Backup Partition Size : 初期設定では 20 MB および選択したイメージのサイズの合計に設定されます。デバイスの [Total Flash Size] が 4096 MB より大きい場合、この値は変更できません。ただし、[Total Flash Size] が 4096 MB 以下の場合、OS パーティション用のスペースを確保できる値にまで大きくすることができます。

- ステップ 6** [Disk Layout] 値を選択したら、[Next] をクリックします。[Package Distribution Wizard] ウィンドウにデフォルト値が表示されます。
- ステップ 7** デフォルト値のままにして [Next] をクリックします。
- ステップ 8** デバイス設定に基づいて [PXE] または [Non-PXE] オプションを選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 9** [Finish] をクリックして、イメージパッケージのスケジュールをデバイスに設定します。スケジュールが設定されたイメージパッケージは [Update Manager View] に表示されます。イメージング タスクが終了したら、デバイスはデバイスのディスク レイアウトを再作成し、指定したサイズのバックアップパーティションをデバイス フラッシュやディスクに作成します。

## 手順 5 : Autogenic Capable Image のスケジュールを Autogenic Capable Device に設定する

### 手順

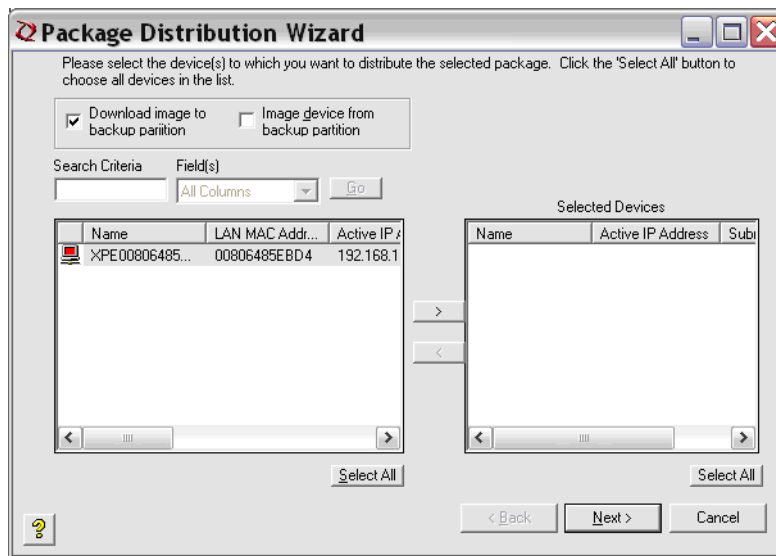
- ステップ 1** Autogenic Capable Image を Cisco VXC Manager Device Manager にドラッグアンドドロップします。スケジュールが設定された Autogenic Capable Image の条件を満たすすべてのデバイスが一覧に表示されます（これは、[Device Manager] でデバイスを右クリックしても表示されます）。
- ステップ 2** Autogenic Capable Image のスケジュールを設定する Autogenic Capable Device をデバイスのリストから選択します。
- ステップ 3** 次のいずれかに進みます。
- ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを個別に完了する場合（今すぐバックアップパーティションにイメージをダウンロードするが、バックアップパーティションからデバイスをイメージングするスケジュールを後で設定する場合）、[「ケース 1 : ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを個別に実行する」\(P.I-5\)](#) に進みます。
  - ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを一緒に完了する場合（今すぐバックアップパーティションにイメージをダウンロードして、バックアップパーティションからデバイスをイメージングするスケジュールを今すぐ設定する場合）、[「ケース 2 : ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを一緒に実行する」\(P.I-7\)](#) に進みます。

### ケース 1 : ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを個別に実行する

#### 手順 1 : イメージをバックアップパーティションにダウンロードするには

- ステップ 1** [Download image to backup partition] チェックボックスを選択して、Autogenic Capable Device のバックアップパーティションにイメージをダウンロードし、[Next] をクリックします。[Package Distribution Wizard] ウィンドウにデフォルト値が表示されます。
- ステップ 2** デフォルト値のままにして [Next] をクリックします。
- ステップ 3** デバイス設定に基づいて [PXE] または [Non-PXE] のいずれかのオプションを選択して、[Next] を選択します。
- ステップ 4** [Finish] をクリックして、Autogenic Capable Image パッケージのスケジュールを Autogenic Capable Device に設定します。

図 I-5 Package Distribution



**ステップ 5** 次の点に注目してください。

- バックアップ パーティションへのイメージのダウンロード スケジュールがデバイスに設定されている。
- スケジュールが設定されているイメージ パッケージが [Update Manager View] に表示されている。
- イメージング タスクを終了すると、バックアップ イメージがデバイスのバックアップ パーティションに配置されている。
- イメージはデバイス側のバックグラウンドでダウンロードされる。イメージング タスクのスケジュールを設定するために、デバイスは QU だけを受け取ります。残りのプロセスはバックグラウンドで実行されます。

**ステップ 6** Autogenic Imaging をサポートするには、ここで Autogenic Capable Device の HAgent をバージョン 5.1.1.32 にアップデートする必要があります。

**ステップ 7** HAgent をアップデートしたら、[Device Manager View] > [Network Info] タブに進み、バックアップ パーティションの詳細を表示します。

**ステップ 8** Autogenic Capable Image を Autogenic Capable Device のバックアップ パーティションにダウンロードしたら、バックアップ パーティションに Autogenic Capable Image が含まれる Autogenic Capable Device に、(Autogenic Capable Image を使用した) イメージング タスクのスケジュールを設定できます。

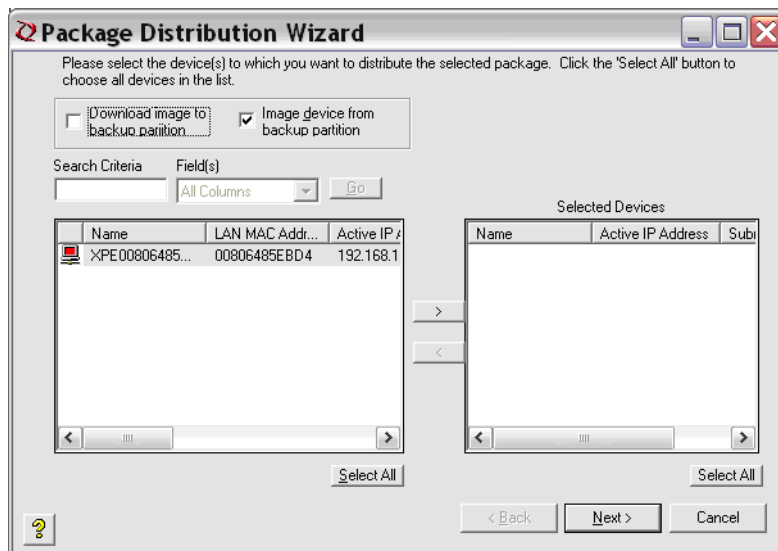


**注意**

イメージ タスクのスケジュールを設定する前に、Autogenic Capable Device ブート順序設定を、ネットワークからではなくディスクからブートするように必ず変更してください。

手順 2 : バックアップパーティションからデバイスをイメージングするスケジュールを設定するには

図 I-6 イメージ デバイス



- ステップ 1** [Image device from backup partition] チェックボックスを選択して、デバイスのバックアップパーティションから Autogenic Capable Device をイメージングし、[Next] をクリックします。[Package Distribution Wizard] ウィンドウにデフォルト値が表示されます。
- ステップ 2** デフォルト値のままにして [Next] をクリックします。
- ステップ 3** [Non-PXE] オプションを選択して、[Next] をクリックします。
- ステップ 4** [Finish] をクリックして、Autogenic Capable Image パッケージのスケジュールを Autogenic Capable Device に設定します。
- ステップ 5** 次の点に注目してください。
- スケジュールが設定されているイメージパッケージが [Update Manager View] に表示されている。
  - Merlin Imaging Agent で、バックアップパーティションからのイメージングが開始されます。
- ステップ 6** イメージングが完了したら、Autogenic Capable Device の HAgent をバージョン 5.1.1.32 に再度アップデートして、デバイスのイメージバージョンがバックアップパーティションの詳細に表示されている正しいイメージであることを確認します。

## ケース 2 : ダウンロード プロセスとイメージング プロセスを一緒に実行する

イメージをバックアップパーティションにダウンロードして、バックアップパーティションからデバイスをイメージングするスケジュールを設定するには

### 手順

- ステップ 1** [Download image to backup partition] チェックボックスと [Image device from backup partition] チェックボックスを選択して、Autogenic Capable Device のバックアップパーティションにイメージをダウンロードして、バックアップパーティションから Autogenic Capable Device をイメージングして、[Next] をクリックします。[Package Distribution Wizard] ウィンドウにデフォルト値が表示されます。

- ステップ 2** デフォルト値のままにして [Next] をクリックします。
- ステップ 3** デバイス設定に基づいて [PXE] または [Non-PXE] のいずれかのオプションを選択して、[Next] を選択します。
- ステップ 4** [Finish] をクリックして、Autogenic Capable Image パッケージのスケジュールを Autogenic Capable Device に設定します。Autogenic Capable Image は Autogenic Capable Device のバックアップパーティションにダウンロードされ、(ダウンロードが完了すると) Autogenic Capable Device は Autogenic Capable Device のバックアップパーティションにあるバックアップイメージからイメージングされます。
- ステップ 5** イメージングが完了したら、Autogenic Capable Device の HAgent をバージョン 5.1.1.32 に再度アップデートして、デバイスのイメージバージョンがバックアップパーティションの詳細に表示されている正しいイメージであることを確認します。

## Autogenic Imaging の技術詳細

次のことに注意してください。

### Update Manager (Autogenic Imaging の技術詳細)

Autogenic Image のスケジュールをデバイスに設定するとき、Autogenic Image のスケジュールを設定するようにフォームを設計する必要があります。

「[ケース 1: ダウンロードプロセスとイメージングプロセスを個別に実行する](#)」(P.I-5) の図を参照してください。

- [Download image to backup partition] チェックボックスを選択すると、GUI によりデータベース内の ComandArg 表が ArgID 9 にアップデートされ、対応する ArgID の値が BI になります。
- [Image device from backup partition] チェックボックスを選択すると、GUI によりデータベース内の ComandArg 表が ArgID 9 にアップデートされ、対応する ArgID の値が PI になります。
- [Download image to backup partition] と [Image device from backup partition] の両方のチェックボックスを選択すると、GUI によりデータベース内の ComandArg 表に ArgID 9 で 2 つのエントリが追加され、対応する値が BI と PI になります。
- HAgent が Autogenic Imaging に対して HServer から受け取ることができるコマンドは BI と PI の 2 つです。リポジトリからバックアップパーティションにイメージをダウンロードするだけの場合は、BI コマンドが送信されます。バックアップパーティションにすでに存在するイメージを使用してデバイスをイメージングする場合は、PI イメージが送信されます。BI コマンドはイメージをバックアップパーティションにダウンロードするだけであり、完了すると、V02 を送信してリブートはしません。PI コマンドが発行されると、HAgent は Merlin BA パーティションをロードし、ルートフォルダにある Grub\_merlin ファイルを /Grub フォルダにコピーして、ファイル名を Grub.config に変更します。これは基本的に、必ずデバイスのリブート後に Merlin がロードされるようにするプロセスです。PI を実行したら、HAgent は Imagestatus.log ファイルを作成し、そのファイルに Cmdid を入力して、デバイスをリブートします。

## Cisco VXC Manager (Autogenic Imaging の技術詳細)

Cisco VXC Manager は、次のフラグを使用して HAgent がチェックインすることを想定します

```
|SupportImgBackup = 1|BackupImagePresent=1|BackImageVer=XXXX|
```

### 手順

- 
- ステップ 1** 登録されているイメージにはタグ <BackupImage> が含まれ、このイメージが Autogenic Imaging 機能であることを示します。
- ステップ 2** デバイスが Image Backup 機能をサポートしている場合、Cisco VXC Manager はユーザに 2 つの選択肢を提示します。
- イメージのバックアップ：イメージをバックアップするだけです。
  - アクティブ OS パーティションのイメージング：パーティションをイメージングします。
- ステップ 3** イメージのスケジュールを設定するとき、イメージスクリプト (.rsp ファイル) は次のように指示します。
- エージェントが、マスター（またはリモート）リポジトリからバックアップパーティションにイメージをダウンロードする。
  - バックアップパーティションからのイメージングを Merlin に指示するように grub.conf を変更する。
  - デバイスを再起動する。
- ステップ 4** Cisco VXC Manager は上で指定した各操作に次のコマンドを指定します。
- BI コマンド。リポジトリからバックアップパーティションにイメージをコピーするだけです。
  - PI コマンド。イメージング操作を開始します。
  - 両方のコマンドの組み合わせ。イメージをバックアップして、イメージング操作を開始します。
- ステップ 5** リブート時に、PXE Merlin 以外のエージェントが起動し、スクリプト ファイルを読み込み、イメージング タスクを完了します。
- ステップ 6** イメージング タスクが完了したら、Merlin エージェントはイメージングのステータスを grub.conf ファイルに書き込みます。次にブートするとき、そのステータスは HAgent によって読み込まれます。
- ステップ 7** イメージング ステータスを読み込むと、HAgent はそのとおりに V02 をサーバに送信し、ステータスを Grub.conf ファイルから削除します。
-

